

第4章 こども・若者意識調査

(独身者、既婚者、子育て中の保護者)

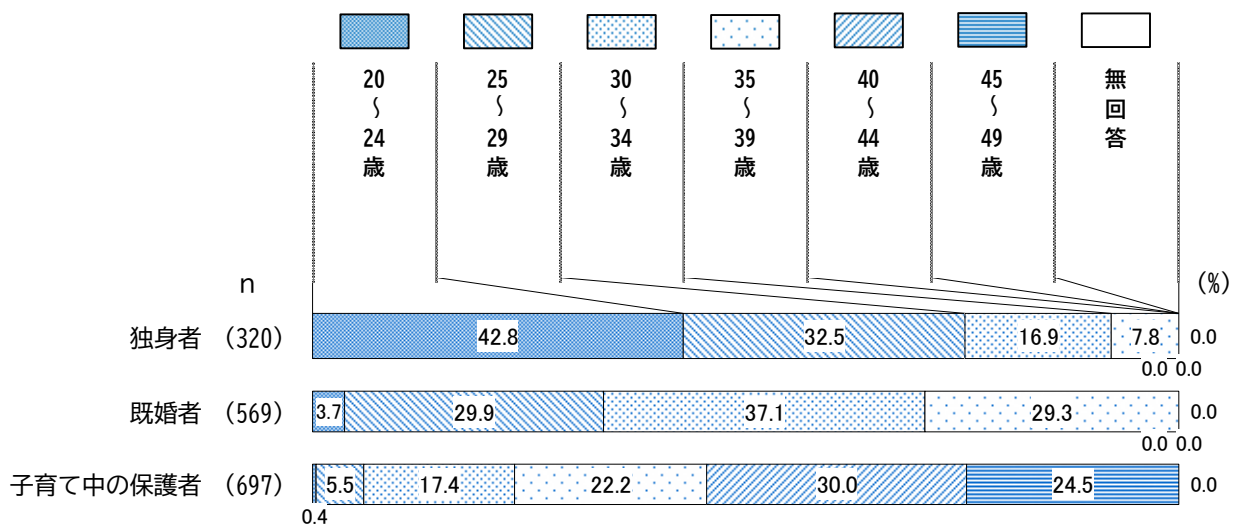
結果詳細

こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）結果詳細

1 属性について

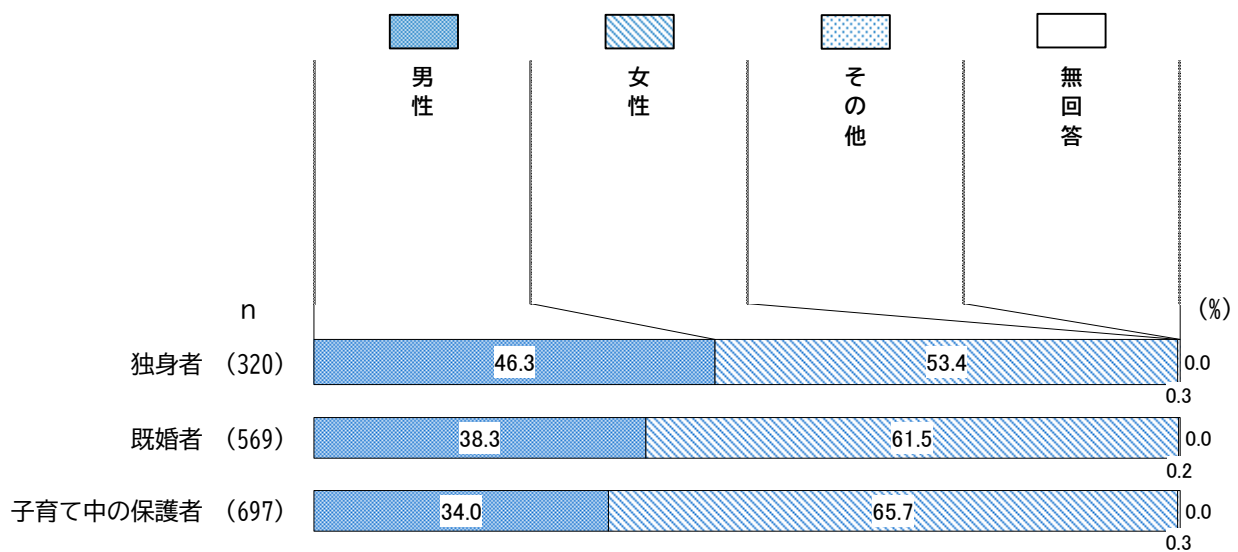
（1）年齢

Q：あなたの年齢をお答えください。（○は1つ）



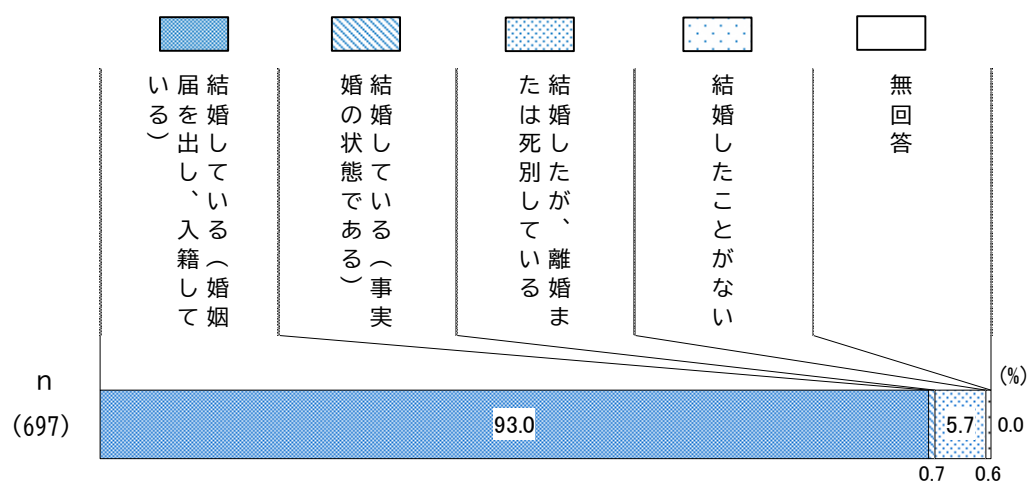
（2）性別

Q：あなたの性別をお答えください。（○は1つ）



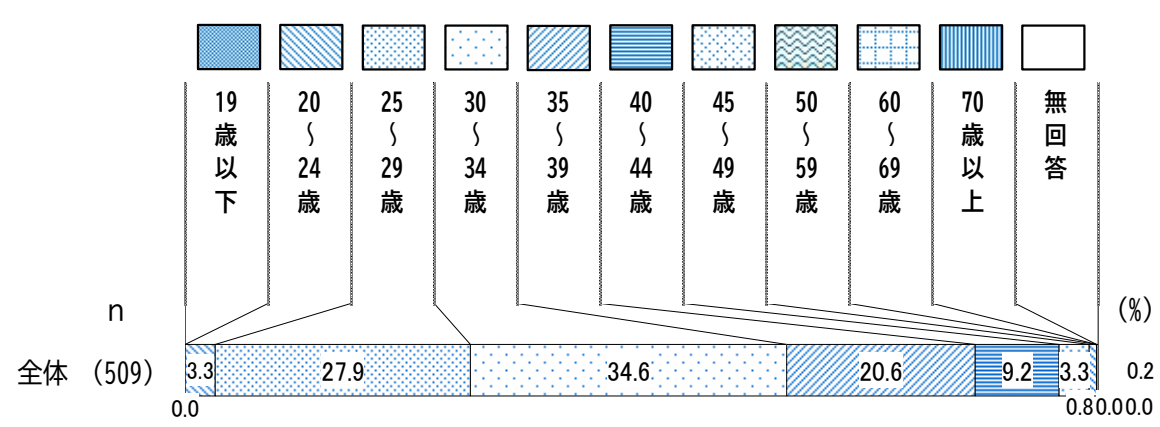
（3）婚姻状況【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは現在結婚をしていますか。（○は1つ）



（4）パートナー（配偶者）の年齢【既婚者調査】

Q：あなたのパートナー（配偶者）の年齢をお答えください。（○は1つ）

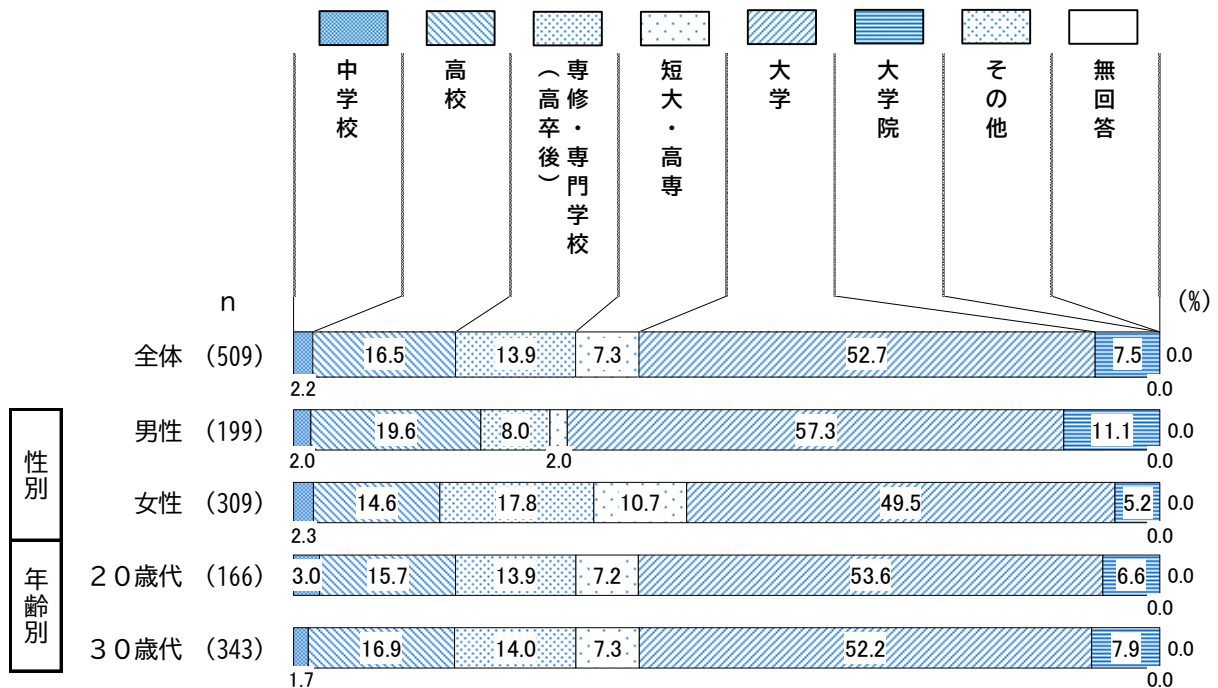


（5）回答者とパートナー（配偶者）の最終学歴【既婚者調査】

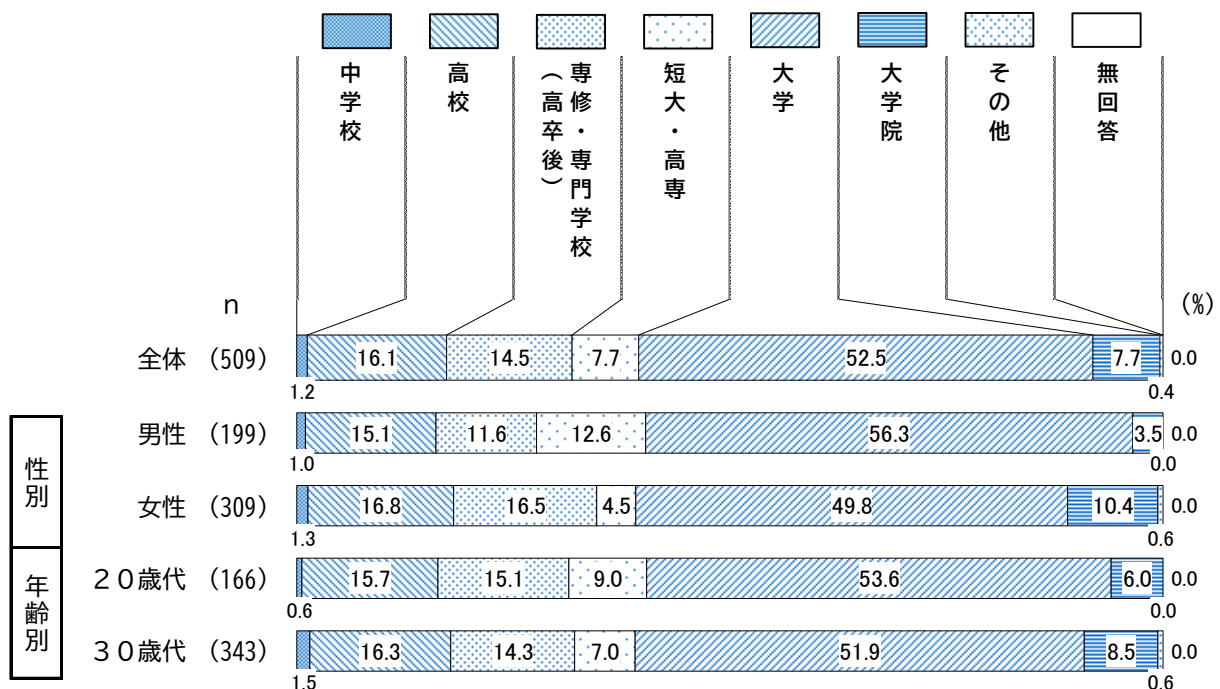
Q：あなた方ご夫婦それぞれについて、最後に卒業された（あるいは在学中の）学校をお答えください。（○は1つ）

※本調査ではパートナーの性別は聞いていませんが、男性回答者のパートナー(配偶者)を女性(妻)、女性回答者のパートナー(配偶者)を男性(夫)とみなして分析しています。

■あなた（回答者）

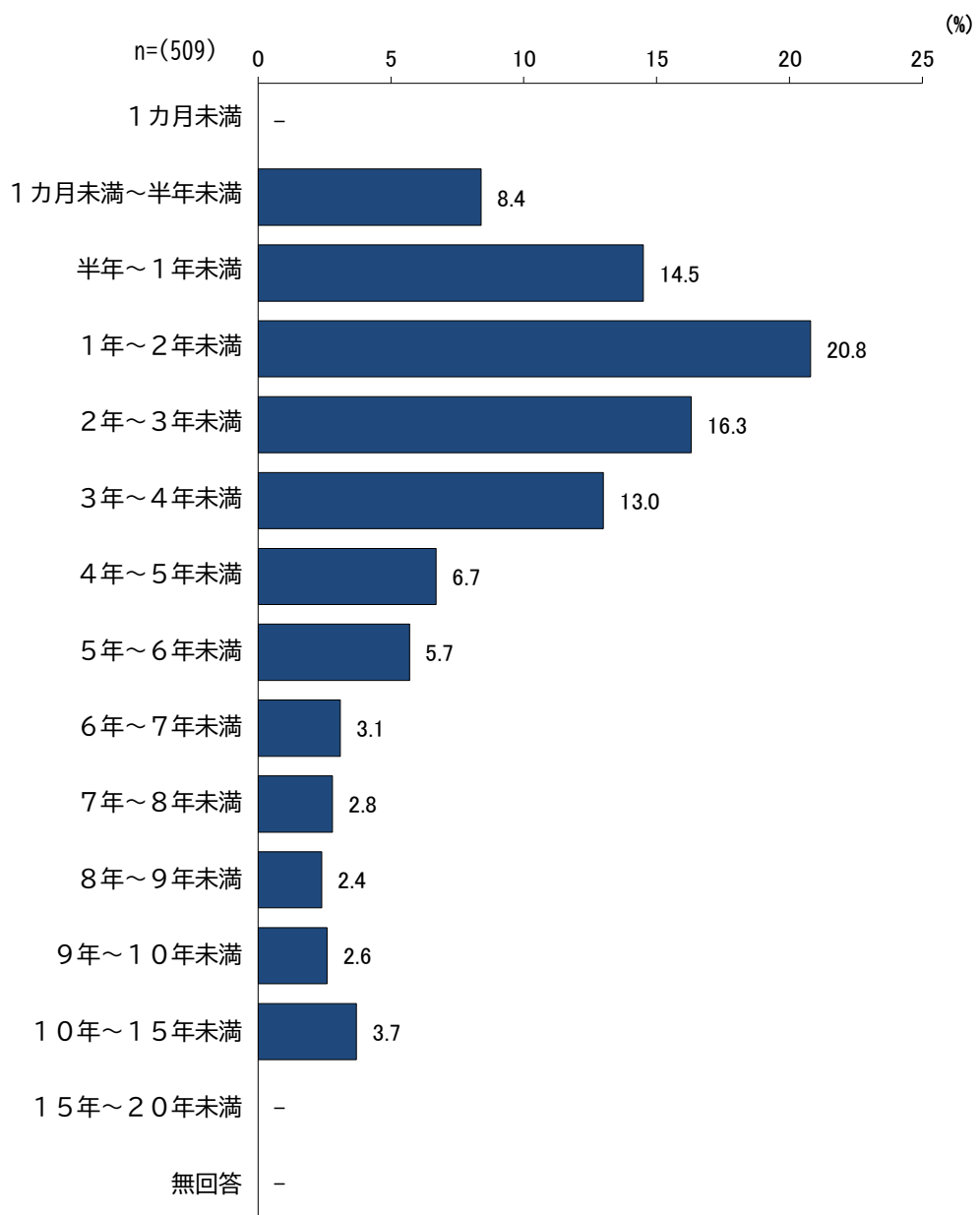


■パートナー（配偶者）



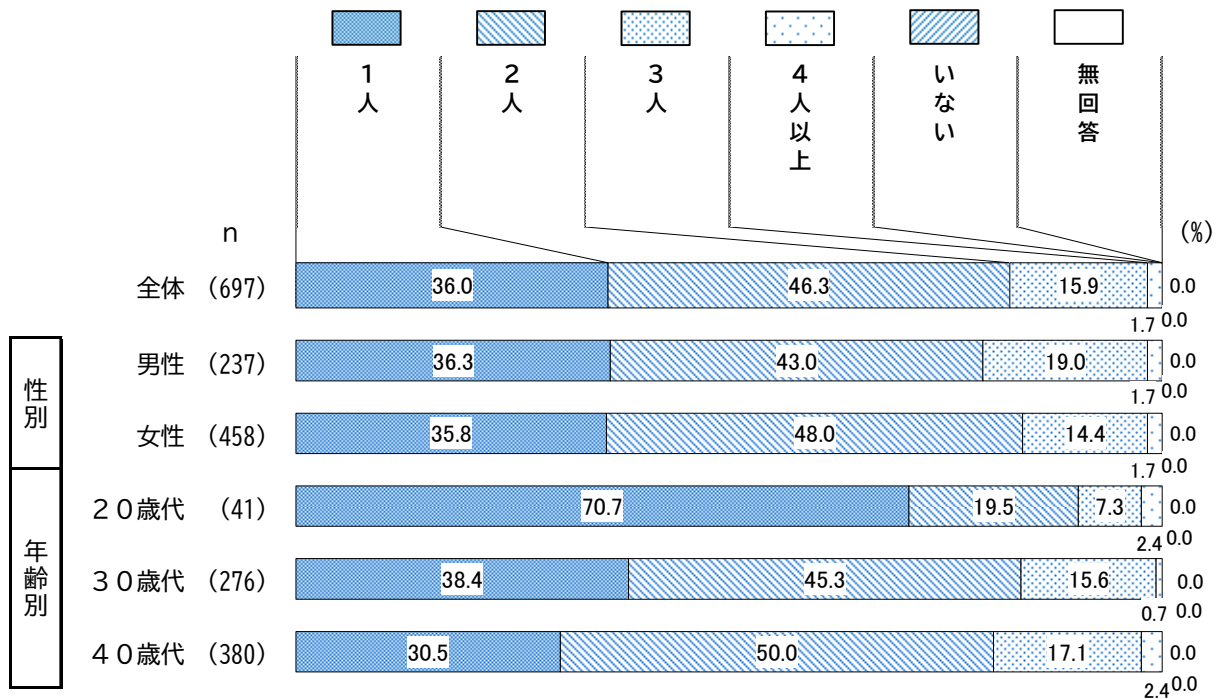
（6）結婚からの経過期間【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の結婚からの経過期間についてお答えください。（○は1つ）



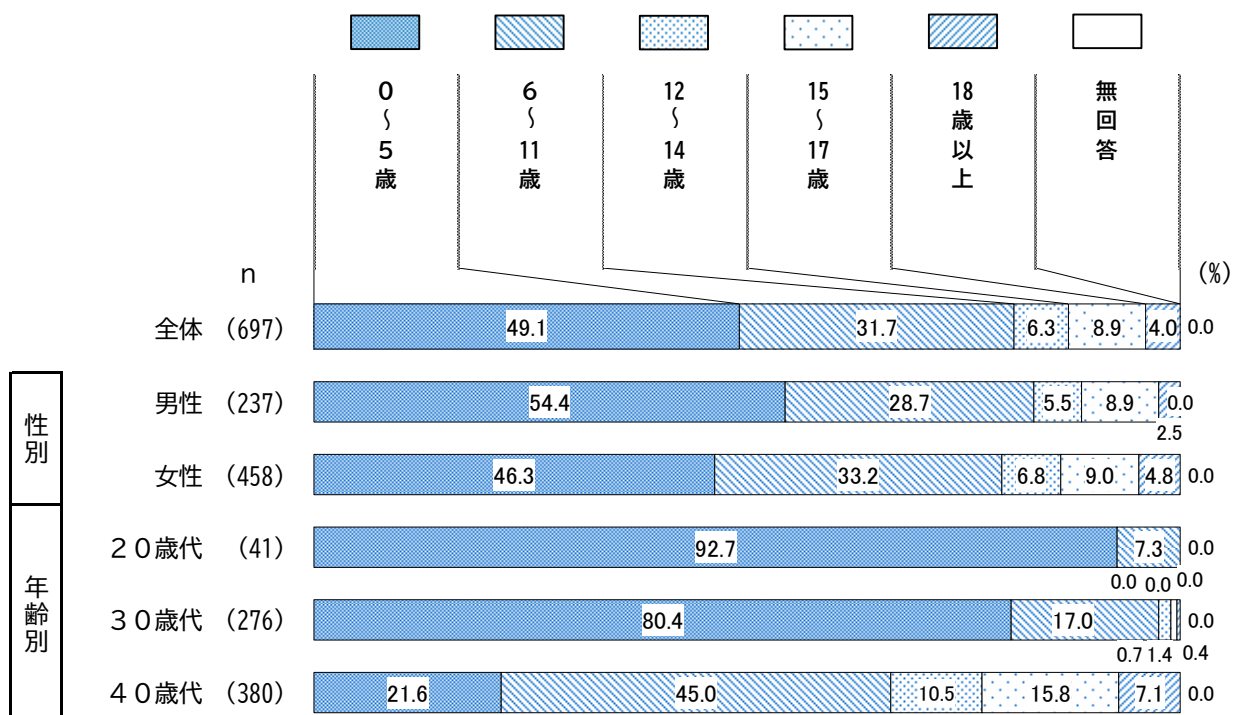
（7）子どもの数【子育て中の保護者調査】

Q：あなたはお子さんが何人いますか。（○は1つ）



（8）子どもの年齢【子育て中の保護者調査】

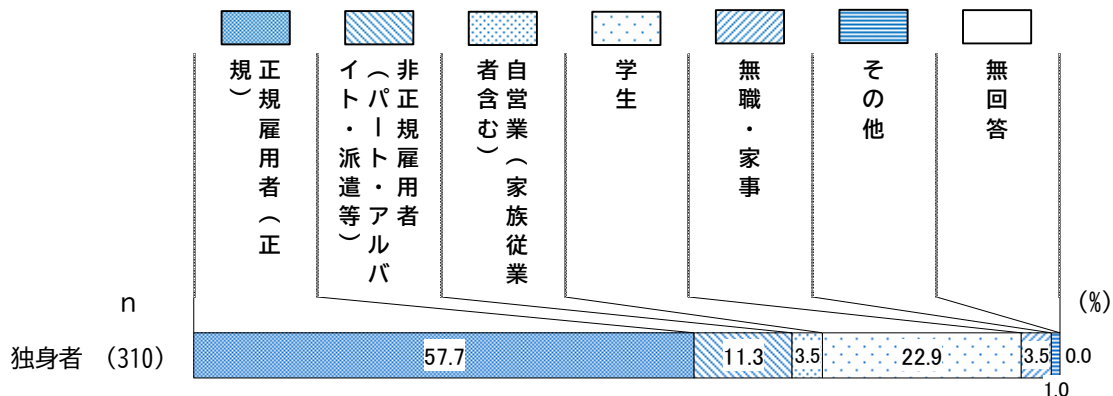
Q：お子さんの年齢をお聞かせください。2人以上いらっしゃる場合は一番下のお子さんの年齢を教えてください。



（9）回答者（とパートナー（配偶者））の職業

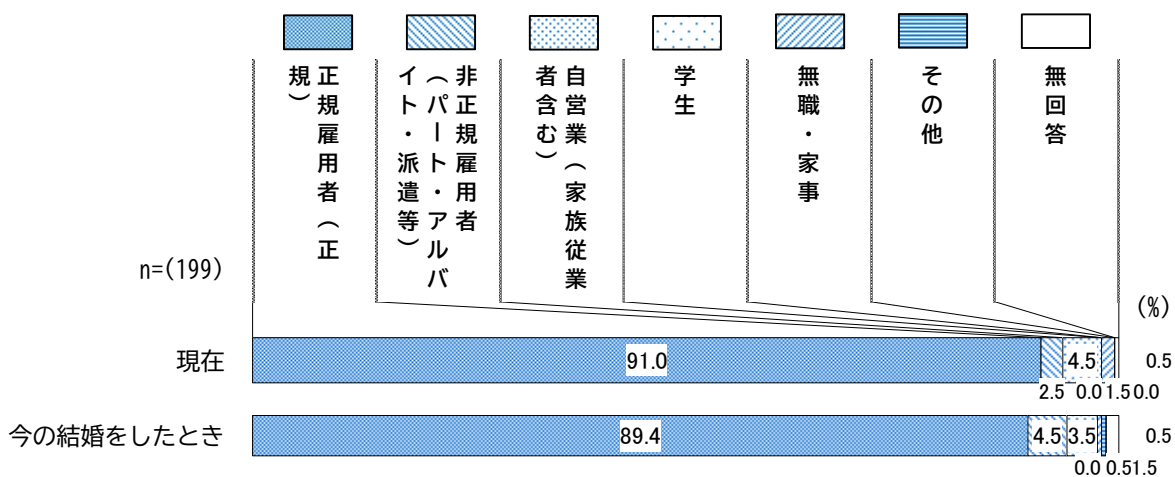
Q：あなたの職業をお答えください。（○は1つ）

【独身者調査】

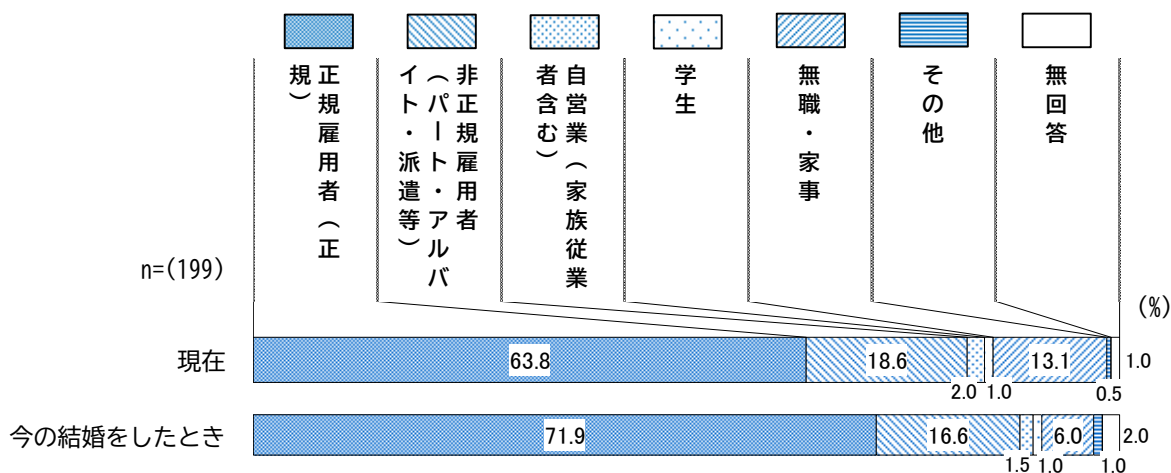


【既婚者調査】

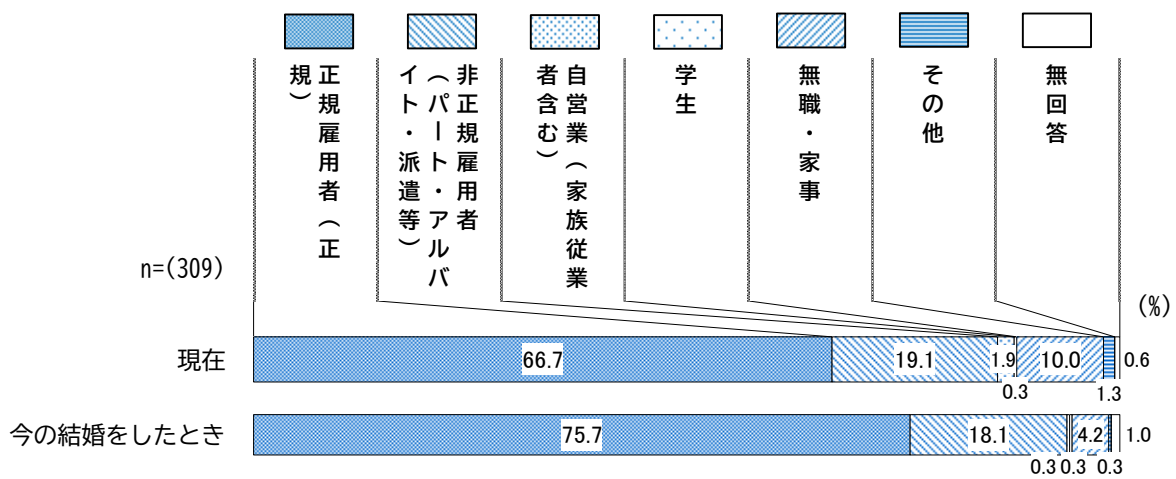
■あなた（回答者）／男性回答



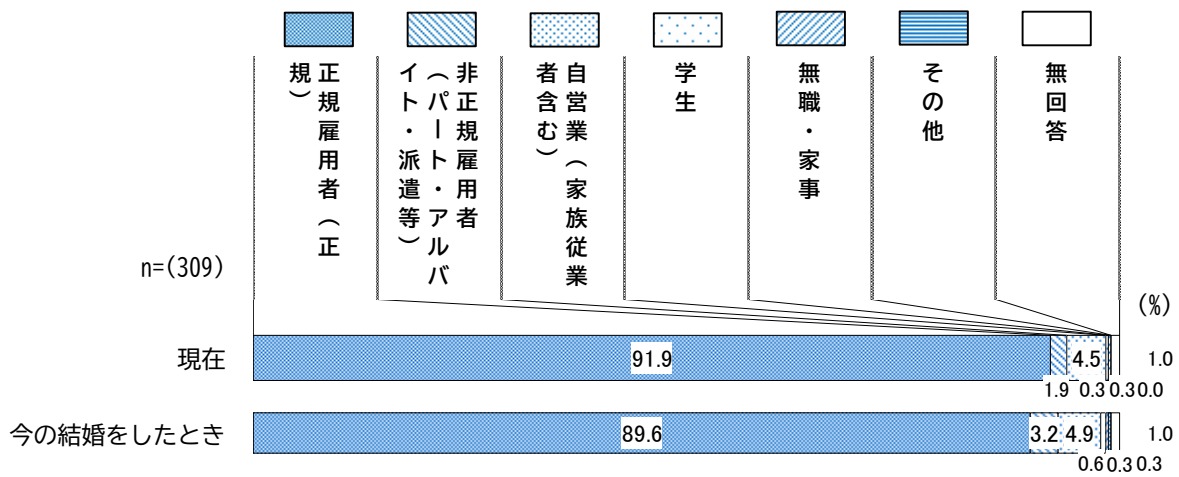
■パートナー（配偶者）／男性回答



■あなた（回答者）／女性回答

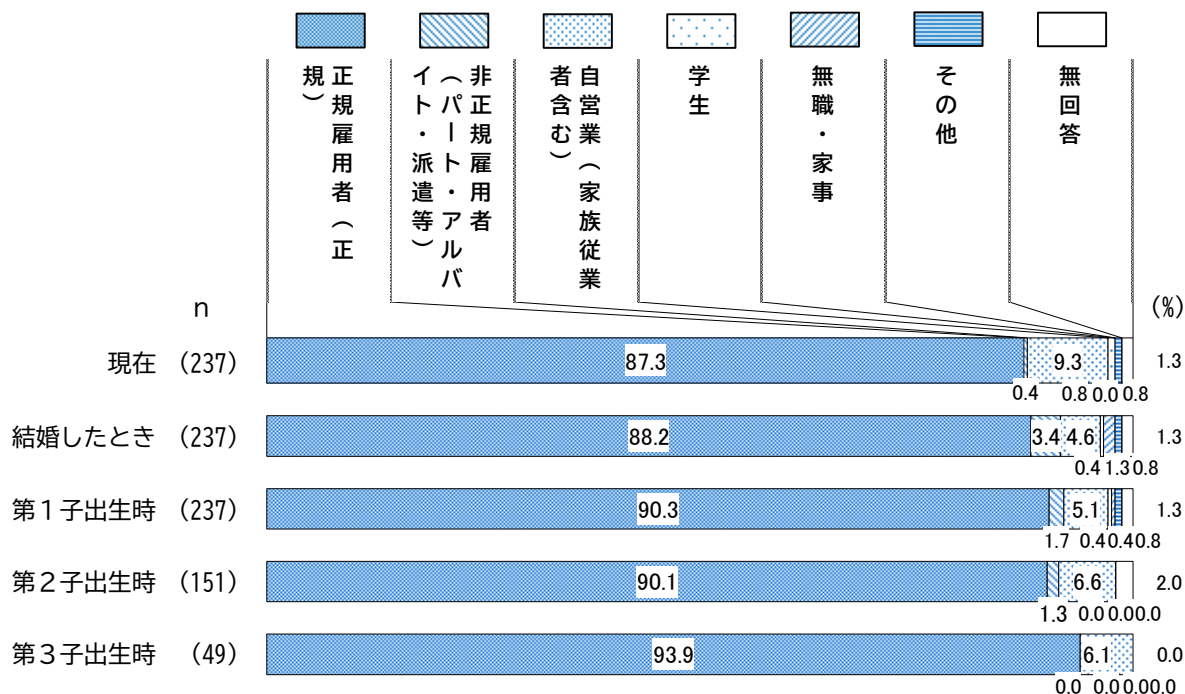


■パートナー（配偶者）／女性回答

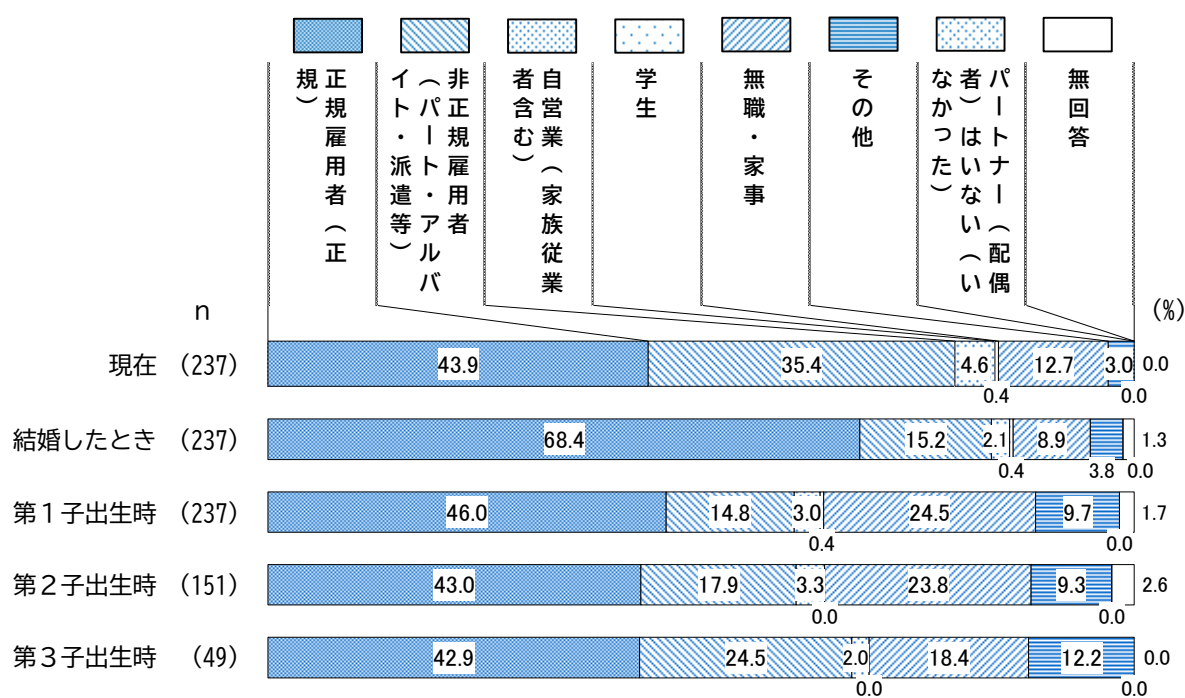


【子育て中の保護者調査】

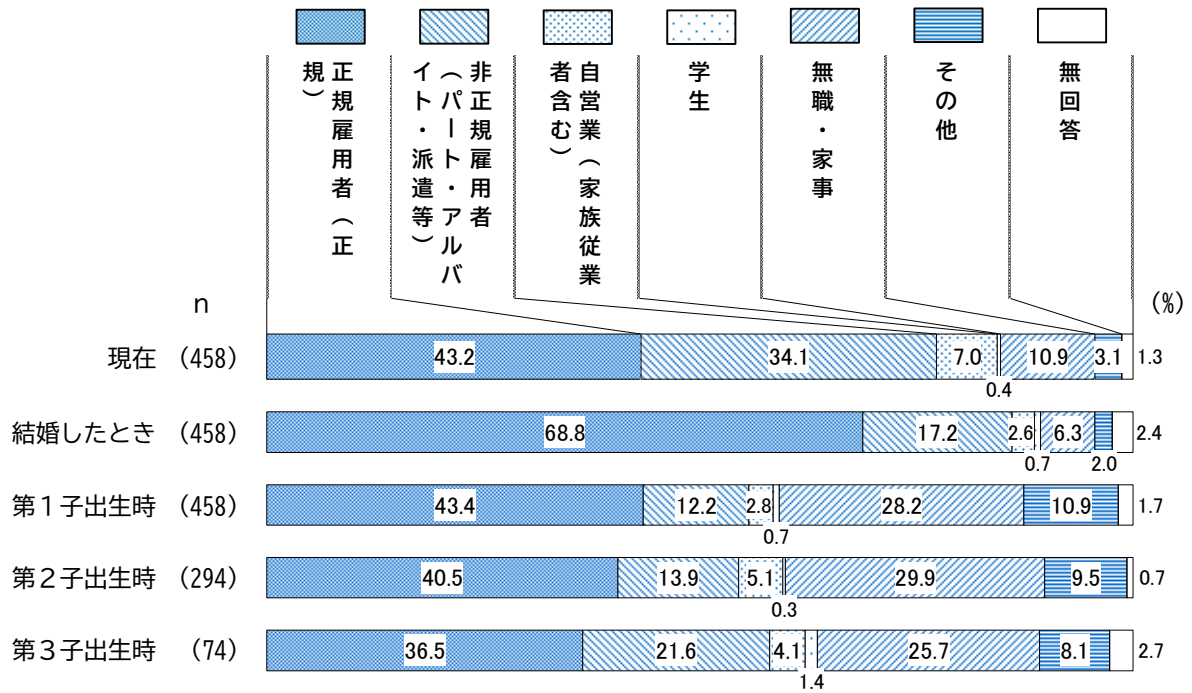
■あなた（回答者）／男性回答



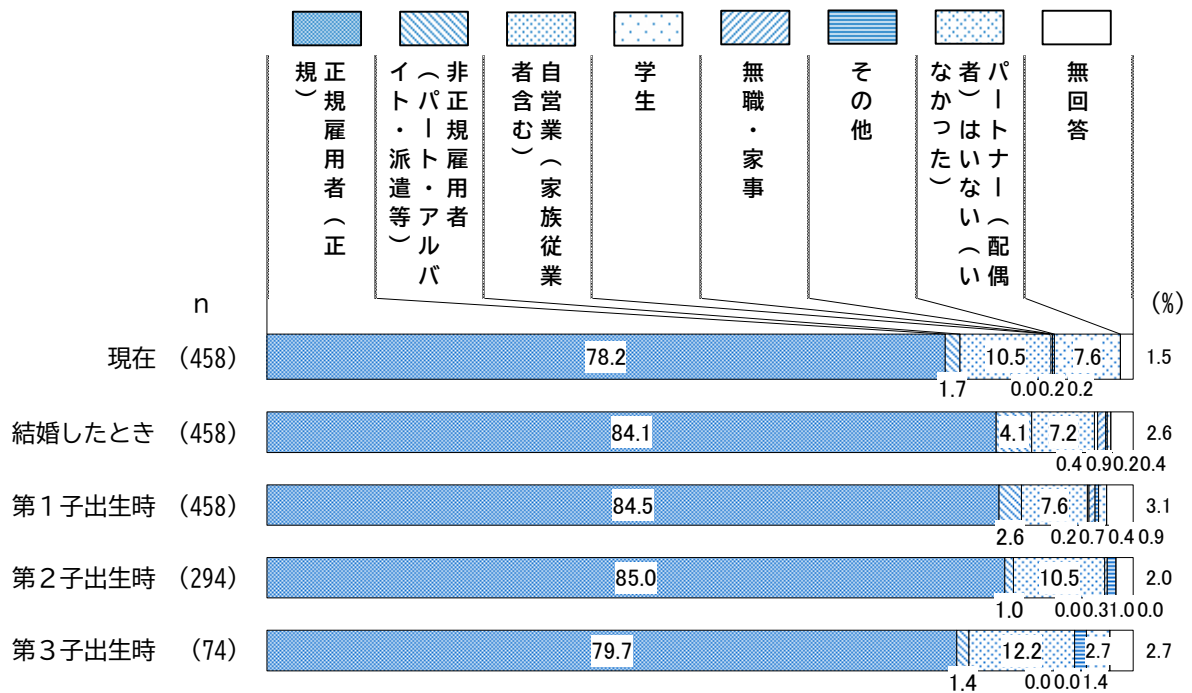
■パートナー（配偶者）／男性回答



■あなた（回答者）／女性回答

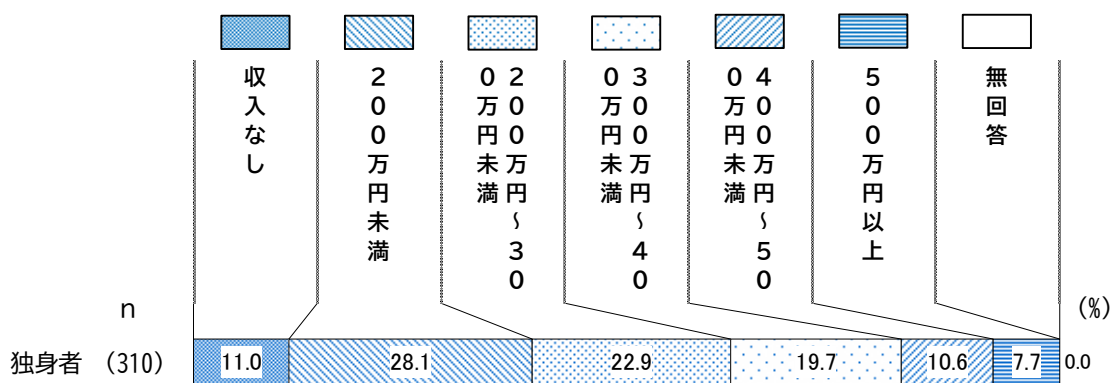


■パートナー（配偶者）／女性回答

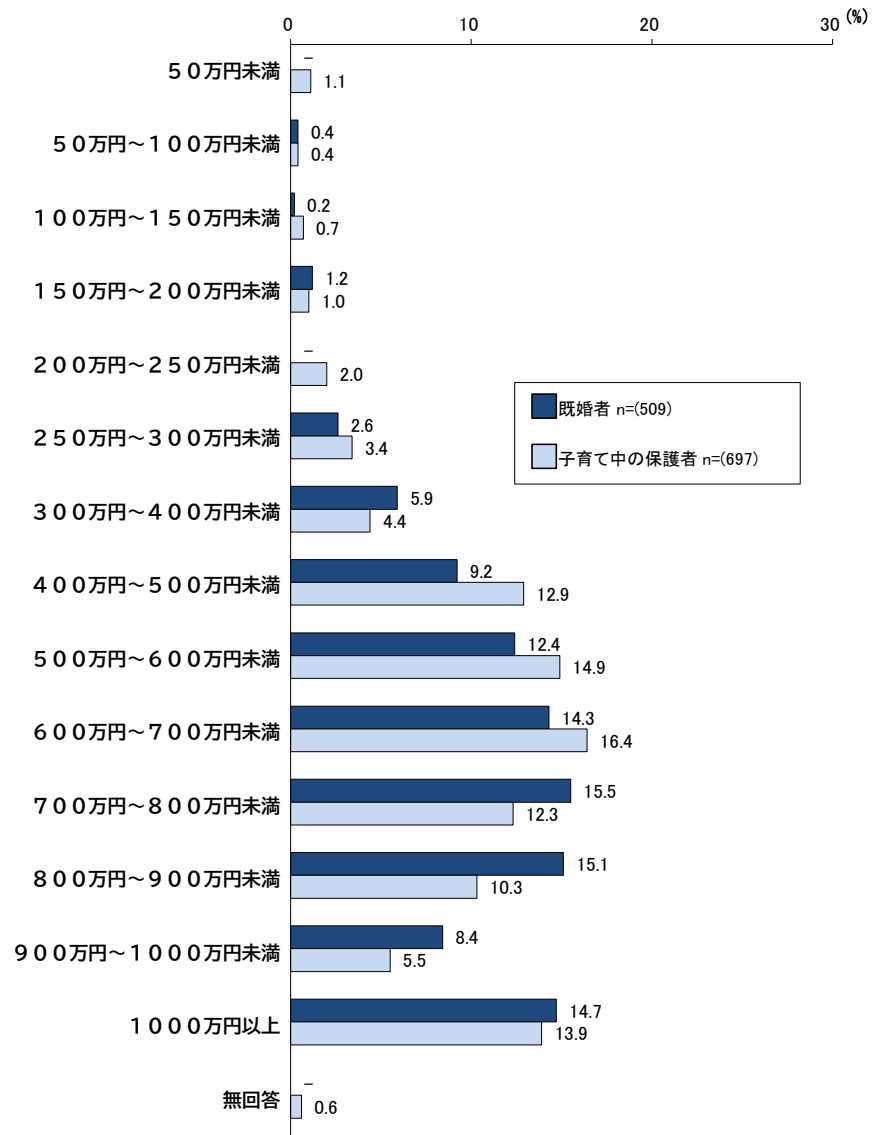


(10) 世帯年収

【独身者調査】 Q：あなたの年間収入を教えてください。（○は1つ）



【既婚者調査・子育て中の保護者調査】
Q：あなたとパートナーの収入を合わせた、2023年における世帯の収入を教えてください。（○は1つ）



2 結婚について

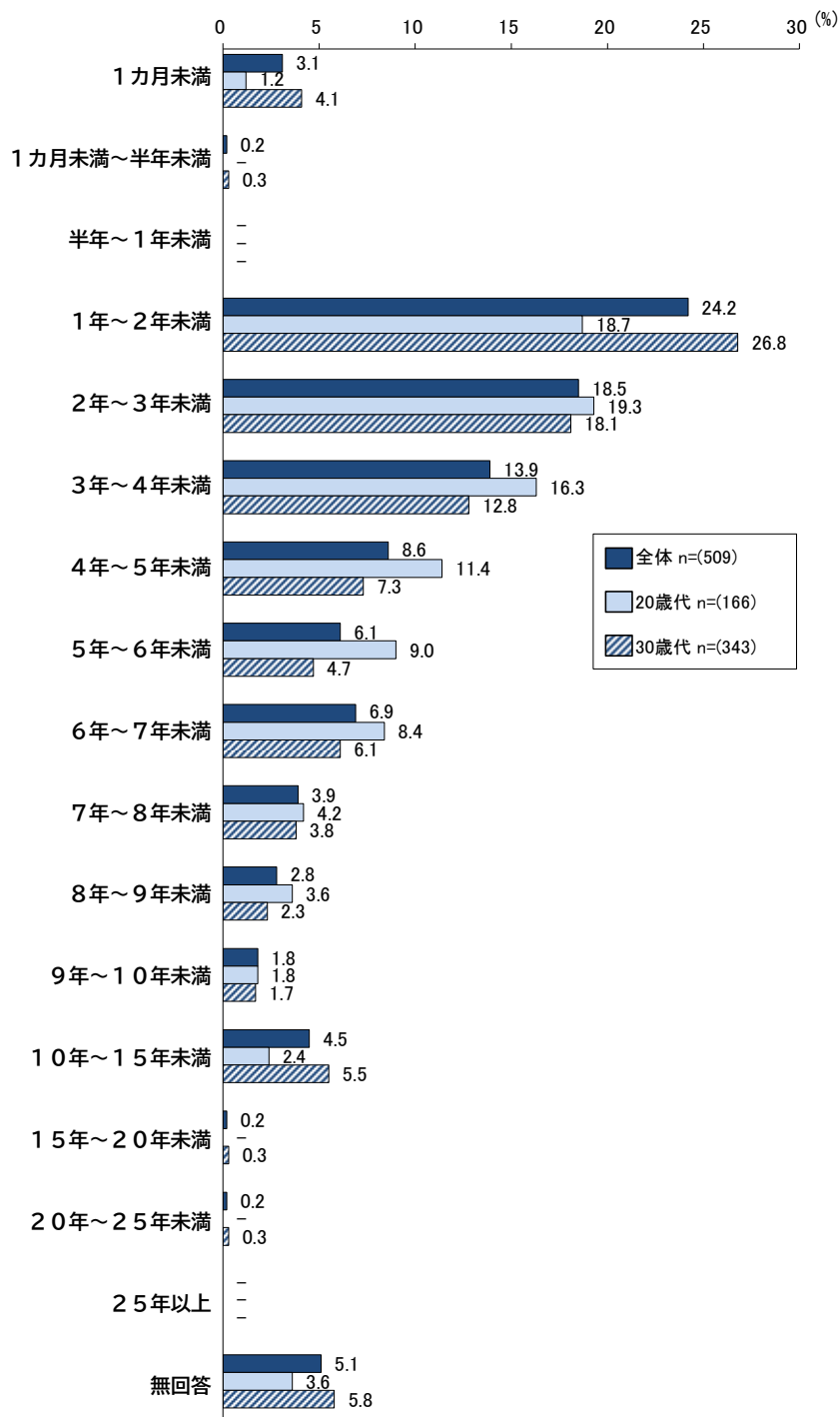
（1）交際期間・同棲期間【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の(1)交際期間、(2)うち同棲期間をお答えください。

■結婚までの交際期間

交際期間は「1年～2年未満」が24.2%で最も高く、次いで「2年～3年未満」が18.5%、「3年～4年未満」が13.9%となっています。

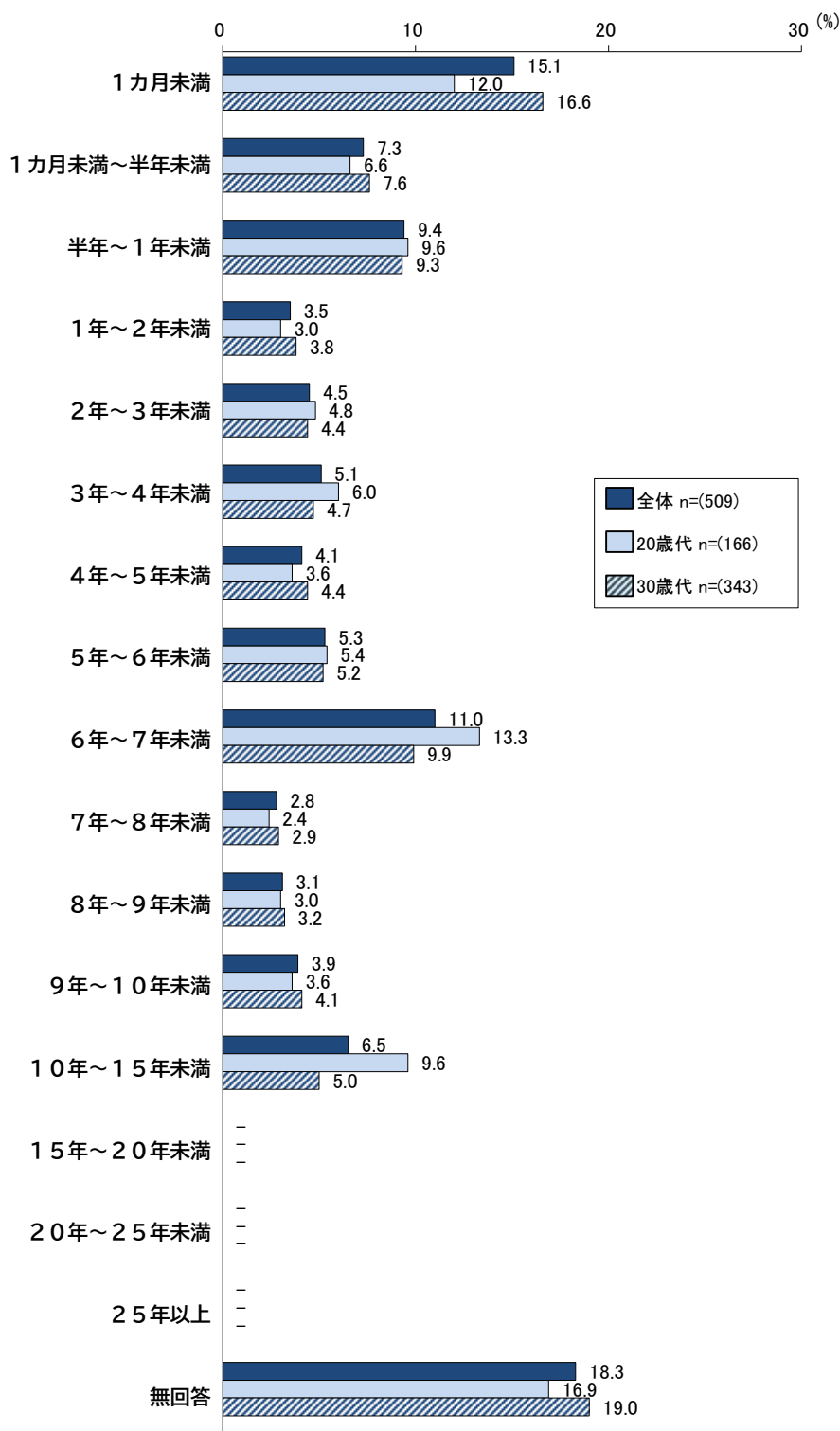
年齢別でみると、「1年～2年未満」は30歳代で26.8%と高くなっています。一方、「2年～3年未満」は20歳代で19.3%と高くなっています。



■結婚までの同棲期間

同棲期間は「1カ月未満」が15.1%で最も高く、次いで「6年～7年未満」が11.0%、「半年～1年未満」が9.4%となっています。

年齢別でみると、「1カ月未満」は30歳代で16.6%と高くなっています。一方、「6年～7年未満」は20歳代で13.3%と高くなっています。



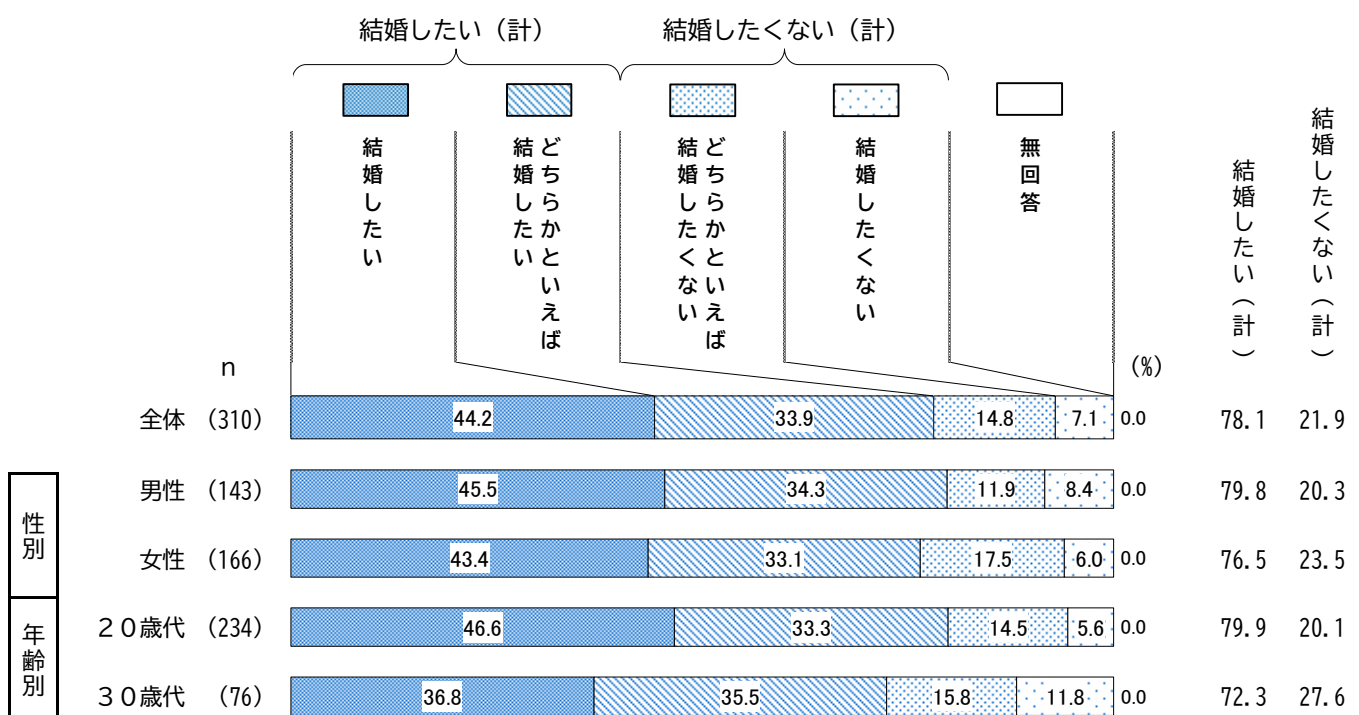
（2）将来の結婚意向【独身者調査】

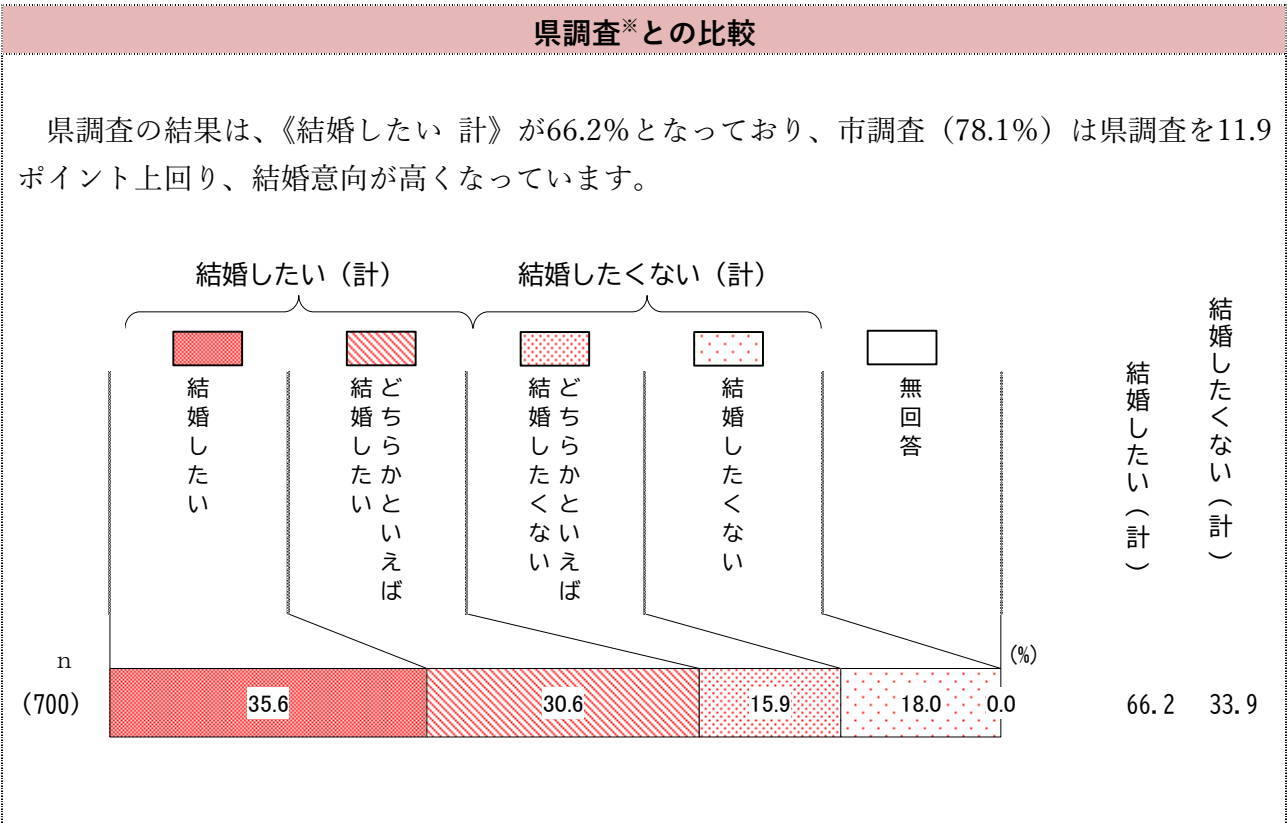
Q：あなたは将来結婚したいと思いますか。（○は1つ）

将来の結婚意向については、「結婚したい」と「どちらかといえば結婚したい」を合わせた《結婚したい 計》は78.1%、「どちらかといえば結婚したくない」と「結婚したくない」を合わせた《結婚したくない 計》は21.9%となっています。

性別でみると、《結婚したい 計》は男性が女性より3.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、《結婚したい 計》は20歳代（79.9%）のほうが、30歳代（72.3%）より高くなっています。





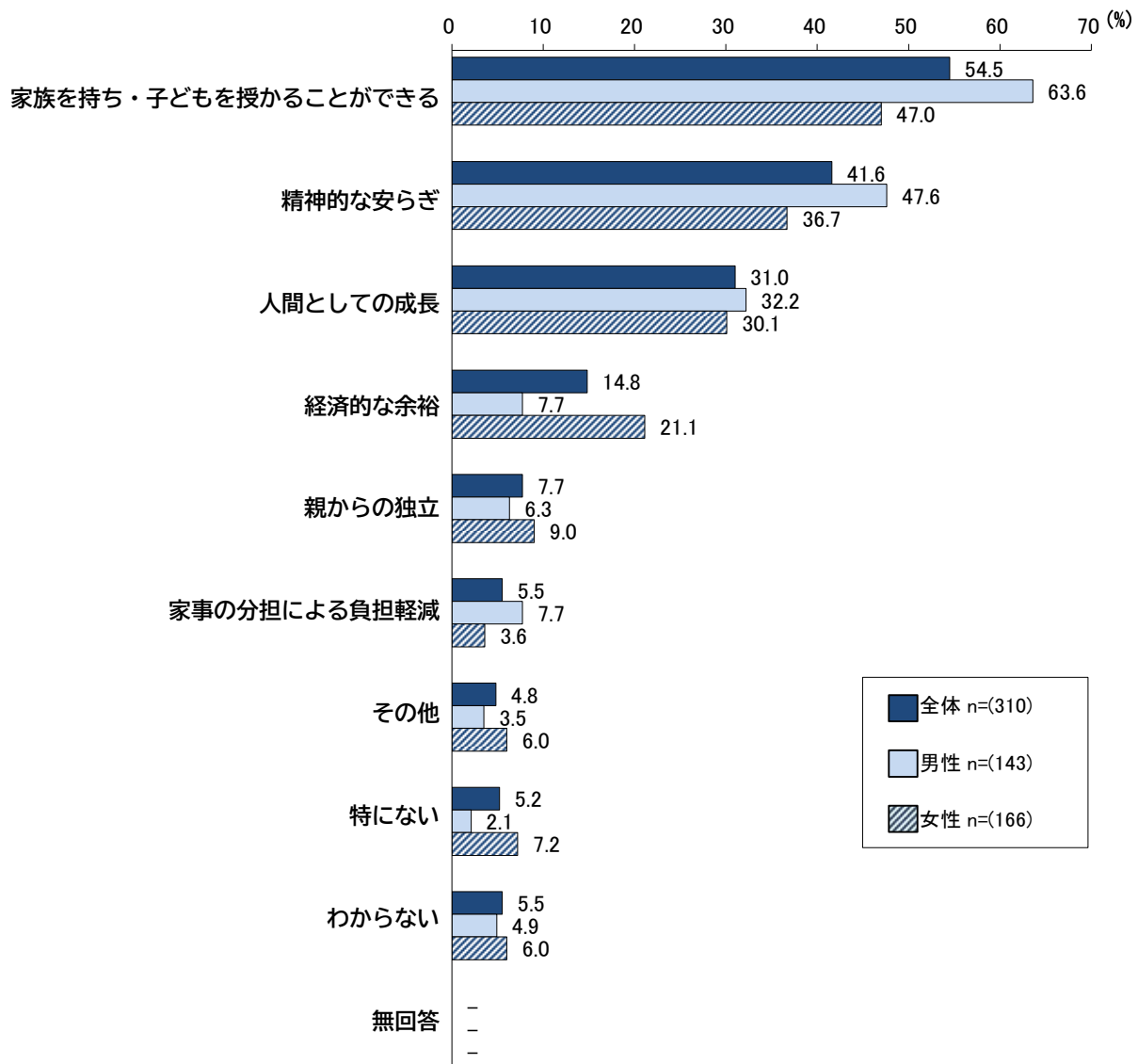
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

(3) 結婚により得られるもの【独身者調査】

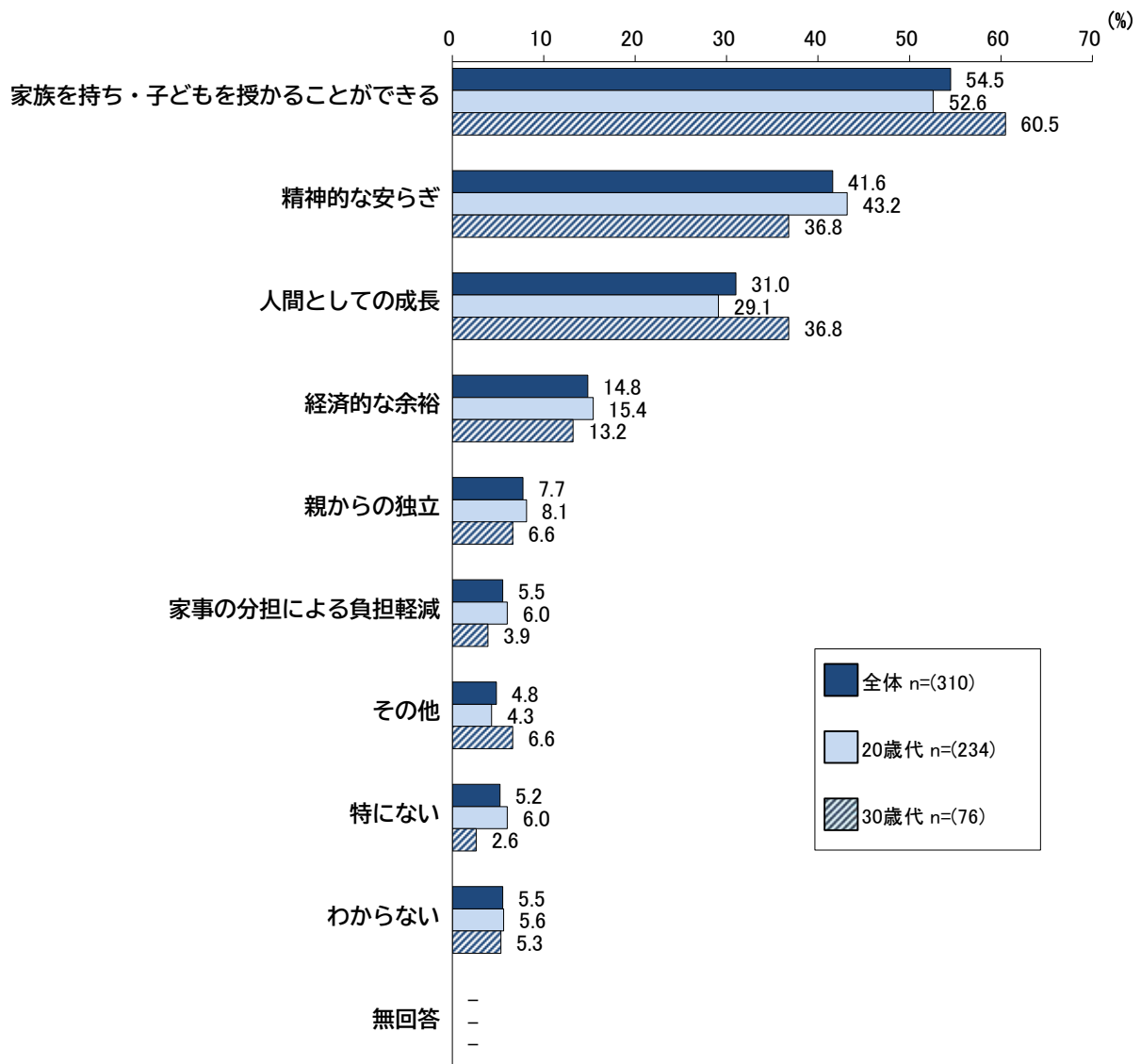
Q：結婚により得られるものは何だと思いますか。（○は2つ）

結婚により得られるものは、「家族を持ち・子どもを授かることができる」が54.5%で最も高く、次いで「精神的な安らぎ」が41.6%、「人間としての成長」が31.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「経済的な余裕」が13.4ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「家族を持ち・子どもを授かることができる」が16.6ポイント、「精神的な安らぎ」が10.9ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「家族を持ち・子どもを授かることができる」は30歳代で60.5%と高くなっています。



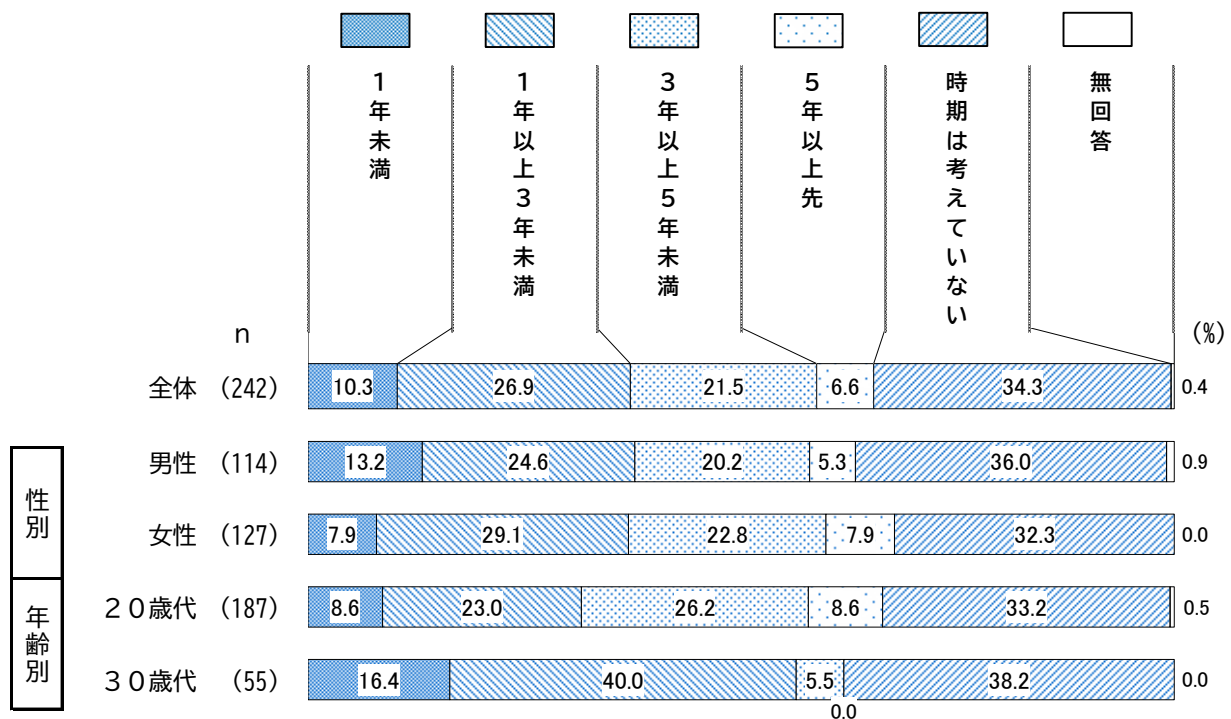
（4）結婚したいタイミング【独身者調査】

※将来、結婚したいかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答
 Q：いつ頃までに結婚したいですか。（○は1つ）

結婚したいタイミングは、「時期は考えていない」が34.3%、「1年以上3年未満」が26.9%、「3年以上5年未満」が21.5%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「1年未満」が5.3ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「1年以上3年未満」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「1年以上3年未満」は30歳代で40.0%と高くなっています。

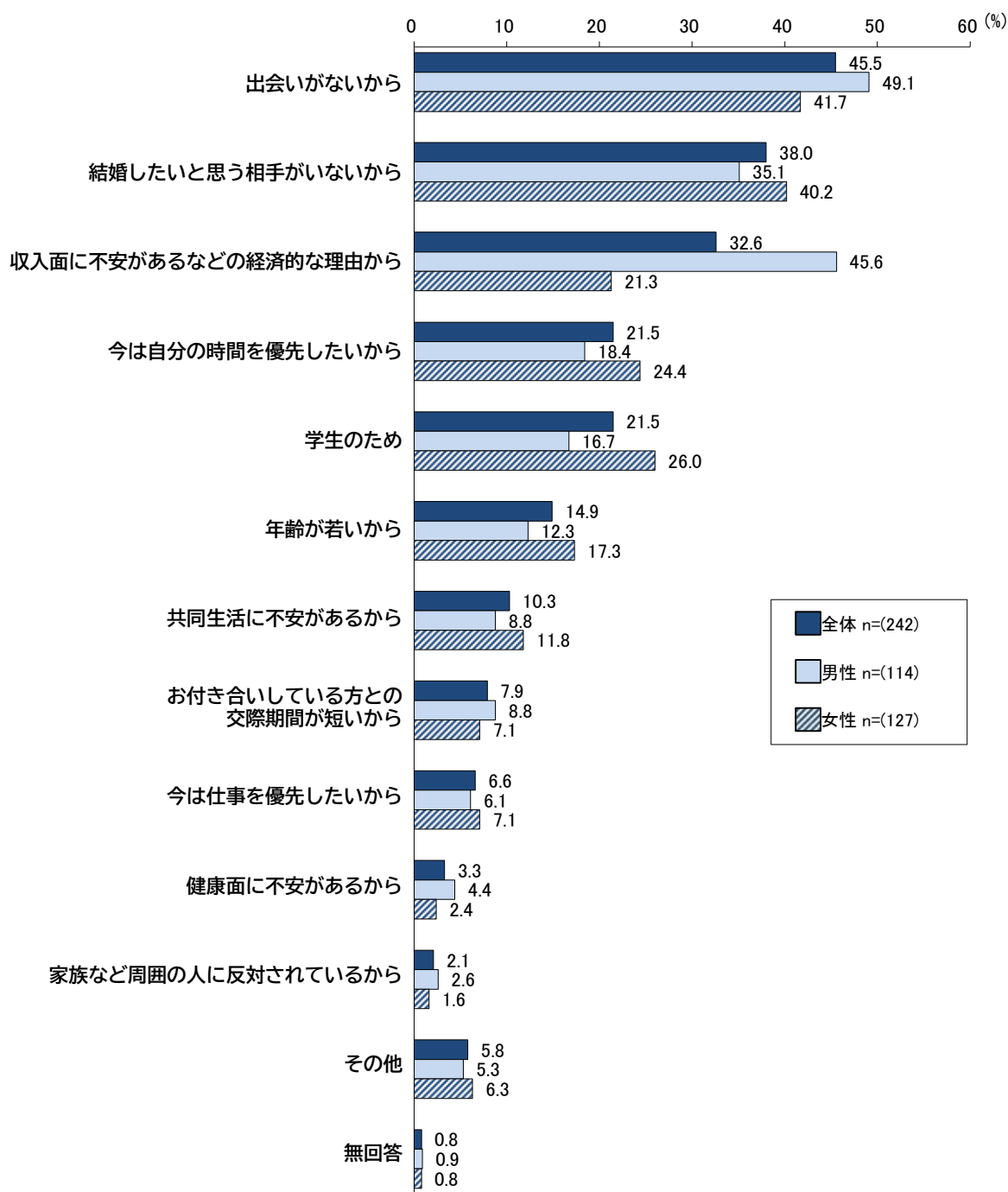


（5）結婚していない理由【独身者調査】

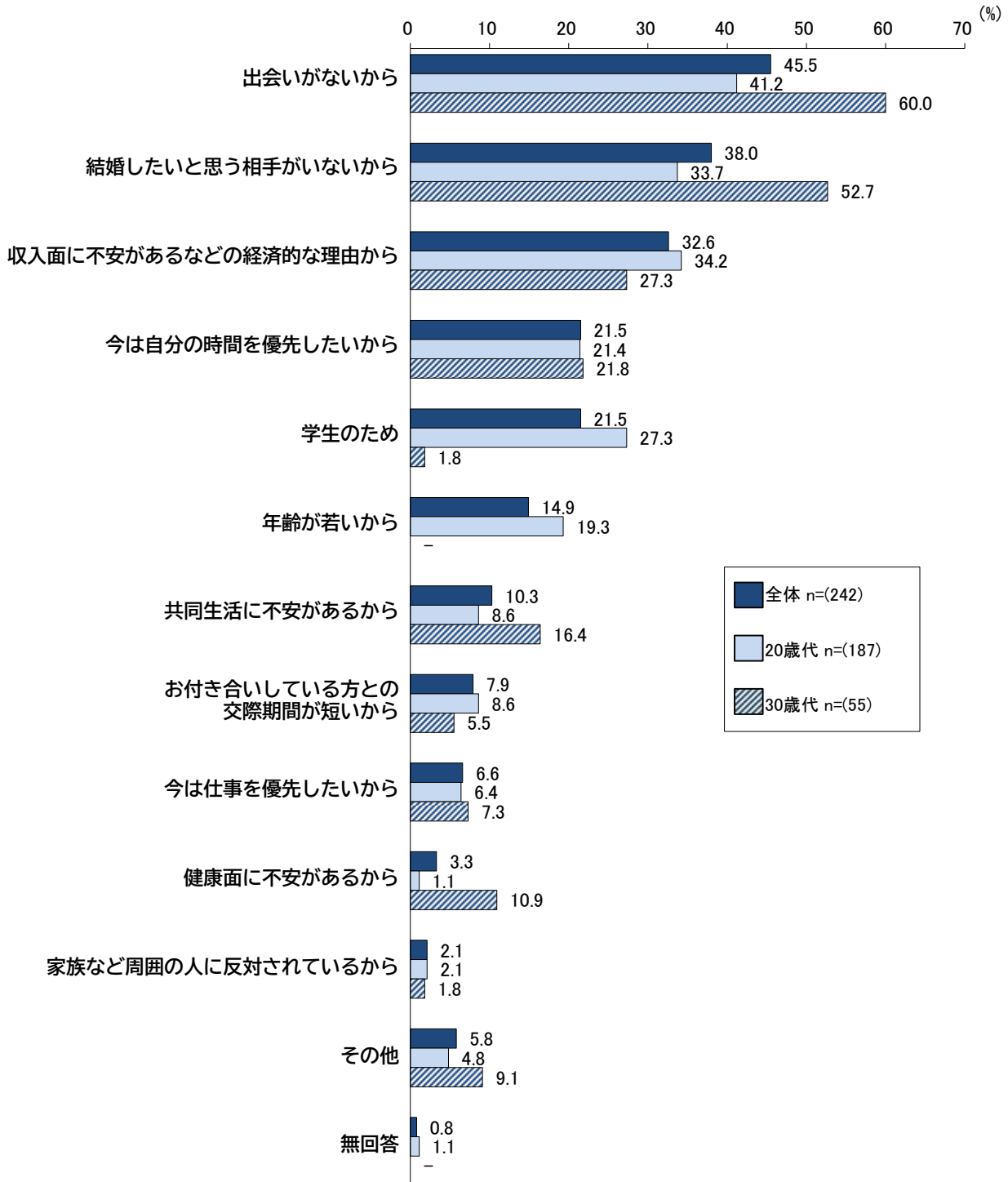
※将来、結婚したいかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答
 Q：現在、結婚していない理由は何ですか。（○は3つ）

結婚していない理由は、「出会いがないから」が45.5%で最も高く、次いで「結婚したいと思う相手がないから」が38.0%、「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」が32.6%となっています。

性別でみると、男性は「出会いがないから」（49.1%）、「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」（45.6%）などが女性より高いが、女性は「結婚したいと思う相手がないから」（40.2%）、「今は自分の時間を優先したいから」（24.4%）などが男性よりも高くなっています。



年齢別でみると、20歳代で「収入面に不安があるなどの経済的な理由から」は34.2%、「学生のため」は27.3%と高く、30歳代で「出会いがないから」は60.0%、「結婚したいと思う相手がいないから」は52.7%と高くなっています。



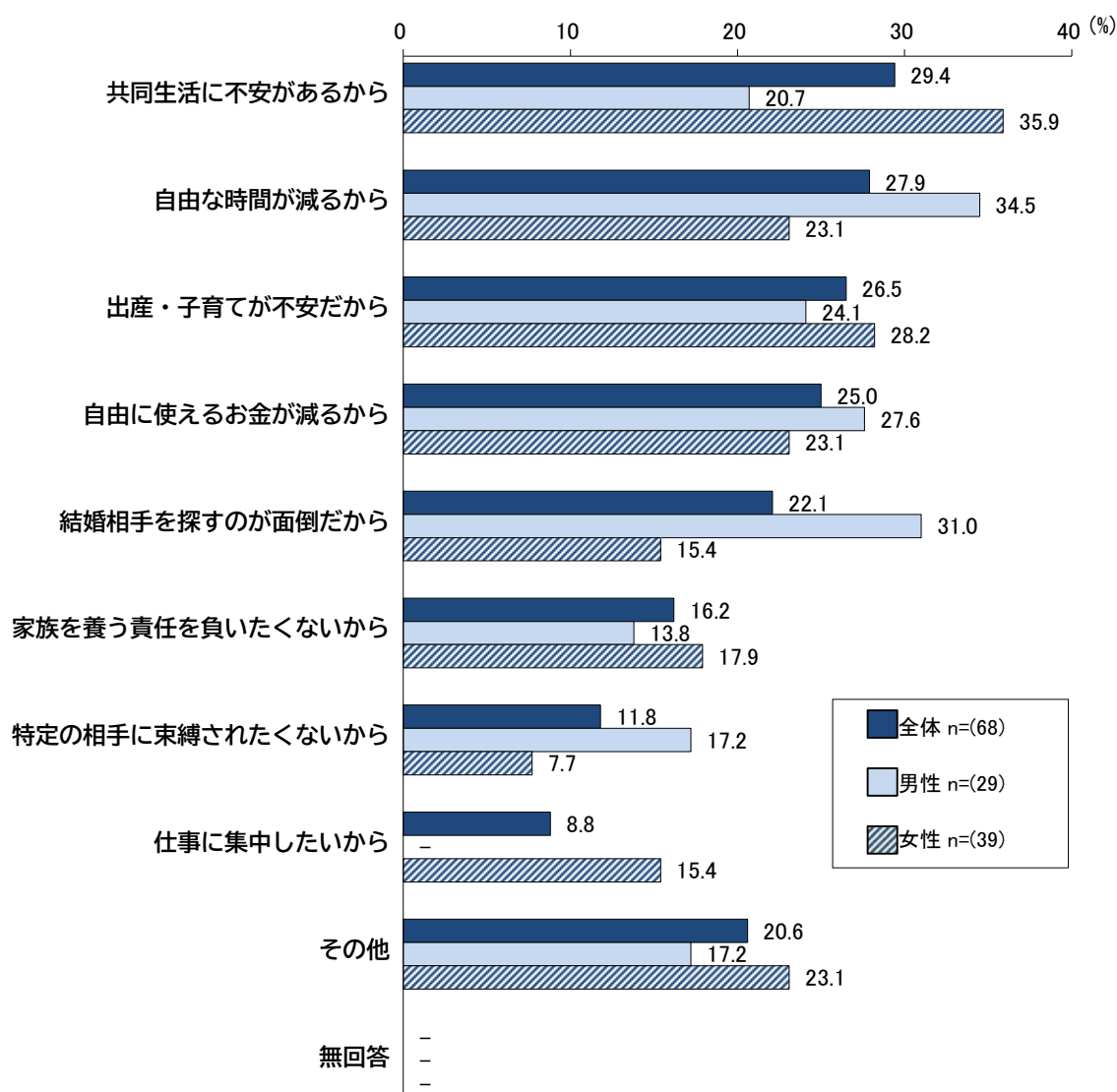
（6）結婚したくない理由【独身者調査】

※将来、結婚したいかで「どちらかといえば結婚したくない」、「結婚したくない」を選んだ方のみ回答

Q：「結婚したくない」と思う理由は何ですか。（〇は2つ）

「結婚したくない」と思う理由は、「共同生活に不安があるから」が29.4%で最も高く、次いで「自由な時間が減るから」が27.9%、「出産・子育てが不安だから」が26.5%となっています。

性別でみると、男性は「自由な時間が減るから」が34.5%、次いで「結婚相手を探すのが面倒だから」が31.0%と女性より高くなっています。一方、女性は「共同生活に不安があるから」が35.9%、次いで「出産、子育てが不安だから」が28.2%と男性より高くなっています。



※母数が30未満の項目は参考値とする。

(7) 結婚相手と知り合うきっかけとして期待するもの／知り合ったきっかけ

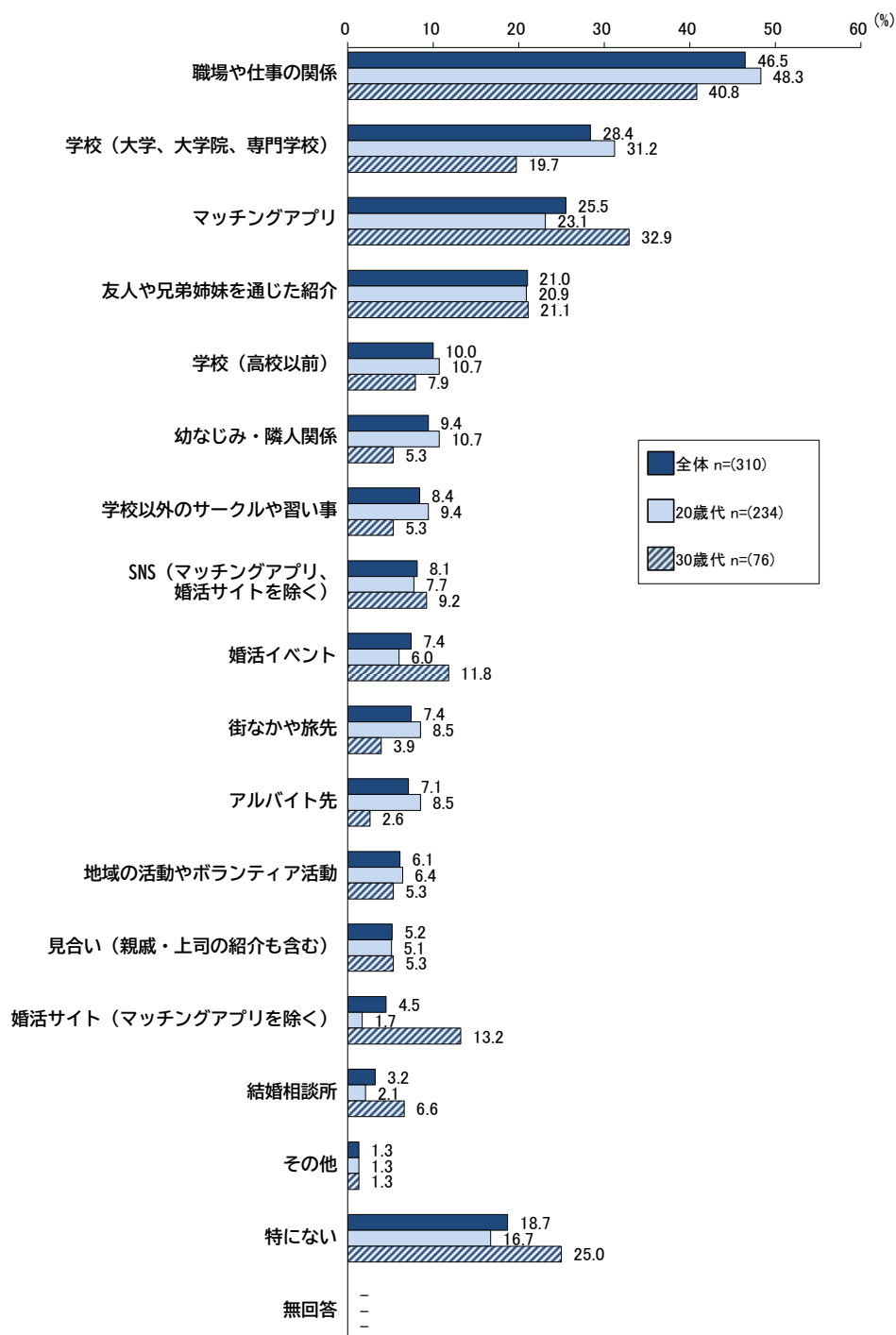
【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】Q：結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものはどのようなことですか。

(○は3つ)

結婚相手と知り合うきっかけとして期待するものは「職場や仕事の関係」が46.5%で最も高く、次いで「学校（大学、大学院、専門学校）」が28.4%、「マッチングアプリ」が25.5%となっています。

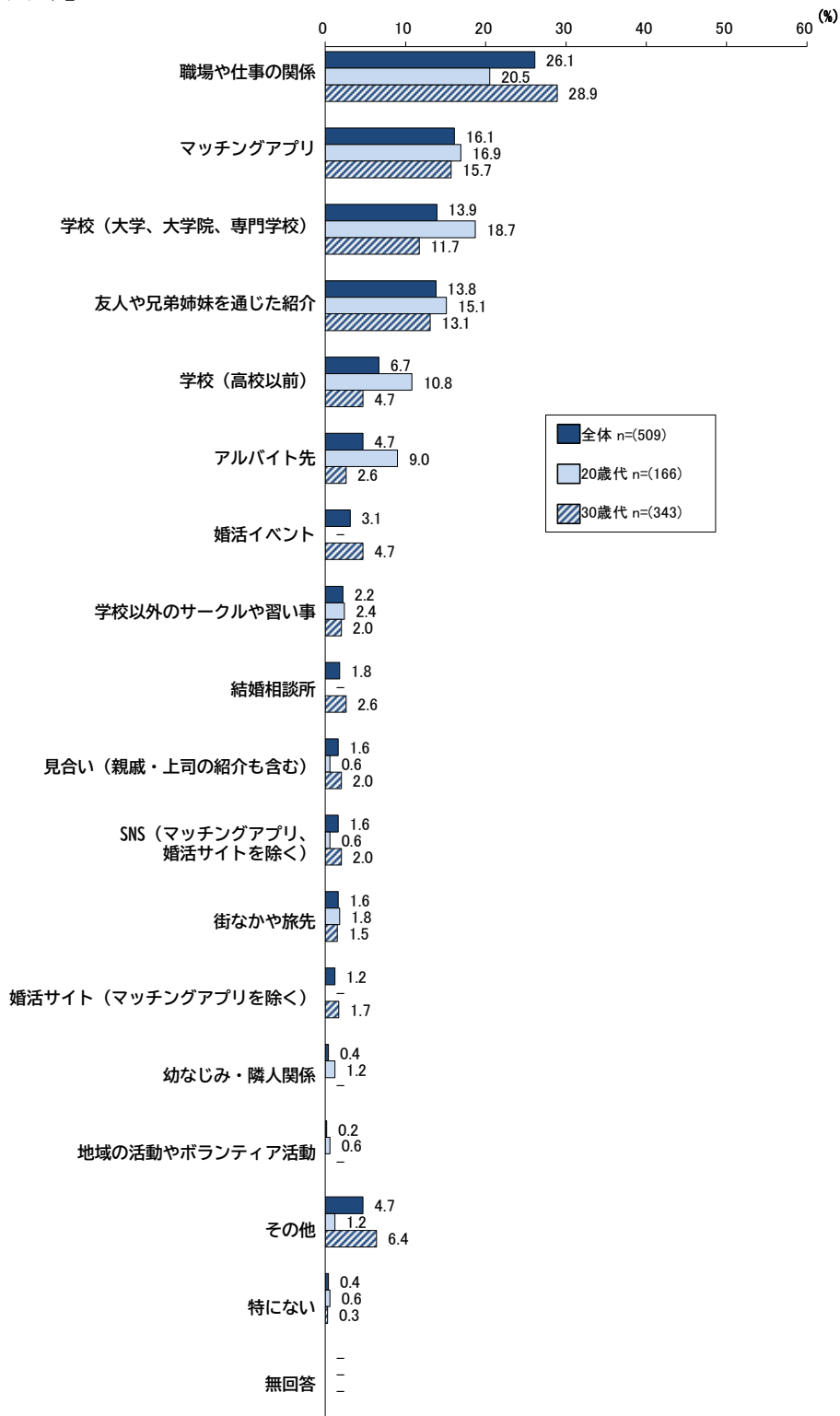
年齢別でみると、20歳代で「職場や仕事の関係」が48.3%、「学校（大学、大学院、専門学校）」が31.2%と高くなっています。一方、「マッチングアプリ」は30歳代で32.9%と高くなっています。



【既婚者調査】Q：あなた方ご夫婦の知り合ったきっかけを教えてください。（○は1つ）

夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係」が26.1%で最も高く、次いで「マッチングアプリ」が16.1%、「学校（大学、大学院、専門学校）」が13.9%、「友人や兄弟姉妹を通じた紹介」が13.8%となっています。

年齢別でみると、「職場や仕事の関係」は30歳代で28.9%、次いで「マッチングアプリ」が15.7%となっています。一方、20歳代は「職場や仕事の関係」の20.5%に次いで「学校（大学、大学院、専門学校）」が18.7%となっています。



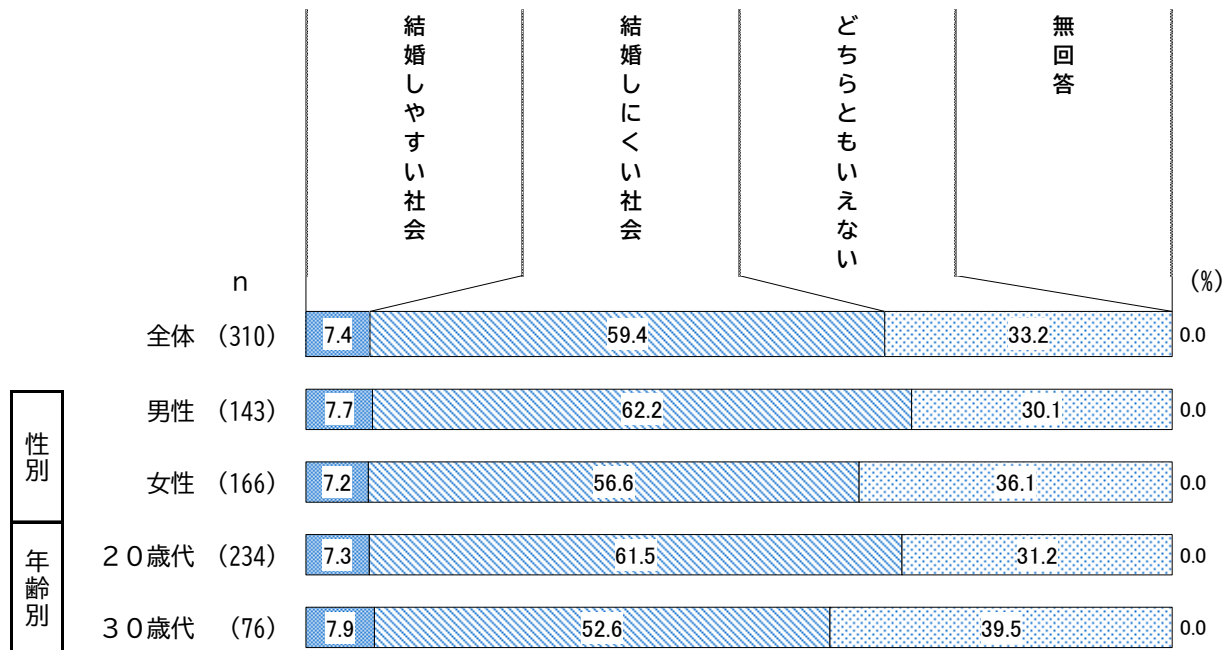
（8）今の社会は結婚しやすい社会だと思うか【独身者調査】

Q：今の社会は結婚しやすい社会だと思いますか。（○は1つ）

今の社会は結婚しやすい社会だと思うかは、「結婚しにくい社会」が59.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が33.2%、「結婚しやすい社会」が7.4%となっています。

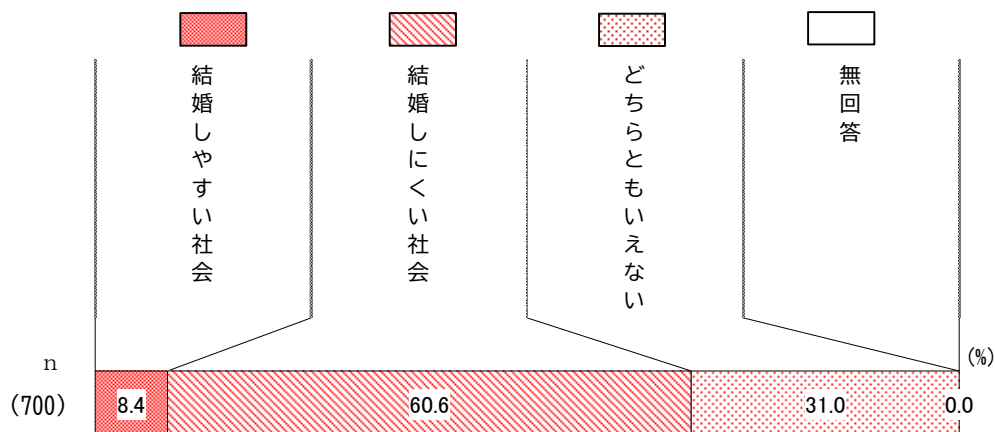
性別でみると、「結婚しにくい社会」は男性が女性よりも5.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「結婚しにくい社会」は20歳代で61.5%とやや高くなっています。



県調査※との比較

県調査の結果は、「結婚しやすい社会」が8.4%となっており、市調査（7.4%）の結果とほぼ同率です。また、「結婚しにくい社会」（県調査60.6%）も市調査（59.4%）とほぼ同率となっています。



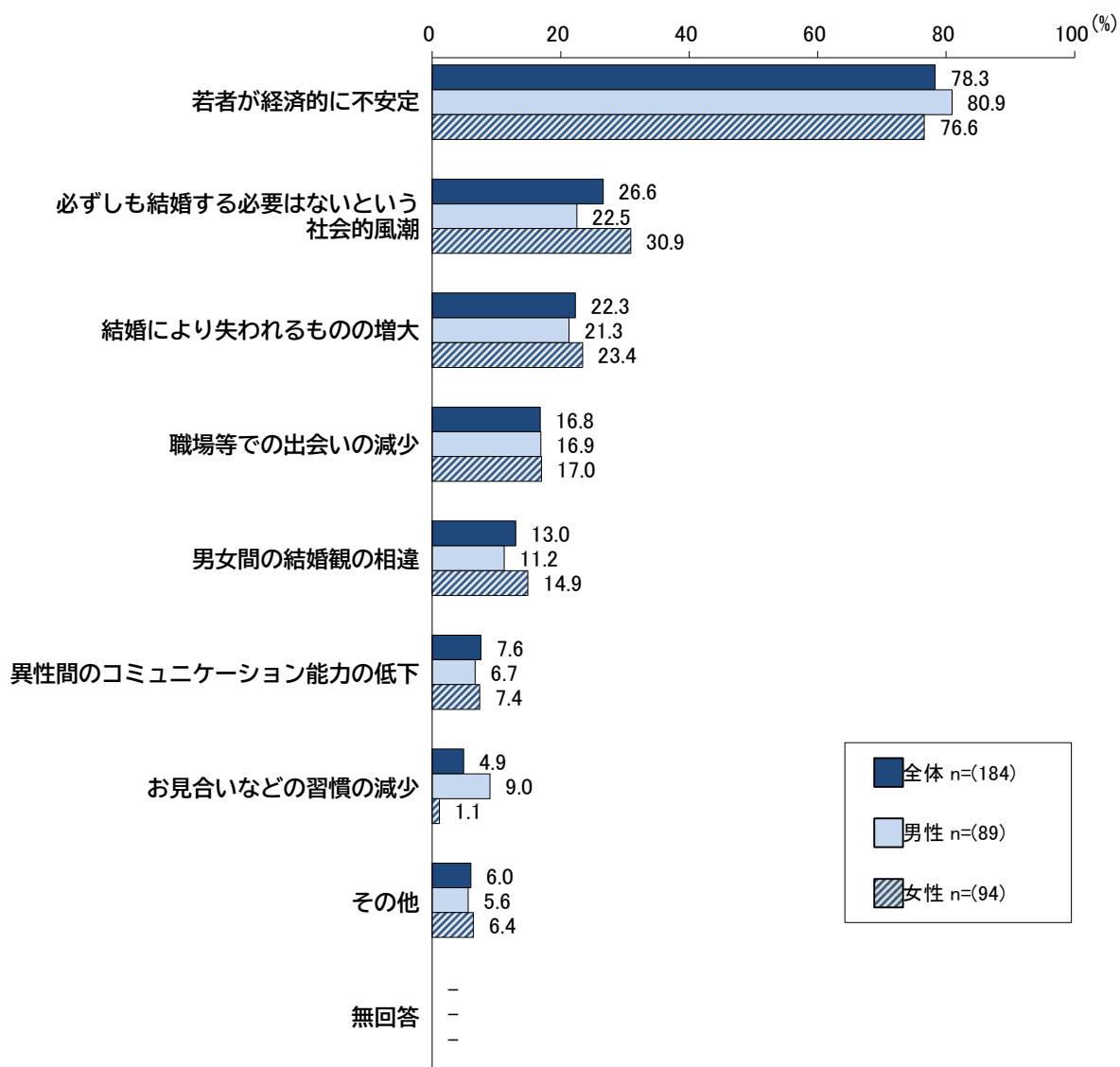
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

（9）結婚しにくい社会だと思う理由【独身者調査】

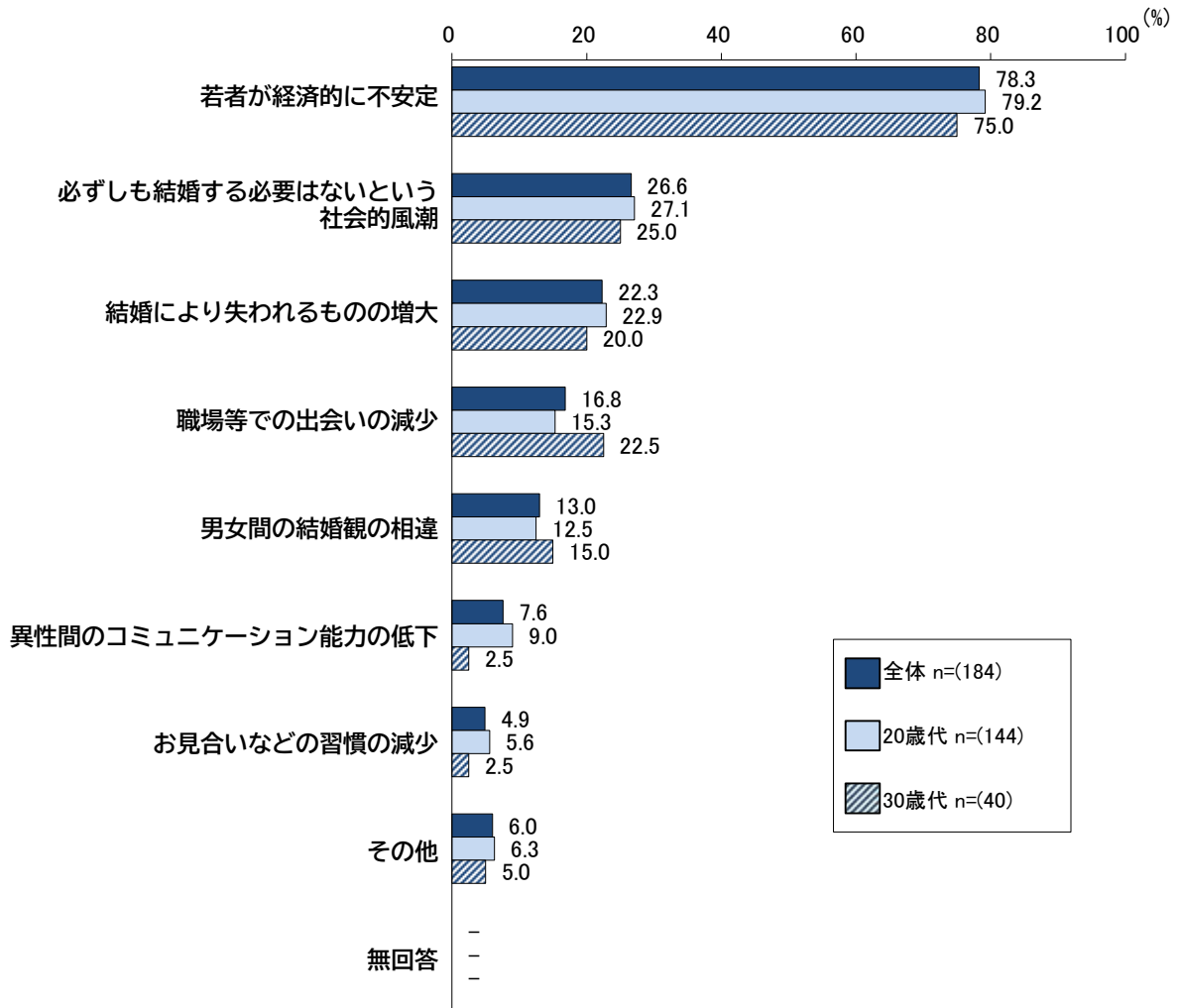
※今の社会は結婚しやすいと思うかについて「結婚しにくい社会」を選んだ方のみ回答
 Q：その理由について、どのようにお考えですか。（○は2つ）

結婚しにくい社会だと思う理由は、「若者が経済的に不安定」が78.3%で最も高く、次いで「必ずしも結婚する必要はないという社会的風潮」が26.6%、「結婚により失われるものの増大」が22.3%となっています。

性別でみると、男性は「若者が経済的に不安定」が女性よりも高くなっています。一方女性には、「必ずしも結婚する必要はないという社会的風潮」が男性よりも高くなっています。



年齢別でみると「若者が経済的に不安定」は20歳代で79.2%と高く、「職場等での出会いの減少」は30歳代で22.5%と高くなっています。



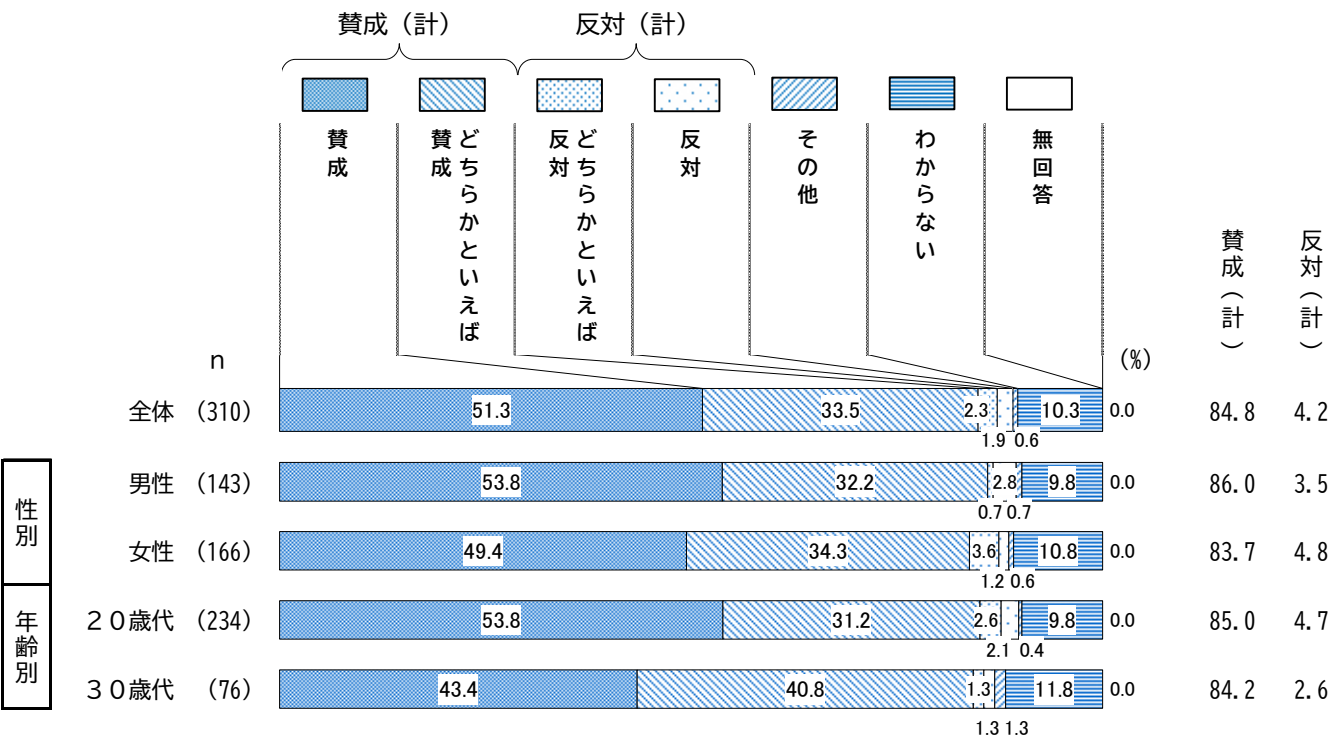
(10) 行政が結婚を支援する施策を行うことについて【独身者調査】

Q：結婚を希望する人に対して、行政が結婚を支援する施策を行うことについて、どのようにお考えですか。（○は1つ）

行政が結婚を支援する施策を行うことは、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成計》が84.8%となっています。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた《反対計》は4.2%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、「賛成」は20歳代で53.8%と高くなっています。一方、30歳代では43.4%と低くなっていますが、《賛成計》では年齢による大きな差はみられません。



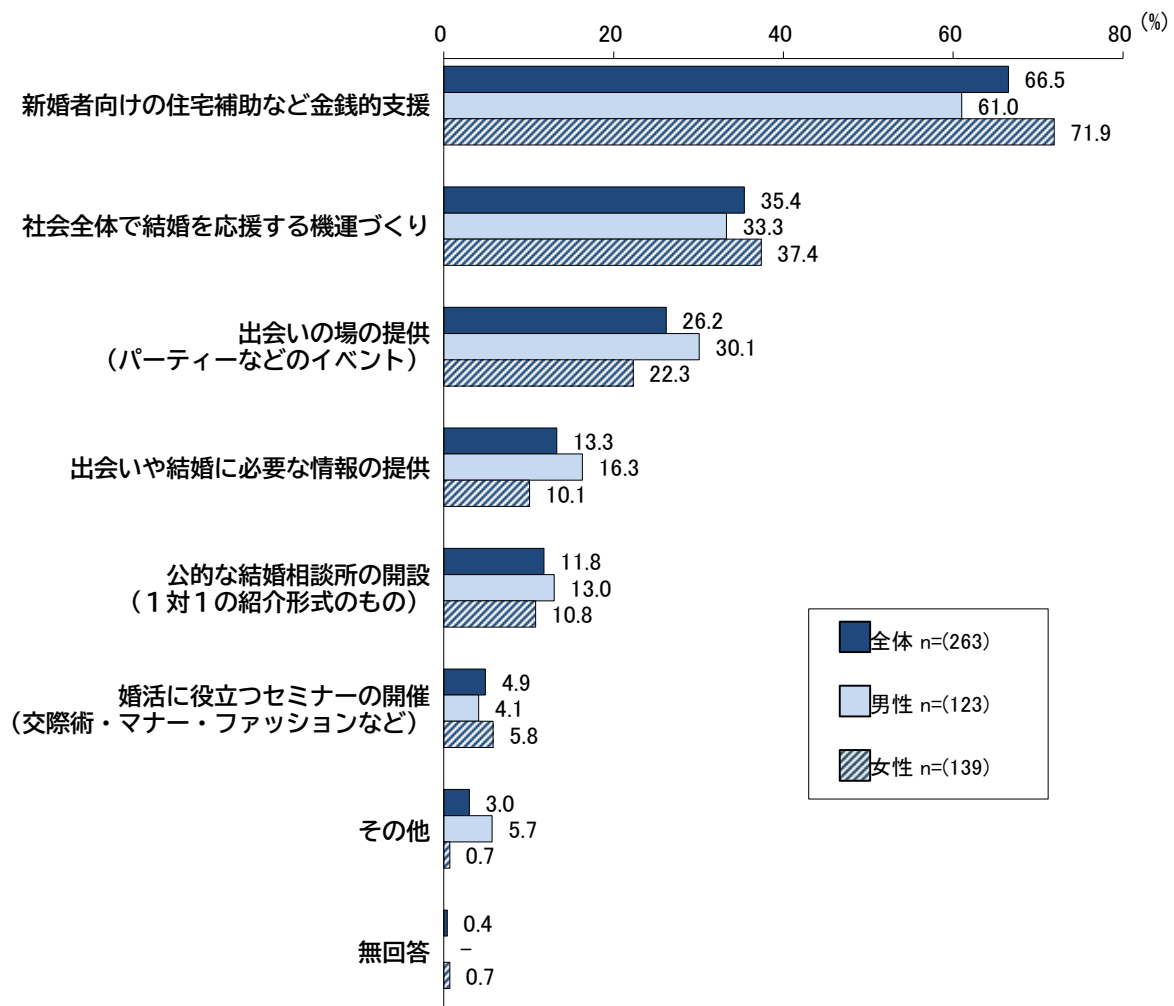
(11) 結婚に関する支援で行政に期待すること【独身者調査】

※行政が結婚を支援する施策を行うことについて「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ方のみ回答

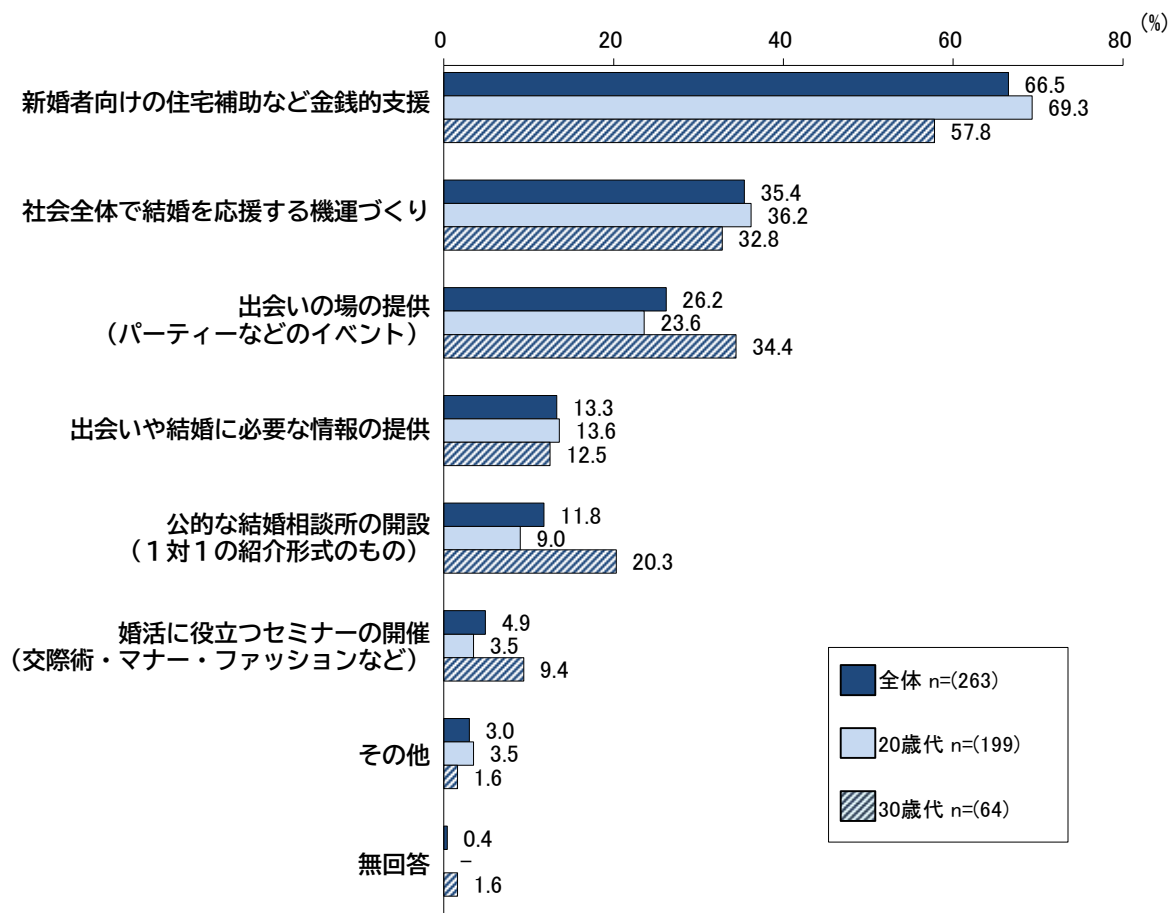
Q：結婚の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（○は2つ）

行政に期待する結婚に関する支援は、「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」が66.5%で最も高く、次いで「社会全体で結婚を応援する機運づくり」が35.4%、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が26.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」が10.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が7.8ポイント、「出会いや結婚に必要な情報の提供」が6.2ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「新婚者向けの住宅補助など金銭的支援」は20歳代で69.3%と高くなっています。一方、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が30歳代で34.4%、「公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）」は30歳代で20.3%と高くなっています。



3 妊娠・出産について

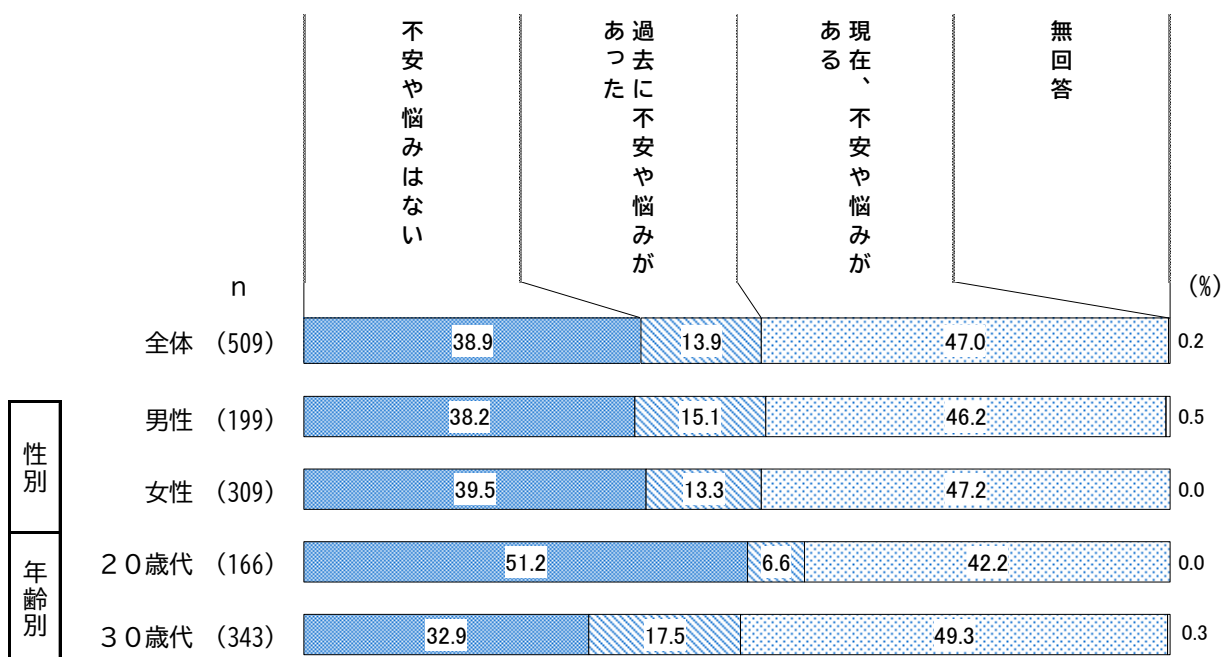
（1）不妊についての不安や悩み【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。（○は1つ）

不妊についての不安や悩みは、「現在、不安や悩みがある」が47.0%、「不安や悩みはない」が38.9%、「過去に不安や悩みがあった」が13.9%となっています。「不安や悩みの経験あり」（「過去に不安や悩みがあった」または「現在、不安や悩みがある」）の割合は60.9%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、「不安や悩みの経験あり」は30歳代で66.8%と高くなっています。



(2) 不妊治療の経験【既婚者調査】

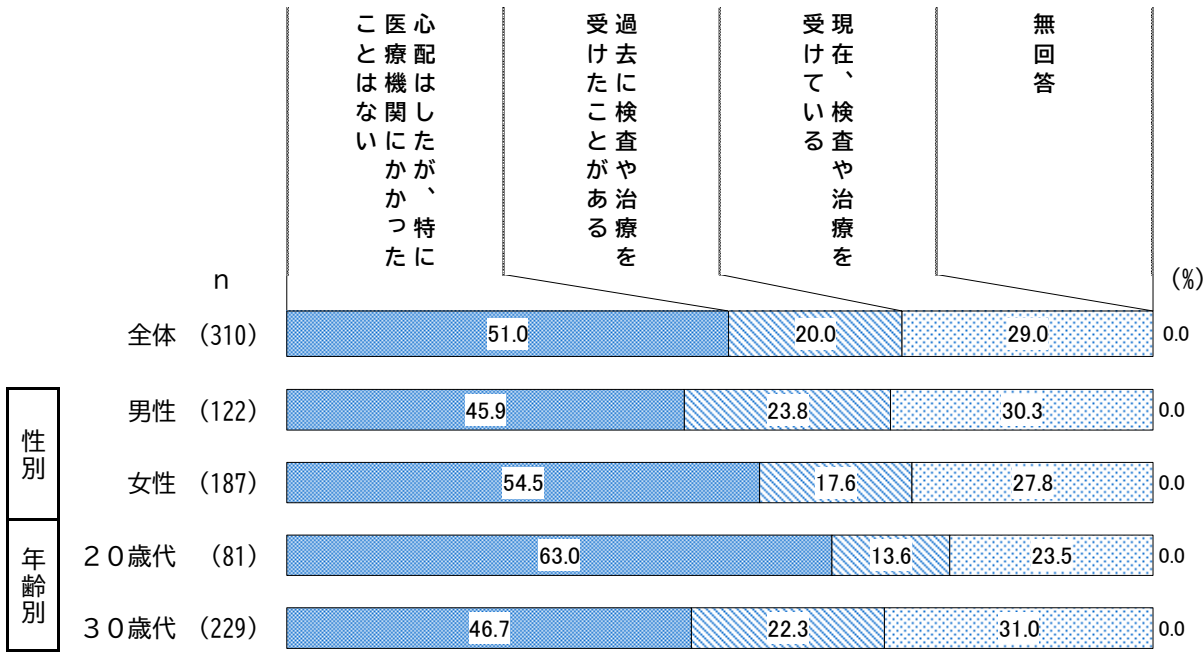
※不妊についての不安や悩みはあるかで「過去に不安や悩みがあった」、「現在、不安や悩みがある」を選んだ方のみ回答

Q：あなた方ご夫婦は、不妊治療の経験はありますか。（○は1つ）

不妊についての不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が51.0%、「現在、検査や治療を受けている」が29.0%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が20.0%となっています。「検査や治療の経験あり」（「過去に検査や治療を受けたことがある」または「現在、検査や治療を受けている」）の割合は49.0%となっています。

性別でみると、「検査や治療の経験あり」は男性が女性より8.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「検査や治療の経験あり」は30歳代で53.3%と高くなっています。一方、20歳代では37.1%と低くなっています。



（3）不育についての不安や悩み【既婚者調査】

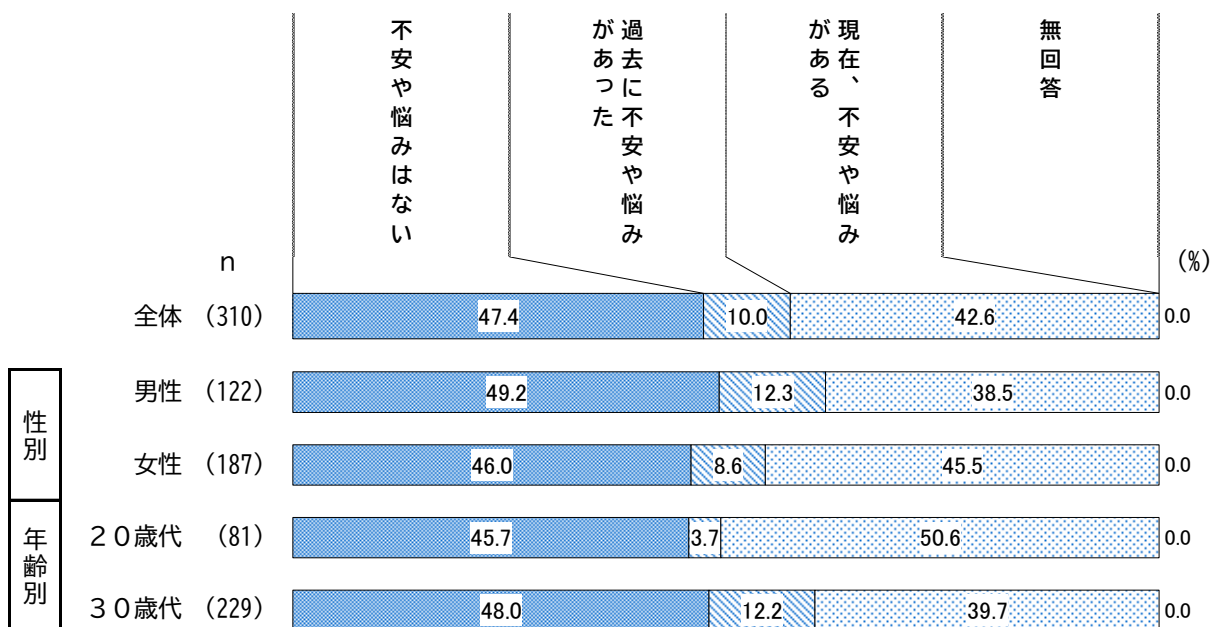
Q：あなた方ご夫婦は、不育※について不安や悩みはありますか。（○は1つ）

※不育症…妊娠はするけれど2回以上の流産・死産もしくは生後1週間以内に死亡する早期新生児脂肪によって子どもを持っていない場合のこと

不育についての不安や悩みは、「不安や悩みはない」が47.4%、「現在、不安や悩みがある」が42.6%、「過去に不安や悩みがあった」が10.0%となっています。「不安や悩みの経験あり」（「過去に不安や悩みがあった」または「現在、不安や悩みがある」）の割合は52.6%となっています。

性別でみると、「不安や悩みの経験あり」は女性が男性より3.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「不安や悩みの経験あり」は20歳代で54.3%とやや高くなっています。



（4）不育治療の経験【既婚者調査】

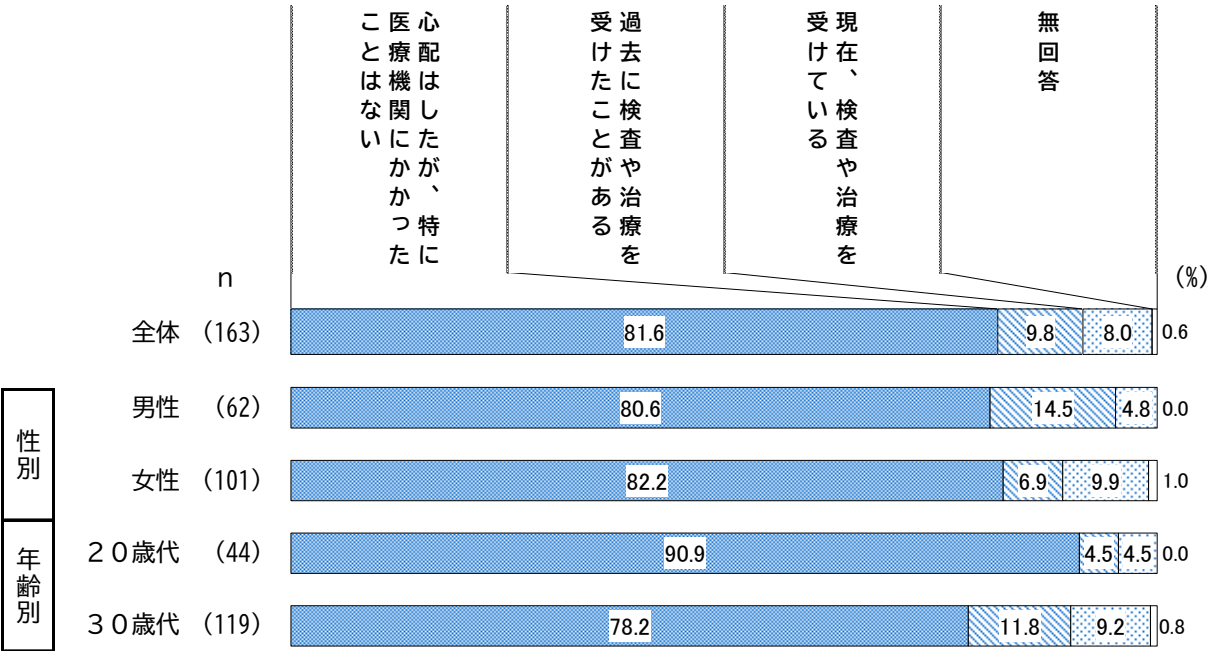
※不育についての不安や悩みはあるかで「過去に不安や悩みがあった」、「現在、不安や悩みがある」を選んだ方のみ回答

Q：あなた方ご夫婦は、不育症治療の経験はありますか。（○は1つ）

不育について不安や悩みがある（あった）場合の治療経験は、「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」が81.6%、「過去に検査や治療を受けたことがある」が9.8%、「現在、検査や治療を受けている」が8.0%となっています。「検査や治療の経験あり」（「過去に検査や治療を受けたことがある」または「現在、検査や治療を受けている」）の割合は17.8%となっています。

性別でみると、「不安や悩みの経験あり」は男性が女性より2.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「検査や治療の経験あり」は30歳代で21.0%とやや高くなっています。



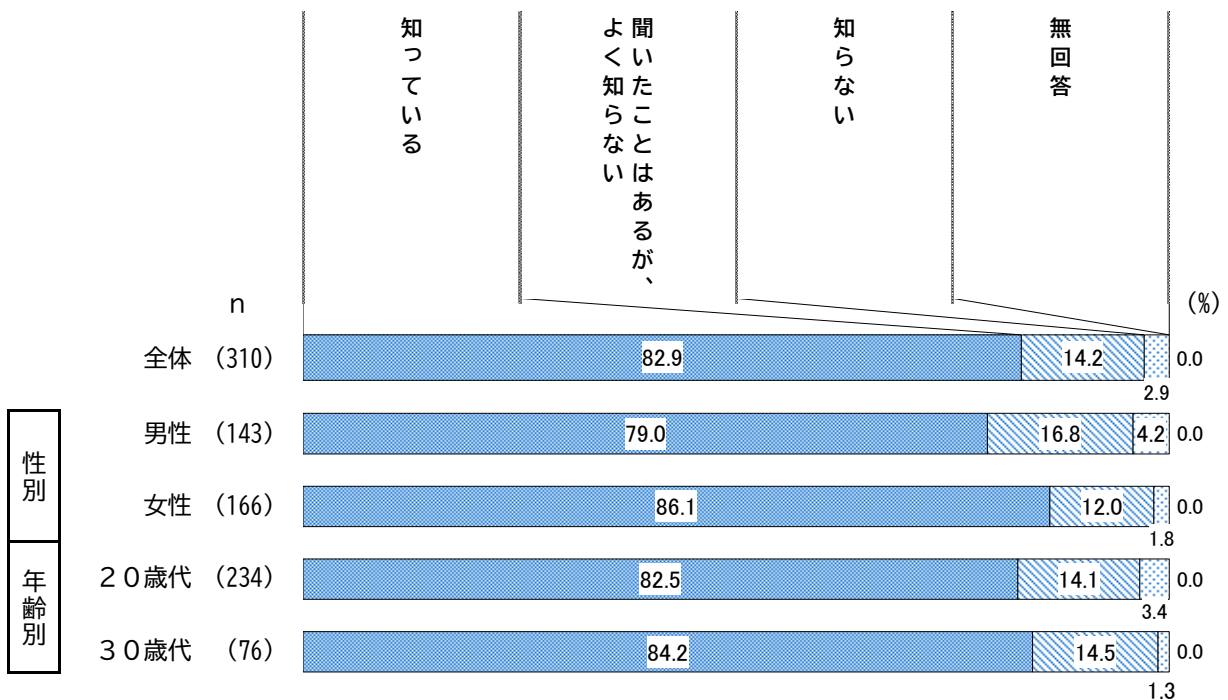
（5）妊娠と年齢の関係の認知度【独身者調査】

Q：あなたは男女ともに年齢が高くなるほど妊娠の確率が低下することなど、妊娠と年齢の関係について知っていますか。（○は1つ）

妊娠と年齢の関係については、「知っている」が82.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が14.2%、「知らない」が2.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が7.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「聞いたことはあるが、よく知らない」が4.8ポイント高くなっています。

年齢別では、大きな差はみられません。



（6）妊娠と年齢の関係の認知手段【独身者調査】

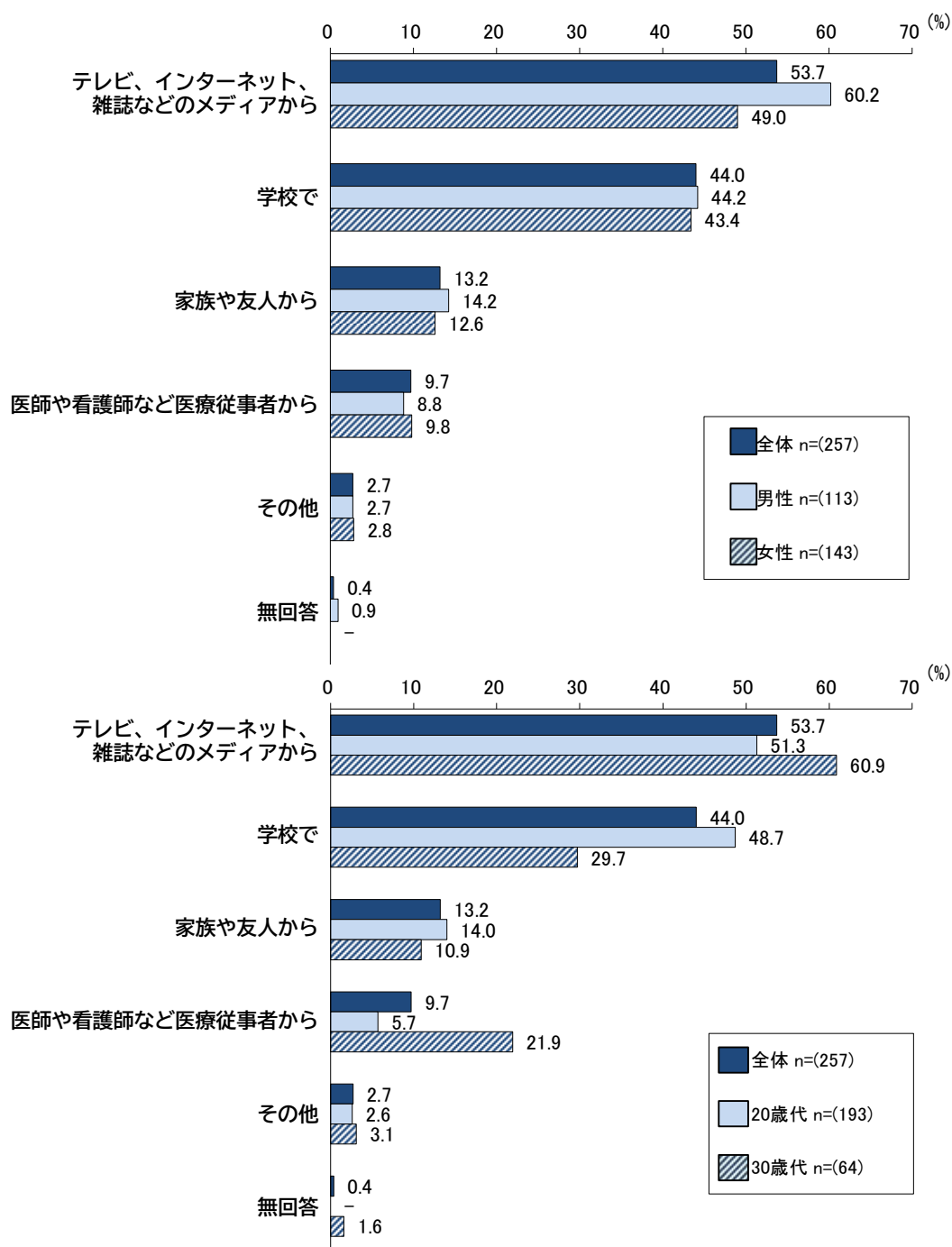
※妊娠と年齢の関係の認知度で「知っている」を選んだ方のみ回答

Q：どのようにして知りましたか。（○はいくつでも）

どのように知ったかは、「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」が53.7%で最も高く、次いで「学校で」が44.0%、「家族や友人から」が13.2%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」が11.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「テレビ、インターネット、雑誌などのメディアから」は30歳代で60.9%と高くなっています。一方、「学校で」は20歳代で48.7%と高くなっています。

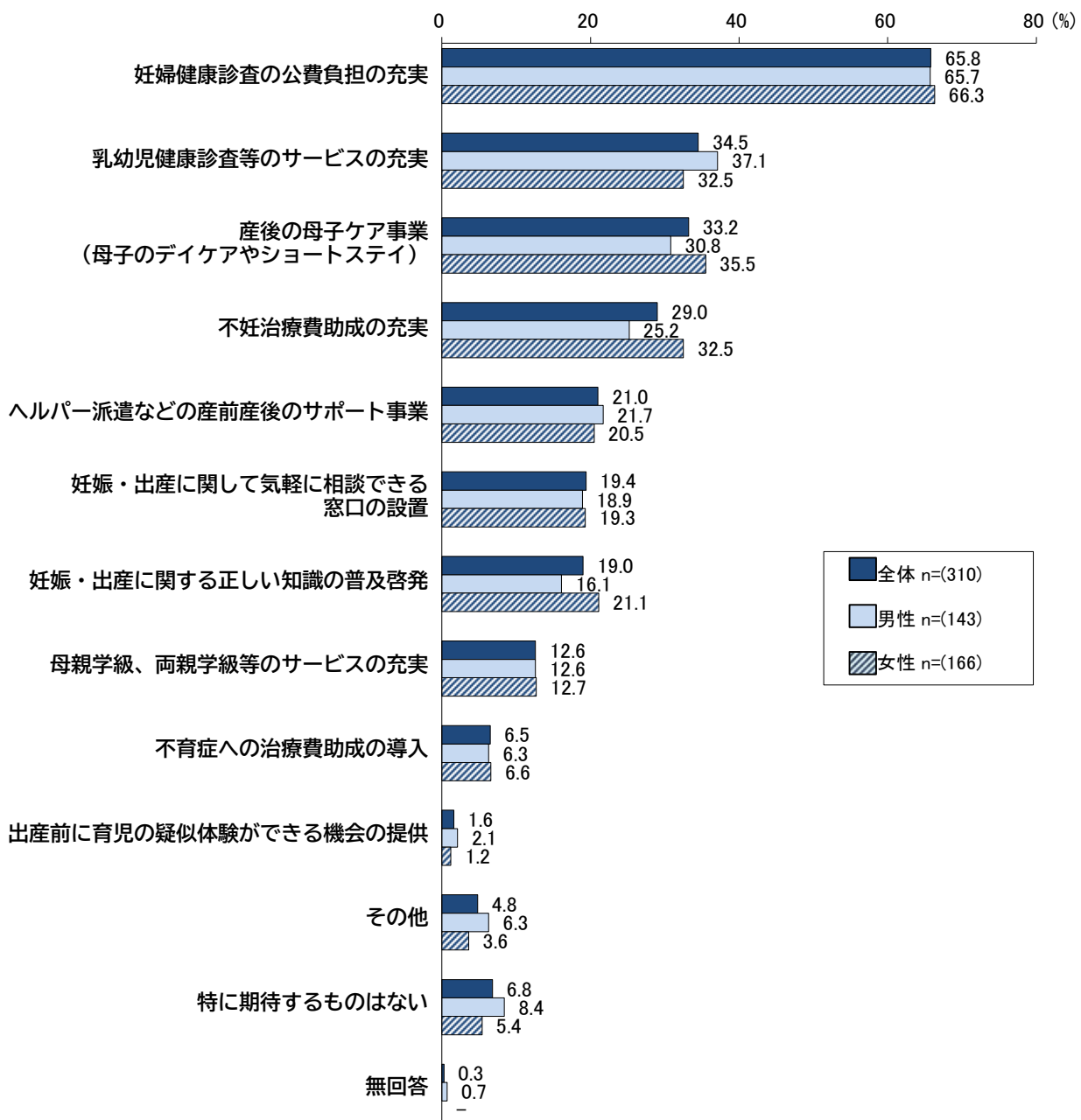


（7）妊娠・出産に関する支援として行政に期待すること【独身者調査】

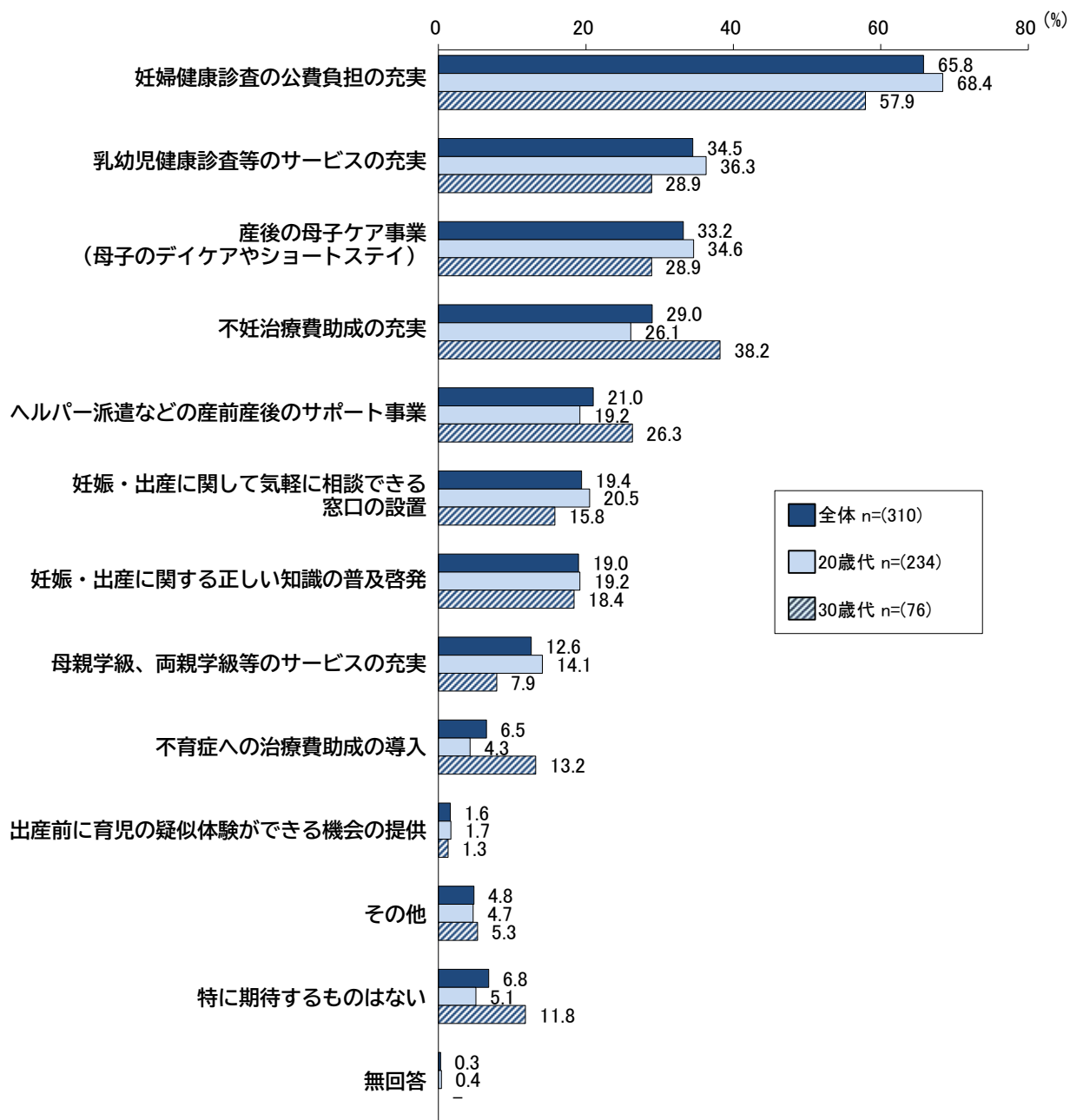
Q：妊娠・出産の支援として、どのようなことを行政に期待しますか。（○は3つ）

行政に期待する妊娠・出産に関する支援は、「妊婦健康診査の公費負担の充実」が65.8%で最も高く、次いで「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が34.5%、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が33.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「不妊治療費助成の充実」が7.3ポイント、「妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発」が5.0ポイント、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が4.7ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が4.6ポイント高くなっています。



年齢別でみると、20歳代で「妊婦健康診査の公費負担の充実」が68.4%、「乳幼児健康診査等のサービスの充実」が36.3%、「産後の母子ケア事業（母子のデイケアやショートステイ）」が34.6%と高くなっています。一方、「不妊治療費助成の充実」は30歳代で38.2%と高くなっています。



4 子どもについて

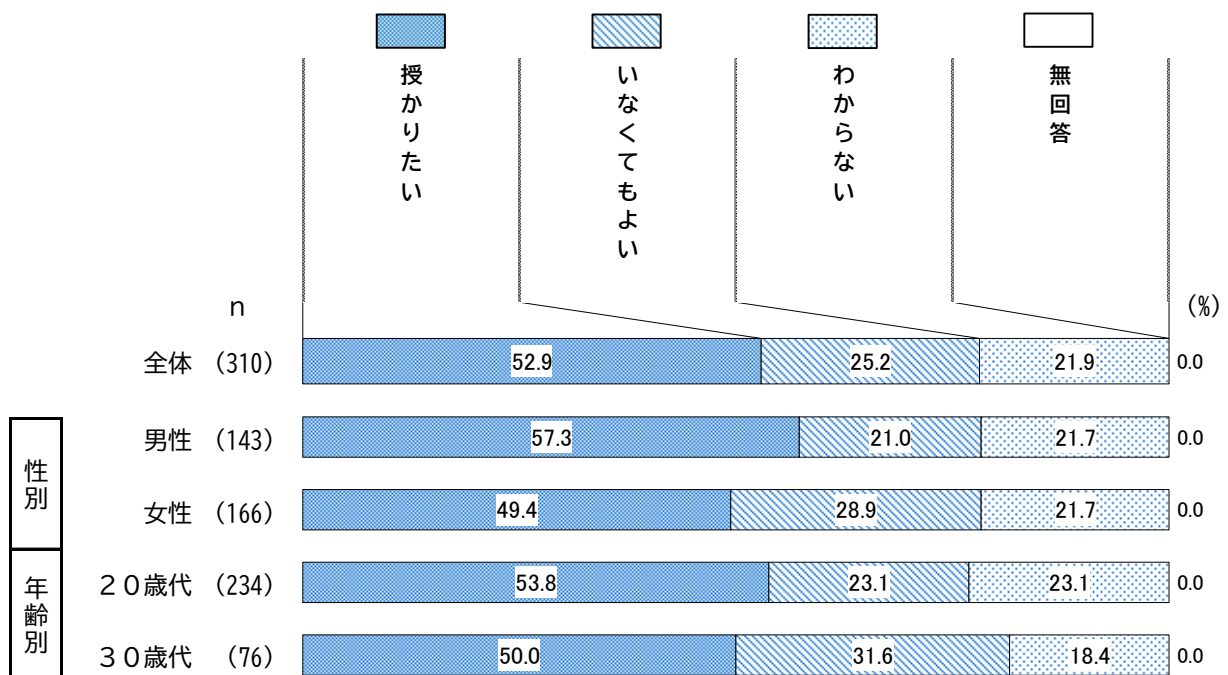
（1）将来子どもを授かりたいか【独身者調査】

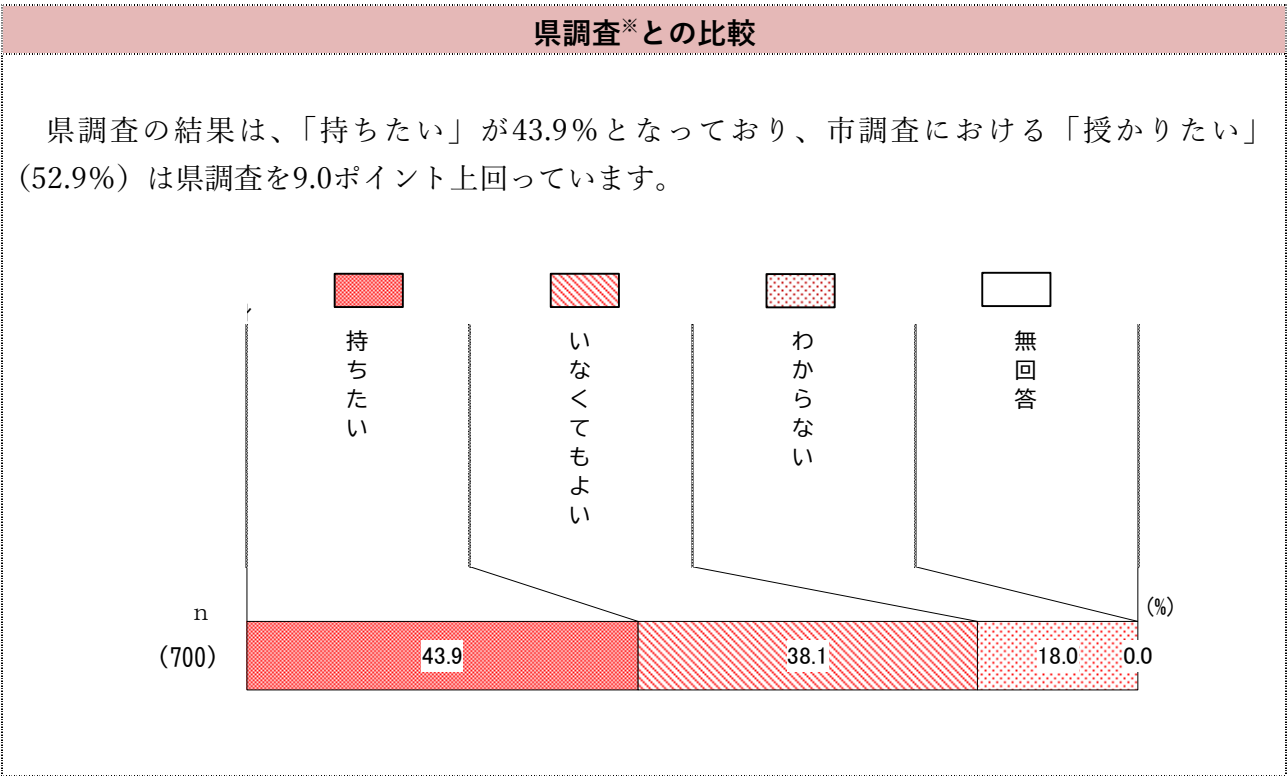
Q：あなたは将来子どもを授かりたいですか。（○は1つ）

将来子どもを授かりたいかは、「授かりたい」が52.9%、「いなくてもよい」が25.2%、「わからない」が21.9%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「授かりたい」が7.9ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「いなくてもよい」が7.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「いなくてもよい」は30歳代で31.6%とやや高くなっています。





※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

（2）将来授かりたい子どもの人数／理想の子どもの人数

【独身者調査】※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは将来子どもを何人授かりたいですか。（○は1つ）

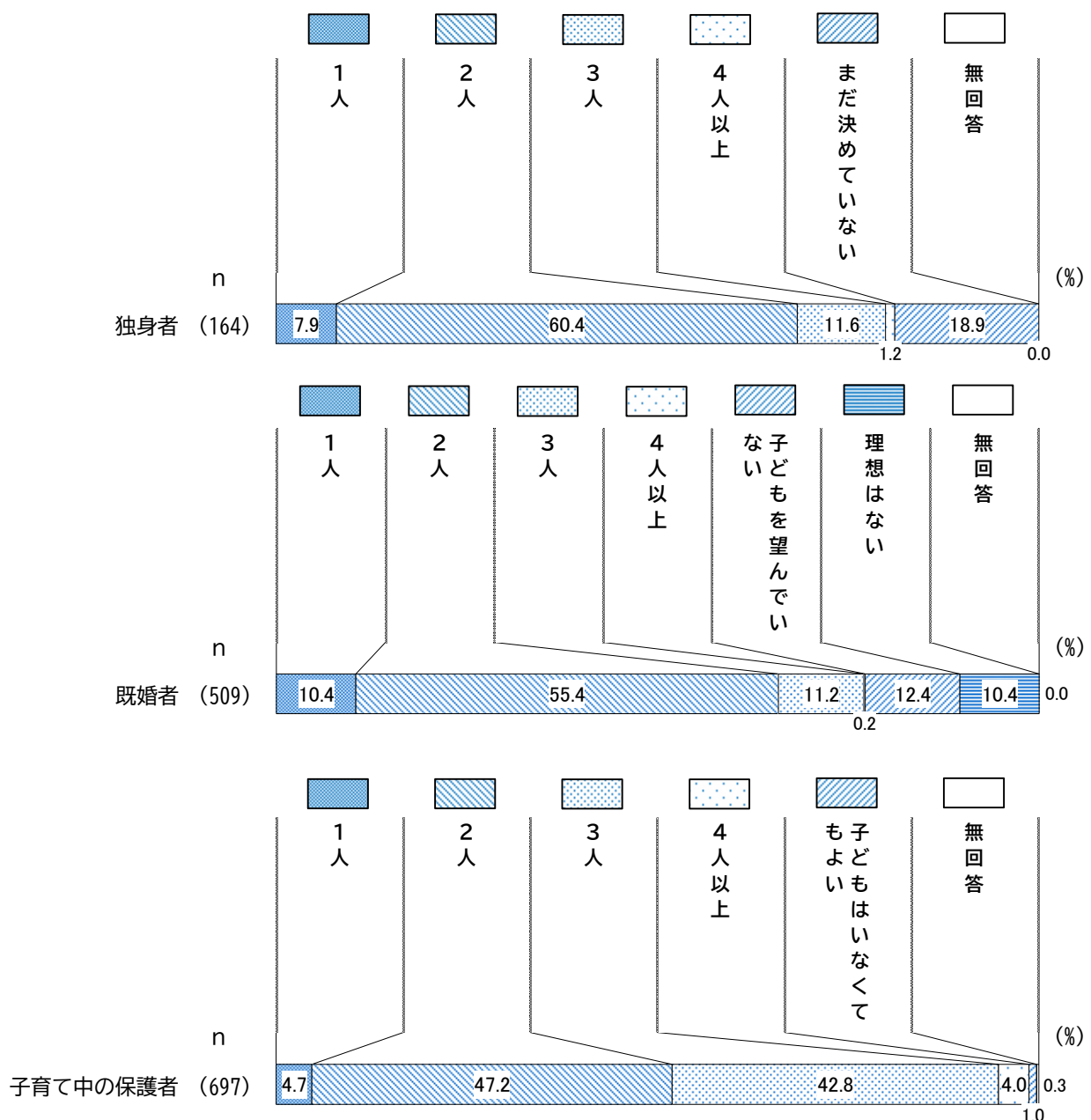
【既婚者調査・子育て中の保護者調査】

Q：あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの人数は何人ですか。

将来授かりたい子どもの人数は、独身者調査では「2人」が60.4%で最も高く、次いで「まだ決めていない」が18.9%、「3人」が11.6%となっています。

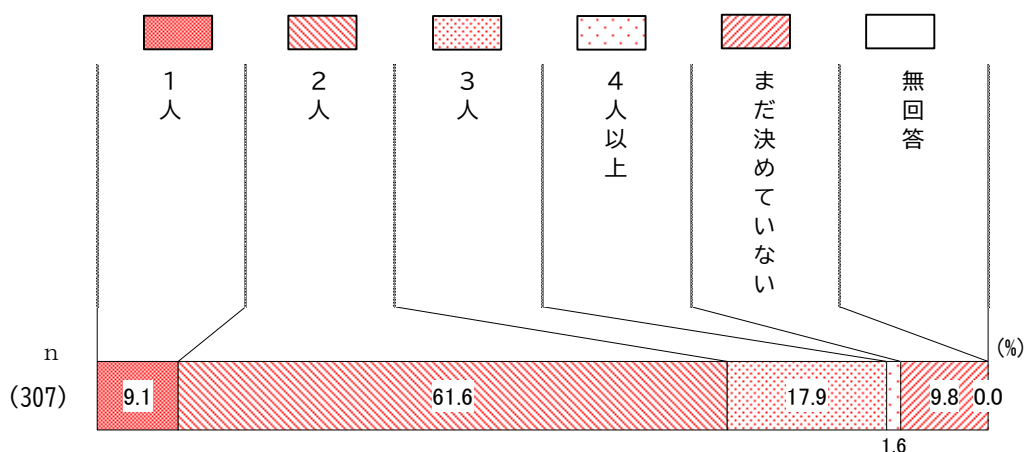
理想の子どもの数は、既婚者調査では「2人」が55.4%で最も高く、次いで「子どもを望んでいない」が12.4%、「3人」が11.2%、「1人」が10.4人となっています。

子育て中の保護者調査では「2人」が47.2%で最も高く、次いで「3人」が42.8%、「1人」が4.7%、「4人以上」が4.0%となっています。

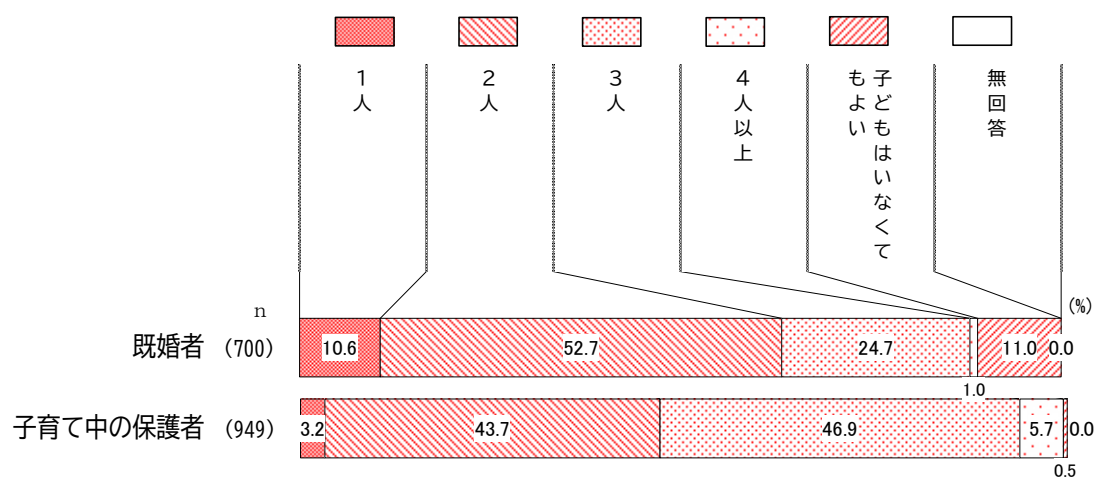


県調査※との比較

独身者調査では、市調査と同様に「2人」（61.6%）が高くなっています。県調査の結果は「3人」が17.9%となっており、市調査（11.6%）は県調査より6.3ポイント低くなっています。一方、「まだ決めていない」は9.8%となっており、市調査（18.9%）は県調査より9.1ポイント高くなっています。



県調査の結果は「3人」が既婚者調査で24.7%、子育て中の保護者調査で46.9%となっており、市調査の結果は既婚者調査（11.2%）で13.5ポイント、子育て中の保護者調査（42.8%）で4.1ポイント低くなっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
夫婦全般に関する調査（既婚者調査）
地域での子育てに関する調査（保護者調査）

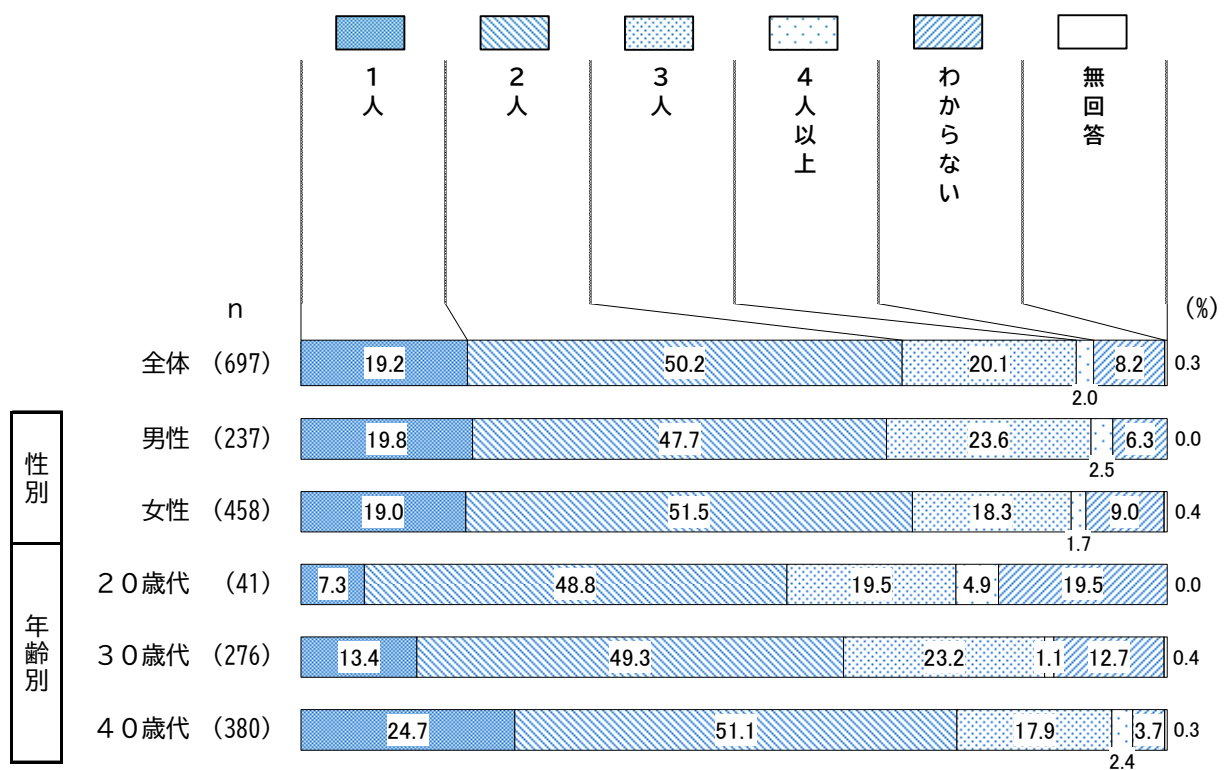
（3）予定の子どもの人数【子育て中の保護者調査】

Q：あなたの子どもの人数について、最終的に何人を予定していますか。（予定の子どもの人数）
（○は1つ）

子どもの最終的な予定数は、「2人」が50.2%で最も高く、次いで「3人」が20.1%、「1人」が19.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「2人」が3.8ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「3人」が5.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、20歳代で「1人」は7.3%、「2人」は48.8%と低く、いずれも年齢が上がるほど高くなっています。「3人」は30歳代で23.2%とやや高くなっています。



（４）「理想の子どもの人数」より「予定の子どもの人数」が少ない理由

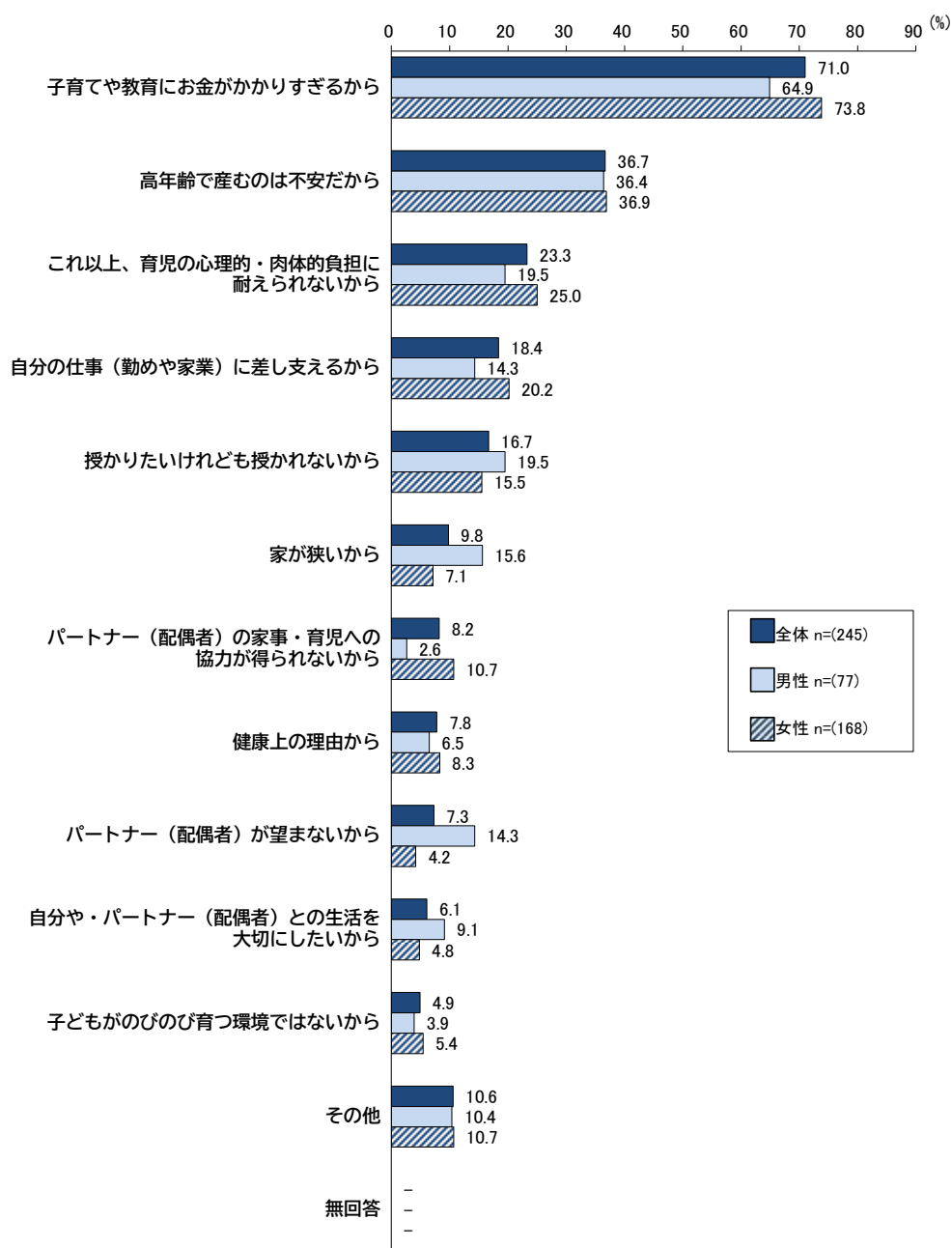
【子育て中の保護者調査】

※「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない方のみ回答

Q：「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。（○は３つ）

「理想の子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が71.0%で最も高く、次いで「高年齢で産むのは不安だから」が36.7%、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」が23.3%となっています。

性別でみると、男性は「授かりたいけれども授けられないから」や「パートナー（配偶者）が望まないから」などが女性よりも高くなっています。また、女性では、「これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから」や「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」などが男性よりも高くなっています。



年齢別でみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は30歳代で83.3%と高くなっています。一方、「高年齢で産むのは不安だから」は40歳代で50.0%となっています。

単位：％		調査数（n）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で産むのは不安だから	これ以上、育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	授かりたいけれども授けられないから	家が狭いから	パートナー（配偶者）の家事・育児への協力が得られないから	健康上の理由から	パートナー（配偶者）が望まないから	自分や・パートナー（配偶者）との生活を大切にしたいから	子どもがのびのび育つ環境ではないから	その他	無回答
全体		697	71.0	36.7	23.3	18.4	16.7	9.8	8.2	7.8	7.3	6.1	4.9	10.6	0.0
年齢別	20歳代	9	88.9	0.0	22.2	22.2	11.1	44.4	22.2	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0	0.0
	30歳代	84	83.3	16.7	28.6	27.4	16.7	10.7	3.6	4.8	4.8	9.5	8.3	13.1	0.0
	40歳代	152	63.2	50.0	20.4	13.2	17.1	7.2	9.9	9.9	8.6	3.9	2.0	9.9	0.0

※母数が30未満の項目は参考値とする。

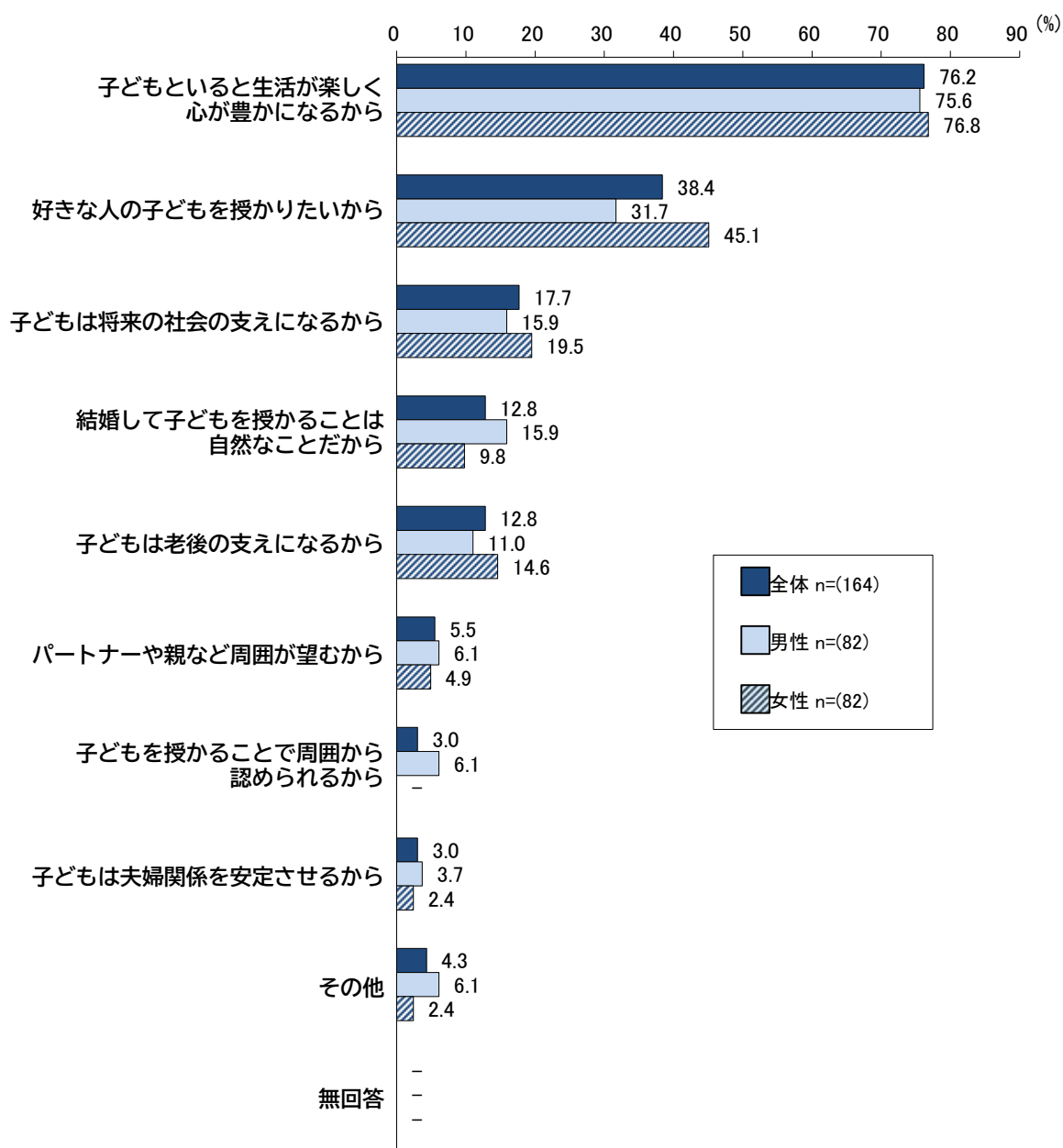
（5）子どもを授かりたい理由【独身者調査】

※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

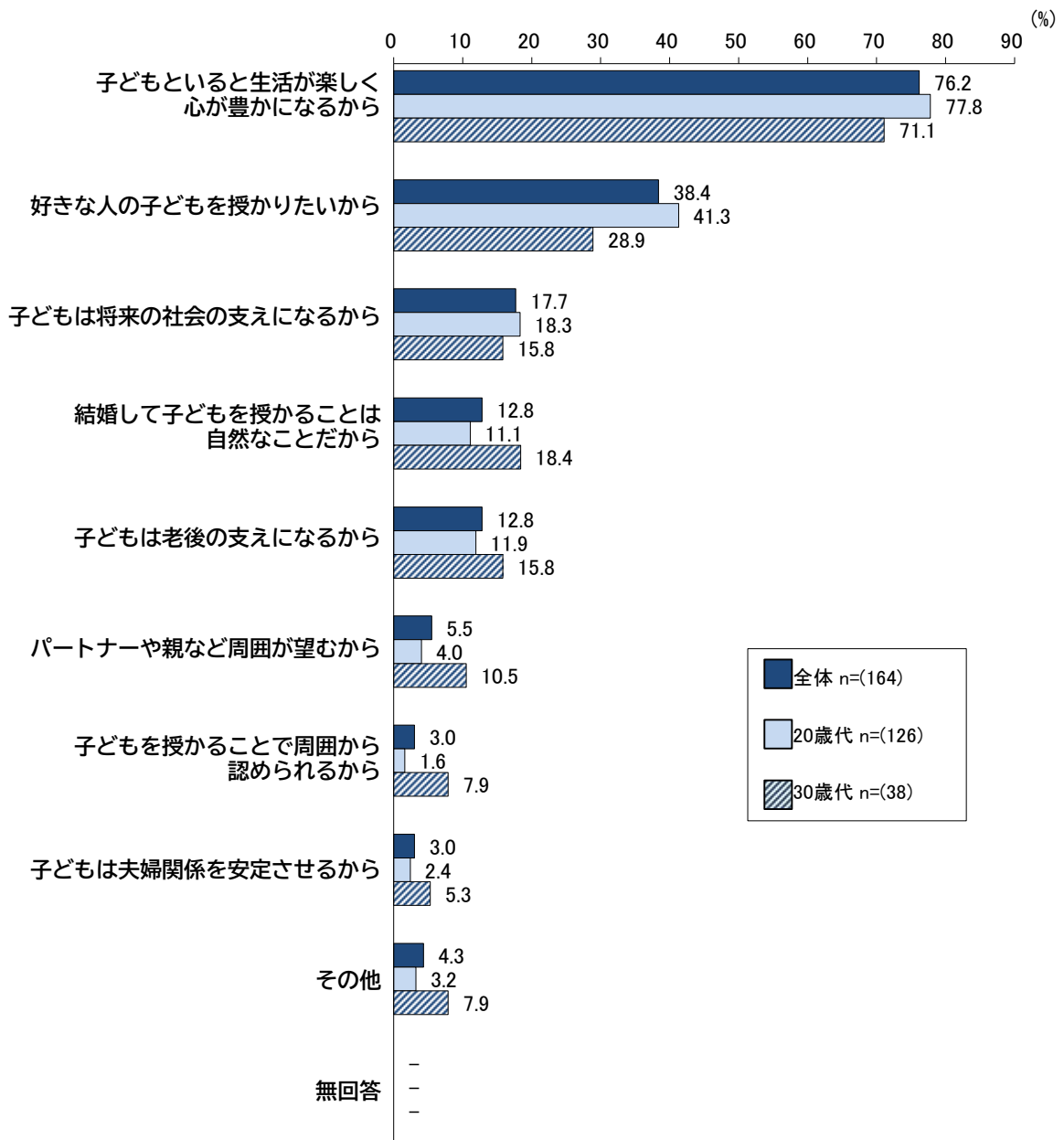
Q：子どもを1人以上授かりたいと思う理由は何ですか。（○は1つ）

子どもを授かりたいと思う理由は、「子どもといると生活が楽しく心が豊かになるから」が76.2%で最も高く、次いで「好きな人の子どもを授かりたいから」が38.4%、「子どもは将来の社会の支えになるから」が17.7%となっています。

性別で見ると、女性は男性よりも「好きな人の子どもを授かりたいから」が13.4ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「結婚して子どもを授かることは自然なことだから」と「子どもを授かることで周囲から認められるから」が6.1ポイント高くなっています。



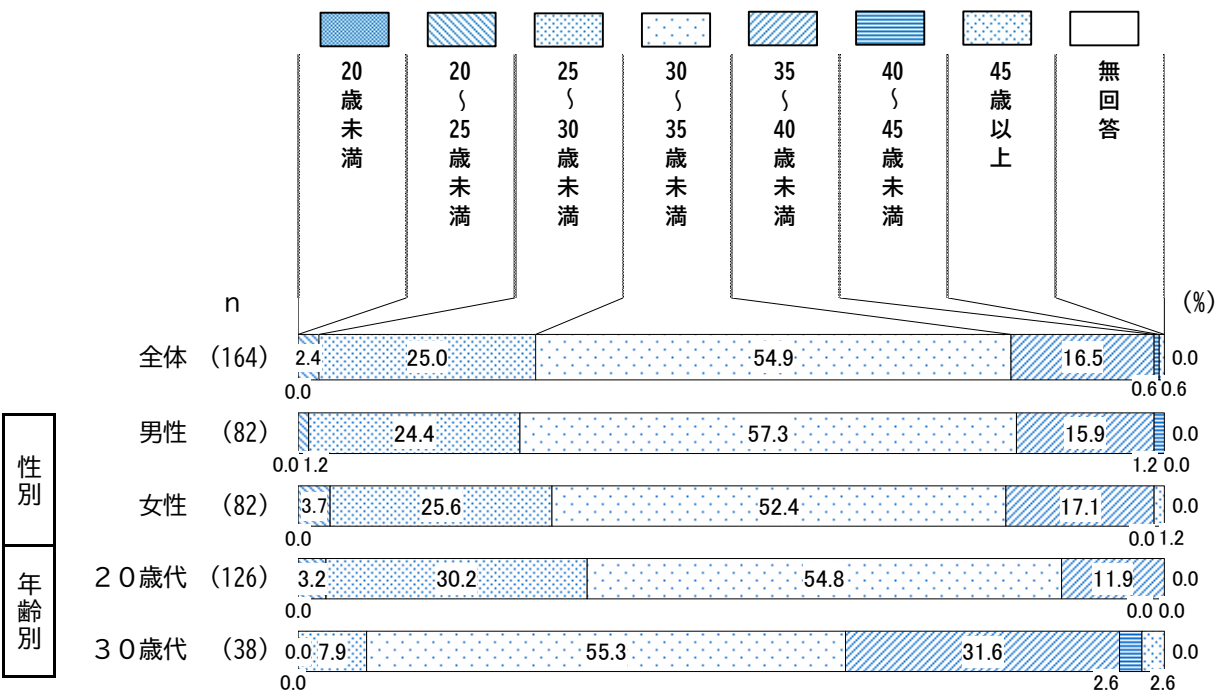
年齢別でみると、「好きな人の子どもを授かりたいから」は20歳代で41.3%と高くなっています。一方、「結婚して子どもを授かることは自然なことだから」は30歳代で18.4%と20歳代より高くなっています。



（6）女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がいいと考えるか【独身者調査】

※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答
Q：遅くとも女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えていますか。（○は1つ）

遅くとも女性は何歳になるまでに出産を迎えた方がよいと考えるかは、「30～35歳未満」が54.9%で最も高く、次いで「25～30歳未満」が25.0%、「35～40歳未満」が16.5%となっています。
性別でみると、男性は女性よりも「30～35歳未満」が4.9ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「25～30歳未満」は20歳代で30.2%と高くなっています。一方、「35～40歳未満」は30歳代で31.6%と高くなっています。



（7）結婚しないまま子どもを授かりたいか【独身者調査】

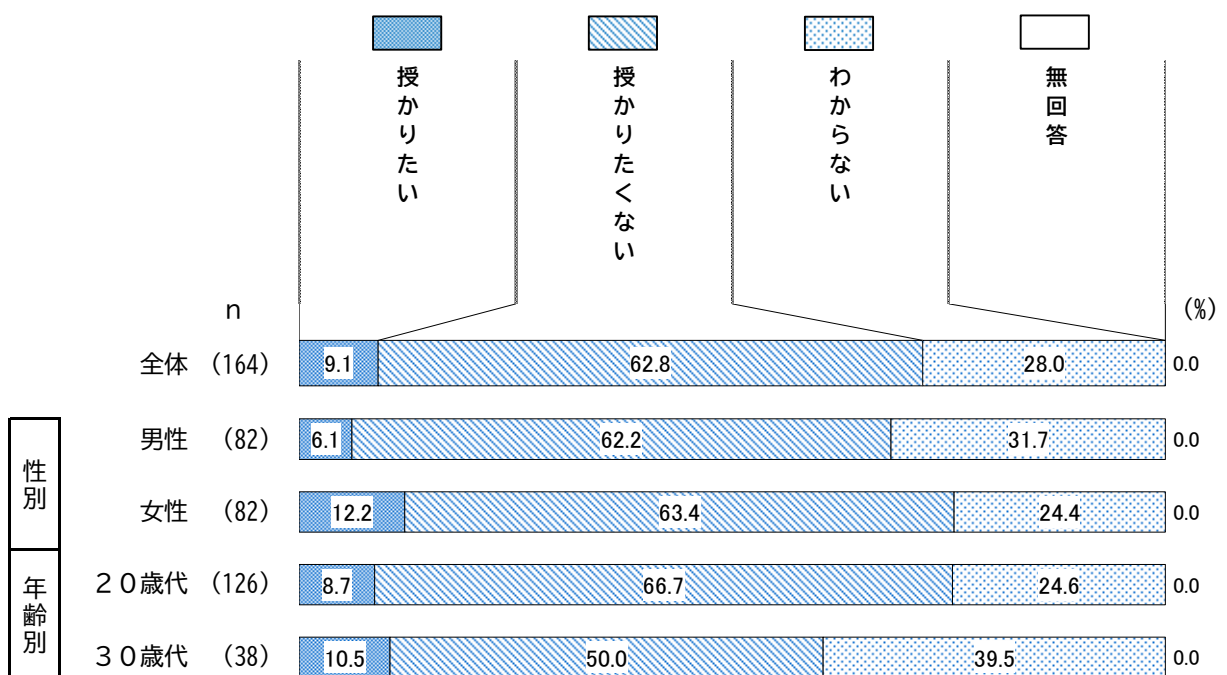
※将来子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは結婚しないまま子どもを授かりたいと思いますか。（○は1つ）

結婚しないまま子どもを授かりたいと思うかは、「授かりたくない」が62.8%で最も高く、次いで「わからない」が28.0%、「授かりたい」が9.1%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「授かりたい」が6.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「わからない」が7.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「授かりたくない」は20歳代で66.7%と高くなっています。一方、「わからない」は30歳代で39.5%と高くなっています。

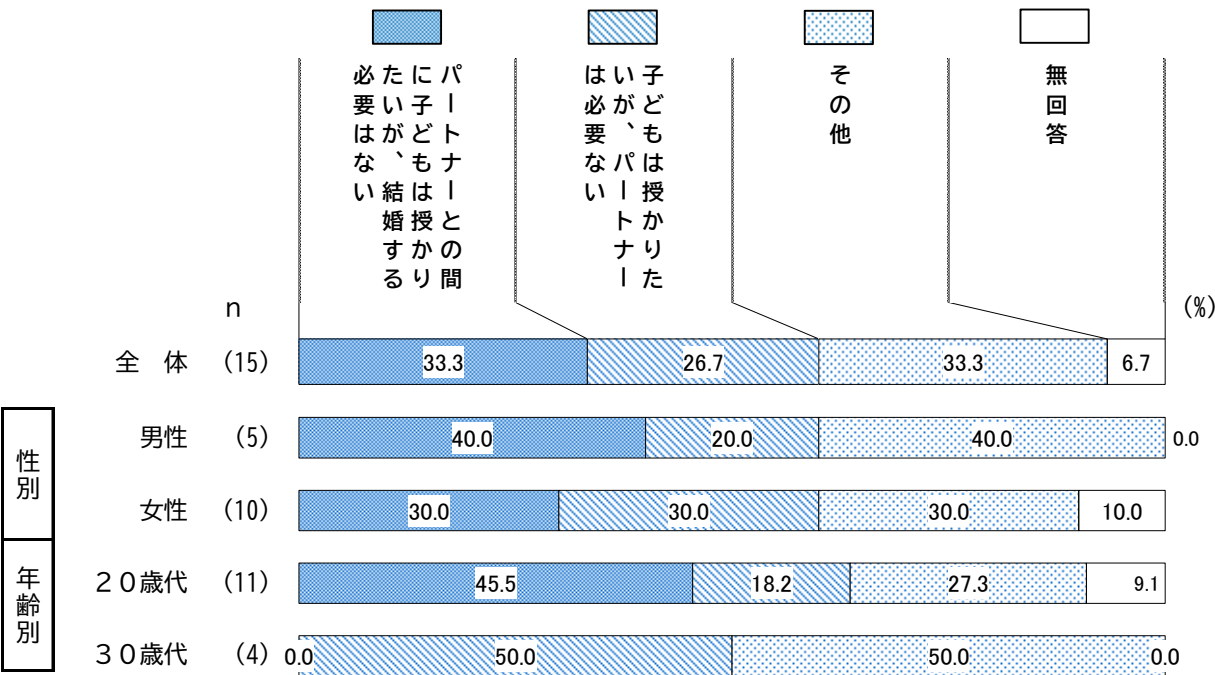


（8）結婚しないまま子どもを授かりたい理由【独身者調査】

※結婚しないまま子どもを授かりたいかで「授かりたい」を選んだ方のみ回答
Q：結婚しないまま子どもを授かりたいと思う理由は何ですか。（○は1つ）

「結婚しないまま子どもを授かりたい」と思う理由は、「パートナーとの間に子どもは授かりたいが、結婚する必要はない」と「その他」が33.3%で高く、次いで「子どもは授かりたいが、パートナーは必要ない」が26.7%となっています。

※クロス集計の分析については母数が少ないため省略しています。



※母数が30未満のため参考値とする。

（9）子どもを望まない理由【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】※将来子どもを授かりたいかで「いなくてもよい」を選んだ方のみ回答

Q：「いなくてもよい」と思う理由は何ですか。（○は2つ）

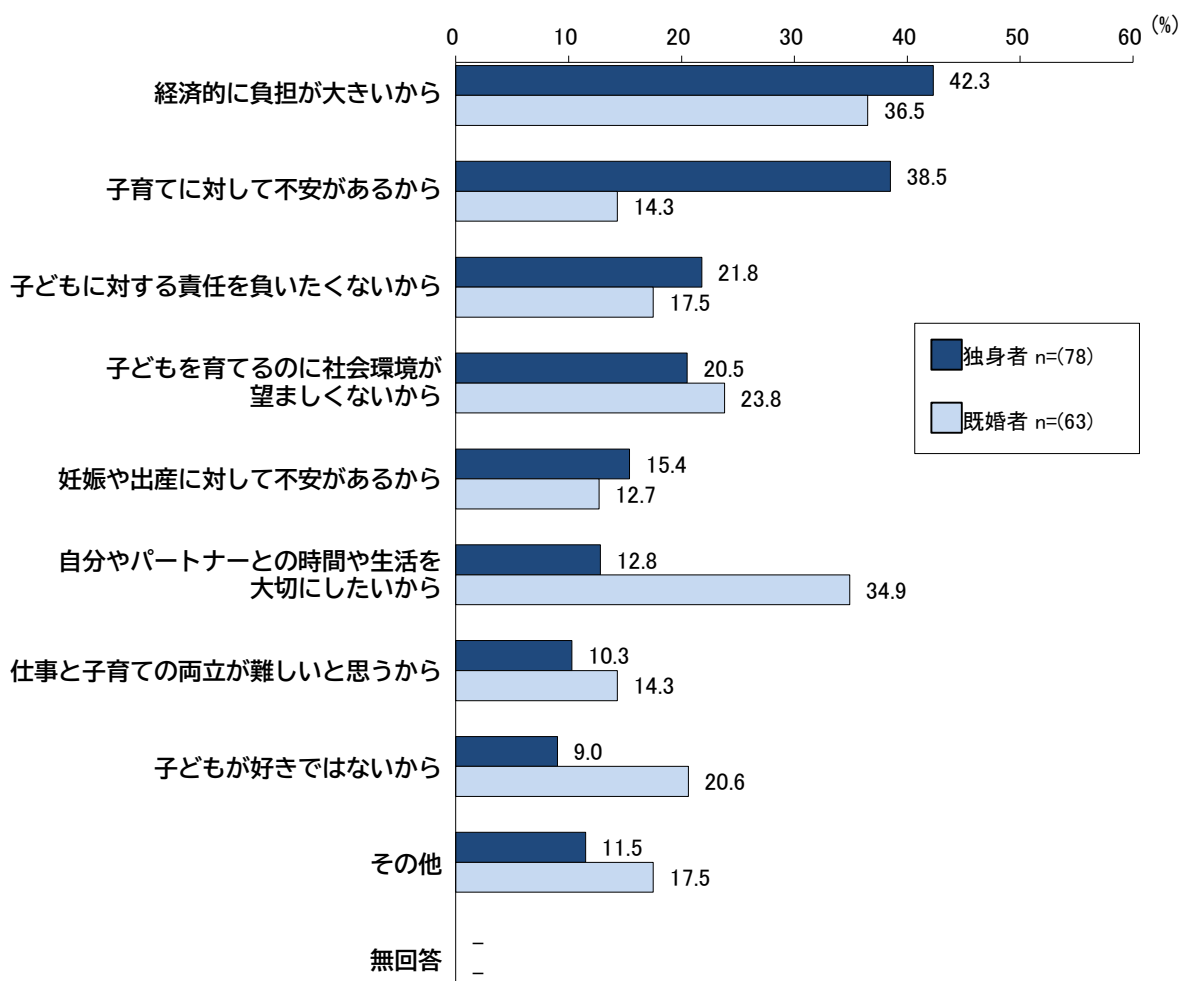
【既婚者調査】※理想的な子どもの数で「子どもを望んでいない」を選んだ方のみ回答

Q：その理由は何ですか。（○は2つ）

独身者調査で子どもがいなくてもよい理由は、「経済的に負担が大きいから」が42.3%で最も高く、次いで「子育てに対して不安があるから」が38.5%、「子どもに対する責任を負いたくないから」が21.8%となっています。

既婚者調査で子どもを望まない理由は、「経済的に負担が大きいから」が36.5%で最も高く、次いで「自分やパートナーとの時間や生活を大切にしたいから」が34.9%、「子どもを育てるのに社会環境が望ましくないから」が23.8%となっています。

「その他」の主な内容は、独身者調査では「体力的・身体的に自信がない」、「必要と思わない・理由はない」など、既婚者調査では「年齢的に難しい」、「健康面で不安がある」、「夫婦・自分のために時間・お金を使いたい」などが挙げられています。

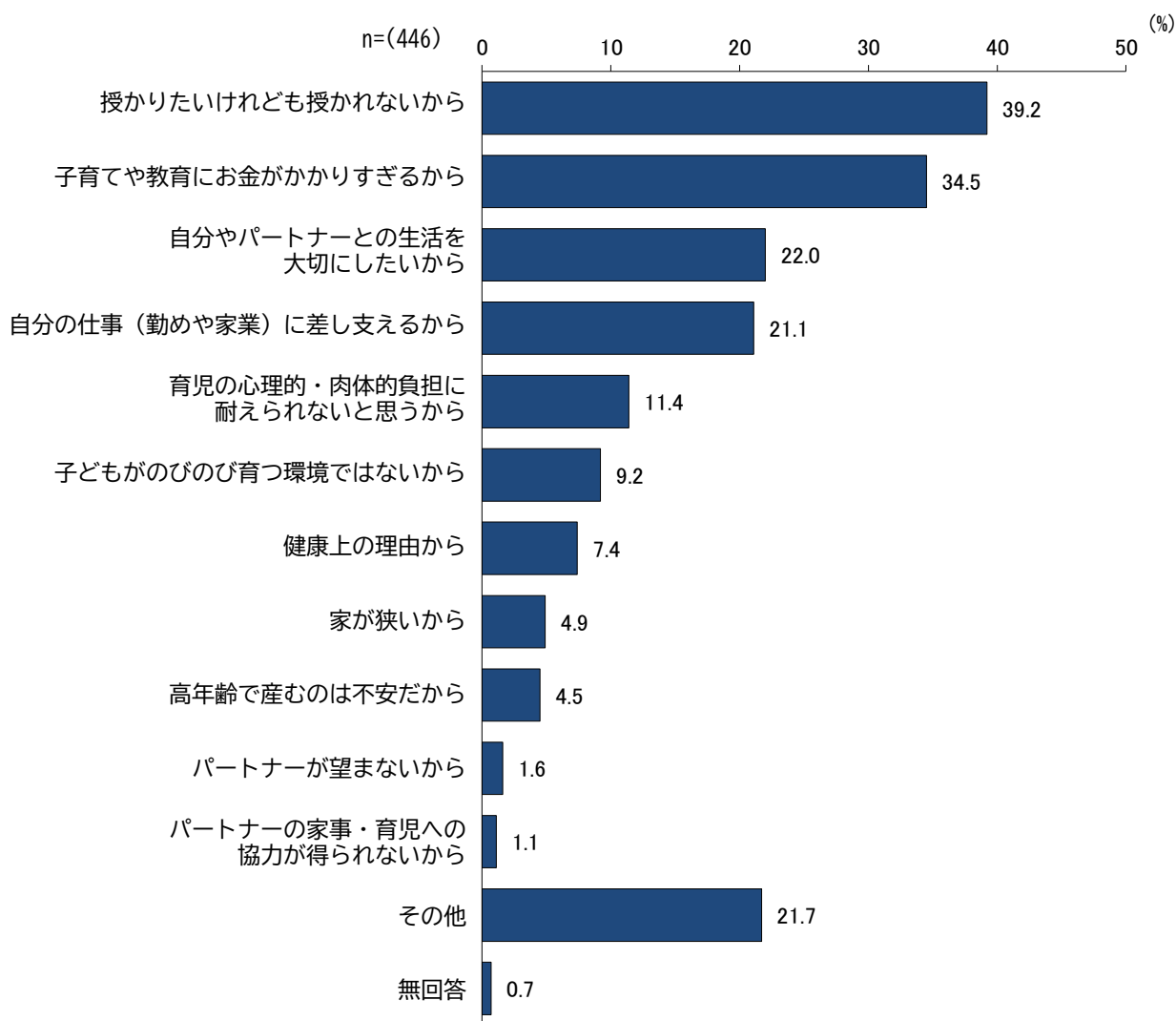


(10) 子どもがいない理由【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦に、現在子どもがいない理由は何ですか。（〇は3つ）

現在子どもがいない理由は、「授かりたいけれども授けられないから」が39.2%で最も高く、次いで「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が34.5%、「自分やパートナーとの生活を大切にしたいから」が22.0%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が21.1%となっています。

「その他」の主な内容は、「妊娠しているから」、「結婚前・結婚から間もないから」、「妊活中だから」などが挙げられています。



5 子育てについて

（1）子どもが就学までの間に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】

Q：あなたのお子さんが小学生になるまでの間（就学前）に利用した制度・施設について教えてください。（〇はいくつでも）

■第1子が就学前に利用した制度・施設

「産前・産後休暇」が45.1%と最も高く、次いで「認定こども園」が42.9%、「育児休業制度（あなた）」が35.2%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」と「認定こども園」は30歳代で5割台と最も高く、「産前・産後休暇」は20歳代でも56.1%となっています。

単位：％		調査数（n）	産前・産後休暇	認定こども園	育児休業制度（あなた）	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	認可保育所（小規模認可型保育所含む）	育児休業制度（パートナー（配偶者））	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	幼稚園（預かり保育を除く）	幼稚園が行っている預かり保育	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））
全体		697	45.1	42.9	35.2	32.9	28.0	19.4	17.9	14.8	11.8	9.5
年齢別	20歳代	41	56.1	43.9	46.3	19.5	22.0	26.8	29.3	2.4	12.2	9.8
	30歳代	276	56.2	56.5	48.2	36.2	23.9	26.4	22.1	6.9	9.1	13.0
	40歳代	380	35.8	32.9	24.5	31.8	31.6	13.4	13.7	21.8	13.7	6.8

単位：％		調査数（n）	一時預かり事業	事業所内保育施設	病児・病後児保育施設	その他の認可外保育施設	ファミリー・サポート・センター	ベビーシッター（居宅訪問型保育含む）	家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下の子どもを保育する事業）	どれも利用しなかった	無回答
全体		697	6.3	5.0	4.4	3.4	3.0	0.6	0.1	4.6	1.1
年齢別	20歳代	41	7.3	0.0	4.9	2.4	2.4	0.0	0.0	12.2	2.4
	30歳代	276	6.5	7.2	4.0	4.3	2.5	1.4	0.4	2.5	0.0
	40歳代	380	6.1	3.9	4.7	2.9	3.4	0.0	0.0	5.3	1.8

■第1子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：％	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	11.8	43.9	0.8	25.7
女性回答	458	47.4	6.8	26.9	1.1

■第2子が就学前に利用した制度・施設

「産前・産後休暇」が41.3%と最も高く、次いで「認定こども園」が40.6%、「育児休業制度（あなた）」が33.2%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」は30歳代で5割台と最も高く、30歳代では「育児休業制度（あなた）」と「認定こども園」も4割台となっています。

単位：%		調査数（n）	産前・産後休暇	認定こども園	育児休業制度（あなた）	認可保育所（小規模認可型保育所含む）	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	育児休業制度（パートナー（配偶者））	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	幼稚園（預かり保育を除く）	幼稚園が行っている預かり保育	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））
全体		446	41.3	40.6	33.2	28.9	22.9	20.2	15.7	14.8	11.4	9.6
年齢別	20歳代	12	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	41.7	0.0	0.0	16.7
	30歳代	170	52.4	45.3	47.1	27.1	24.1	31.2	19.4	7.1	8.8	12.4
	40歳代	264	33.7	38.3	23.5	30.3	23.1	12.9	12.1	20.5	13.6	7.6

単位：%		調査数（n）	病児・病後児保育施設	一時預かり事業	事業所内保育施設	ファミリー・サポート・センター	その他の認可外保育施設	5人以下の保育（保育者の家庭等事業）	家庭的保育（保育者の家庭等事業）	ベビシッター（居宅訪問型保育含む）	どれも利用しなかった	無回答
全体		446	4.5	3.8	2.7	2.0	1.6	0.0	0.0	4.9	2.5	
年齢別	20歳代	12	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
	30歳代	170	4.1	2.9	2.9	2.4	1.2	0.0	0.0	2.4	2.4	
	40歳代	264	4.9	4.2	2.7	1.9	1.9	0.0	0.0	5.3	2.7	

※母数が30未満の項目は参考値とする。

■第2子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：%	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	12.6	38.4	2.0	25.2
女性回答	458	43.9	10.9	22.8	1.7

■第3子が就学前に利用した制度・施設

「認定こども園」が42.3%と最も高く、次いで「産前・産後休暇」が41.5%、「認可保育所（小規模認可型保育所含む）」が35.8%となっています。

年齢別でみると、「産前・産後休暇」は30歳代で5割台と最も高く、40歳代では「認定こども園」と「認可保育所（小規模認可型保育所含む）」が4割台となっています。

単位：％		調査数（n）	認定こども園	産前・産後休暇	認可保育所（小規模認可型保育所含む）	育児休業制度（あなた）	育児休業制度（パートナー（配偶者））	子育て支援センターなど地域の親子交流や相談の場	育児時間制度・短時間勤務制度（あなた）	育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー（配偶者））	幼稚園が行っている預かり保育	幼稚園（預かり保育を除く）
全体		123	42.3	41.5	35.8	27.6	23.6	14.6	12.2	9.8	8.9	8.1
年齢別	20歳代	4	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	30歳代	45	40.0	53.3	28.9	37.8	31.1	13.3	13.3	11.1	2.2	2.2
	40歳代	74	44.6	33.8	40.5	20.3	18.9	16.2	9.5	8.1	13.5	12.2

単位：％		調査数（n）	事業所内保育施設	病児・病後児保育施設	一時預かり事業	その他の認可外保育施設	ファミリー・サポート・センター	家庭的保育（保育者の家庭等で5人以下のこどもを保育する事業）	ベビーシッター（居宅訪問型保育含む）	どれも利用しなかった	無回答
全体		123	4.1	4.1	4.1	3.3	0.8	0.0	0.0	2.4	4.1
年齢別	20歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	30歳代	45	6.7	4.4	4.4	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	4.4
	40歳代	74	2.7	4.1	4.1	4.1	1.4	0.0	0.0	1.4	2.7

※母数が30未満の項目は参考値とする。

■第3子が就学前に利用した制度（育児休業制度、育児時間制度・短時間勤務制度）

		育児休業制度		育児時間制度・短時間勤務制度	
単位：％	調査数（n）	あなた	パートナー（配偶者）	あなた	パートナー（配偶者）
男性回答	237	10.2	42.9	4.1	20.4
女性回答	458	39.2	10.8	17.6	2.7

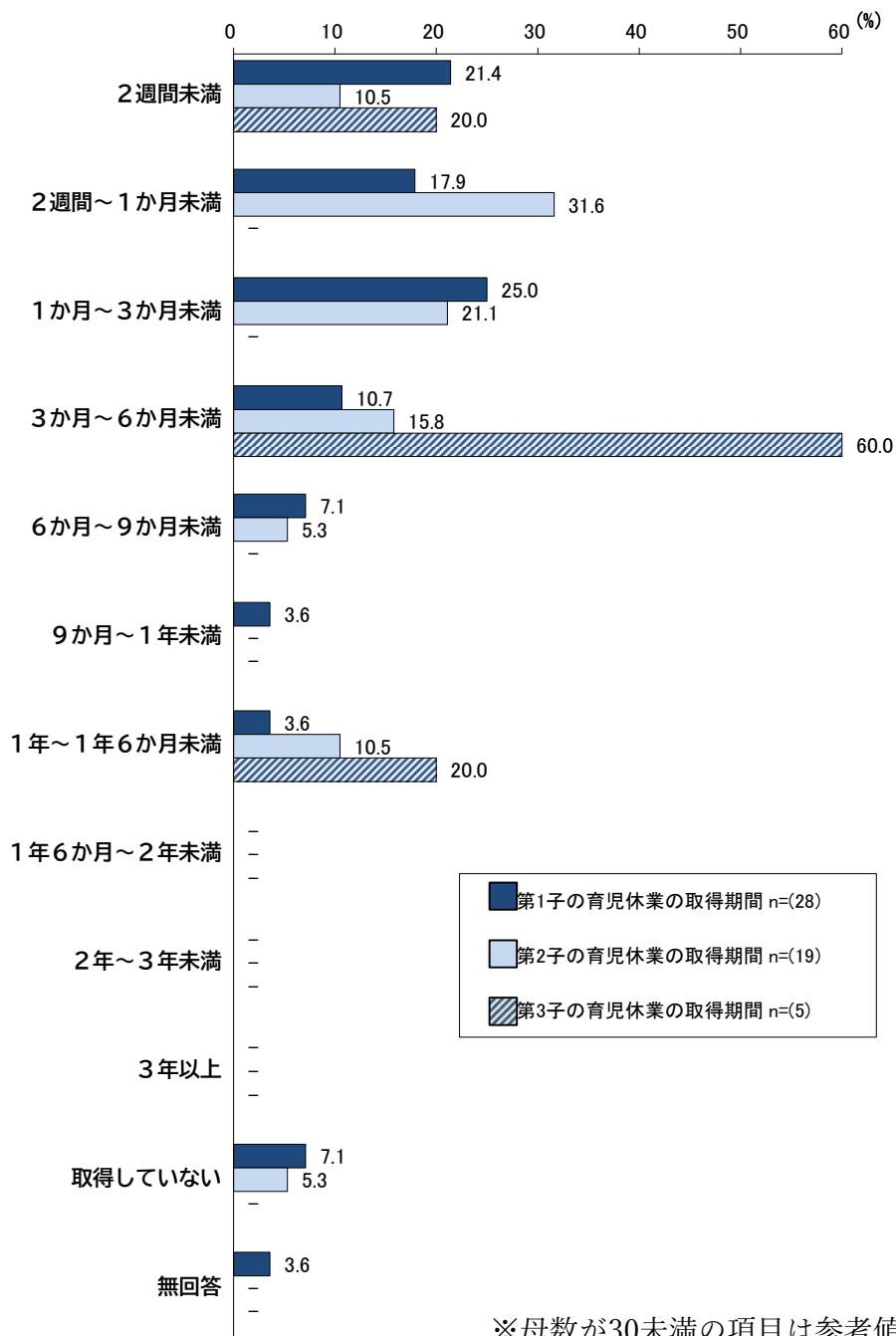
（2）育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】

※就学前に利用した制度・施設で「育児休業制度（あなた）」を選んだ方のみ回答

Q：育児休業の取得期間について教えてください。（○は1つ）

育児休業の取得期間を性別でみると、男性では母数が少ないため参考にとどめますが、第1子では「1か月～3か月未満」が25.0%で最も高くなっています。第2子では「2週間～1か月未満」が31.6%、第3子では「3か月～6か月未満」が60.0%となっています。

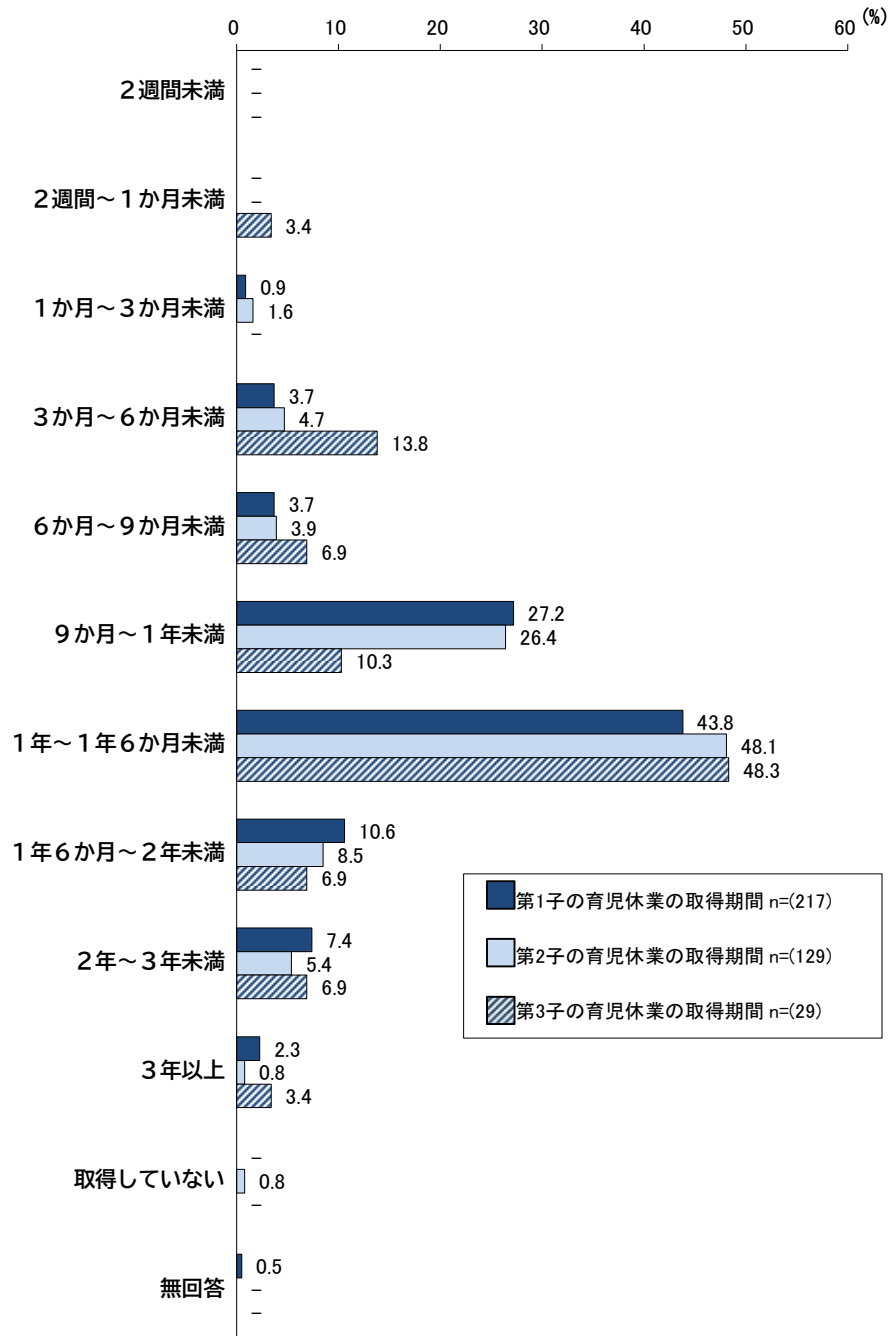
性別／男性回答



※母数が30未満の項目は参考値とする。

女性では、第1子～第3子でいずれも「1年～1年6か月未満」が4割台と最も高く、第1子と第2子では「9か月～1年未満」が2割台となっています。

性別／女性回答



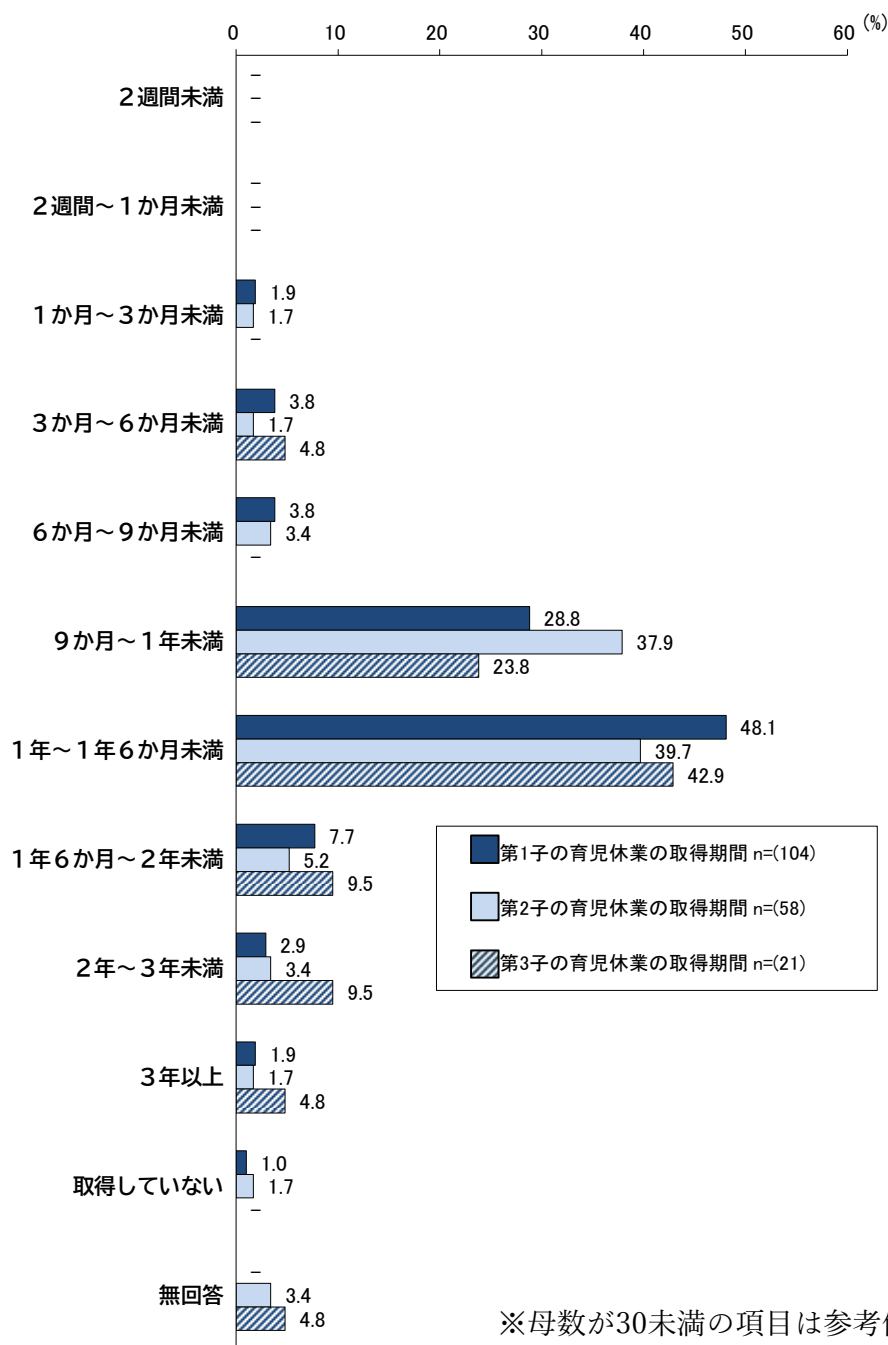
※母数が30未満の項目は参考値とする。

（3）パートナー（配偶者）の育児休業の取得期間【子育て中の保護者調査】

※就学前に利用した制度・施設で「育児休業制度（パートナー）」を選んだ方のみ回答
 Q：育児休業の取得期間について教えてください。（○は1つ）

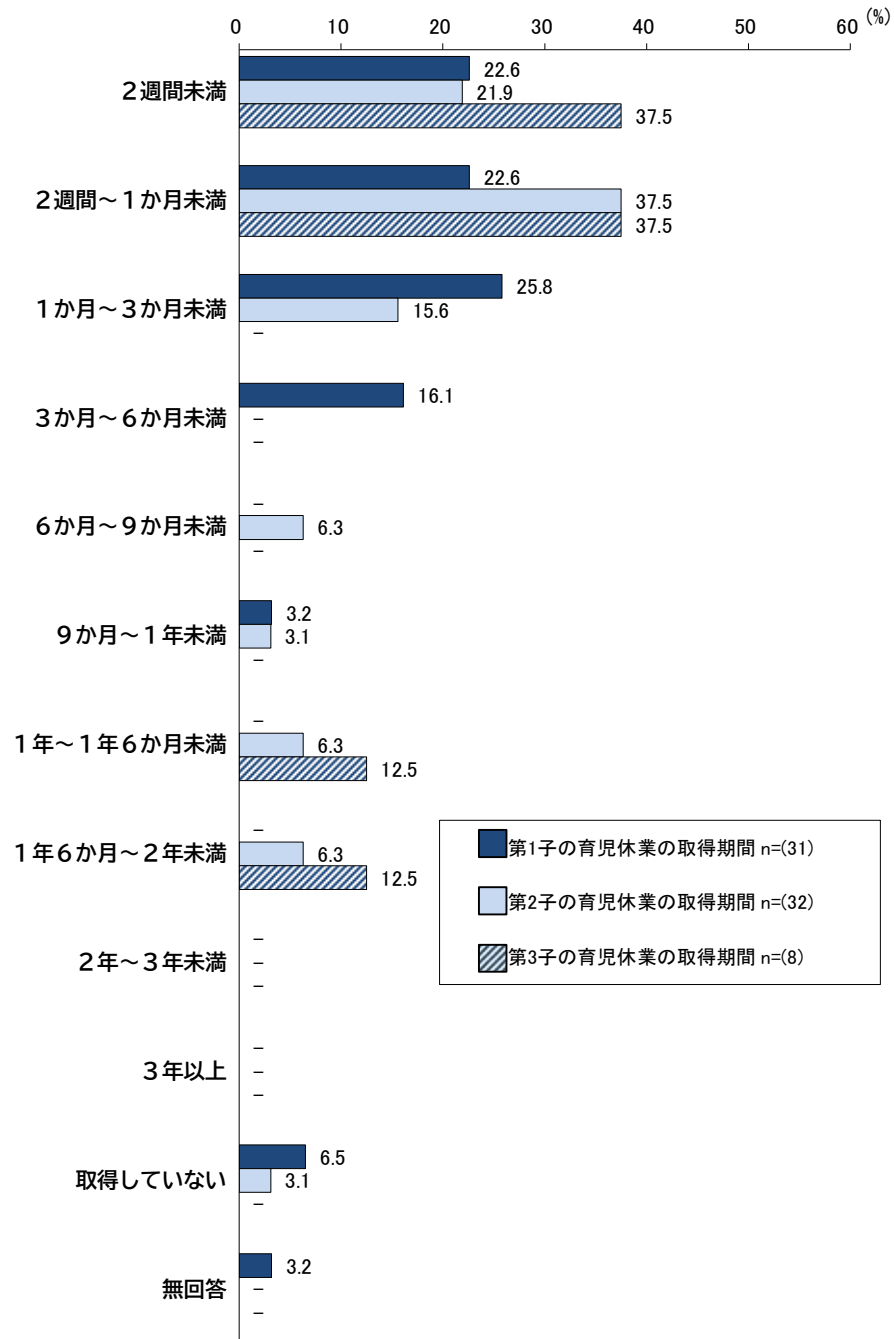
パートナー（配偶者）の育児休業の取得期間について、性別でみると、男性では第1子～第3子でいずれも「1年～1年6か月未満」が最も高く、第1子では約5割となっています。また、第2子では「9か月～1年未満」も3割台となっています。

性別／男性回答



女性では、第1子では「1か月～3か月未満」が25.8%で最も高く、第2子では「2週間～1か月未満」が37.5%となっています。

性別／女性回答



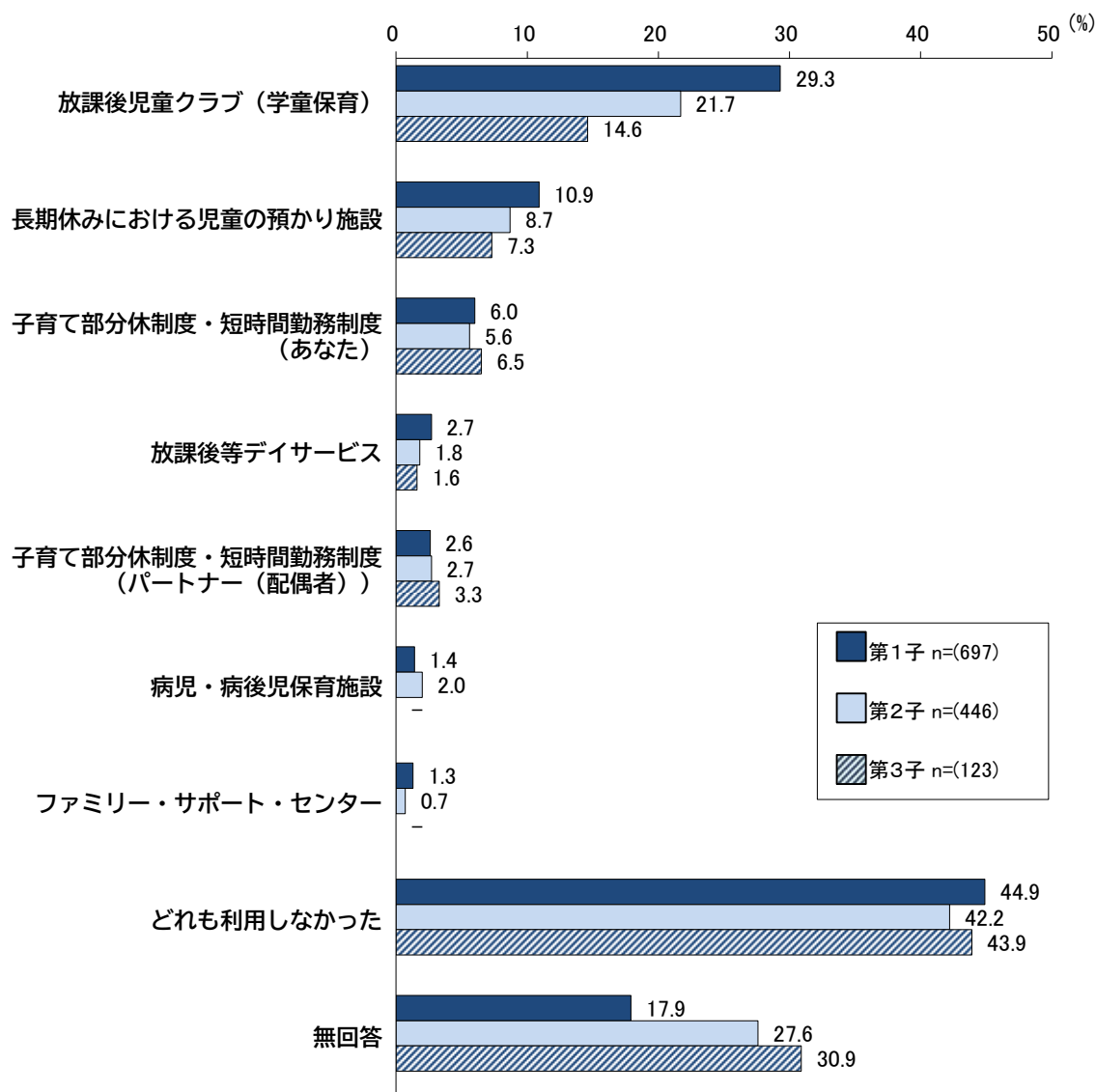
※母数が30未満の項目は参考値とする。

（4）子どもが就学以降に利用した制度・施設【子育て中の保護者調査】

Q：あなたのお子さんが就学以降（小学校入学以降）に利用した制度・施設について教えてください。（〇はいくつでも）

子どもが就学以降に利用した制度・施設は、第1子～第3子のいずれも「どれも利用しなかった」が4割台と最も高くなっています。

利用したものでは、「放課後児童クラブ（学童保育）」が第1子で29.3%、第2子で21.7%、第3子で14.6%といずれも最も高くなっています。また、第1子では「長期休みにおける児童の預かり施設」が10.9%となっています。



※未就学児童保護者の回答結果も含まれるため、「どれも利用しなかった」という回答が多い結果となっている。

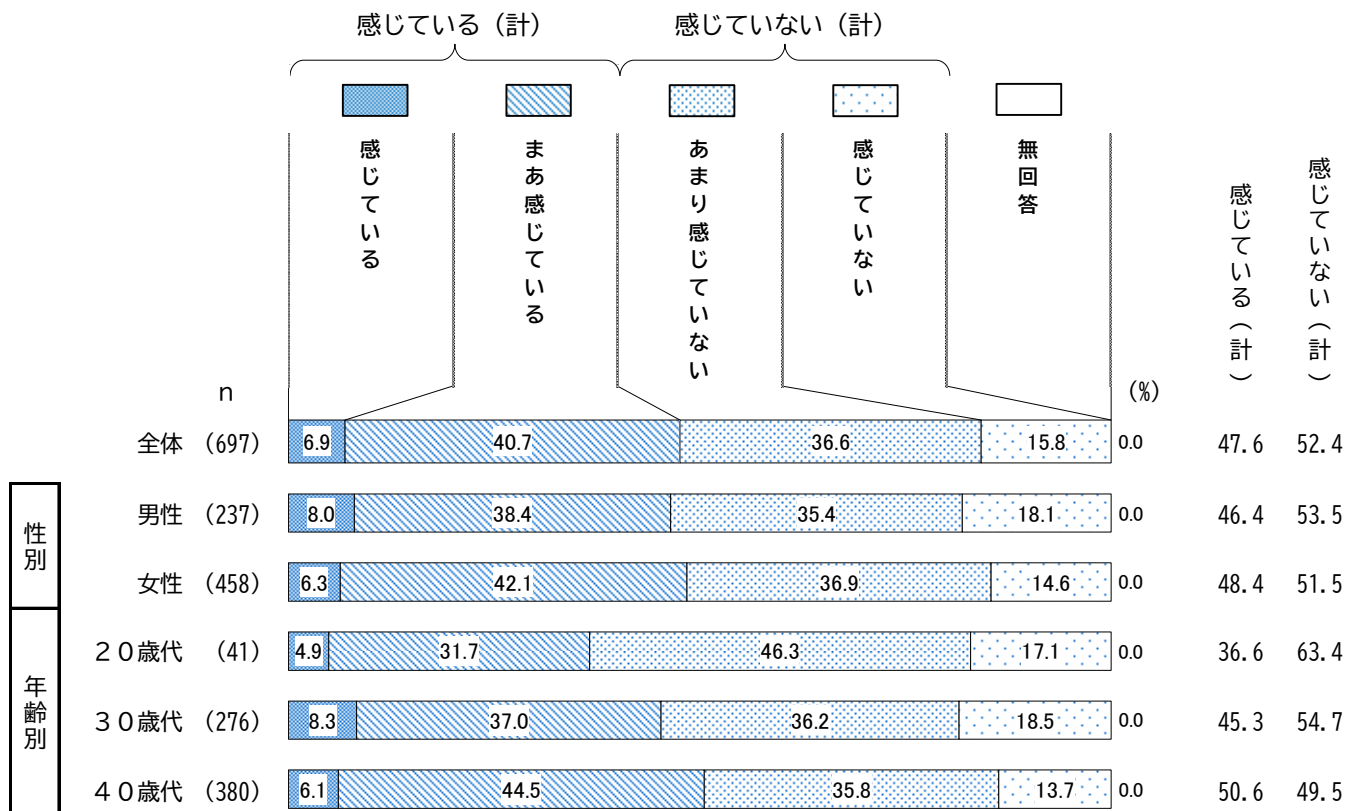
(5) 子どもを産み育てやすい環境と感じているか【子育て中の保護者調査】

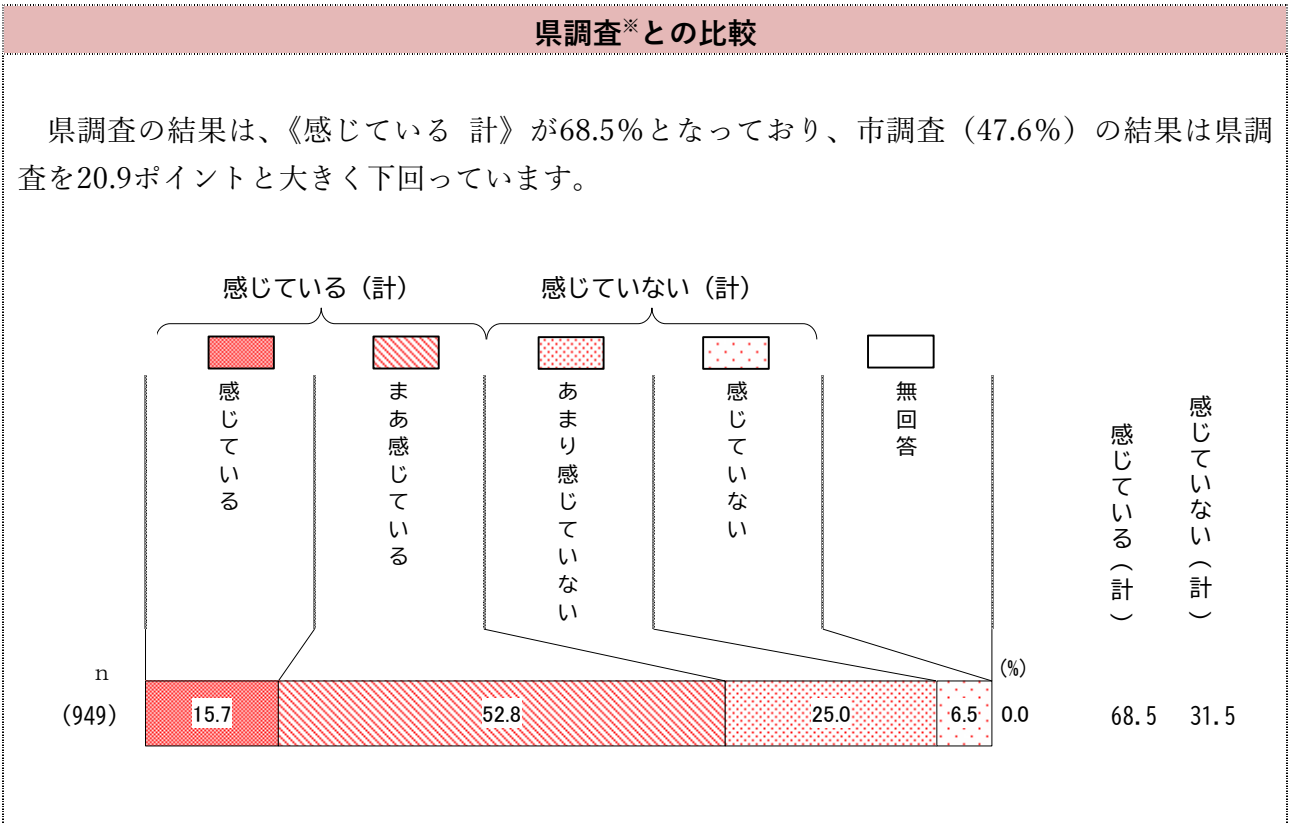
Q：現在、あなたがお子さんを育てている環境について、子どもを産み育てやすいと感じていますか。（○は1つ）

現在、あなたがお子さんを育てている環境が子どもを産み育てやすいと感じているかは、「感じている」と「まあ感じている」を合わせた《感じている 計》は47.6%、「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた《感じていない 計》は52.4%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、《感じている 計》は年齢が上がるほど高い傾向がみられ、40歳代で50.6%となっています。一方、《感じていない 計》は20歳代で63.4%と高くなっています。





※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／地域での子育てに関する調査（保護者調査）

（6）将来子育てをする上で不安なこと／子育てに関して不安感や負担感を感じること

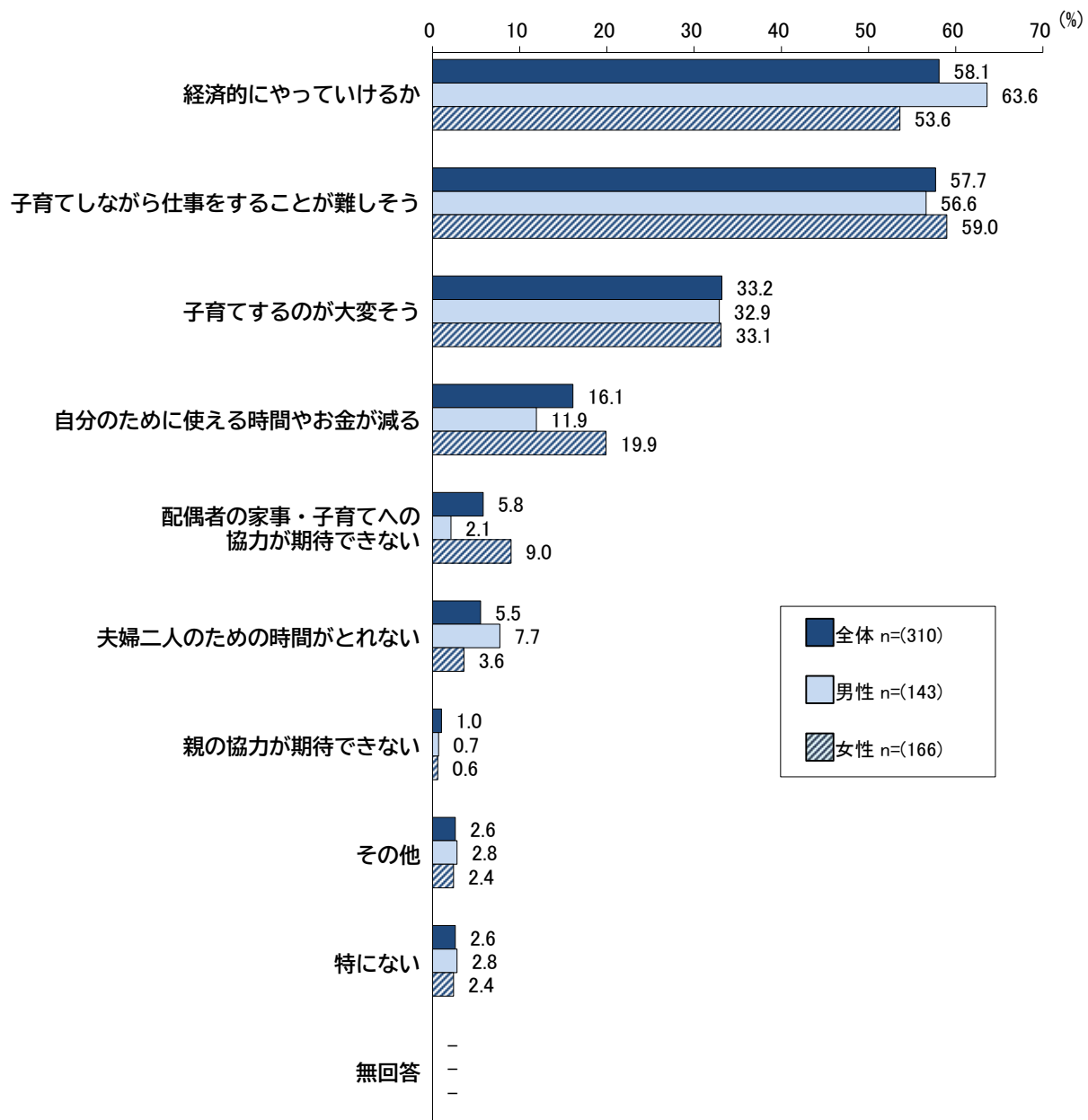
【独身者調査・子育て中の保護者調査】

【独身者調査】

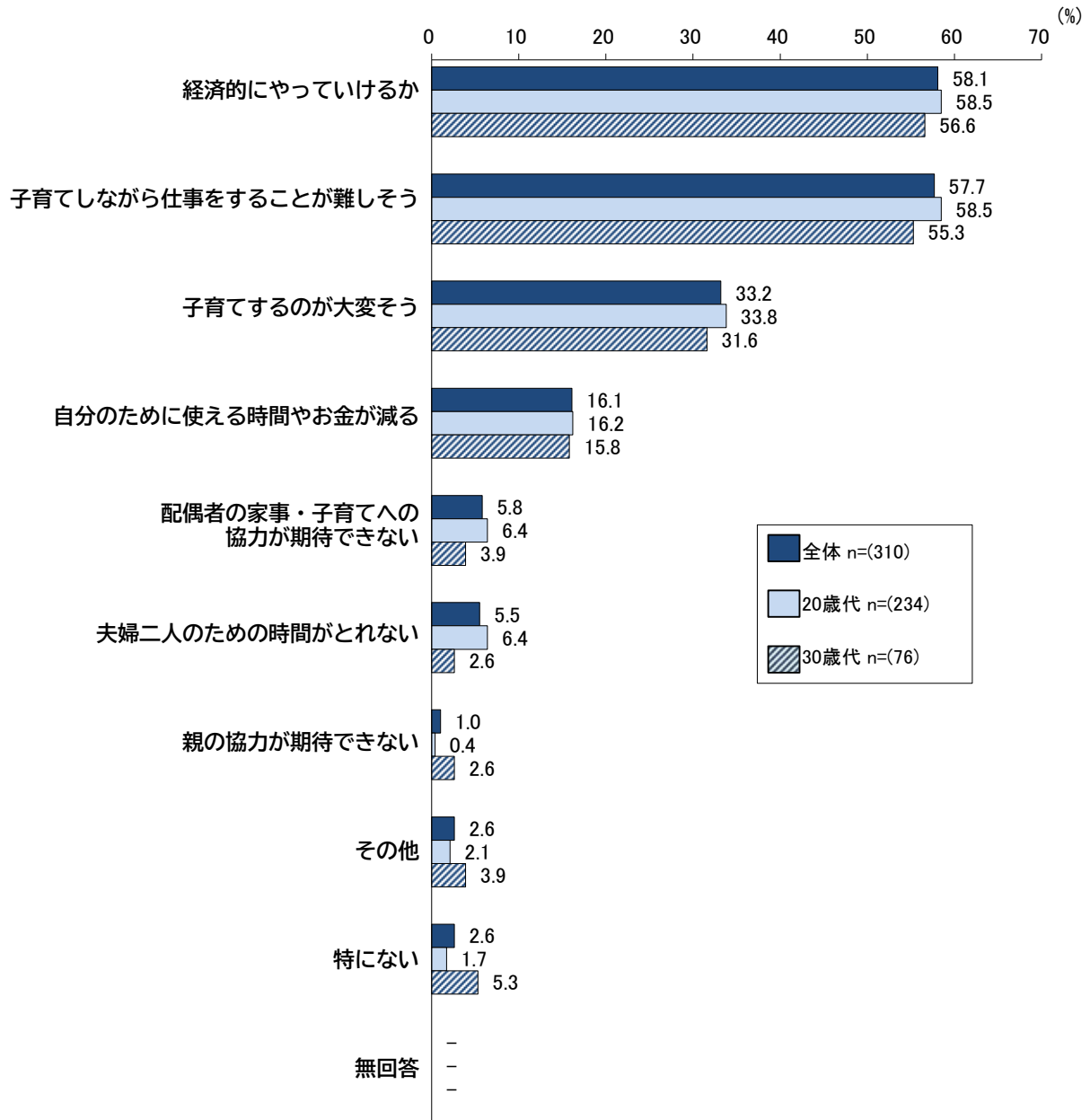
Q：将来、子育てをする機会があるとした場合、不安に思うことは何ですか。（○は1つ）

将来子育てをする上で不安なことは、「経済的にやっていけるか」が58.1%で最も高く、次いで「子育てしながら仕事をすることが難しそう」が57.7%、「子育てするのが大変そう」が33.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「自分のために使える時間やお金が減る」が8.0ポイント、「配偶者の家事・子育てへの協力が期待できない」が6.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「経済的にやっていけるか」が10.0ポイント高くなっています。



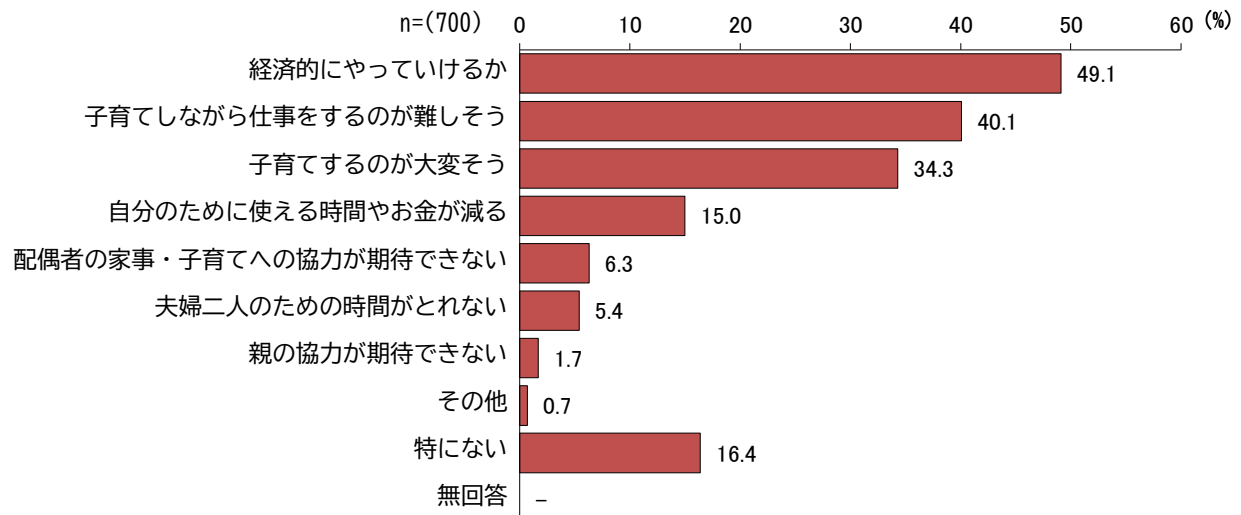
年齢別でみると、「夫婦二人のための時間がとれない」は20歳代で6.4%とやや高くなっています。一方、「特にない」は30歳代で5.3%とやや高くなっています。



県調査※との比較

県調査の結果は「子育てしながら仕事をするのが難しそう」は40.1%となっており、市調査（57.7%）では県調査より17.6ポイント高くなっています。また、「経済的にやっていけるか」は49.1%となっており、市調査（58.1%）では県調査より9.0ポイント高くなっています。

また、「特にない」は県調査が16.4%となっており、市調査（2.6%）のほうが13.8ポイント低くなっています。



※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

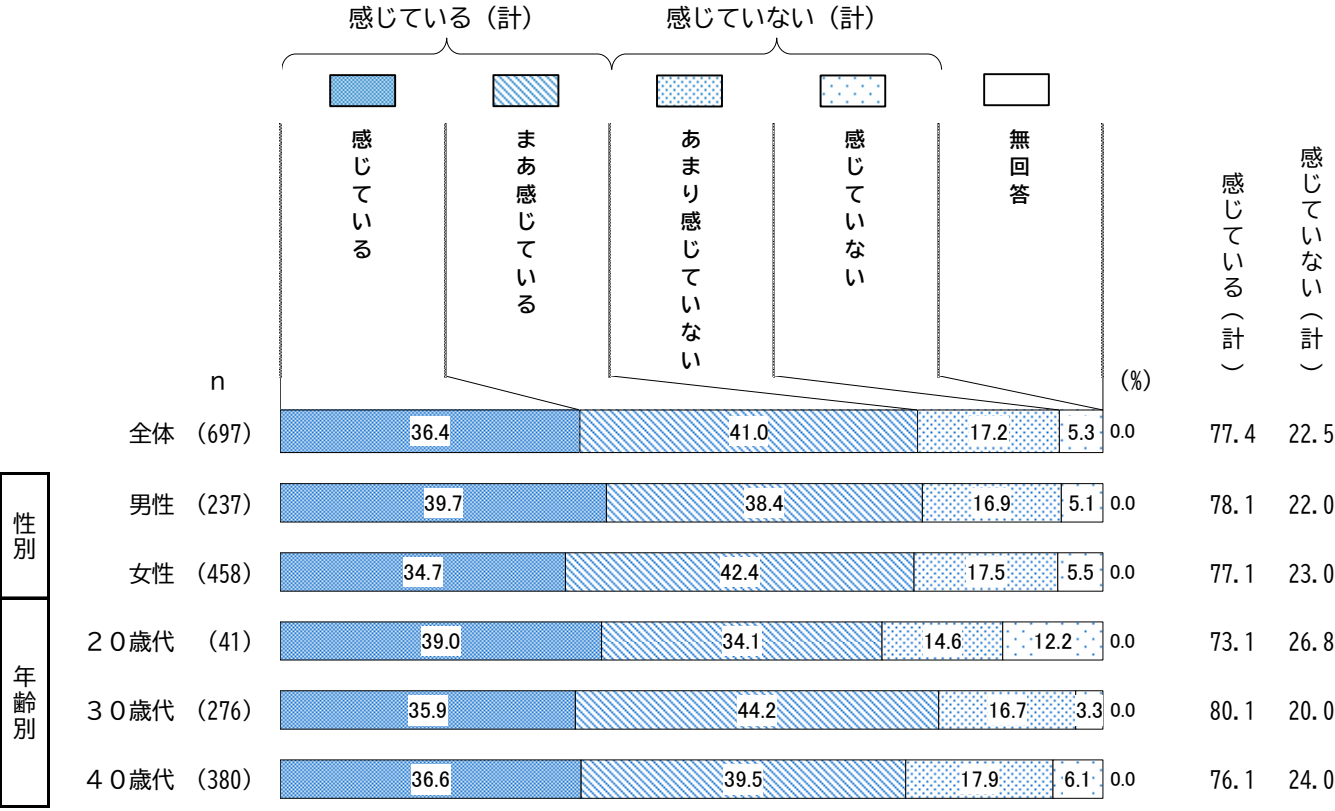
【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。（○は1つ）

子育てに関して不安感や負担感を感じることはあるかは、「感じている」と「まあ感じている」を合わせた《感じている 計》は77.4%、「あまり感じていない」と「感じていない」を合わせた《感じていない 計》は22.5%となっています。

性別でみると、男女間に大きな差はみられません。

年齢別でみると、《感じている 計》は30歳代で80.1%とやや高くなっています。一方、《感じていない 計》は20歳代で26.8%とやや高くなっています。



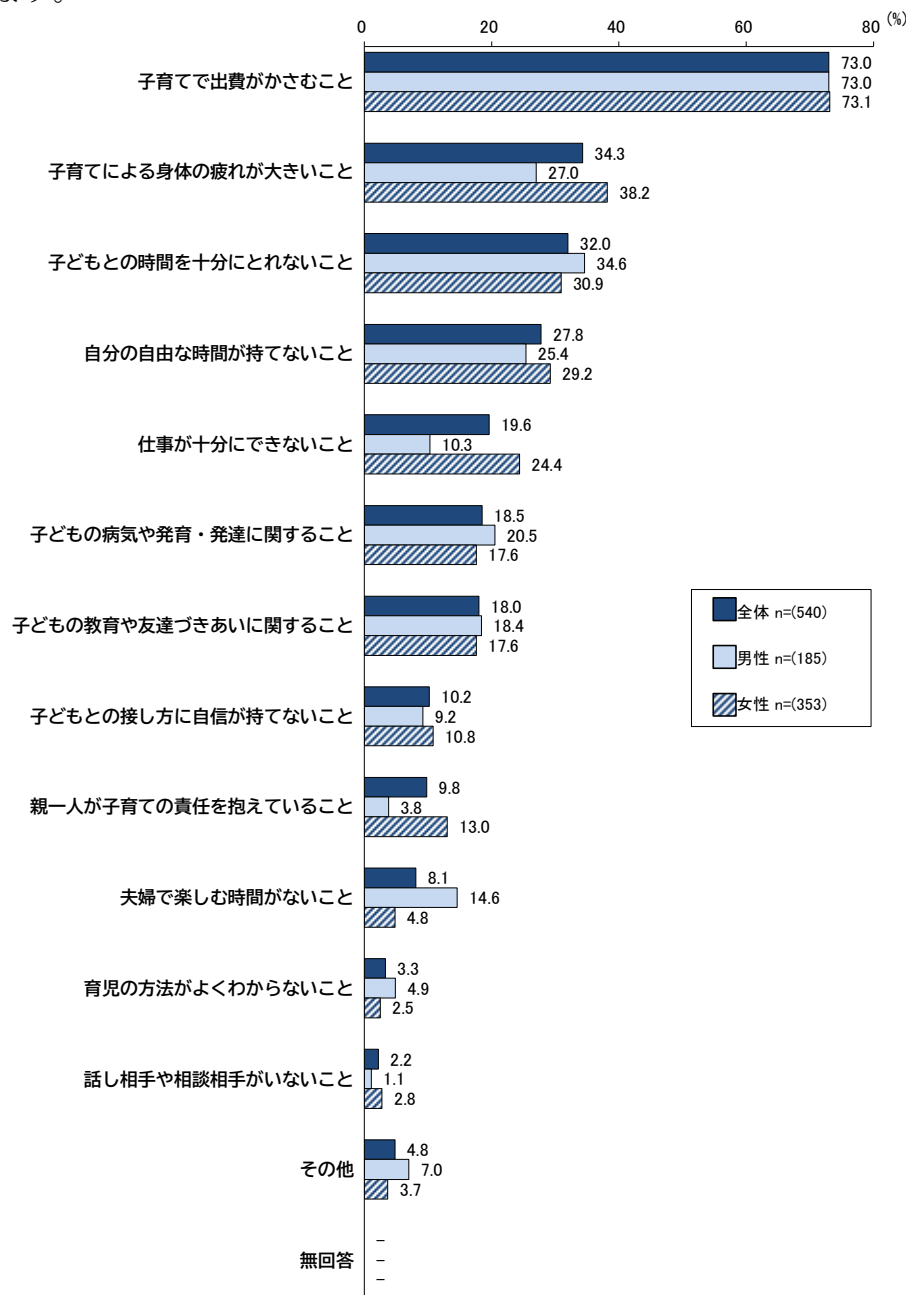
（7）子育てをする上で負担に感じることや悩んでいること【子育て中の保護者調査】

※子育てに関して不安感や負担感を感じることで「感じている」、「まあ感じている」を選んだ方のみ回答

Q：あなたが子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることはどのようなことですか。（○は3つ）

子育てをする上で、負担に感じることや悩んでいることは、「子育てで出費がかさむこと」が73.0%で最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が34.3%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が32.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「仕事が十分にできないこと」が14.1ポイント、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が11.2ポイント、「親一人が子育ての責任を抱えていること」が9.2ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「夫婦で楽しむ時間がないこと」が9.8ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「子育てで出費がかさむこと」は20歳代と30歳代で7割台とやや高くなっています。「子育てによる身体の疲れが大きいこと」は20歳代で46.7%と高くなっています。

単位：%		調査数（n）	子育てで出費がかさむこと	子育てによる身体の疲れが大きいこと	子どもとの時間を十分にとれないこと	自分の自由な時間が持てないこと	仕事が多忙にできないこと	子どもの病気や発育・発達に関すること	子どもの教育や友達づきあいに関すること
全体		540	73.0	34.3	32.0	27.8	19.6	18.5	18.0
年齢別	20歳代	30	73.3	46.7	26.7	40.0	16.7	10.0	13.3
	30歳代	221	77.4	37.1	33.0	28.1	24.4	21.3	16.3
	40歳代	289	69.6	30.8	31.8	26.3	16.3	17.3	19.7

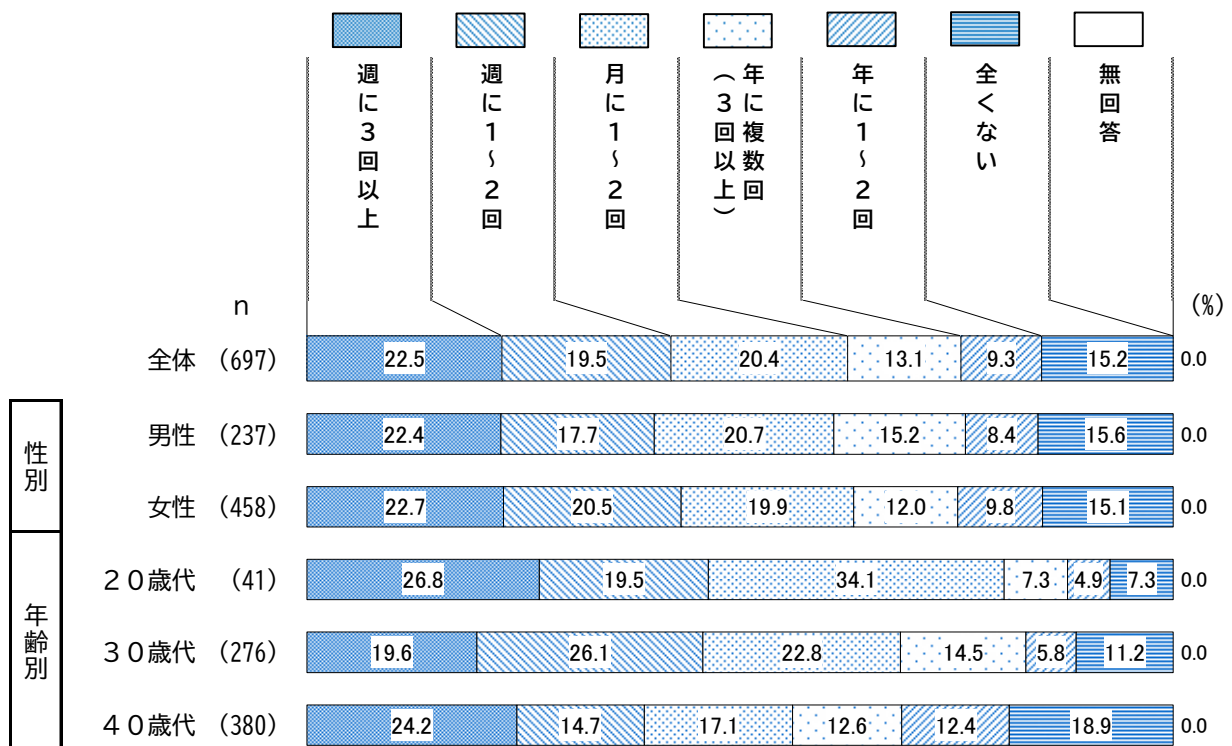
単位：%		調査数（n）	子どもとの接し方に自信が持てないこと	親一人が子育ての責任を抱えていること	夫婦で楽しむ時間がないこと	育児の方法がよくわからないこと	話し相手や相談相手がいな	その他	無回答
全体		540	10.2	9.8	8.1	3.3	2.2	4.8	0.0
年齢別	20歳代	30	6.7	10.0	13.3	3.3	10.0	3.3	0.0
	30歳代	221	9.0	10.4	10.4	3.6	1.4	1.4	0.0
	40歳代	289	11.4	9.3	5.9	3.1	2.1	7.6	0.0

（8）祖父母等からの手助けの程度【子育て中の保護者調査】

Q：子の祖父母等からの子育ての手助けはどの程度ありますか。（○は1つ）

子の祖父母等からの子育ての手助けの程度は、「週に3回以上」が22.5%で最も高く、次いで「月に1～2回」が20.4%、「週に1～2回」が19.5%となっています。週1回以上という回答は42.0%となっています。

年齢別でみると、週1回以上という回答は20歳代で46.3%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。また、年齢が上がるほど「全くない」が高くなります。



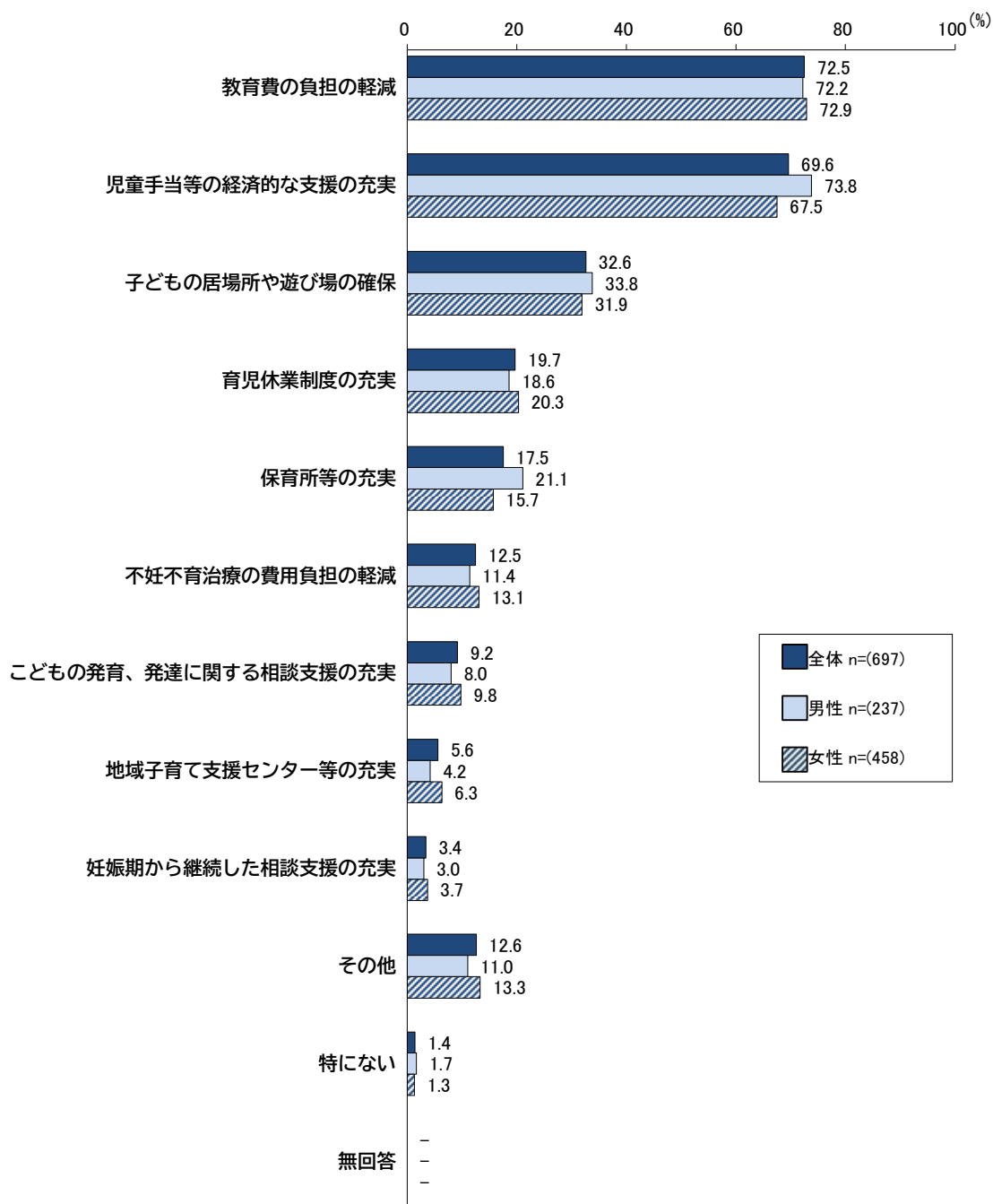
（9）出産や子育て環境整備のために力を入れる必要があるもの【子育て中の保護者調査】

Q：出産や子育て環境の整備を推進するために、もっと力を入れる必要があると思うものはどれですか。（○は3つ）

出産や子育て環境の整備を推進するために力を入れる必要があると思うものは、「教育費の負担の軽減」が72.5%で最も高く、次いで「児童手当等の経済的な支援の充実」が69.6%、「子どもの居場所や遊び場の確保」が32.6%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「児童手当等の経済的な支援の充実」が6.3ポイント、「保育所等の充実」が5.4ポイント高くなっています。

「その他」の主な内容は、「学童保育の充実」、「病児保育施設の充実」、「障害児を持つ親への支援」などが挙げられています。



年齢別でみると、「児童手当等の経済的な支援の充実」は20歳代で90.2%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。「子どもの居場所や遊び場の確保」は30歳代で37.0%とやや高くなっています。

単位：％		調査数（n）	教育費の負担の軽減	児童手当等の経済的な支援の充実	子どもの居場所や遊び場の確保	育児休業制度の充実	保育所等の充実	不妊不育治療の費用負担の軽減	こどもの発育、発達に関する相談支援の充実	地域子育て支援センター等の充実	妊娠から継続した相談支援の充実	その他	特になし	無回答
全体		697	72.5	69.6	32.6	19.7	17.5	12.5	9.2	5.6	3.4	12.6	1.4	0.0
年齢別	20歳代	41	65.9	90.2	29.3	31.7	31.7	7.3	0.0	12.2	0.0	4.9	0.0	0.0
	30歳代	276	72.8	77.2	37.0	25.4	19.9	9.8	6.2	6.2	3.3	12.7	0.4	0.0
	40歳代	380	72.9	61.8	29.7	14.2	14.2	15.0	12.4	4.5	3.9	13.4	2.4	0.0

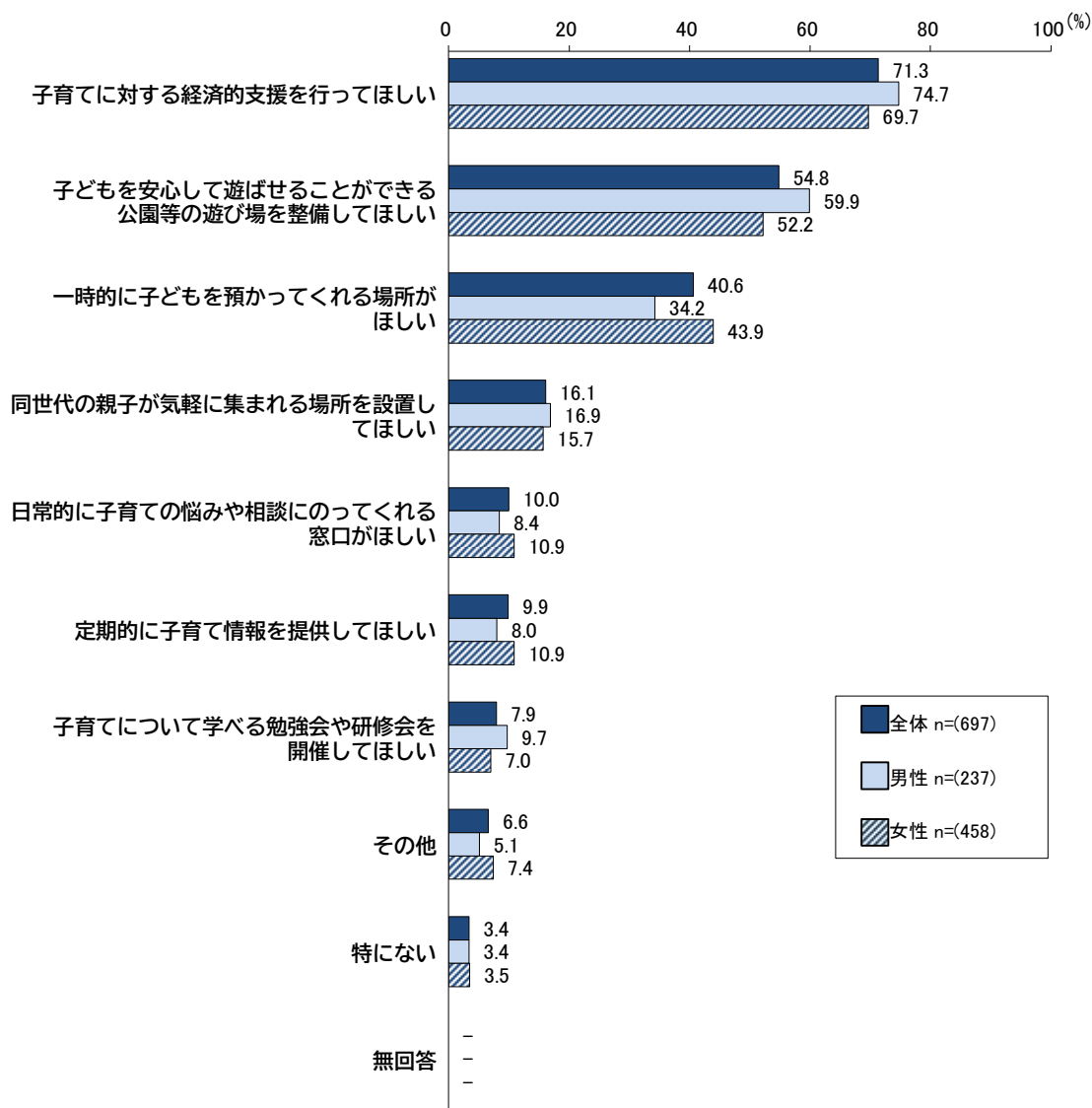
(10) 充実させてほしい子育て支援【子育て中の保護者調査】

Q：家庭で子育てをする上で、どのような子育て支援を充実させてほしいですか。（〇は3つ）

家庭で子育てをする上で、子育て支援を充実させてほしいことは、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が71.3%で最も高く、次いで「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が54.8%、「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が40.6%となっています。

性別で見ると、男性は女性よりも「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が7.7ポイント、「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が5.0ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい」が9.7ポイント高くなっています。

「その他」の主な内容は、「シッター制度・子育てヘルパーの充実」、「幼稚園・習い事の送迎支援」、「発達に関する相談窓口や医院の拡充」、「交通安全、治安の改善」などが挙げられています。



年齢別でみると、20歳代では「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」が82.9%、「子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい」が70.7%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。

単位：%		調査数（n）	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	その他	特にな	無回答
全体		697	71.3	54.8	40.6	16.1	10.0	9.9	7.9	6.6	3.4	0.0
年齢別	20歳代	41	82.9	70.7	39.0	17.1	2.4	9.8	4.9	2.4	2.4	0.0
	30歳代	276	78.6	61.2	44.2	17.8	9.8	10.1	8.3	6.5	1.1	0.0
	40歳代	380	64.7	48.4	38.2	14.7	11.1	9.7	7.9	7.1	5.3	0.0

県調査※との比較

県調査の結果は「子育てに対する経済的支援を行ってほしい」は67.2%となっており、市調査（71.3%）では県調査より4.1ポイント高くなっています。一方、「同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい」は31.5%となっており、市調査（16.1%）では県調査より15.4ポイント低くなっています。

単位：%		調査数（n）	子育てに対する経済的支援を行ってほしい	子どもを安心して遊ばせることができる公園等の遊び場を整備してほしい	一時的に子どもを預かってくれる場所がほしい	同世代の親子が気軽に集まれる場所を設置してほしい	定期的に子育ての悩みや相談にのってくれる窓口がほしい	定期的に子育て情報を提供してほしい	子育てについて学べる勉強会や研修会を開催してほしい	子育てサークルを紹介してほしい	その他	特にな	無回答
全体		235	67.2	61.3	43.8	31.5	14.9	12.3	11.5	3.0	0.0	1.7	0.0

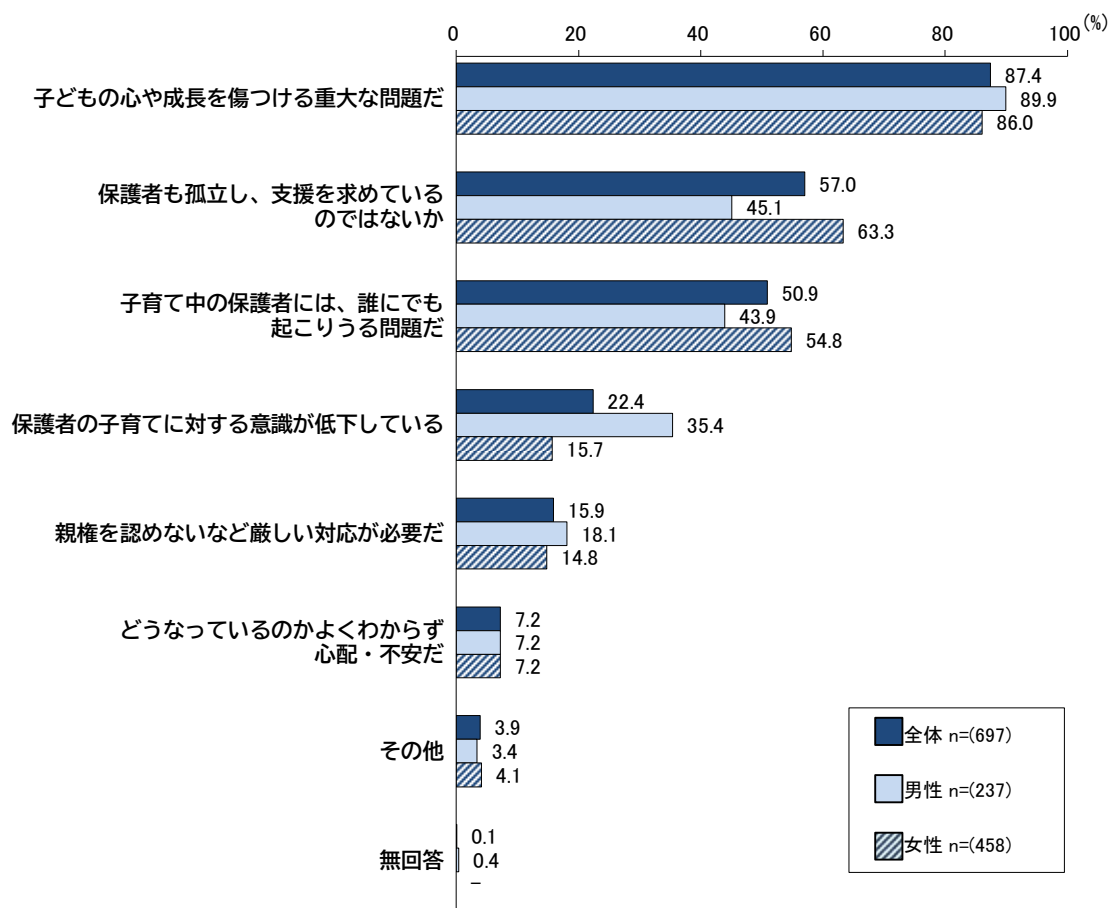
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／地域での子育てに関する調査（保護者調査）

(11) 児童虐待への考え【子育て中の保護者調査】

Q：近年、問題になっている保護者による児童虐待について、あなたはどのように思いますか。
（○は3つ）

保護者による児童虐待は、「子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ」が87.4%で最も高く、次いで「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が57.0%、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が50.9%となっています。

性別で見ると、女性は男性よりも「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が18.2ポイント、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が10.9ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「保護者の子育てに対する意識が低下している」が19.7ポイント高くなっています。



年齢別でみると、30歳代では「保護者も孤立し、支援を求めているのではないか」が67.0%、「子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ」が57.6%と高くなっています。一方、「保護者の子育てに対する意識が低下している」は40歳代で25.3%とやや高くなっています。

		調査数（n）	子どもの心や成長を傷つける重大な問題だ	保護者も孤立し、支援を求めているのではないか	子育て中の保護者には、誰にでも起こりうる問題だ	保護者の子育てに対する意識が低下している	親権を認めないなど厳しい対応が必要だ	どうなっているのかよくわからず心配・不安だ	その他	無回答
単位：%										
全体		697	87.4	57.0	50.9	22.4	15.9	7.2	3.9	0.1
年齢別	20歳代	41	85.4	58.5	36.6	22.0	14.6	14.6	4.9	0.0
	30歳代	276	87.7	67.0	57.6	18.5	15.2	6.9	1.4	0.0
	40歳代	380	87.4	49.5	47.6	25.3	16.6	6.6	5.5	0.3

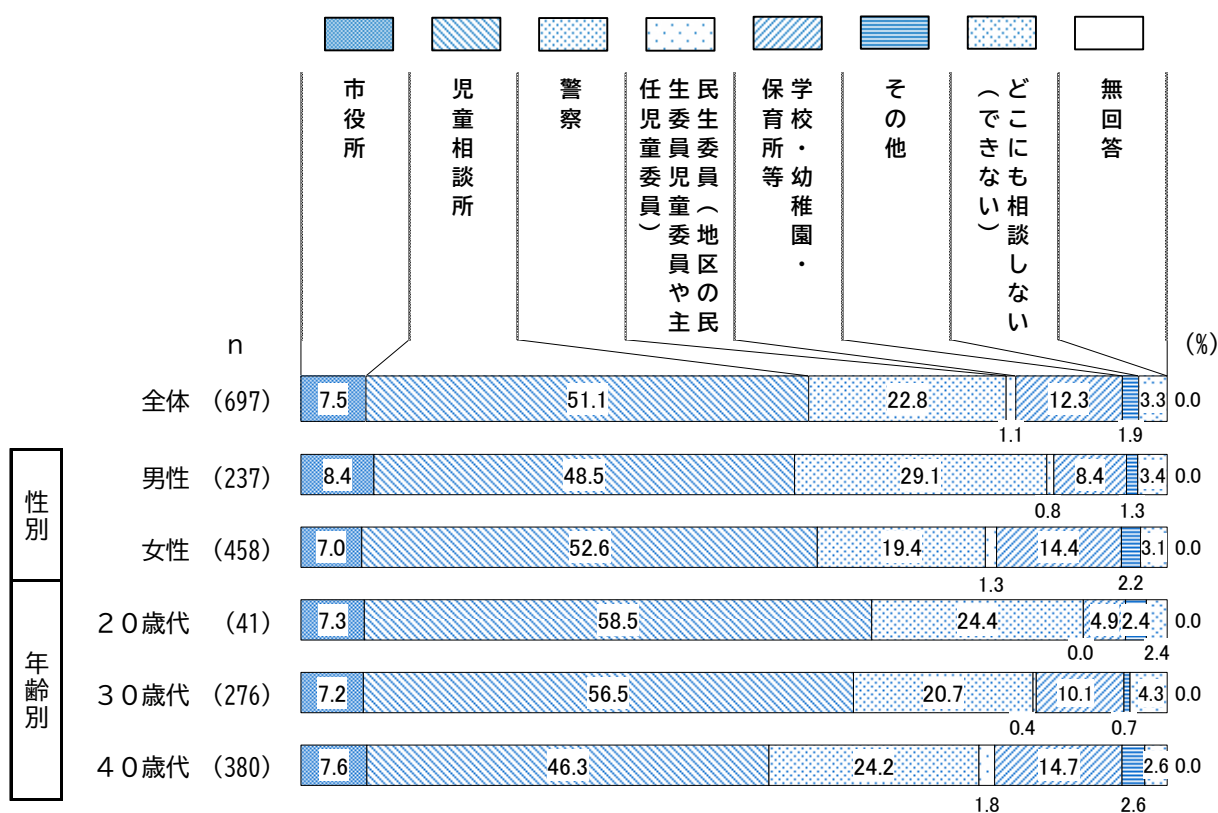
(12) 児童虐待発見時の相談機関【子育て中の保護者調査】

Q：児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合、どの機関に相談しますか。（○は1つ）

児童虐待を受けたと思われる子どもを発見した場合の相談機関は、「児童相談所」が51.1%で最も高く、次いで「警察」が22.8%、「学校・幼稚園・保育所等」が12.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「学校・幼稚園・保育所等」が6.0ポイント、「児童相談所」が4.1ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「警察」が9.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「児童相談所」は20歳代で58.5%と高く、年齢が上がるほど低くなっています。

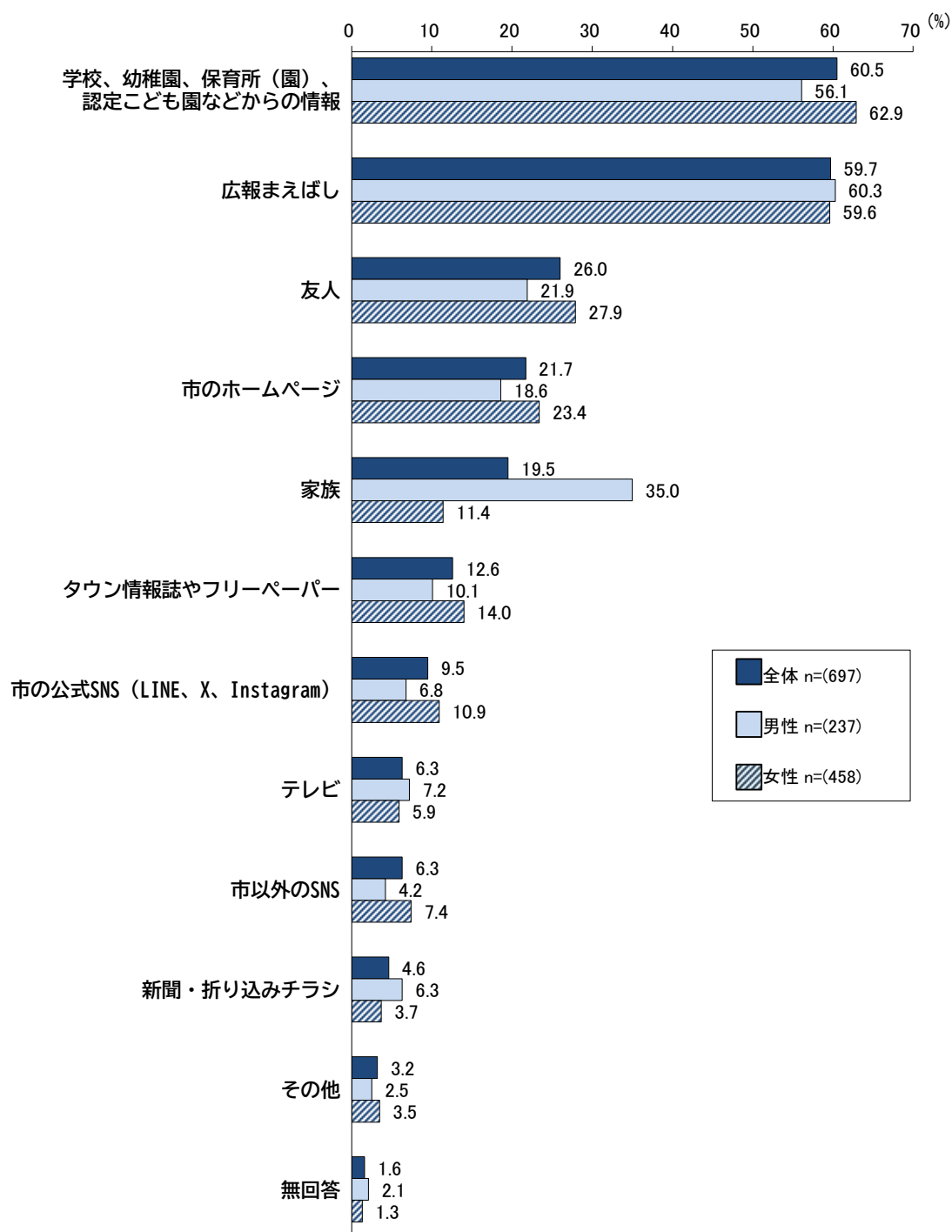


(13) 行政の子育て支援サービスなどの情報入手源【子育て中の保護者調査】

Q：行政が行っている子育て支援サービスなどの情報をどのように入手していますか。（〇はいくつでも）

行政が行っている子育て支援サービスなどの情報入手源は、「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」が60.5%で最も高く、次いで「広報まえばし」が59.7%、「友人」が26.0%となっています。

性別で見ると、男性は女性よりも「家族」が23.6ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」が6.8ポイント、「友人」が6.0ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「広報まえばし」は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で63.4%となっています。「学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報」は30歳代と40歳代で6割台と高くなっています。「友人」は30歳代で30.8%と高くなっています。

単位：％		調査数（n）	学校、幼稚園、保育所（園）、認定こども園などからの情報	広報まえばし	友人	市のホームページ	家族	タウン情報誌やフリーペーパー	X、Instagram、LINE、市の公式SNS	テレビ	市以外のSNS	新聞・折り込みチラシ	その他	無回答
全体		697	60.5	59.7	26.0	21.7	19.5	12.6	9.5	6.3	6.3	4.6	3.2	1.6
年齢別	20歳代	41	46.3	36.6	22.0	22.0	17.1	12.2	2.4	12.2	4.9	2.4	2.4	9.8
	30歳代	276	62.3	58.0	30.8	24.3	23.2	10.1	9.8	6.2	8.3	6.2	3.3	1.4
	40歳代	380	60.8	63.4	22.9	19.7	17.1	14.5	10.0	5.8	5.0	3.7	3.2	0.8

6 地域とのかかわりについて

（1）子育てにおける地域とのかかわりの程度【子育て中の保護者調査】

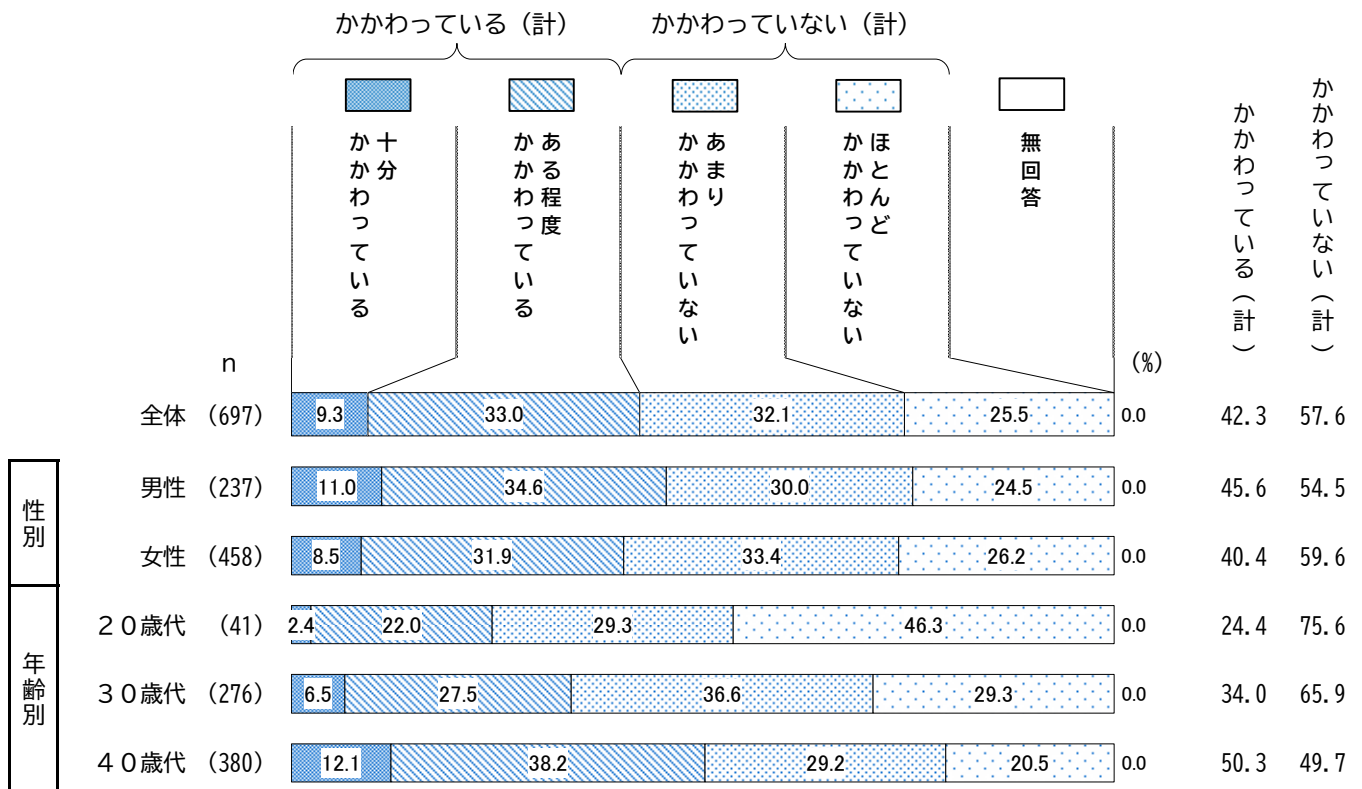
Q：子育てをしている中で、現在、あなたの住んでいる地域※とのかかわりはどれくらいありますか。（〇は1つ）

※地域…近隣住民、子ども会、自治会など

子育てをしている中で、現在の住んでいる地域とのかかわりは、「十分かかわっている」と「ある程度かかわっている」を合わせた《かかわっている 計》は42.3%、「あまりかかわっていない」と「ほとんどかかわっていない」を合わせた《かかわっていない 計》は57.6%となっています。

性別でみると、《かかわっている 計》は男性が女性より5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、《かかわっている 計》は年齢が上がるほど高くなり、40歳代で50.3%となっています。

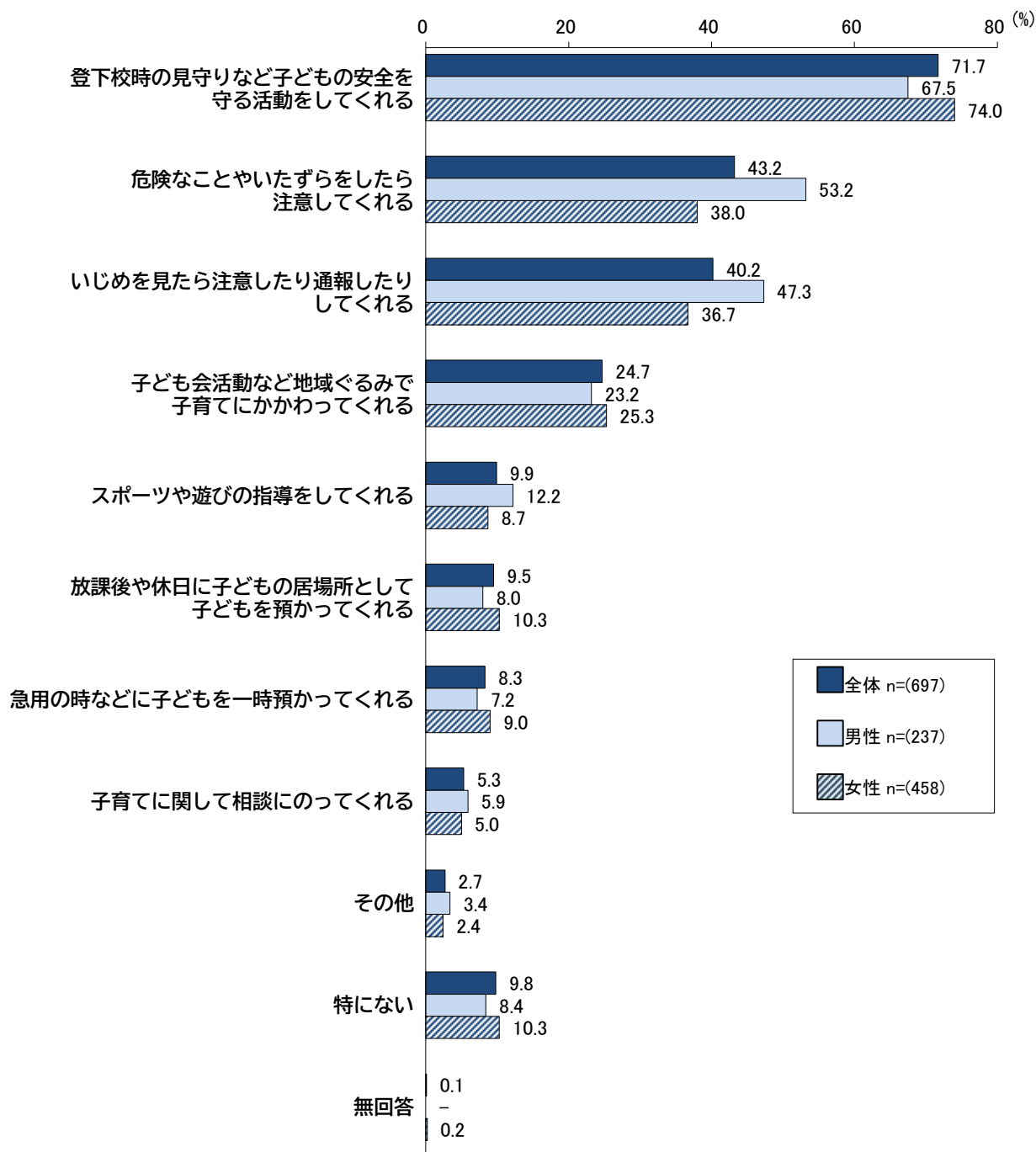


（2）近所や地域の人に期待すること【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは子育てをする上で、近所や地域の人にどのようなことを期待しますか。（○は3つ）

子育てをする上で近所や地域の人に期待することは、「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が71.7%で最も高く、次いで「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が43.2%、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が40.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「登下校時の見守りなど子どもの安全を守る活動をしてくれる」が6.5ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「危険なことやいたずらをしたら注意してくれる」が15.2ポイント、「いじめを見たら注意したり通報したりしてくれる」が10.6ポイント高くなっています。



7 結婚、仕事と子育て、家庭等について

（1）自分自身の仕事と子育てについての希望

【独身者調査】

※将来結婚したいと思うかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。（〇は2つ）

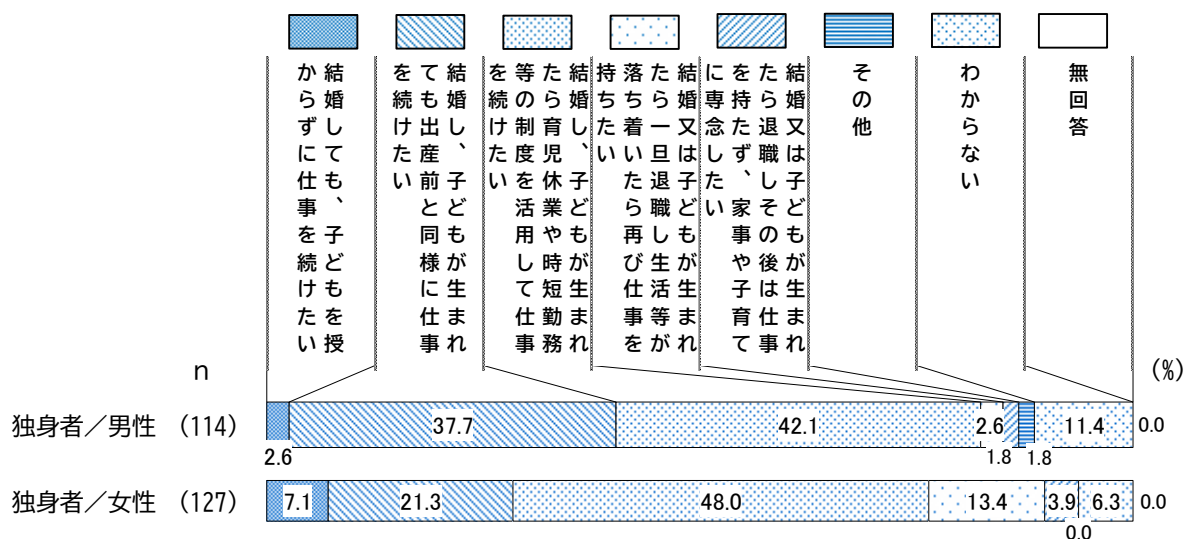
【既婚者・子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、どのような希望がありますか。（〇は2つ）

【独身者調査】

独身者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が42.1%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が37.7%、「わからない」が11.4%となっています。

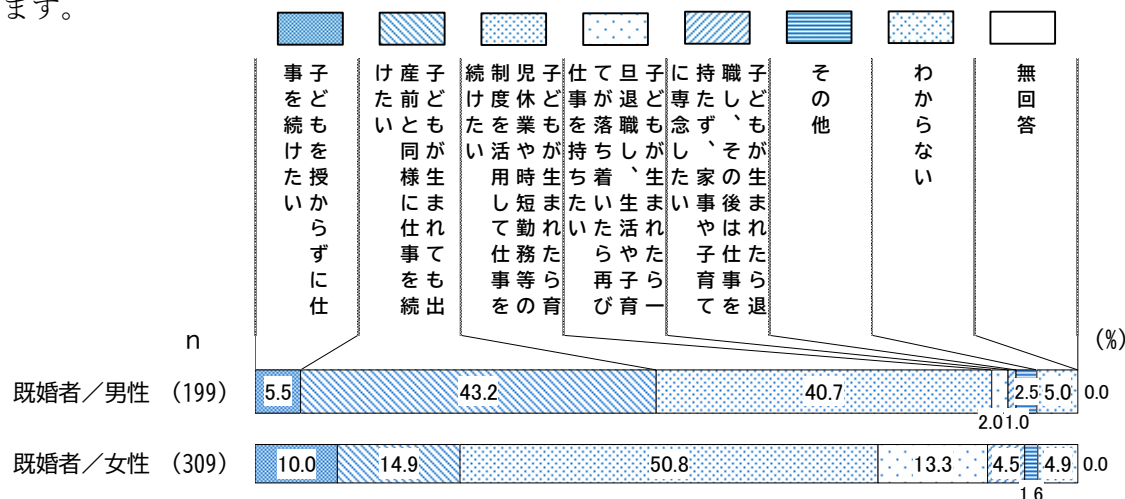
女性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が48.0%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が21.3%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し生活等が落ち着いたら再び仕事をもちたい」が13.4%となっています。



【既婚者調査】

既婚者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が43.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が40.7%、「子どもを授からずに仕事を続けたい」が5.5%となっています。

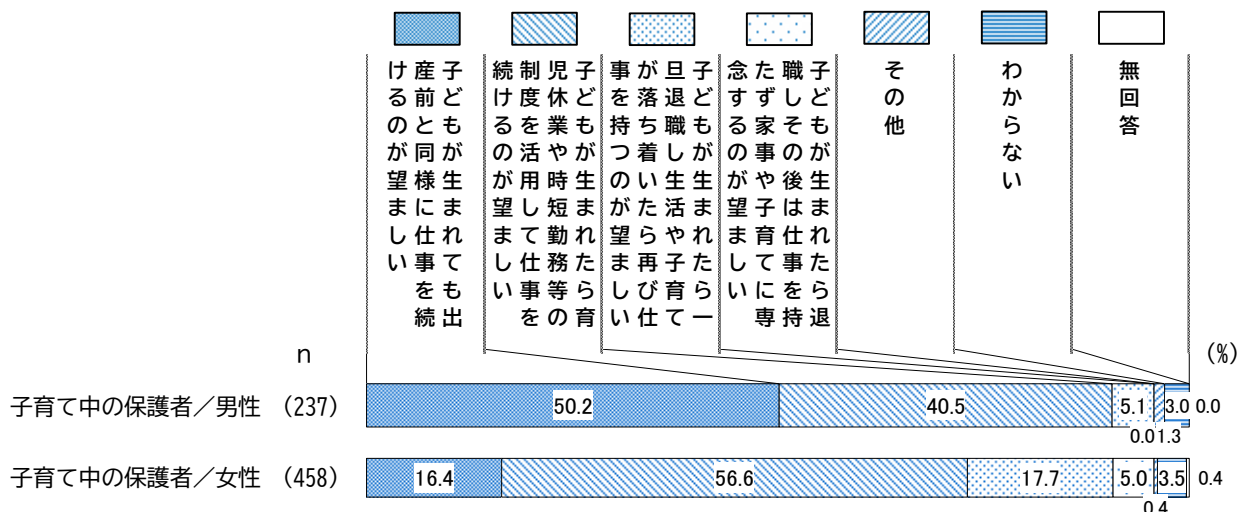
女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けたい」が50.8%で最も高く、次いで「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けたい」が14.9%、「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたたら再び仕事をしたい」が13.3%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けるのが望ましい」が50.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けるのが望ましい」が40.5%、「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたたら再び仕事をしたい」が5.1%となっています。

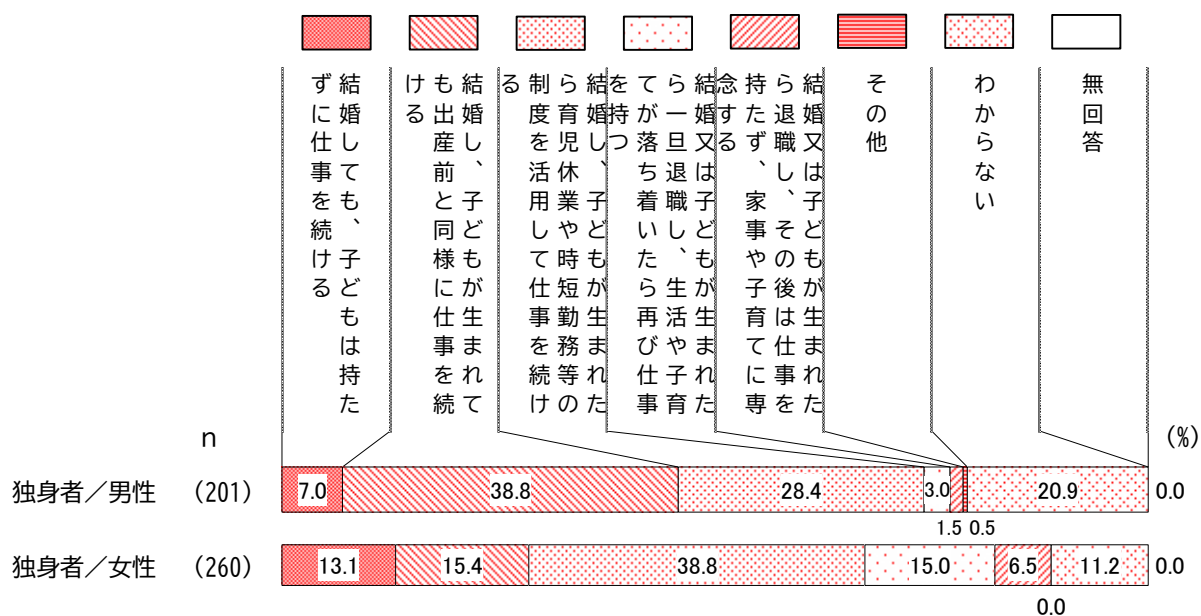
女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けるのが望ましい」が56.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたたら再び仕事をしたい」が17.7%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けるのが望ましい」が16.4%となっています。



県調査※との比較

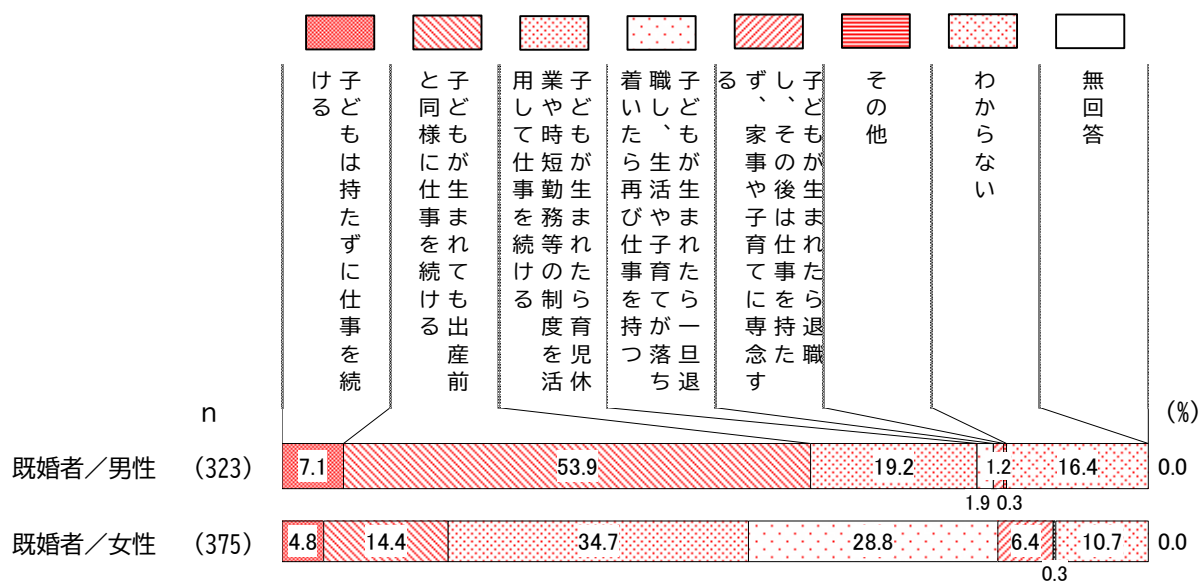
県調査の独身者の結果は、男性では「結婚し、子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が28.4%となっており、市調査（42.1%）は13.7ポイント県調査を大きく上回っています。

女性では「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が15.4%となっており、市調査（21.3%）は県調査を5.9ポイント上回っています。



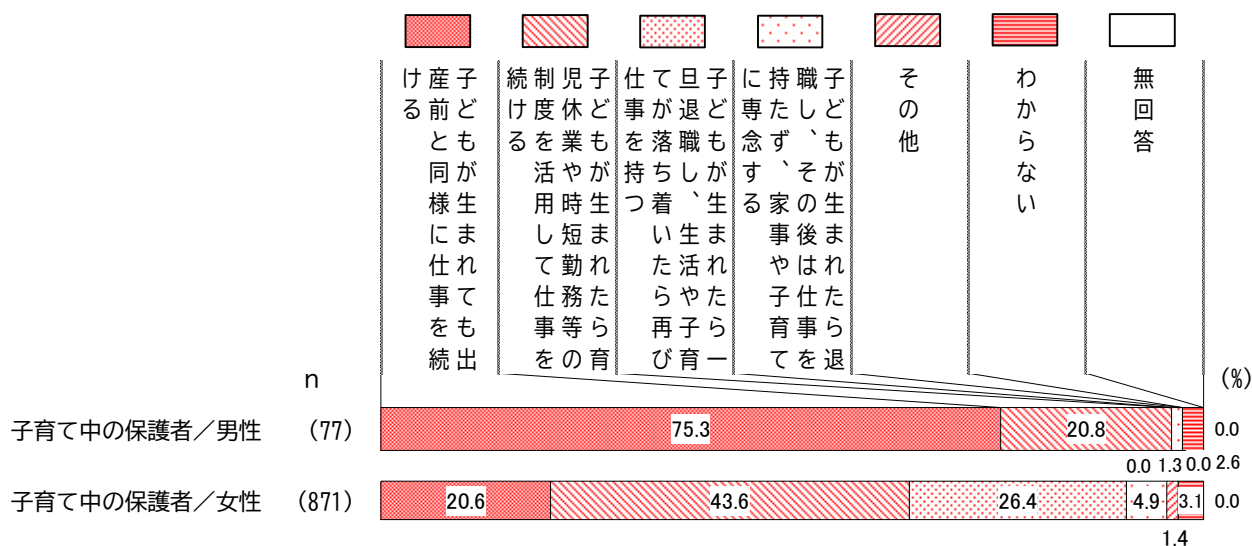
県調査の既婚者の結果は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が53.9%となっており、市調査（43.2%）は県調査を10.7ポイント下回っています。

女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が34.7%となっており、市調査（50.8%）は県調査を16.1ポイント上回っています。



県調査の子育て中の保護者の結果は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続ける」が75.3%となっており、市調査（50.2%）は県調査を25.1ポイント下回っています。

女性では「子どもが生まれたら一旦退職し、生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が26.4%となっており、市調査（17.7%）の結果は、県調査を8.7ポイント下回っています。

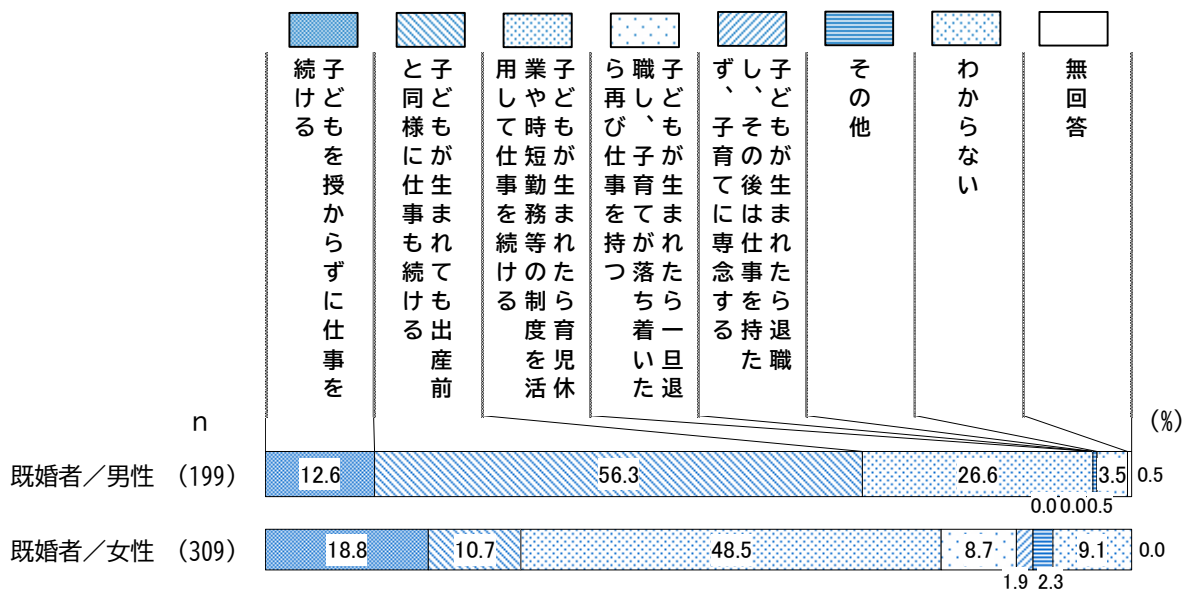


（2）自分自身の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】

Q：あなたは、自分自身の仕事と子育てについて、実際にはどのようになりそうですか。（○は1つ）

既婚者調査において、自分自身の仕事と結婚・子育てについての実際は、男性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が56.3%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が26.6%、「子どもを授からずに仕事を続ける」が12.6%となっています。

女性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が48.5%で最も高く、次いで「子どもを授からずに仕事を続ける」が18.8%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が10.7%となっています。



(3) パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての希望

【独身者調査】

※将来結婚したいと思うかで「結婚したい」、「どちらかといえば結婚したい」を選んだ方のみ回答

Q：あなたは、将来のパートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。（〇は1つ）

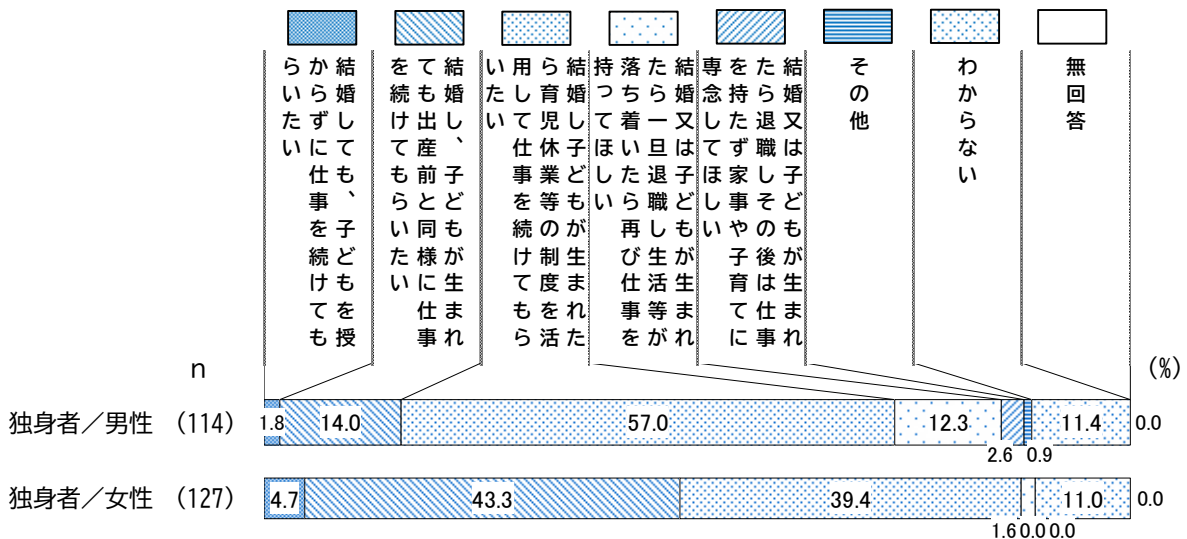
【既婚者・子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、パートナーの仕事と子育てについて、どのような希望がありますか（ありましたか）。（〇は1つ）

【独身者調査】

独身者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「結婚し子どもが生まれたら育児休業等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が57.0%で最も高く、次いで「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が14.0%、「結婚又は子どもが生まれたら一旦退職し生活等が落ち着いたら再び仕事を持ってほしい」が12.3%、「わからない」が11.4%となっています。

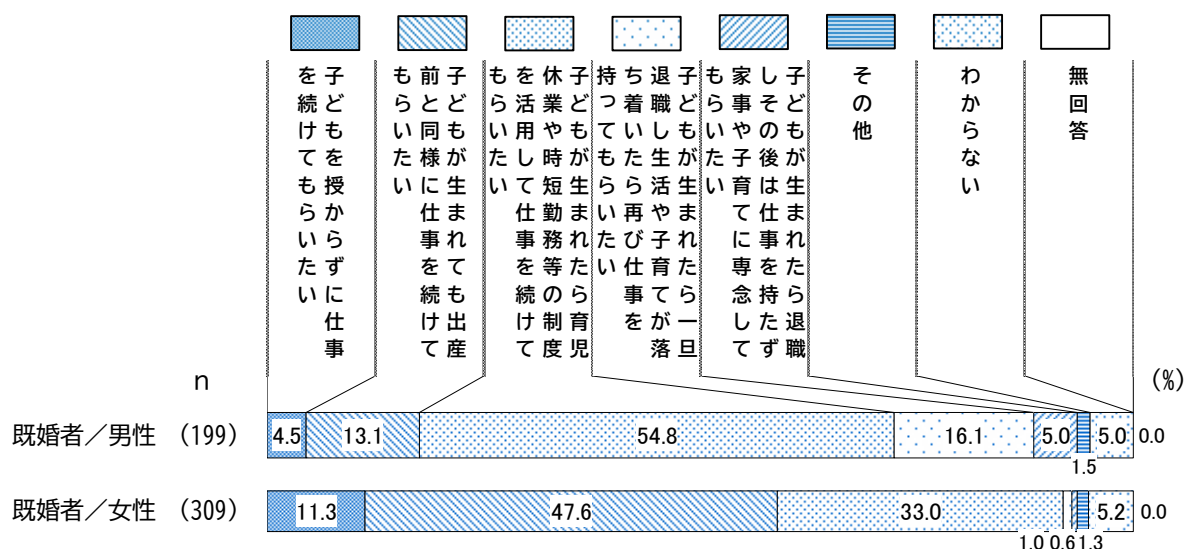
女性では「結婚し、子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が43.3%で最も高く、次いで「結婚し子どもが生まれたら育児休業等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が39.4%、「わからない」が11.0%となっています。



【既婚者調査】

既婚者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が54.8%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が16.1%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が13.1%となっています。

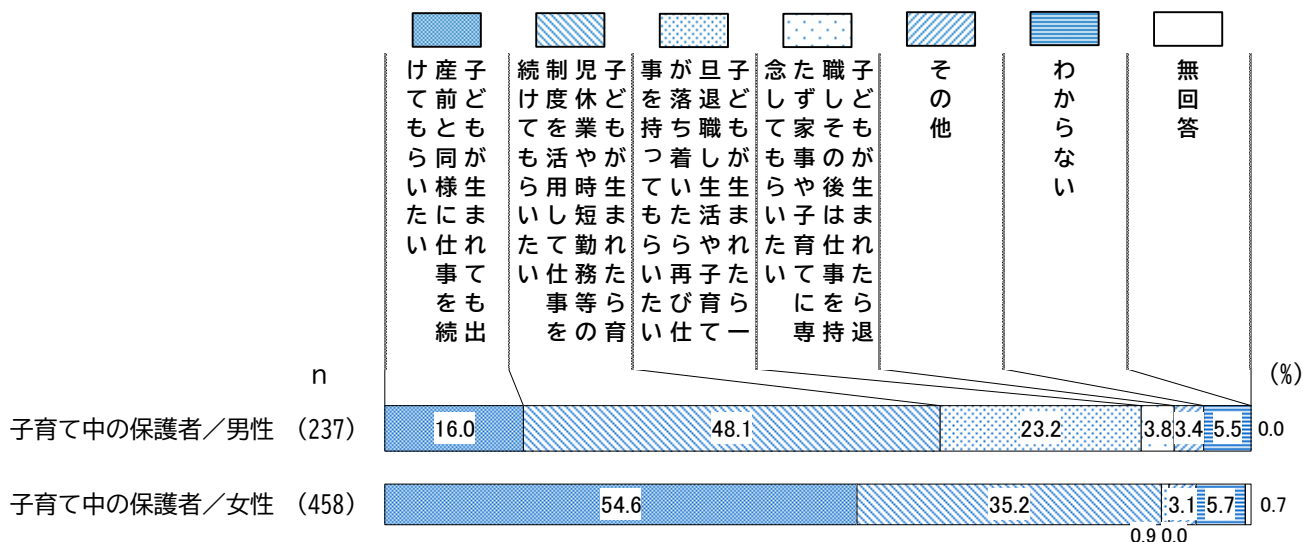
女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が47.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が33.0%、「子どもを授からずに仕事を続けてもらいたい」が11.3%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての希望は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が48.1%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し生活や子育てが落ち着いたら再び仕事を持ってもらいたい」が23.2%、「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が16.0%となっています。

女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事を続けてもらいたい」が54.6%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続けてもらいたい」が35.2%、「わからない」が5.7%となっています。

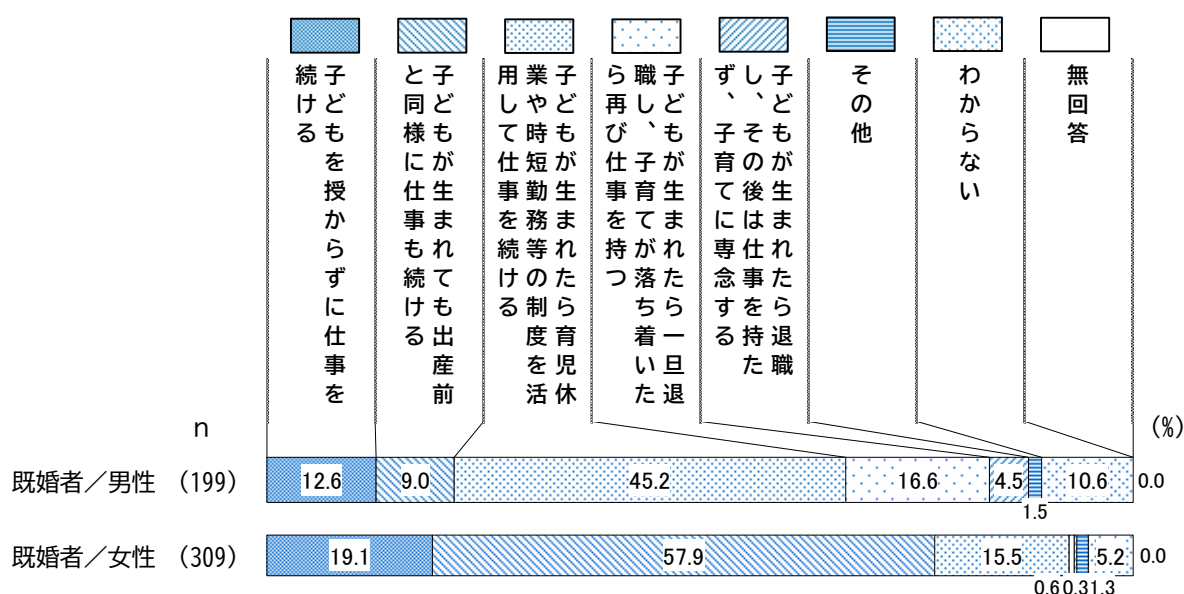


（4）パートナー（配偶者）の仕事と子育てについての実際【既婚者調査】

Q：パートナーの仕事と子育てについて、実際にはどのようになりそうですか。（○は1つ）

既婚者調査において、パートナー（配偶者）の仕事と結婚・子育てについての実際は、男性では「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が45.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれたら一旦退職し、子育てが落ち着いたら再び仕事を持つ」が16.6%、「子どもを授けずに仕事を続ける」が12.6%となっています。

女性では「子どもが生まれても出産前と同様に仕事も続ける」が57.9%で最も高く、次いで「子どもを授けずに仕事を続ける」が19.1%、「子どもが生まれたら育児休業や時短勤務等の制度を活用して仕事を続ける」が15.5%となっています。

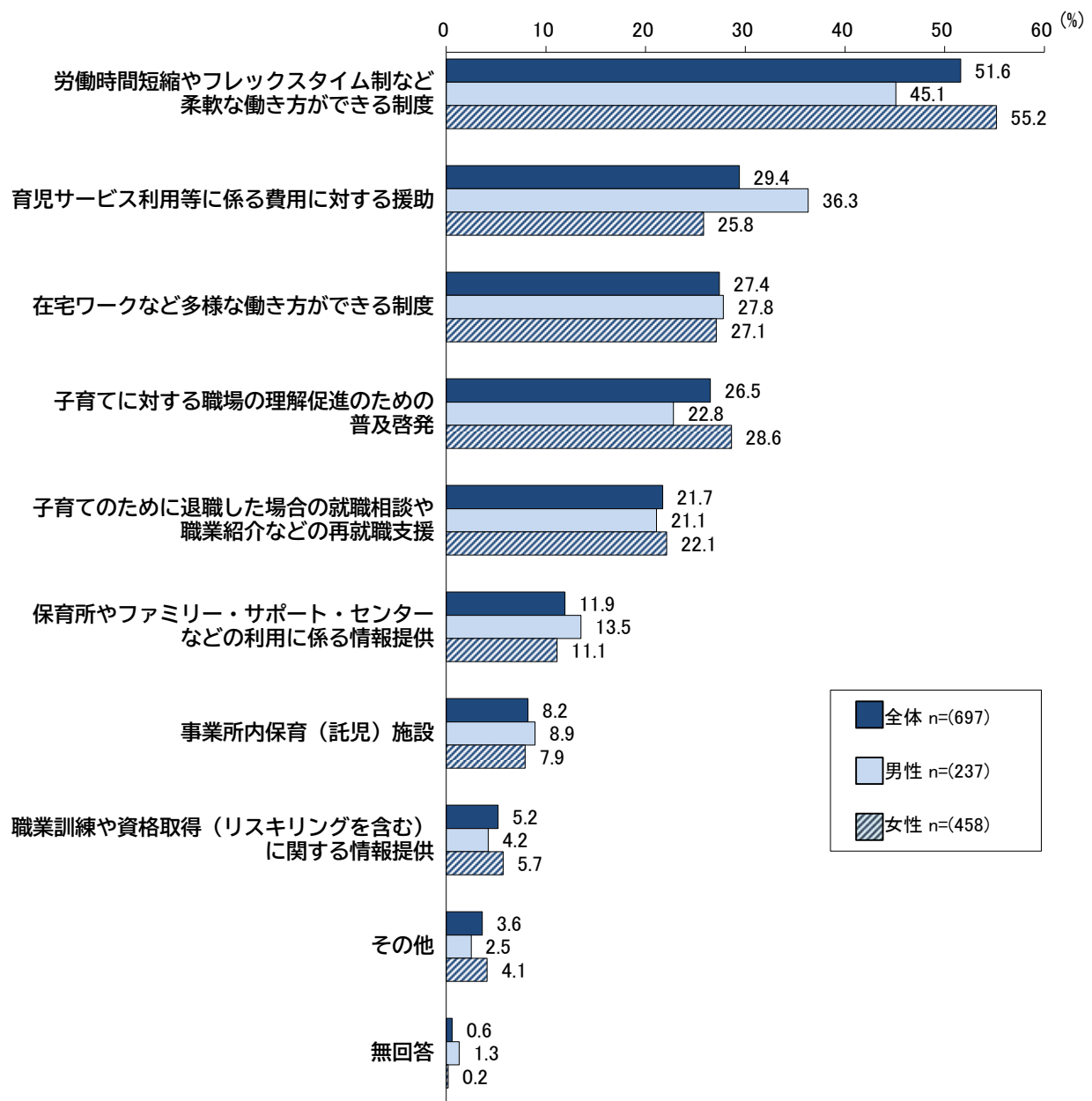


（５）仕事と子育ての両立に関して必要な支援【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、仕事と子育ての両立に関して、どのような支援が必要だと思いますか。（〇は２つ）

仕事と子育ての両立に関して必要だと思う支援は、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が51.6%で最も高く、次いで「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が29.4%、「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」が27.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」が10.5ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」が10.1ポイント、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」が5.8ポイント高くなっています。



年齢別でみると、「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」は20歳代で73.2%と高くなっています。「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」は20歳代と30歳代で3割台、「在宅ワークなど多様な働き方ができる制度」は20歳代で34.1%とやや高くなっています。

単位：％		調査数（n）	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	子育てのために退職した場合の就業相談や職業紹介などの再就職支援	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	事業所内保育（託児）施設	職業訓練や資格取得（リスクリングを含む）に関する情報提供	その他	無回答
全体		697	51.6	29.4	27.4	26.5	21.7	11.9	8.2	5.2	3.6	0.6
年齢別	20歳代	41	73.2	31.7	34.1	19.5	14.6	7.3	7.3	4.9	2.4	0.0
	30歳代	276	52.5	34.4	25.4	28.3	21.0	12.7	8.0	3.6	2.9	0.7
	40歳代	380	48.7	25.5	28.2	26.1	22.9	11.8	8.4	6.3	4.2	0.5

県調査※との比較

県調査の結果においても「労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度」（52.6%）が最も高くなっていますが、以降の順位は市調査とは異なり、「子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発」（31.8%）、「育児サービス利用等に係る費用に対する援助」（26.1%）と続きます。

	無回答	その他	職業訓練や資格取得（リスクリングを含む）に関する情報提供	事業所内保育（託児）施設	保育所やファミリー・サポート・センターなどの利用に係る情報提供	子育てのために退職した場合の就業相談や職業紹介などの再就職支援	在宅ワークなど多様な働き方ができる制度	育児サービス利用等に係る費用に対する援助	子育てに対する職場の理解促進のための普及啓発	労働時間短縮やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができる制度	調査数（n）	単位：％
全体	0.0	2.1	5.0	11.4	12.9	18.2	26.0	26.1	31.8	52.6	949	

※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／地域での子育てに関する調査（保護者調査）

（6）（結婚前までの）身近な状況【独身者調査・既婚者調査】

【独身者調査】

Q：あなたの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。（○は1つ）

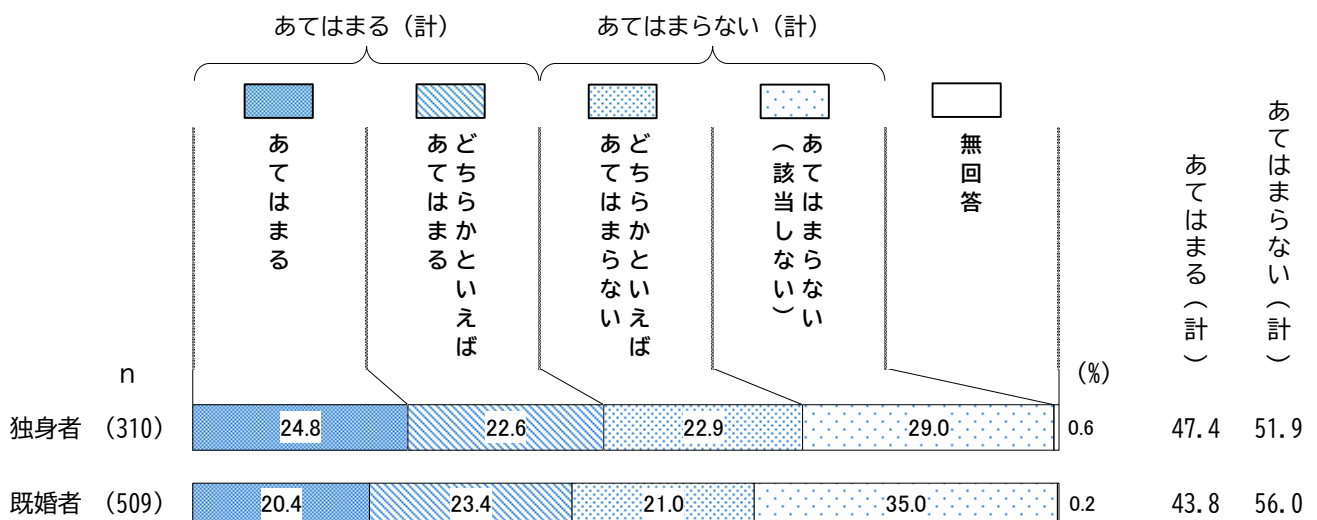
【既婚者調査】

Q：あなた方ご夫婦の結婚前までの身近な状況について、あてはまるものをお答えください。（○は1つ）（質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、「あてはまらない（該当しない）」を選択してください。）

■赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（ある）

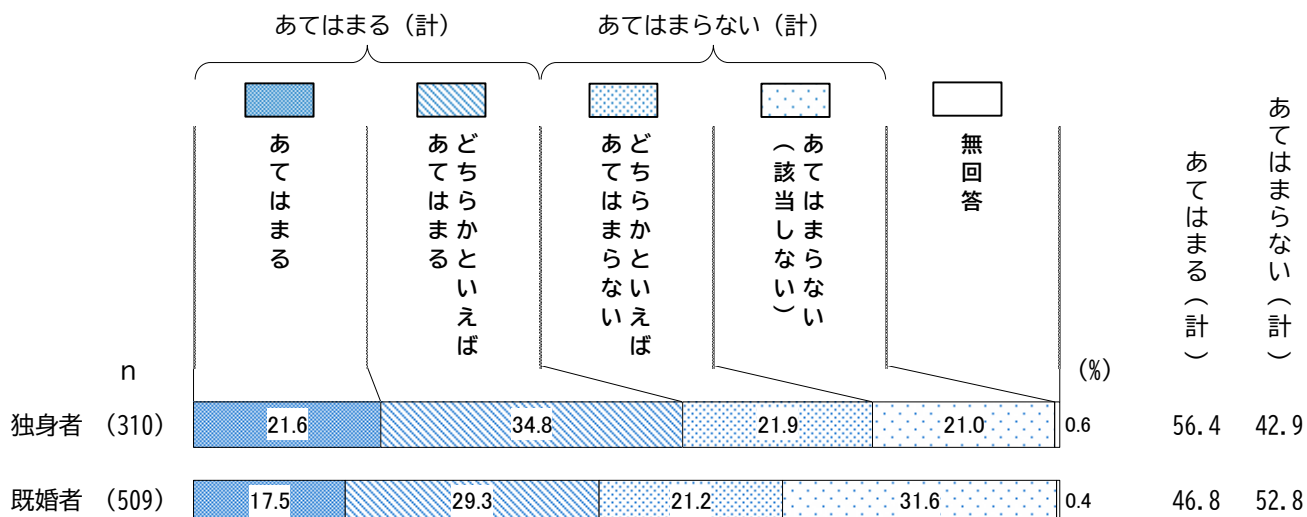
赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会は、独身者調査では、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた《あてはまらない 計》は51.9%、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた《あてはまる 計》は47.4%となっています。

既婚者調査では、《あてはまらない 計》は56.0%、《あてはまる 計》は43.8%となっています。



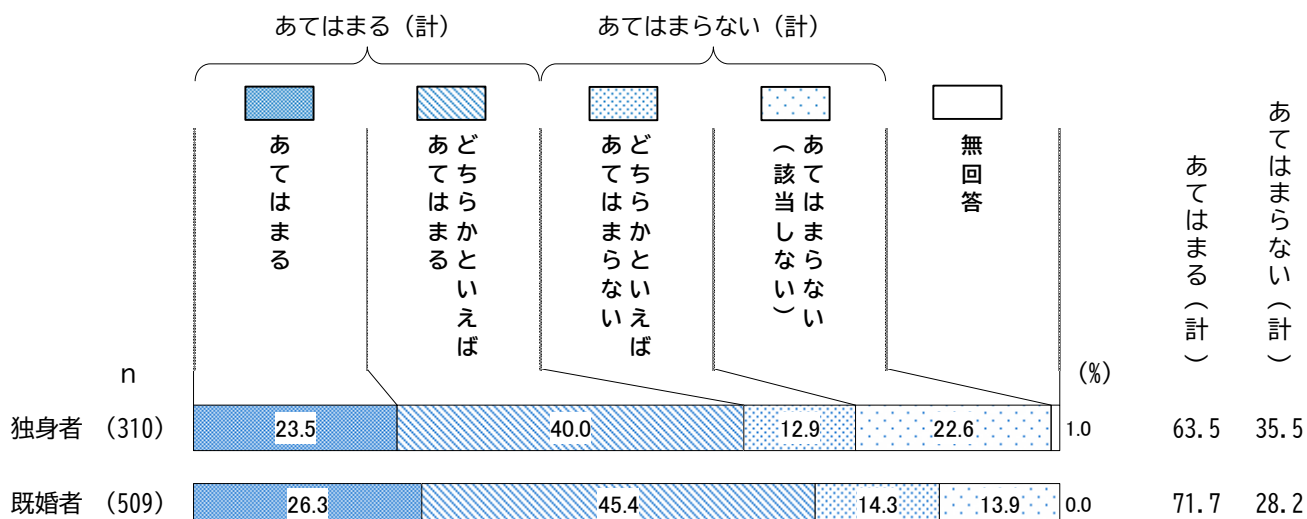
■両親のような夫婦関係をうらやましく思う

両親のような夫婦関係をうらやましく思うかでは、独身者調査では「どちらかといえばあてはまる」が34.8%で最も高くなっています。また、《あてはまる 計》と《あてはまらない 計》は独身者と既婚者で数値の多少が逆転しています。



■結婚している周りの友人をみると、幸せそうだと思う

結婚している周りの友人をみると、幸せそうだと思うかでは、独身者調査では「どちらかといえばあてはまる」が40.0%で最も高くなっています。また独身者よりも既婚者のほうが《あてはまる 計》は高くなります。



（7）家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての考え【独身者調査】

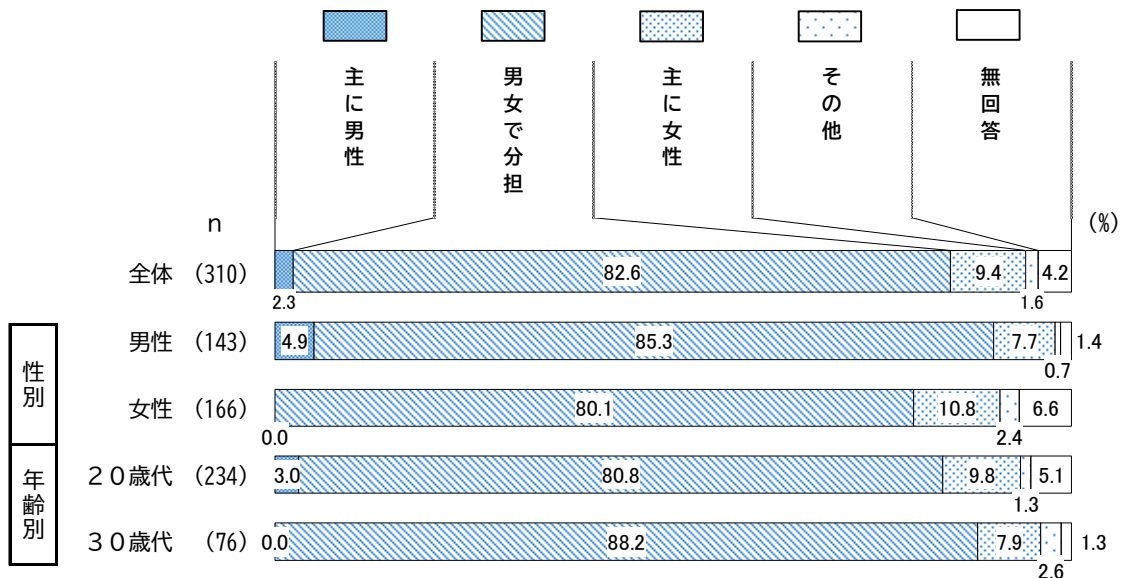
Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、どのように考えていますか。（○は1つ）

■家事（炊事、洗濯、掃除、買い物）

「男女で分担」が82.6%と最も高く、「主に女性」が9.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が5.2ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が3.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は30歳代で88.2%と高くなっています。

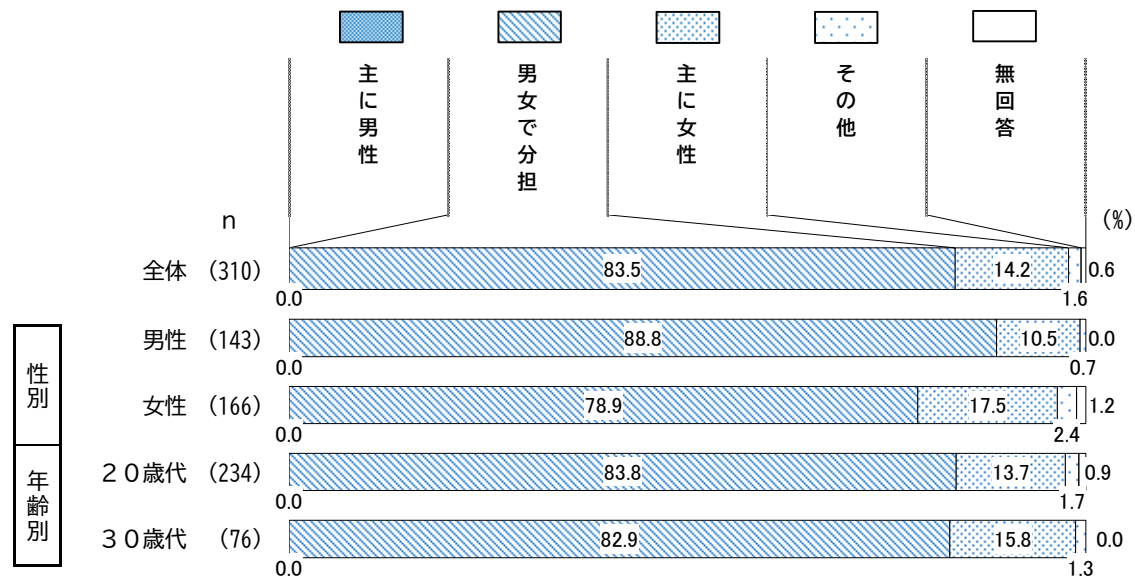


■育児

「男女で分担」が83.5%と最も高く、「主に女性」が14.2%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が9.9ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が7.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられません。

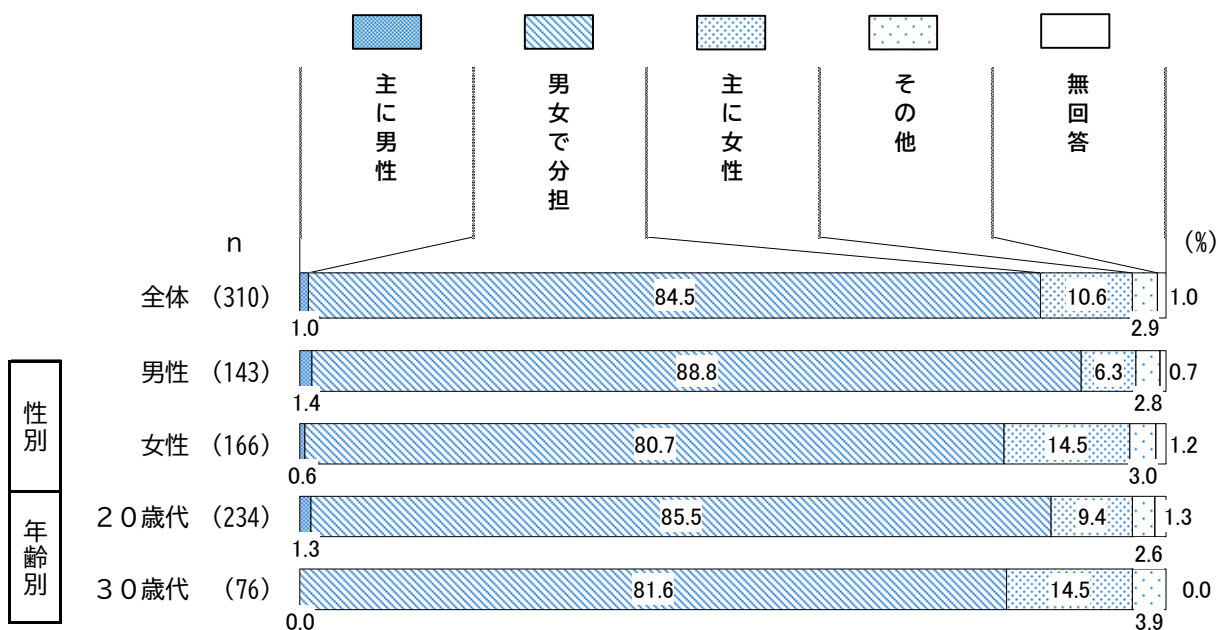


■看護

「男女で分担」が84.5%と最も高く、「主に女性」が10.6%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が8.1ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が8.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は30歳代で14.5%とやや高くなっています。

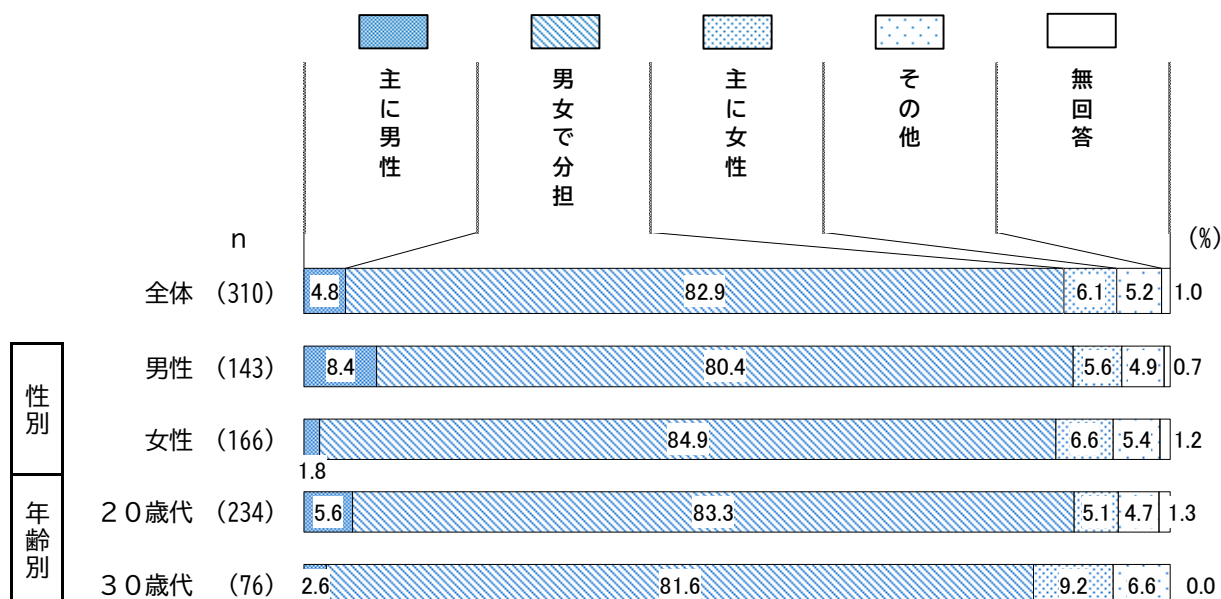


■介護

「男女で分担」が82.9%と最も高く、「主に女性」が6.1%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「主に男性」が6.6ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「男女で分担」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「主に女性」は30歳代で9.2%とやや高くなっています。



（8）家庭内での家事、育児、看護、介護の分担についての理想と現実【子育て中の保護者調査】

Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、理想としてどのように考えますか。（○は1つ）

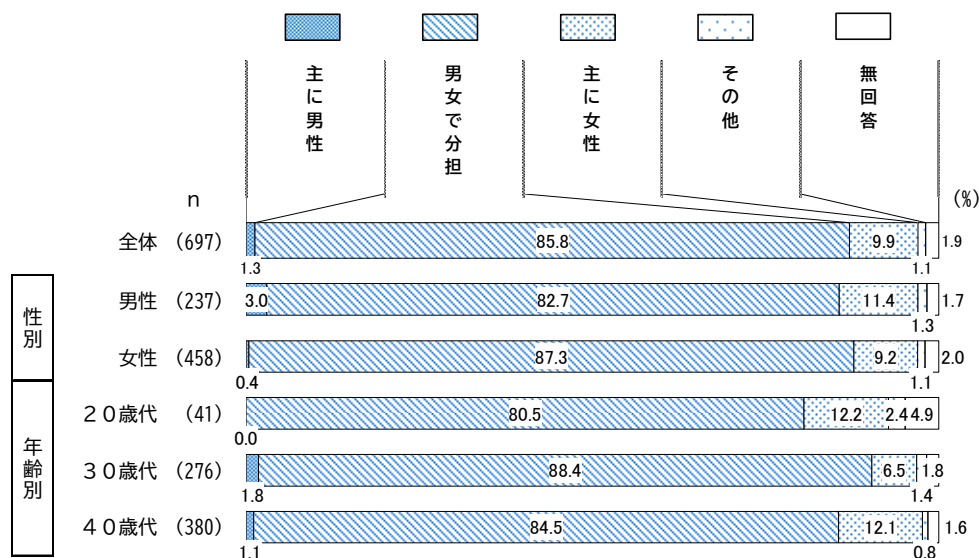
Q：あなたは、家庭内での家事、育児、看護、介護の分担について、現実はどうですか。（○は1つ）

家事、育児、看護、介護の分担について＜理想＞と＜現実＞を比較してみると、いずれの項目においても、「男女で分担」を理想としていますが、現実には「主に女性」の数値が高くなっています。また、男性は「男女で分担」が高いが、女性では「主に女性」のほうが高く、男女間で分担している感覚の違いが大きくみられます。

■家事（炊事、洗濯、掃除、買い物）

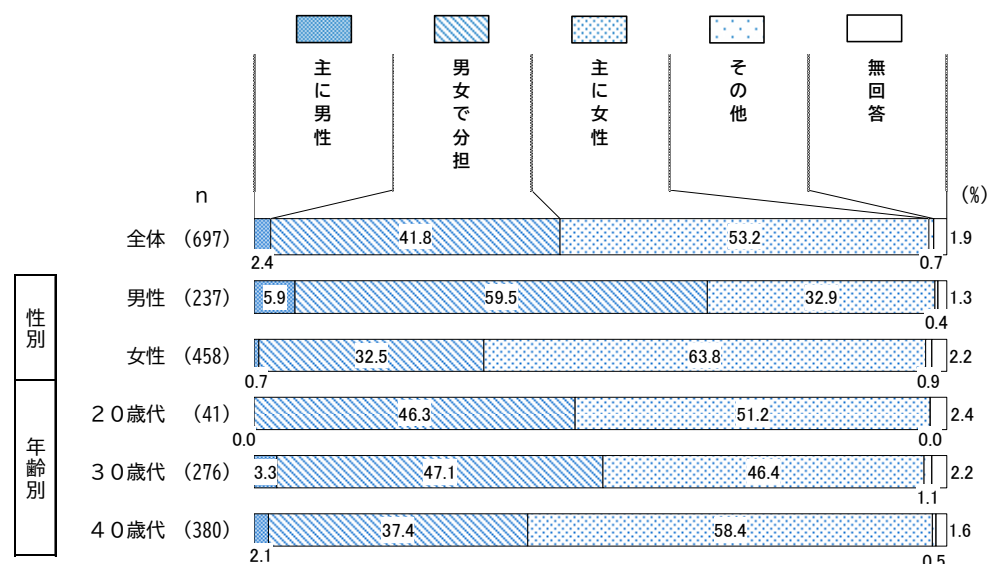
＜理想＞

「男女で分担」が85.8%と最も高く、「主に女性」が9.9%となっています。
性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.6ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「男女で分担」は30歳代で88.4%と高くなっています。



＜現実＞

「主に女性」が53.2%と最も高く、「男女で分担」が41.8%となっています。
性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が30.9ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「主に女性」は40歳代で58.4%と高くなっています。



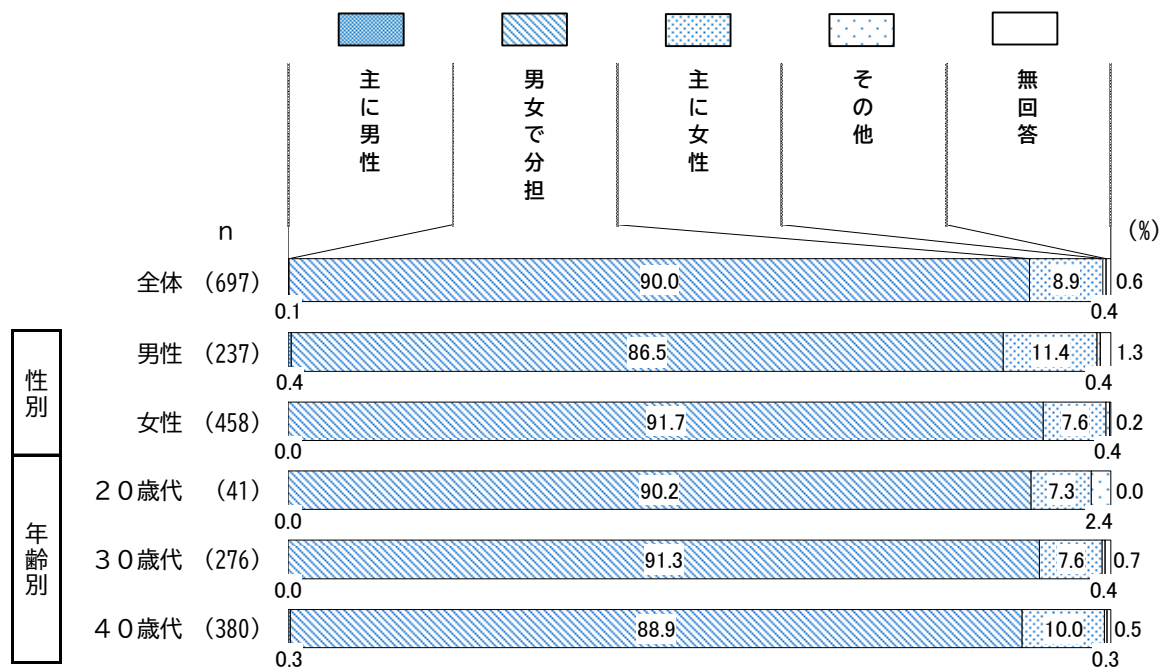
■育児

<理想>

「男女で分担」が90.0%と最も高く、「主に女性」が8.9%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代と30歳代で9割台と高くなっています。

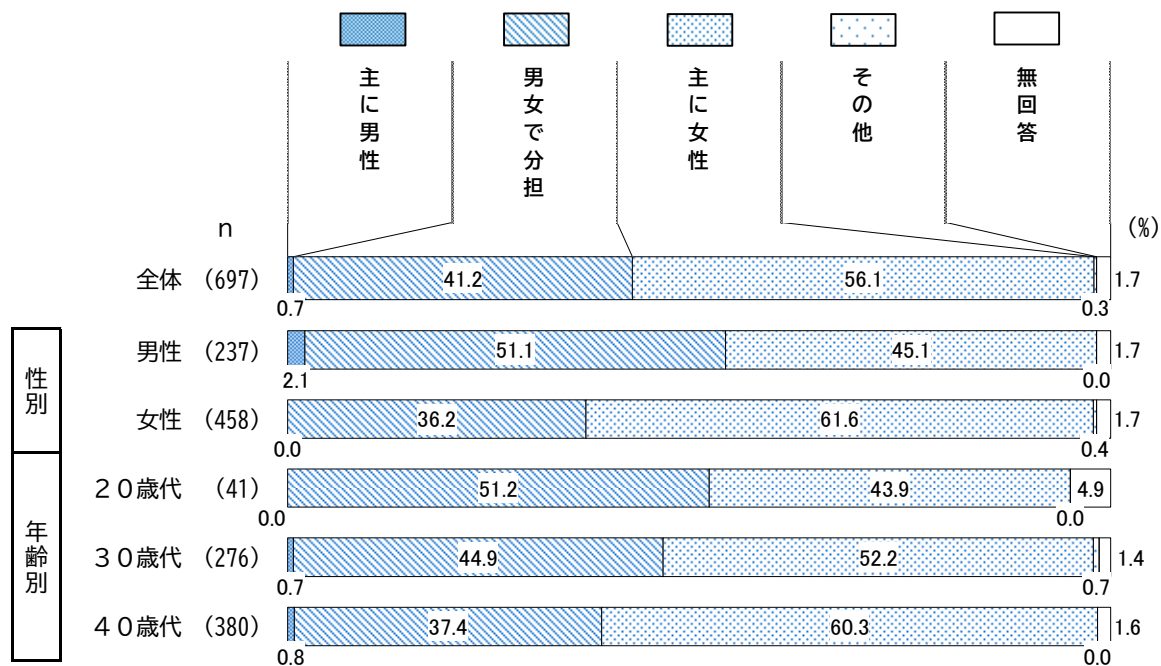


<現実>

「主に女性」が56.1%と最も高く、「男女で分担」が41.2%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が16.5ポイント高くなっています。

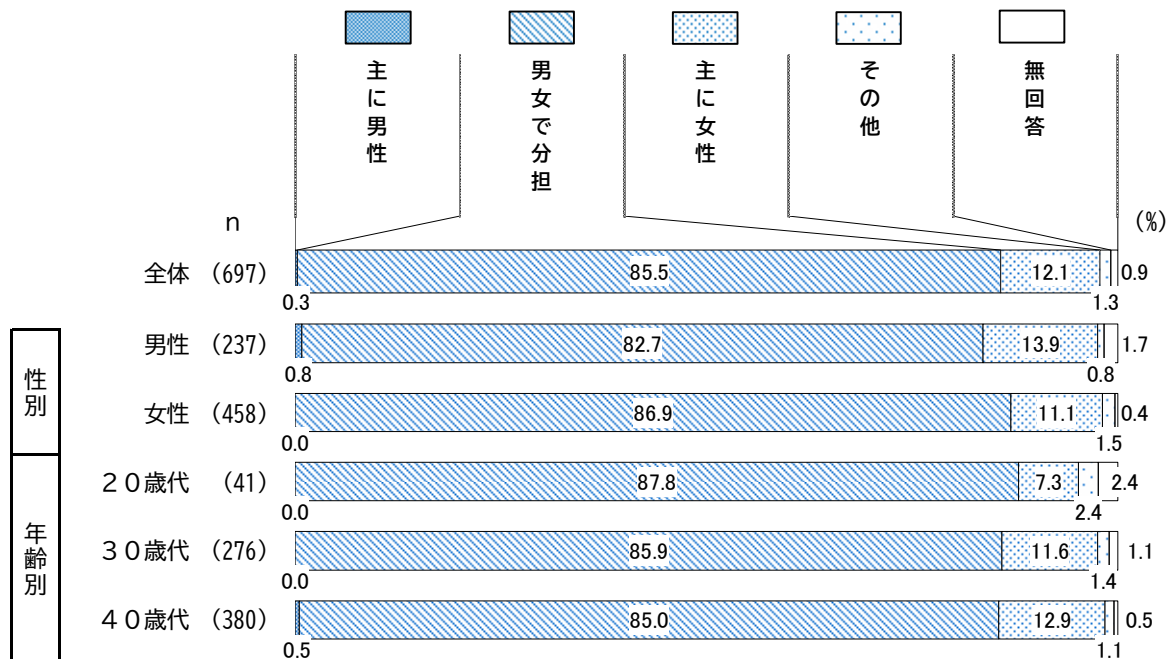
年齢別でみると、「主に女性」は40歳代で60.3%とやや高くなっています。



■看護

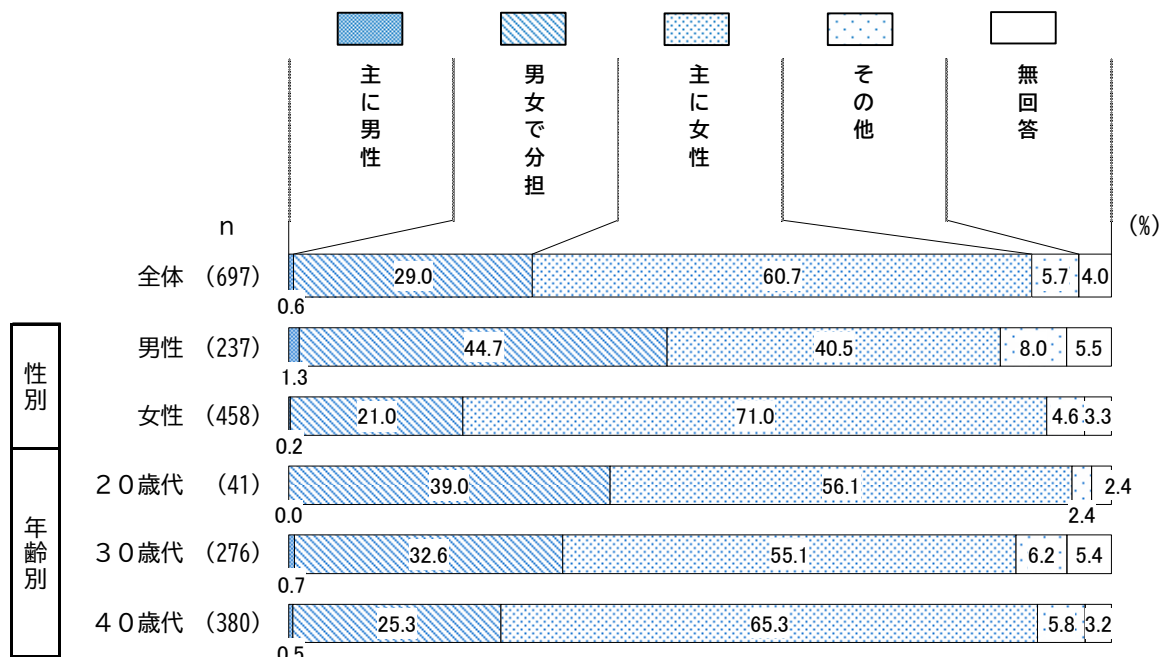
<理想>

「男女で分担」が85.5%と最も高く、「主に女性」が12.1%となっています。
性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.2ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で87.8%とやや高くなっています。



<現実>

「主に女性」が60.7%と最も高く、「男女で分担」が29.0%となっています。
性別でみると、女性は男性よりも「主に女性」が30.5ポイント高くなっています。
年齢別でみると、「主に女性」は年齢が上がるほど高い傾向がみられ、40歳代で65.3%となっています。



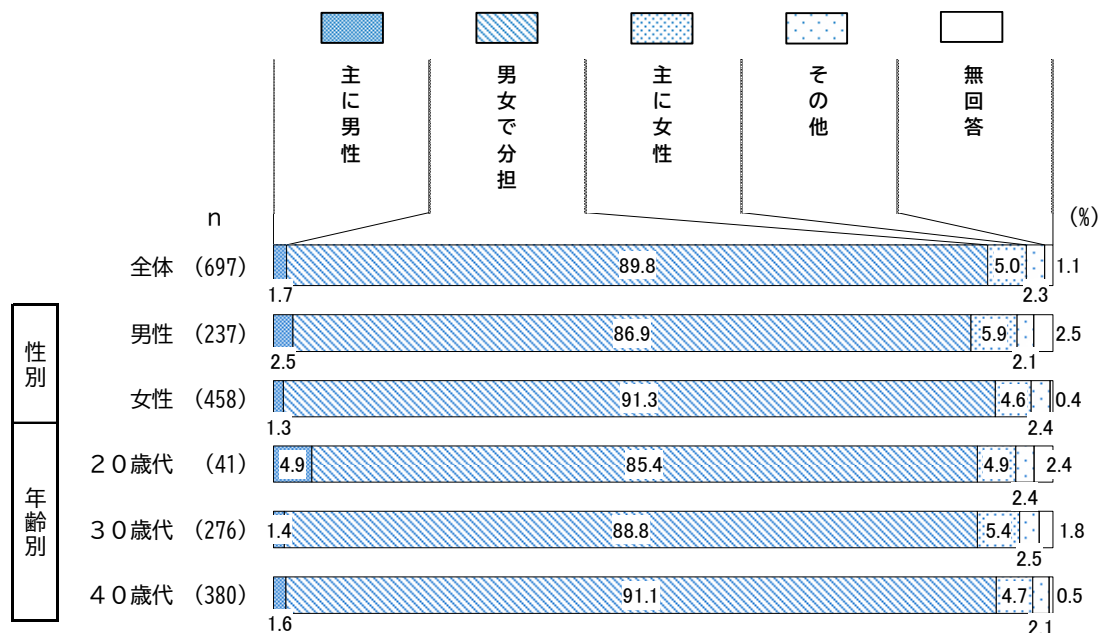
■介護

<理想>

「男女で分担」が89.8%と最も高く、「主に女性」が5.0%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「男女で分担」が4.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は40歳代で91.1%と高くなっています。



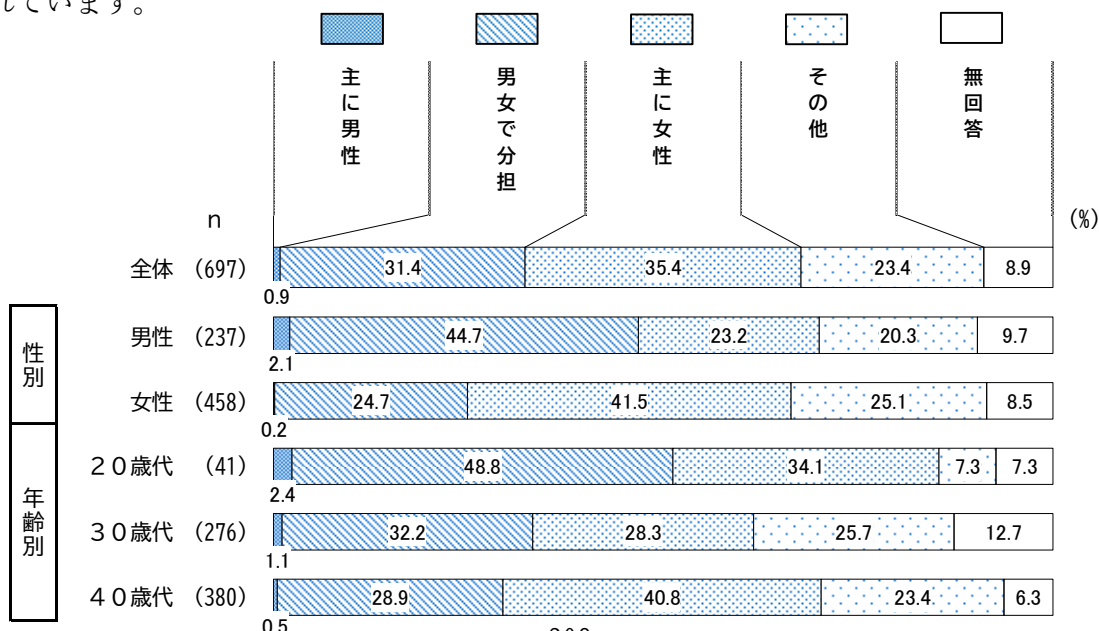
<現実>

「主に女性」が35.4%と最も高く、「男女で分担」が31.4%、「その他」が23.4%となっています。

性別でみると、男性は女性よりも「男女で分担」が20.0ポイント高くなっています。一方、女性は男性よりも「主に女性」が18.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「男女で分担」は20歳代で48.8%、「主に女性」は40歳代で40.8%と高くなっています。

「その他」の主な内容は、「介護経験なし・介護していない」、「介護施設、ヘルパー」などが挙げられています。



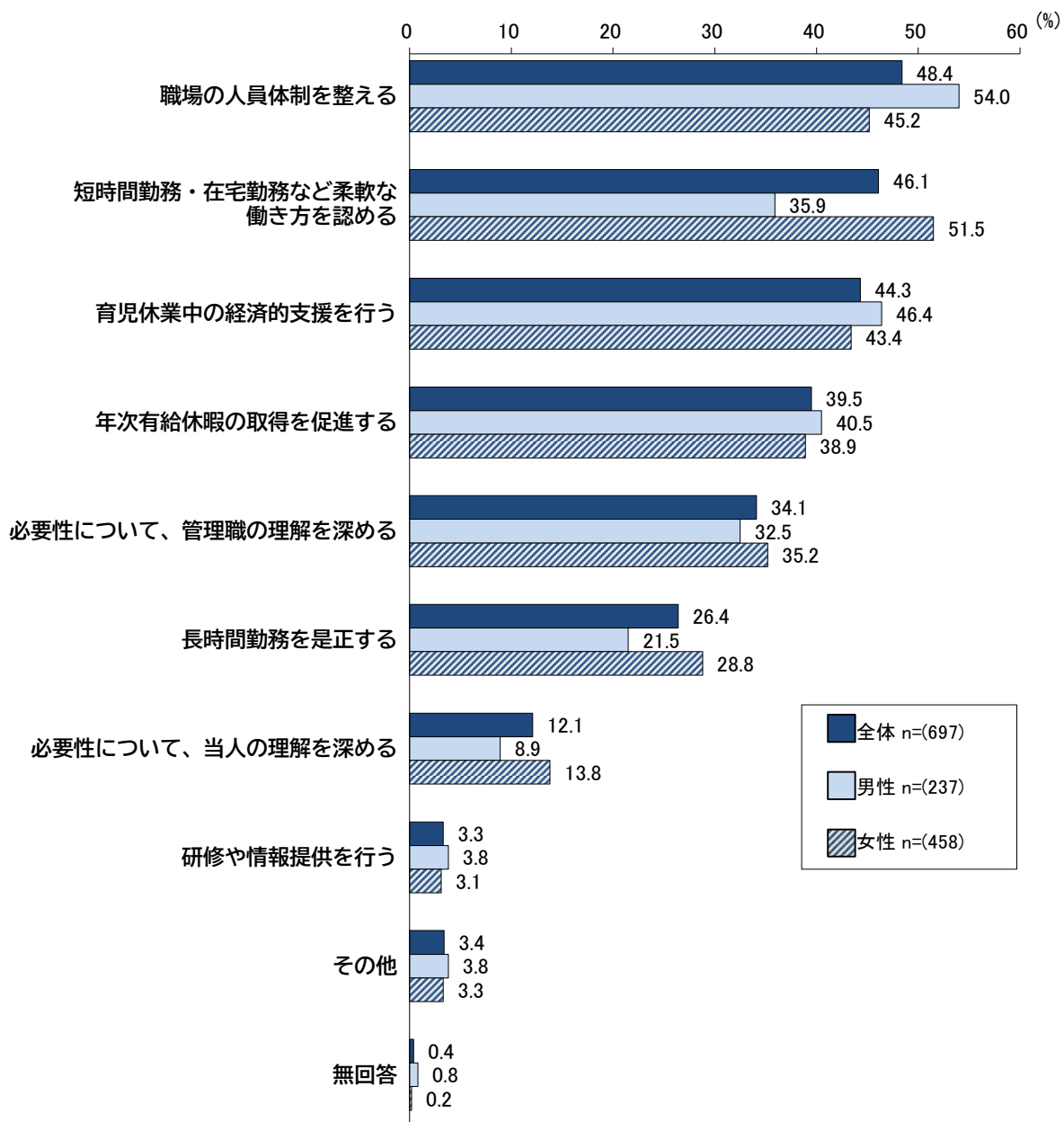
（9）「共育て」を促進するために必要だと思うこと【子育て中の保護者調査】

Q：「共育て※」を促進するためにあなたが職場に必要なと思うことは何ですか。（○は3つ）

※共育て…男性育休の取得促進や育児期を通じた柔軟で多様な働き方を推進することで、仕事と子育てを両立し、夫婦（パートナー）がともに子育てを行うこと

「共育て」を促進するために必要だと思うことは、「職場の人員体制を整える」が48.4%で最も高く、次いで「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が46.1%、「育児休業中の経済的支援を行う」が44.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「短時間勤務・在宅勤務など柔軟な働き方を認める」が15.6ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「職場の人員体制を整える」が8.8ポイント高くなっています。



(10) 里親制度の認知度【既婚者調査】

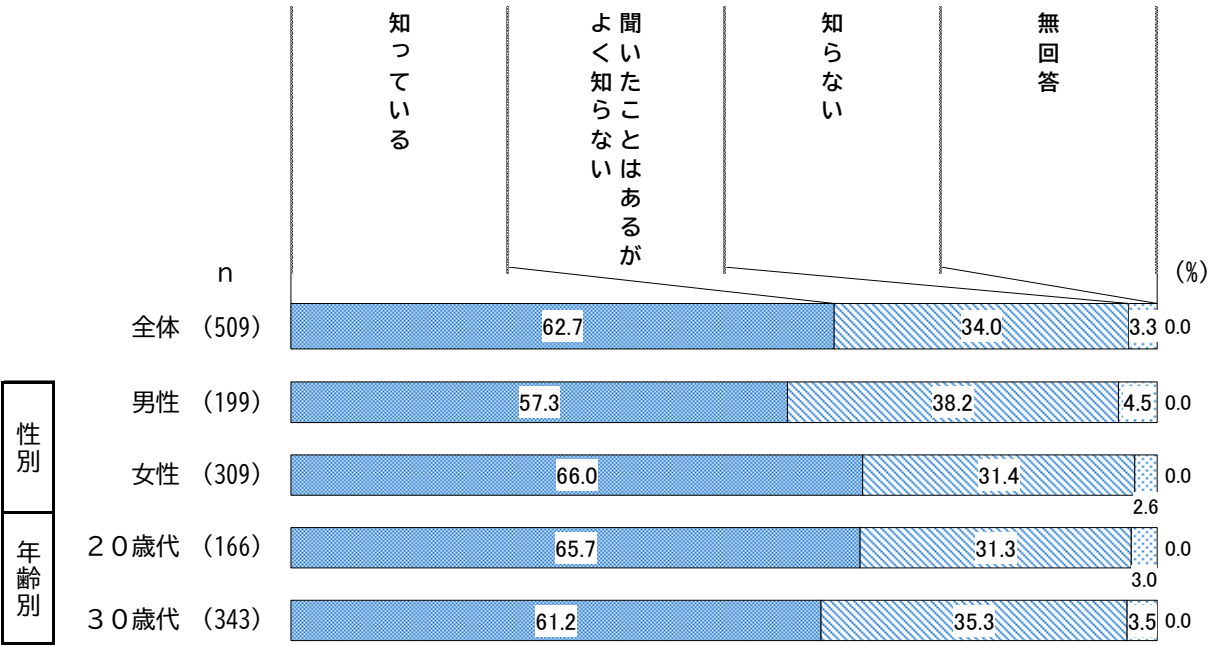
Q：里親制度※を知っていますか。（○は1つ）

※里親制度…様々な事情により家庭で生活することができないお子さんに、温かい愛情と正しい理解をもった家庭環境の下での養育を提供する制度

里親制度の認知度は、「知っている」が62.7%、「聞いたことはあるがよく知らない」が34.0%、「知らない」が3.3%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が8.7ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「聞いたことはあるがよく知らない」が6.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「知っている」は20歳代で65.7%とやや高くなっています。



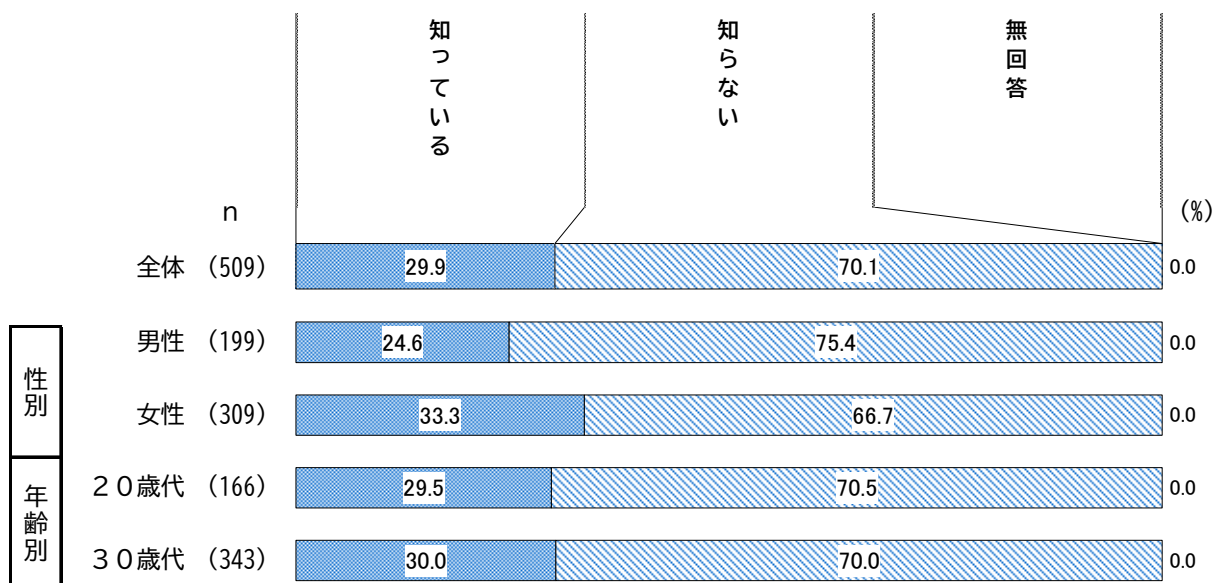
(11) 里親制度で手当や養育費が支給されることの認知度【既婚者調査】

Q：里親制度では、養育期間について、養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費（生活費、学校教育費、医療費など）が、里親に対して支給されることを知っていますか。
（○は1つ）

里親制度では養育する子どもの年齢や人数に応じて、里親手当、養育費が支給されることを知っているかについては、「知っている」が29.9%、「知らない」が70.1%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が8.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、年齢による大きな差はみられません。



(12) 特別養子縁組制度の認知度【既婚者調査】

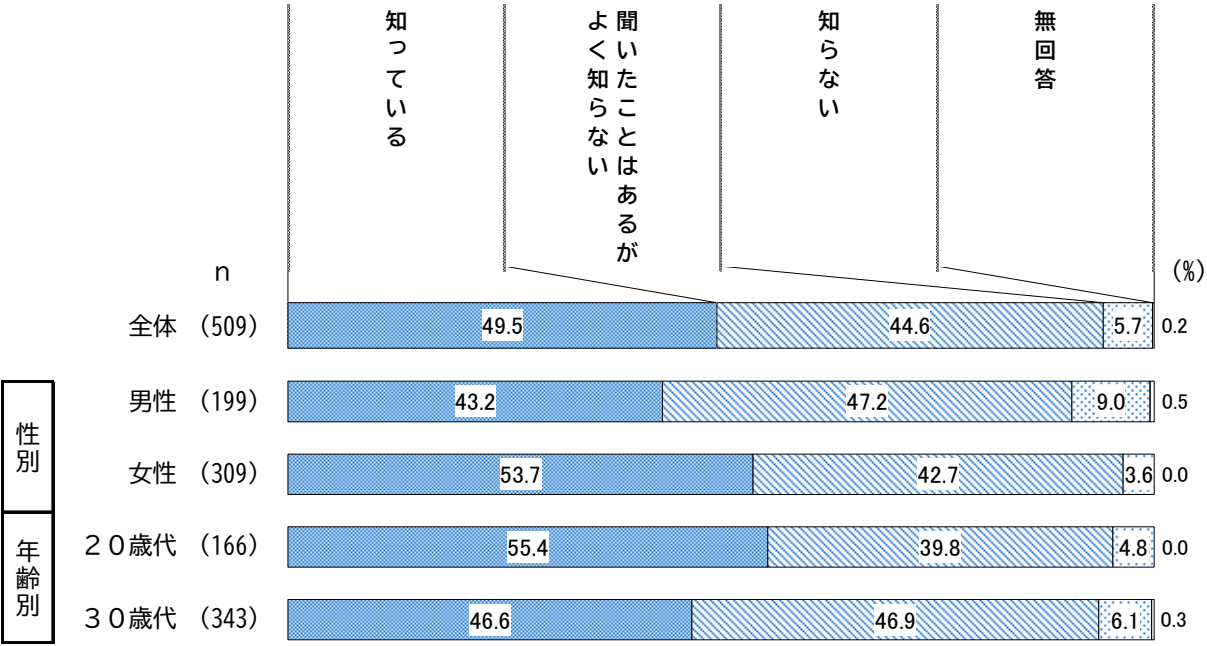
Q：特別養子縁組制度※を知っていますか。（○は1つ）

※特別養子縁組制度…子どもの福祉の増進を図るために、養子となるお子さんの実親との法的な親子関係を解消し、実の子として、新たな親子関係を結ぶ制度

特別養子縁組制度の認知度は、「知っている」が49.5%、「聞いたことはあるがよく知らない」が44.6%、「知らない」が5.7%となっています。

性別でみると、女性は男性よりも「知っている」が10.5ポイント高くなっています。一方、男性は女性よりも「知らない」が5.4ポイント、「聞いたことはあるがよく知らない」が4.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「知っている」は20歳代で55.4%と高くなっています。
一方、30歳代は「聞いたことはあるがよく知らない」が46.9%と高くなっています。



8 少子化対策について

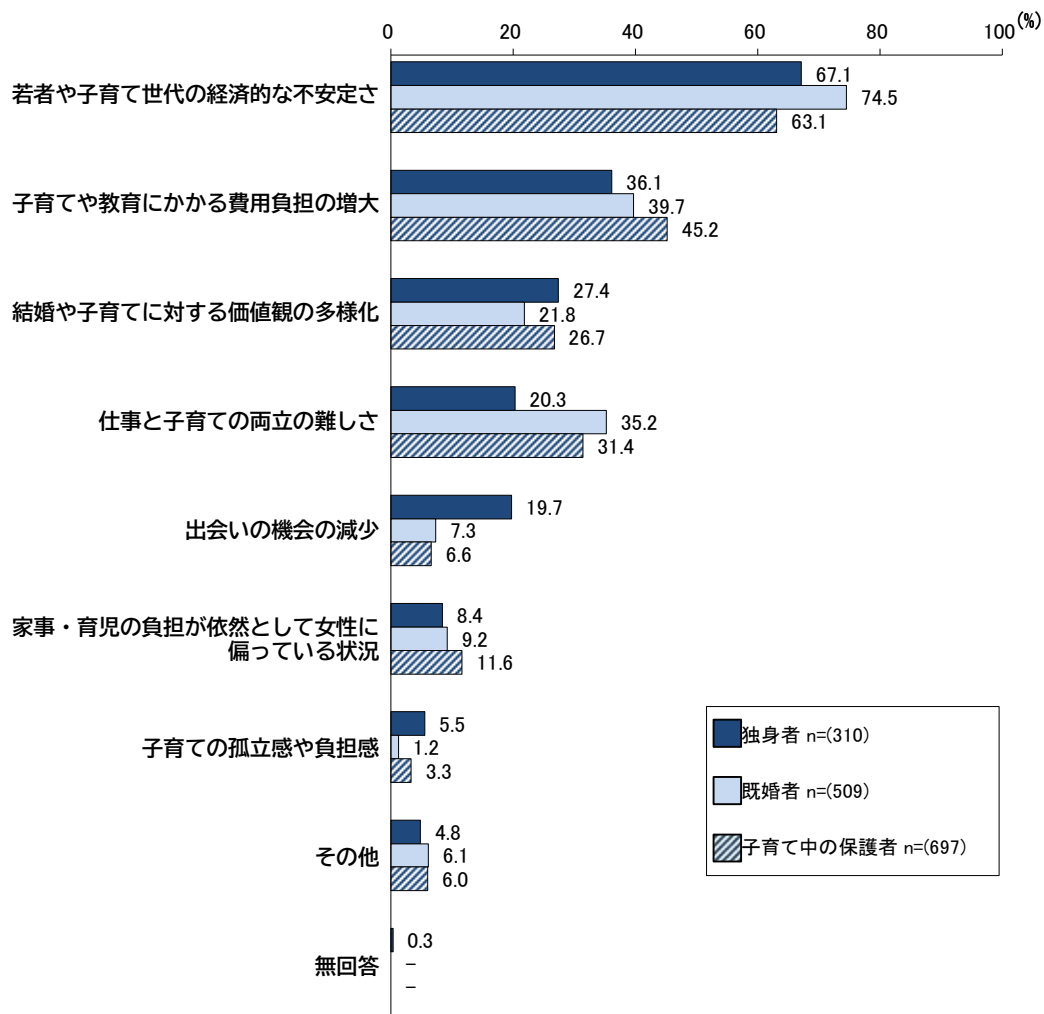
（1）少子化の要因

Q：現在、日本は出生率が低下し、子どもの数が少なくなっていく「少子化」が進んでいます。少子化の要因はどのようなことだと思いますか。（○は2つ）

少子化の要因は、独身者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が67.1%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が36.1%、「結婚や子育てに対する価値観の多様化」が27.4%となっています。

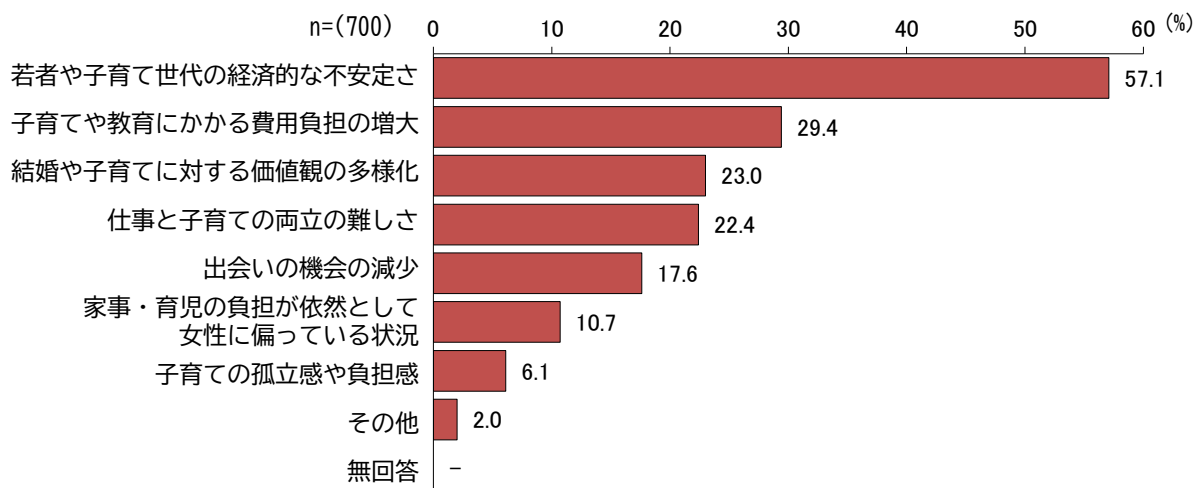
既婚者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が74.5%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が39.7%、「仕事と子育ての両立の難しさ」が35.2%となっています。

子育て中の保護者調査では「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が63.1%で最も高く、次いで「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が45.2%、「仕事と子育ての両立の難しさ」が31.4%となっています。



県調査※との比較

県調査の独身者の結果は、「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」は57.1%となっており、市調査（67.1%）は県調査より10.0ポイント高くなっています。また、「子育てや教育にかかる費用負担の増大」は29.4%となっており、市調査（36.1%）は県調査より6.7ポイント高くなっています。



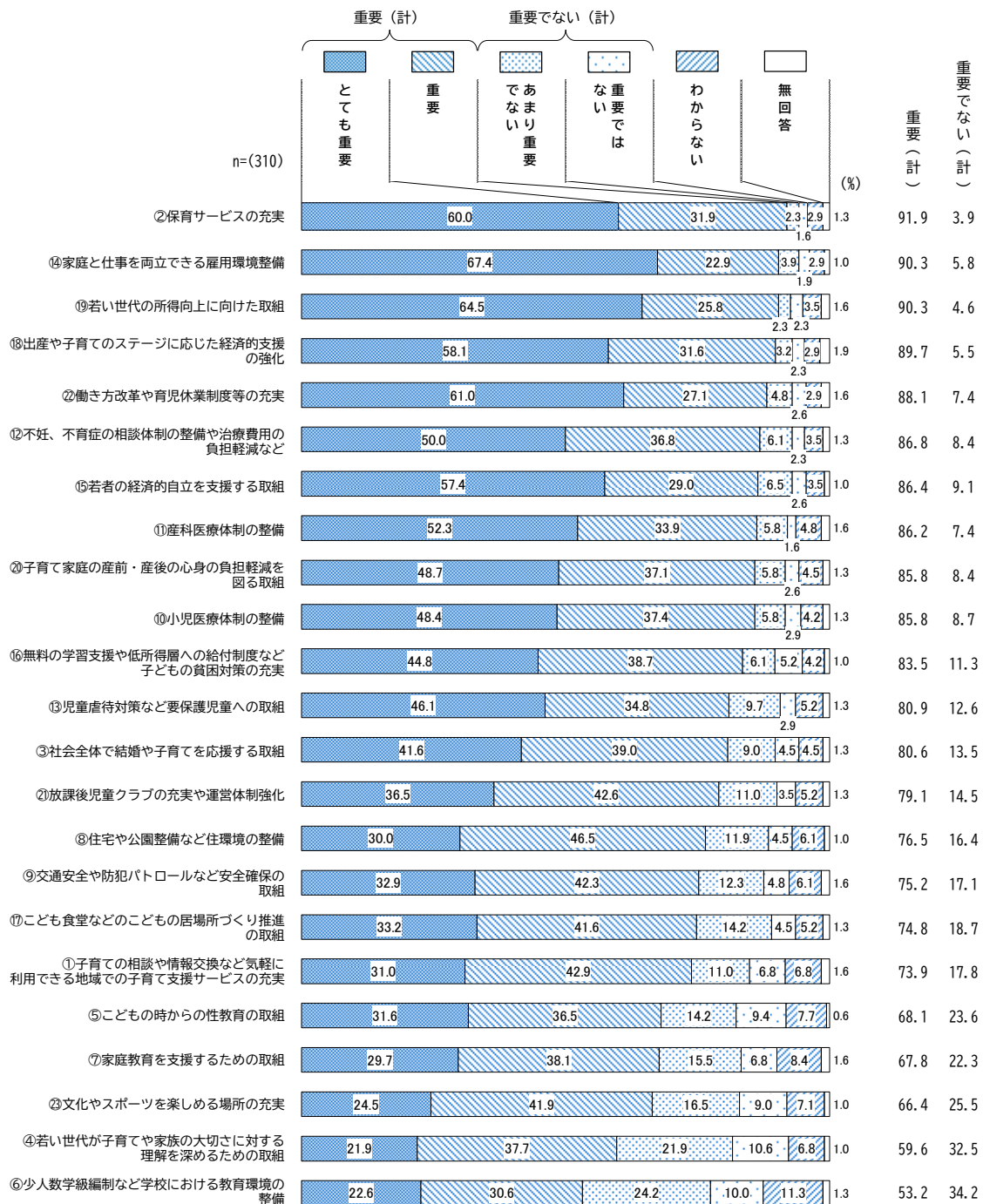
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）

（2）少子化対策としての重要度

Q：次の各施策について、少子化対策としての重要度はどの程度だと思いますか。（○は1つ）

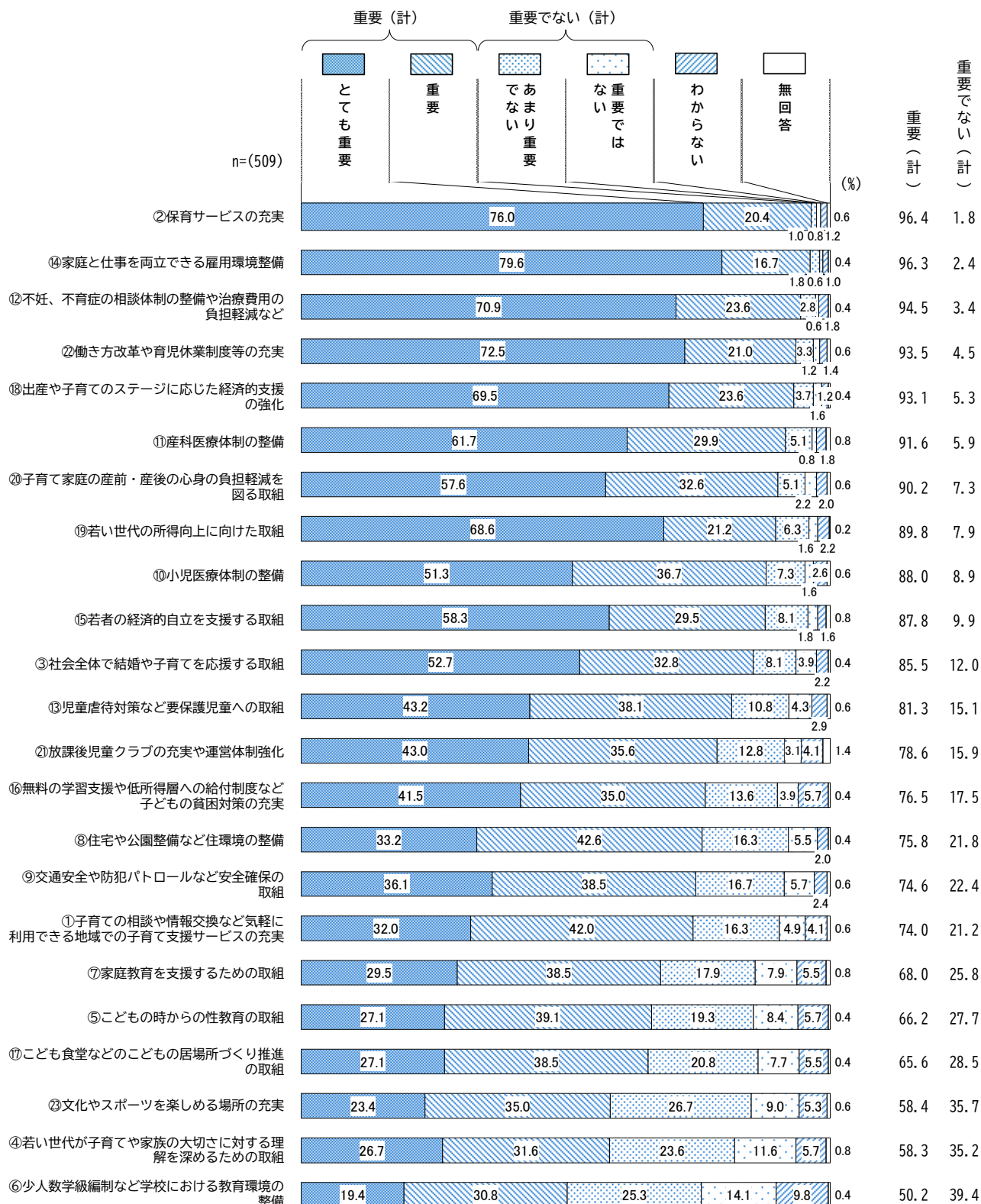
【独身者調査】

少子化対策の重要度については、独身者調査では《重要 計》は“②保育サービスの充実”が91.9%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”と“⑲若い世代の所得向上に向けた取組”が90.3%、“⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化”が89.7%と高くなっています。一方、《重要でない 計》は“⑥少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が34.2%、“④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組”が32.5%、“⑳文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が25.5%と高くなっています。



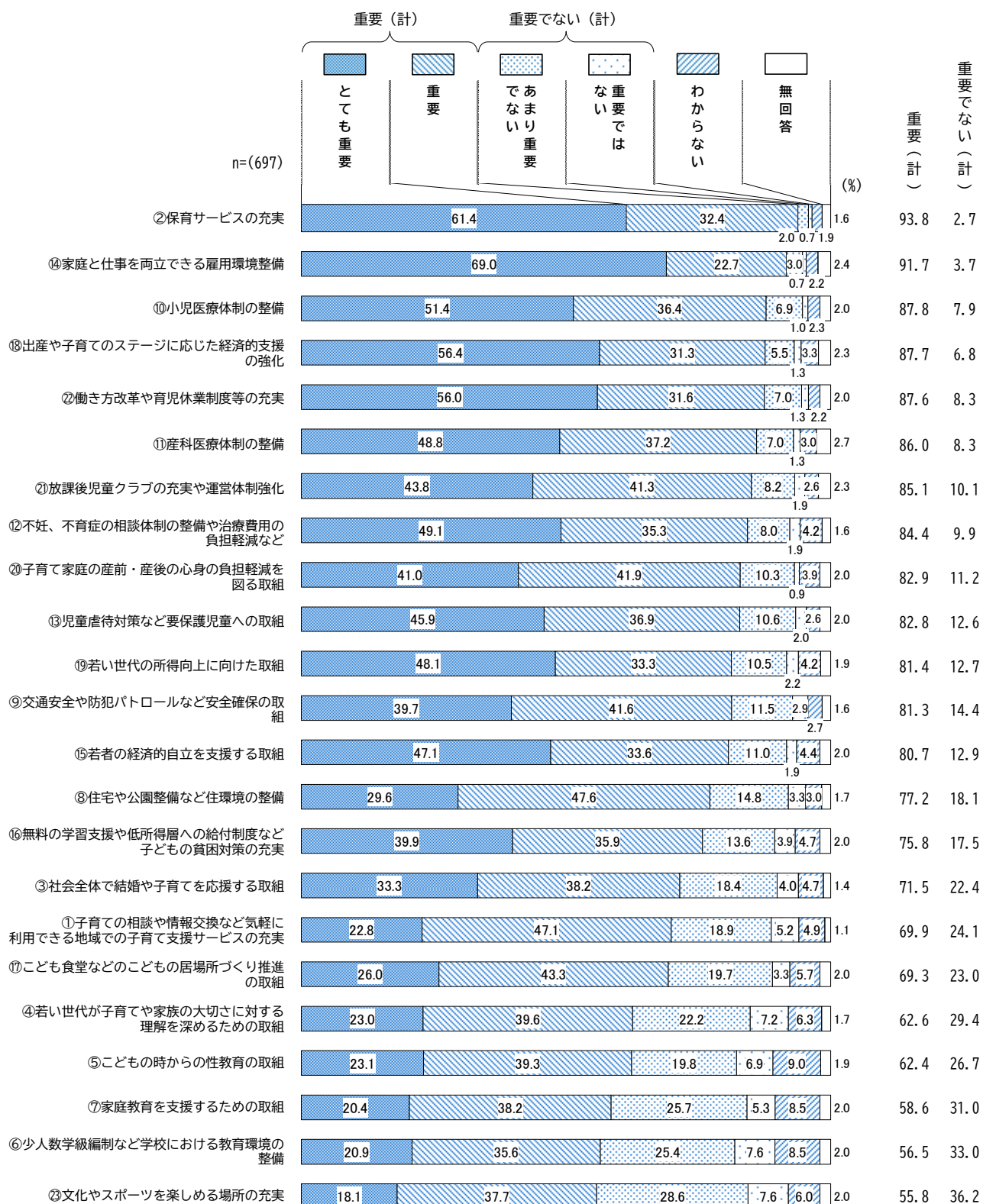
【既婚者調査】

少子化対策の重要度については、既婚者調査では《重要 計》は“②保育サービスの充実”が96.4%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が96.3%、“⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など”が94.5%、“⑳働き方改革や育児休業制度等の充実”が93.5%と高くなっています。一方、《重要でない 計》は“⑥少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が39.4%、“㉓文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が35.7%、“④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組”が35.2%と高くなっています。



【子育て中の保護者調査】

少子化対策の重要度については、子育て中の保護者調査では《重要 計》は“②保育サービスの充実”が93.8%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が91.7%、“⑩小児医療体制の整備”が87.8%と高くなっています。一方、《重要でない 計》は“②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が36.2%、“⑥少人数学級編制など学校における教育環境の整備”が33.0%、“⑦家庭教育を支援するための取組”が31.0%と高くなっています。

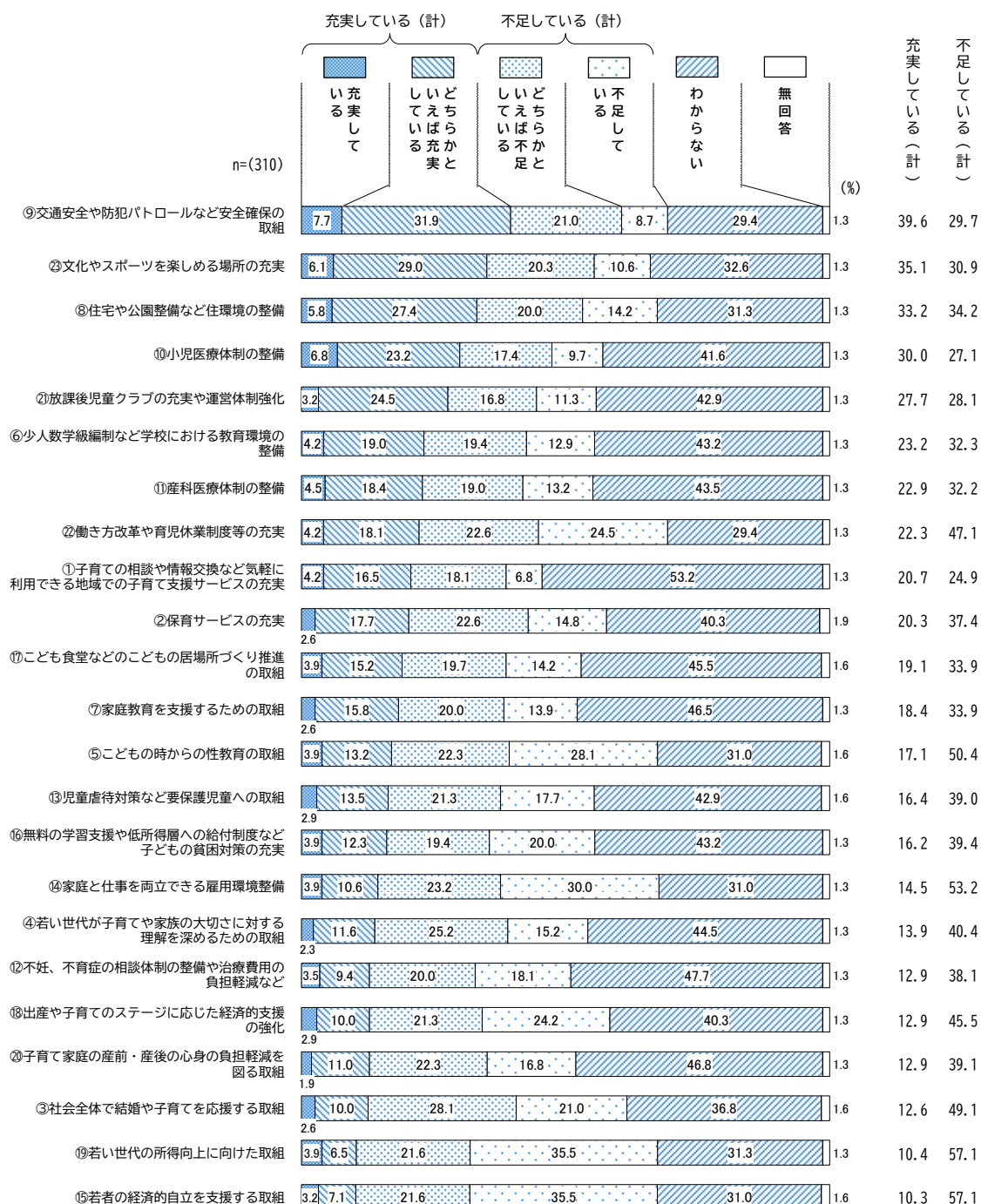


（3）少子化対策の各施策の取組状況

Q：現状の少子化対策の各施策の取り組み状況についてどう思いますか。（○は1つ）

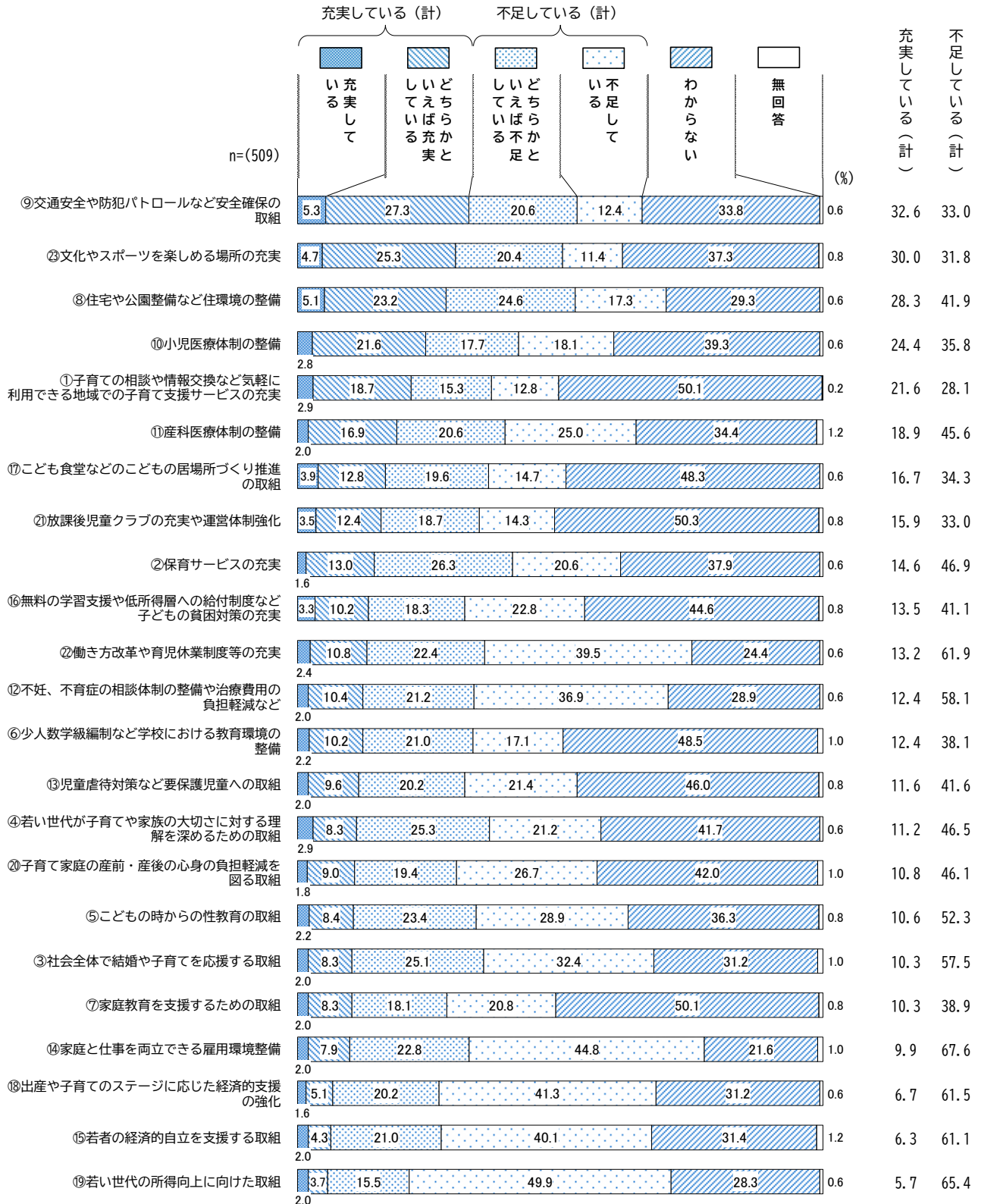
【独身者調査】

少子化対策の取組状況については、独身者調査では《充実している 計》は“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が39.6%、“㉓文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が35.1%、“⑧住宅や公園整備など住環境の整備”が33.2%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑮若者の経済的自立を支援する取組”と“⑩若い世代の所得向上に向けた取組”が57.1%、“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が53.2%、“⑤こどもの時からの性教育の取組”が50.4%と高くなっています。



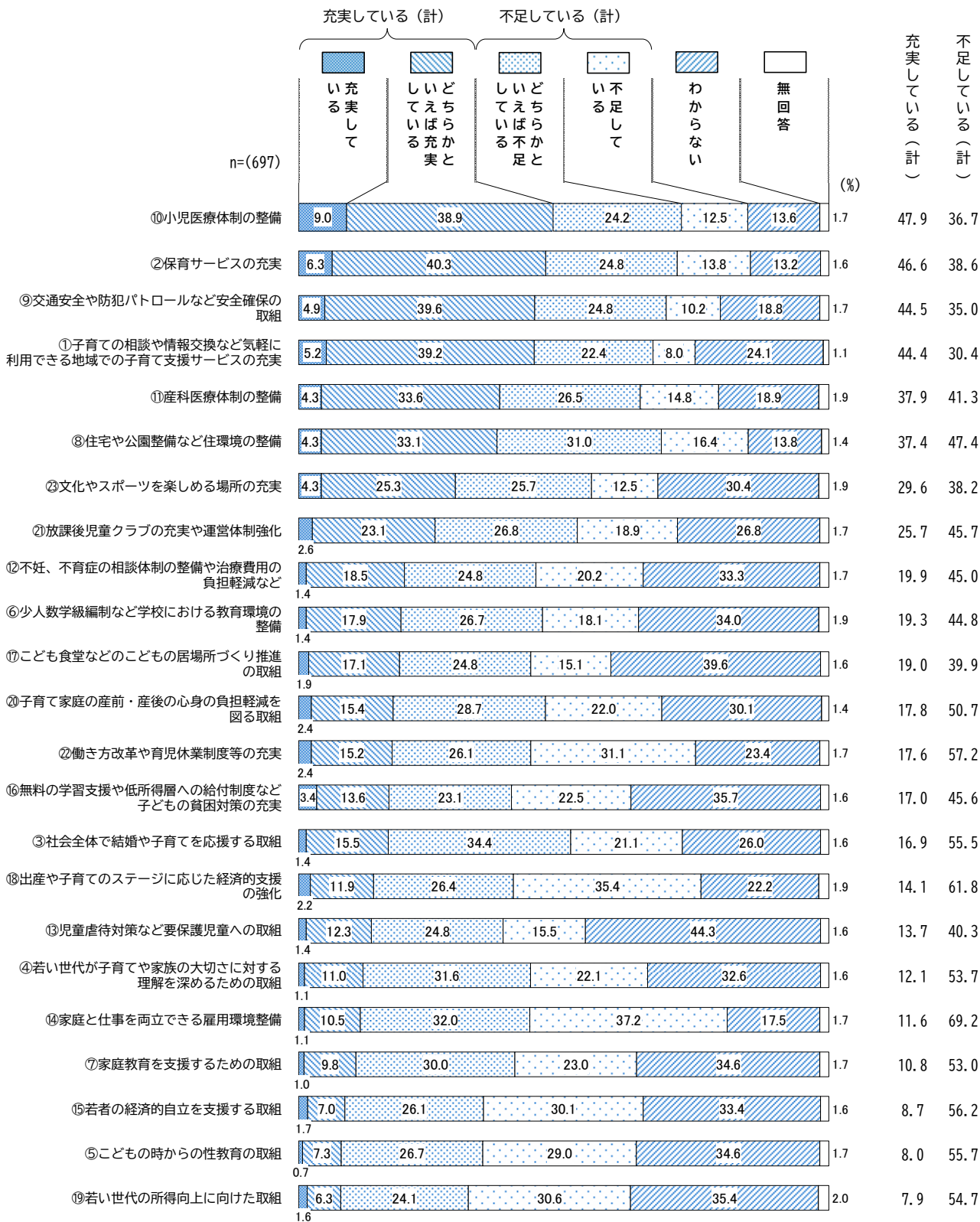
【既婚者調査】

少子化対策の取組状況については、既婚者調査では《充実している 計》は“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が32.6%、“②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実”が30.0%、“⑧住宅や公園整備など住環境の整備”が28.3%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が67.6%、“⑩若い世代の所得向上に向けた取組”が65.4%、“②②働き方改革や育児休業制度等の充実”が61.9%と高くなっています。



【子育て中の保護者調査】

少子化対策の取組状況については、子育て中の保護者調査では《充実している 計》は“⑩小児医療体制の整備”が47.9%、“②保育サービスの充実”が46.6%、“⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組”が44.5%と高くなっています。一方、《不足している 計》は“⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備”が69.2%、“⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化”が61.8%、“②働き方改革や育児休業制度等の充実”が57.2%と高くなっています。



少子化対策の各施策の重要度および取組状況の5段階回答を指標化（※）しました。

※指標化の方法

各項目の回答結果を下表の通りに得点化し、無回答を母数から除き、加重平均により指標化しました。
得点が高いほど、より重要に思っている／充実していることを示しています。

	4点	3点	2点	1点	0点
重要度	とても重要	重要	わからない	あまり重要でない	重要でない
充実度	充実している	どちらかといえば充実している	わからない	どちらかといえば不足している	不足している

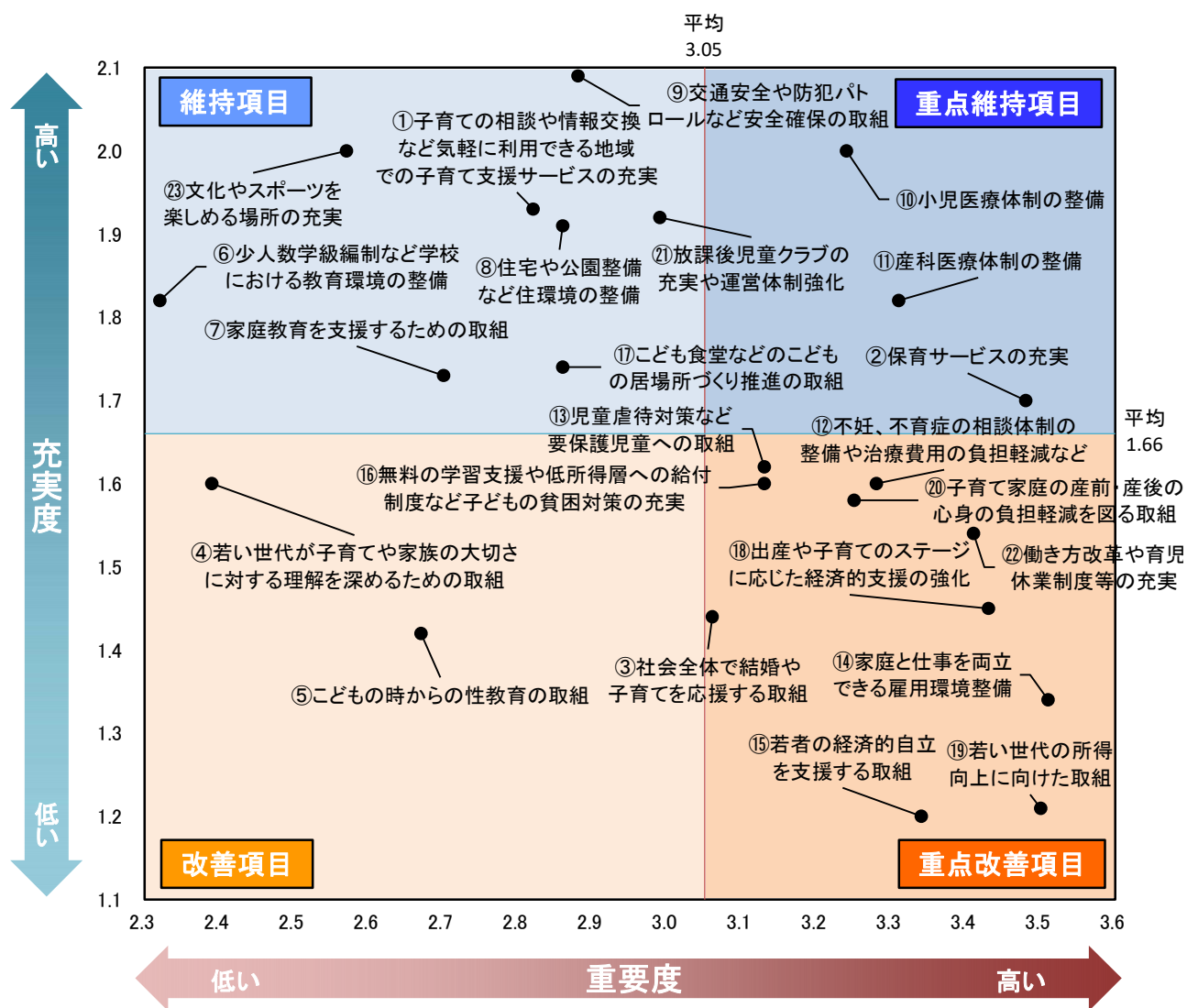
独身者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.51点で最も高く、次いで「⑲若い世代の所得向上に向けた取組」が3.50点、「②保育サービスの充実」が3.48点となっています。

充実度は「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が2.09点で最も高く、次いで「⑩小児医療体制の整備」と「②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実」が2.00点、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が1.93点となっています。一方、「⑮若者の経済的自立を支援する取組」（1.20点）、「⑲若い世代の所得向上に向けた取組」（1.21点）、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（1.34点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【独身者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.51	1.34
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.50	1.21
② 保育サービスの充実	3.48	1.70
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.43	1.45
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.41	1.54
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.34	1.20
⑪ 産科医療体制の整備	3.31	1.82
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.28	1.60
②⑩ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.25	1.58
⑩ 小児医療体制の整備	3.24	2.00
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.13	1.62
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	3.13	1.60
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.06	1.44
②① 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	2.99	1.92
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.88	2.09
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.86	1.91
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.86	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.82	1.93
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.70	1.73
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.67	1.42
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.57	2.00
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.60
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.32	1.82

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低いが、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「⑩小児医療体制の整備」、「⑪産科医療体制の整備」、「②保育サービスの充実」の3項目となっています。また、重要度が低いが充実度が高い“維持項目”は、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」など8項目が該当しています。

一方、重要度が高く充実度が低い“重点改善項目”は、「㉒働き方改革や育児休業制度等の充実」、「㉑出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」など10項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑤こどもの時からの性教育の取組」、「④若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組」の2項目となっています。

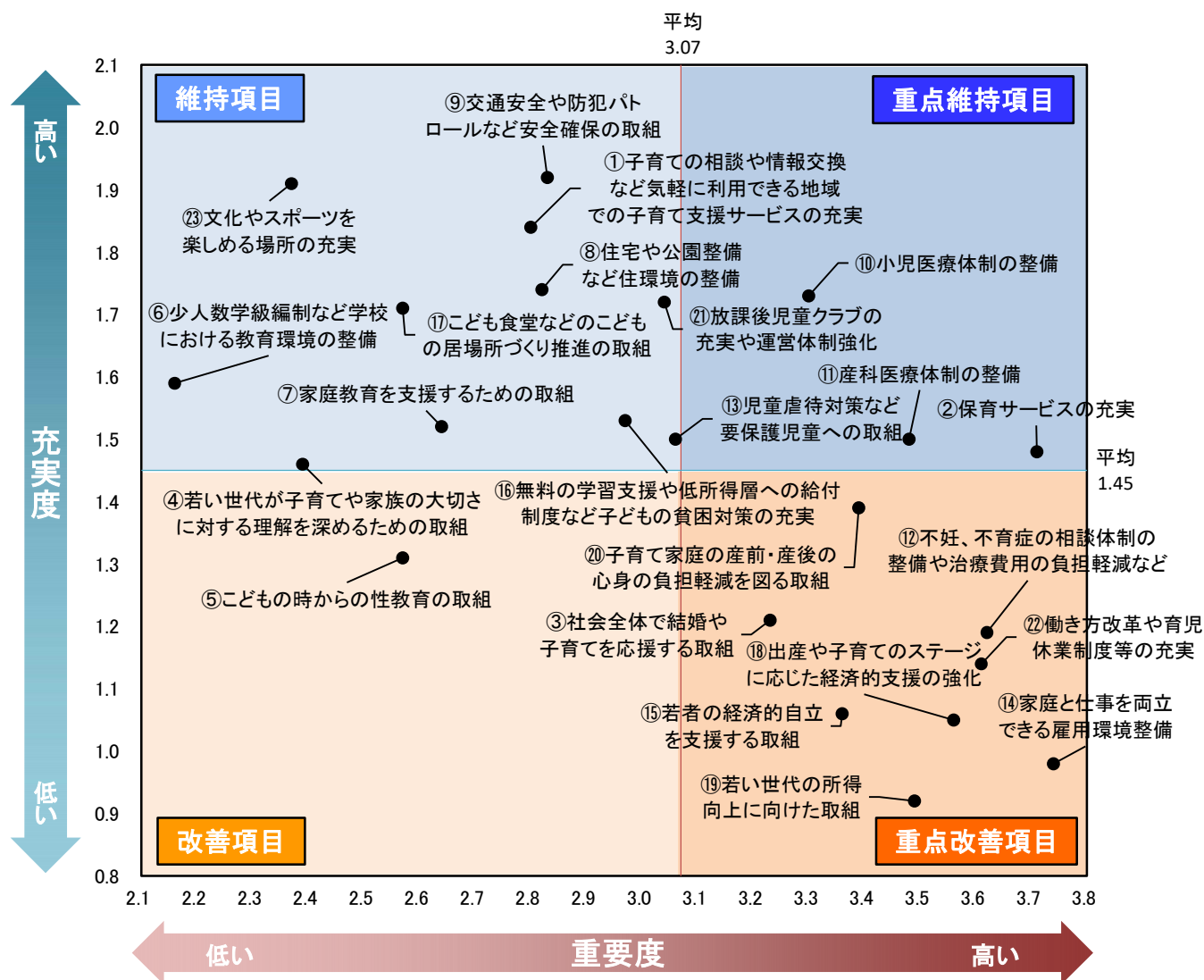
既婚者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.74点で最も高く、次いで「②保育サービスの充実」が3.71点、「⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」が3.62点となっています。

充実度は「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が1.92点で最も高く、次いで「②③文化やスポーツを楽しめる場所の充実」が1.91点、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が1.84点となっています。一方、「⑩若い世代の所得向上に向けた取組」（0.92点）、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（0.98点）、「⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」（1.05点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【既婚者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.74	0.98
② 保育サービスの充実	3.71	1.48
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.62	1.19
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.61	1.14
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.56	1.05
⑩ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.49	0.92
⑪ 産科医療体制の整備	3.48	1.50
②⑩ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.39	1.39
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.36	1.06
⑩⑩ 小児医療体制の整備	3.30	1.73
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	3.23	1.21
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.06	1.50
②① 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.04	1.72
⑩⑥ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.97	1.53
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	2.83	1.92
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.82	1.74
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.80	1.84
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.64	1.52
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.57	1.31
①⑦ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.57	1.71
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.39	1.46
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.37	1.91
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.16	1.59

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低い、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「⑩小児医療体制の整備」、「⑪産科医療体制の整備」、「②保育サービスの充実」の3項目となっています。また、重要度が低い、充実度が高い“維持項目”は、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」など11項目が該当しています。

一方、重要度が高く、充実度が低い“重点改善項目”は、「②0子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組」、「③社会全体で結婚や子育てを応援する取組」など8項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑤こどもの時からの性教育の取組」の1項目となっています。

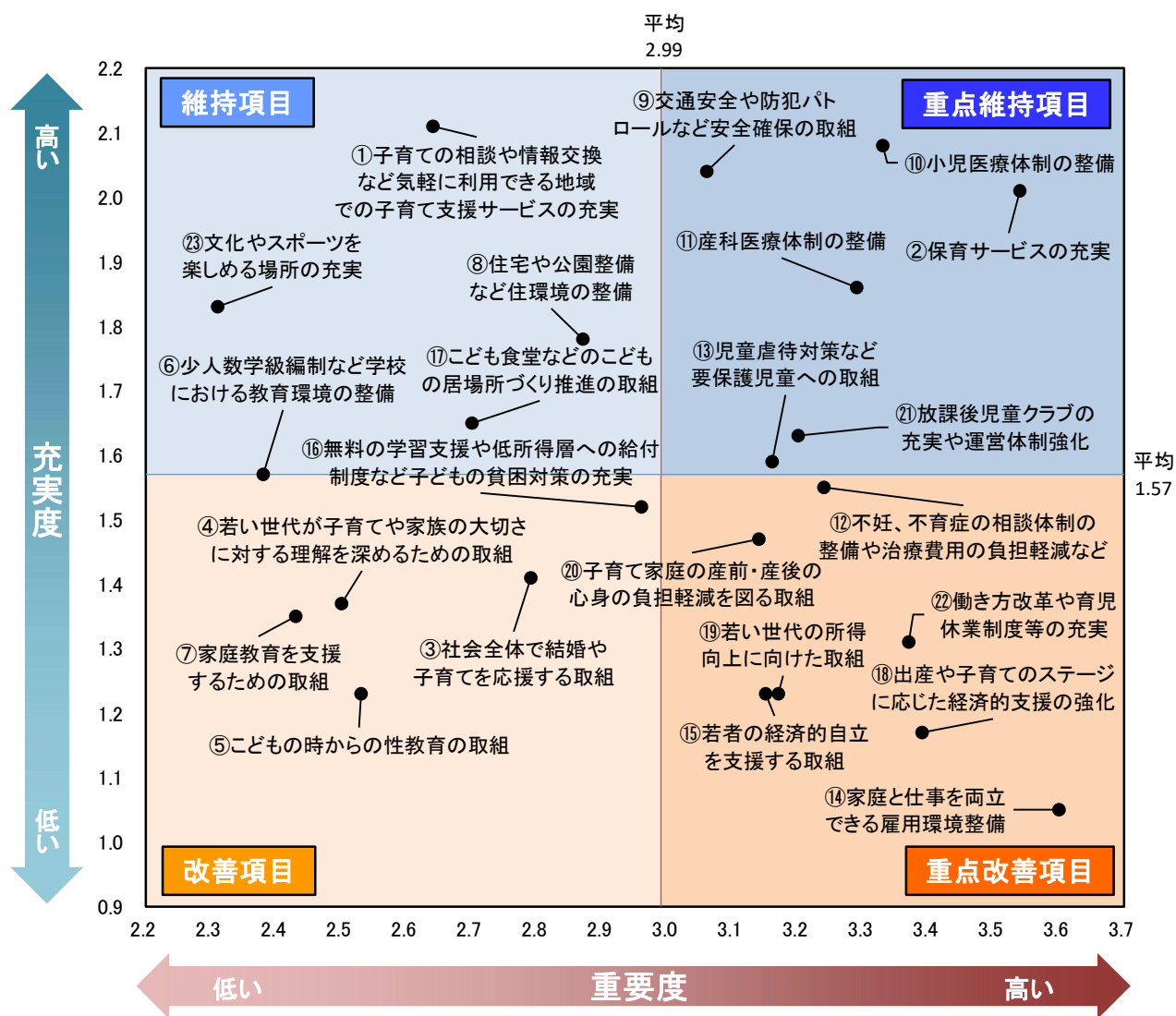
子育て中の保護者調査では結果、重要度は「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」が3.60点で最も高く、次いで「②保育サービスの充実」が3.54点、「⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」が3.39点となっています。

充実度は「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」が2.11点で最も高く、次いで「⑩小児医療体制の整備」が2.08点、「⑨交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組」が2.04点となっています。一方、「⑭家庭と仕事を両立できる雇用環境整備」（1.05点）、「⑱出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化」（1.17点）は低くなっています。

重要度・充実度の加重平均【子育て中の保護者調査】

	重要度	充実度
⑭ 家庭と仕事を両立できる雇用環境整備	3.60	1.05
② 保育サービスの充実	3.54	2.01
⑱ 出産や子育てのステージに応じた経済的支援の強化	3.39	1.17
②② 働き方改革や育児休業制度等の充実	3.37	1.31
⑩ 小児医療体制の整備	3.33	2.08
⑪ 産科医療体制の整備	3.29	1.86
⑫ 不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など	3.24	1.55
②④ 放課後児童クラブの充実や運営体制強化	3.20	1.63
⑲ 若い世代の所得向上に向けた取組	3.17	1.23
⑬ 児童虐待対策など要保護児童への取組	3.16	1.59
⑮ 若者の経済的自立を支援する取組	3.15	1.23
②⑩ 子育て家庭の産前・産後の心身の負担軽減を図る取組	3.14	1.47
⑨ 交通安全や防犯パトロールなど安全確保の取組	3.06	2.04
⑯ 無料の学習支援や低所得層への給付制度など子どもの貧困対策の充実	2.96	1.52
⑧ 住宅や公園整備など住環境の整備	2.87	1.78
③ 社会全体で結婚や子育てを応援する取組	2.79	1.41
⑰ こども食堂などのこどもの居場所づくり推進の取組	2.70	1.65
① 子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実	2.64	2.11
⑤ こどもの時からの性教育の取組	2.53	1.23
④ 若い世代が子育てや家族の大切さに対する理解を深めるための取組	2.50	1.37
⑦ 家庭教育を支援するための取組	2.43	1.35
⑥ 少人数学級編制など学校における教育環境の整備	2.38	1.57
②③ 文化やスポーツを楽しめる場所の充実	2.31	1.83

重要度を横軸、充実度を縦軸として設定し、プロットした結果が、下図の通りです。



重点維持項目	重要度が高く、充実度も高いことから、今後もより重点的に維持（充実）すべき項目
維持項目	重要度が低い、充実度が高いことから、現状を維持すべき項目
重点改善項目	重要度が高く、充実度が低いことから、重点的に改善すべき項目
改善項目	重要度が低く、充実度も低いことから、優先度は低い改善すべき項目

重要度及び充実度の平均値で区切った4つのグループに分類すると、重要度、充実度がともに高い“重点維持項目”は、「②保育サービスの充実」、「⑩小児医療体制の整備」など6項目となっています。また、重要度が低い、充実度が高い“維持項目”は、「①子育ての相談や情報交換など気軽に利用できる地域での子育て支援サービスの充実」など5項目が該当しています。

一方、重要度が高く、充実度が低い“重点改善項目”は、「⑫不妊、不育症の相談体制の整備や治療費用の負担軽減など」、「⑭働き方改革や育児休業制度等の充実」など7項目が該当しています。また、重要度も充実度も低い“改善項目”は、「⑦家庭教育を支援するための取組」など5項目となっています。

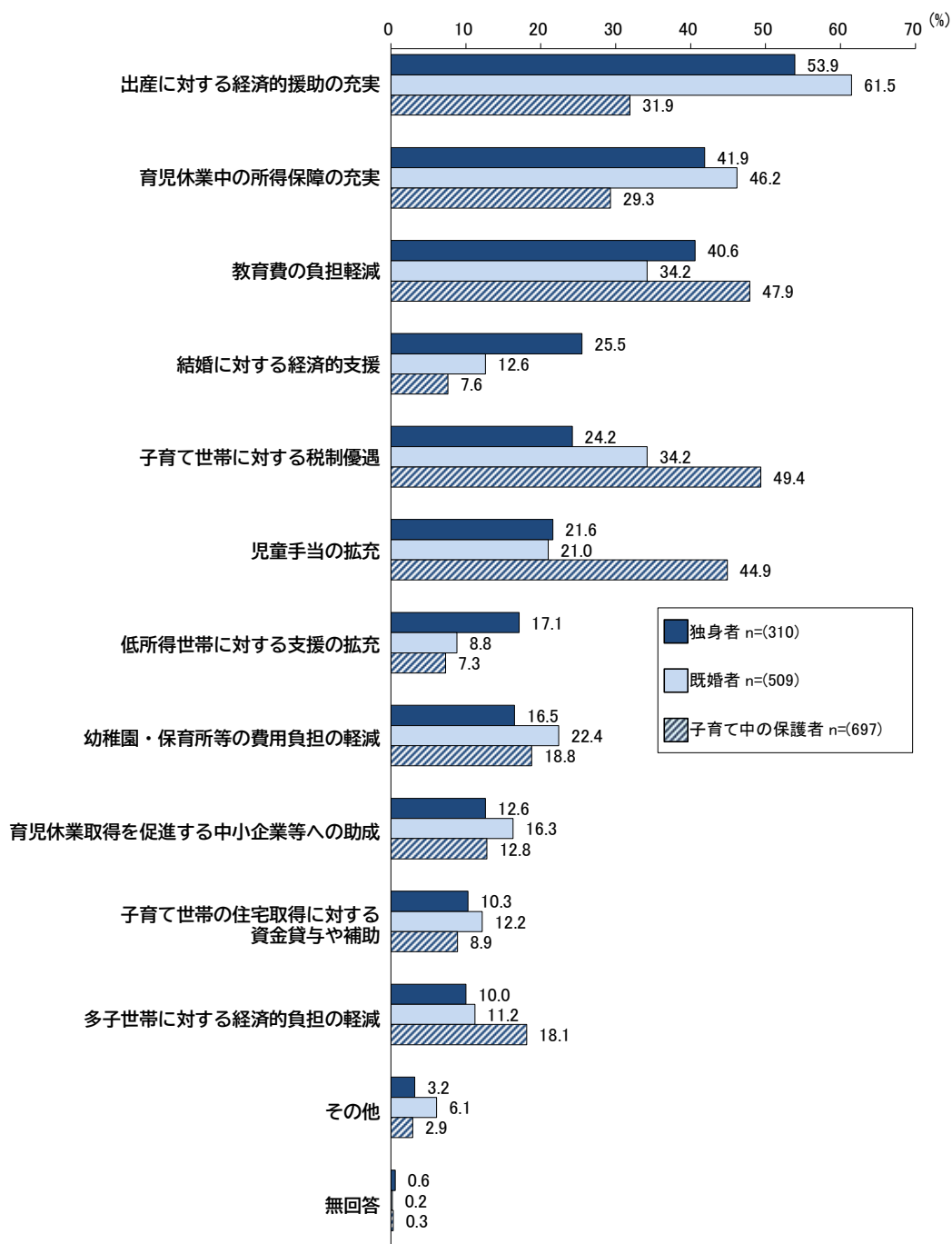
（4）少子化対策として必要な経済的支援

Q：あなたは少子化対策としてどのような経済的支援が必要だと思いますか。（○は3つ）

少子化対策として必要な経済的支援は、独身者調査では「出産に対する経済的援助の充実」が53.9%で最も高く、次いで「育児休業中の所得保障の充実」が41.9%、「教育費の負担軽減」が40.6%となっています。

既婚者調査では「出産に対する経済的援助の充実」が61.5%で最も高く、次いで「育児休業中の所得保障の充実」が46.2%、「教育費の負担軽減」と「子育て世帯に対する税制優遇」が34.2%となっています。

子育て中の保護者調査では「子育て世帯に対する税制優遇」が49.4%で最も高く、次いで「教育費の負担軽減」が47.9%、「児童手当の拡充」が44.9%となっています。



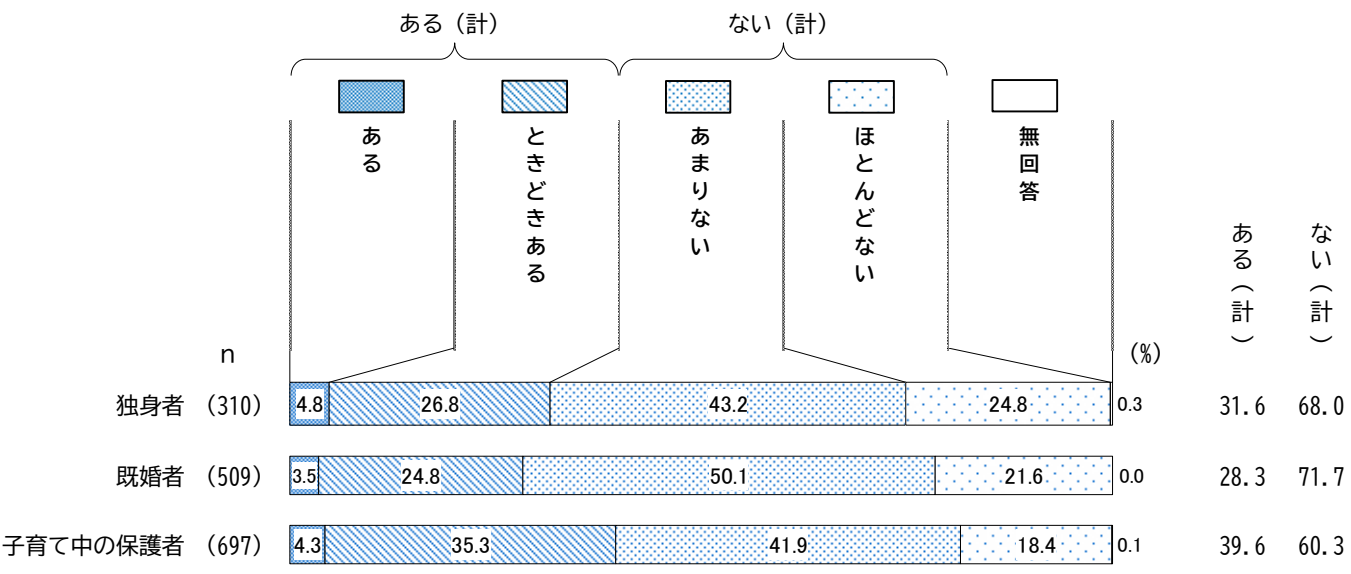
（5）行政施策に意見が反映されている実感

Q：結婚、妊娠・出産、子育てや少子化対策について、自身が考える対策や施策を、行政が取り組んでいる実感はありますか。（○は1つ）

行政の施策に対して自身の意見が反映されている実感は、独身者調査では「ある」と「ときどきある」を合わせた《ある 計》は31.6%、「あまりない」と「ほとんどない」を合わせた《ない 計》は68.0%となっています。

既婚者調査では、《ある 計》は28.3%、《ない 計》は71.7%となっています。

子育て中の保護者調査では、《ある 計》は39.6%、《ない 計》は60.3%となっています。



（6）日頃の考えや行政に対する要望等

Q：子育て支援や少子化対策について、日頃お考えのことや行政に対する要望等がありましたらご自由にお書きください。（自由記載）（結婚支援、妊娠・出産支援、子育てに係る精神的支援、経済的支援以外の取組等）

市への意見・要望等を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

▼労働環境・就業支援について

独身者
・個人事業主にも目を向けた対策をしてほしい。独立開業したいけどそれをした後の出産は不安しかない。結婚してたととしても相手の収入が安定しているとも限らない。男性は出産にあたり働けない期間は無いが、女性は働けない期間が必ずできてしまう。その部分の補償があると前向きに考えられると思う。
既婚者
・企業側も結婚や出産が想定される若い女性を雇用することが負担にならない仕組みがあると望ましいと思う。特に中小企業では産休、育休に伴い不足した人材の確保なども簡単ではないはず。その不安が取り除ければ若い女性を積極的に雇用する企業も増えるのではないか。女性の正規雇用が増えることが少子化対策にもつながると思う。 ・ここ数年で育児休暇を取得する男性が増えてきた印象がある一方で、その中でも1年以上の育児休暇を取得する方、復職時に時短勤務を選択する方は非常に少なく感じる。それぞれの家庭で考え方や選択が異なることはあると思うが、産休・育休を取得することに伴う収入減の不安やキャリアの選択肢が狭まる懸念がその選択を妨げることがないよう、制度の充実を望む。また、同僚の様子などを見ていると、休暇に入ることによる周囲への負担を心配して休暇の取得を躊躇される方も多く感じている。また、残念ながら実際に他の従業員に多くの負担がかかるのも現実にある。仕事のカバーをする側のモチベーションにつながり、お休みされる方の心理的負担も軽減するように、産休・育休に入る方の仕事のカバーをする従業員へのインセンティブが充実するような制度、またはそれを助成するような制度があるとうれしく思う。 ・群馬県の中小企業において、事務職女性の仕事の賃金が低いと思う。それに見合った仕事の質をみての金額もあるが、この金額では、子育てを諦める方やお子さん1人で精一杯のご家庭も増えてくるのではないかと考える。現在の私も今後授かる前からその不安がある。物価上昇や税金が高くなる中で、それぞれの企業の中での賃金の話はあるが、群馬県や市からの要請の一声が必要だと感じた。 ・時短勤務について、同僚への負担が増えるので、躊躇してしまう。時短勤務について、補助人員を増やす補助等あれば、職場の負担が減ると思う。
子育て中の保護者
・仕事復帰後、子供が病気になった時に仕事が休みづらい。夫の育休はいらなから、子供が病気の時に夫が会社を休む選択肢もあるということがもっと一般的になって欲しい。 ・私の場合、群馬で仕事をしつつ実家が会社経営をしていて役員として在籍しているので金銭面は困っていないが、所謂一般的な家庭の場合は子供に関わる一切の費用を公費で負担しないとやっていけないだろうと思う。1年前に雇用先で育休を取得したが、会社規定で1週間と言われたが自分で調べて1年は取れると説明して、ようやく取得できた。人手不足のため仕方ないと思うが、悪意のある会社には率先して罰すべきと思う。

▼労働環境・就業支援について（続き）

子育て中の保護者
・30代半ばで初めての出産となると、順調だった仕事が今までと同じようにはできないことをとても強く実感する。仕事が好きな人は、キャリアと出産を天秤にかけキャリアをとる人も多いと思うし、2人目を考える人は少ないように思う。個人事業主は育休などの補助がないため、産後できるだけ早く仕事復帰しないと収入ゼロなので生活していけない。仕事復帰しやすい環境や、育休など補助がない個人事業主も不安を拭えるような給付や手当があれば、気持ちに余裕もうまれて子供を産んでも大丈夫だと思える環境になれば少子化も少しはマシになるのではないだろうか。 ・出産して、女性が元のキャリアに戻るのは現実的に厳しい。保育園や幼稚園も待機児童がいらないと言いながら、入れていない人が現実で周りにいる。そうすると仕事復帰もしたくてもできない。出産一時金の料金をあげたりそういうことで少子化対策にはなっていない。もちろんその一時金は助かっているが、その後もお金がたくさんかかるし女性に負担が大きいから子供を持たなくていいと言う人が増えている。

▼男女平等意識について

独身者
・小さい頃からの性教育や男女の公平さについて教育するなどが重要だと思う。 ・あらゆる面で、女性の権利がないがしろにされていると感じる。
既婚者
・漠然と子どもを積極的に産みたいと思える世の中ではない気がする。金銭的な不安もあるが、女性の社会進出の割にはまだまだ男女で子育ての負担の差がある様に思う。しかし、女性が働かずにゆとりを持って暮らせる世帯がどれくらいあるのか。世の中の世帯年収と子育てにかかる費用を平均値や中央値でなく見直して欲しい。その上で計画を立てて欲しい。 ・現在の物価高の日本では男女共に正社員で働かないと生活が成り立たないが、女性は長くても子供が小学1年生になるとときには時短勤務から正社員に戻らなくてはならず仕事との両立が厳しい。結果的に経済的な問題につながる。（職場でお子さんがいる社員は実際残業が多く保育園にお迎えに行けない場面などを多く見る）周囲を見ていると女性の仕事と育児の両立の課題、経済的な問題が1番影響していると思う。 ・働いていると男女平等は難しいと思う。出産すれば女性への負担は仕方ないこと。それでも、現状女性も働かなければ金銭的に厳しい世の中だと思う。
子育て中の保護者
・女性側に負担が大きいのが少子化を進めている。多くの女性が共働きをしているのに、家事育児はかなりの割合を女性が担っている。男性が育休をとっても、家事スキルが無かったり、そもそもやる気が無かったり、何の助けにもならないどころか逆に家にいる事で女性の負担が増える事もあるので、男性の学校時代からの（家事育児は男女でという）意識付けやスキルを身に付けさせる事も必要だと思う。 ・家族の1人が働いてみんなが満足して暮らせるように、賃金をもらえればいいと思う。働くのは男性でも女性でもよくて、パパが家で子育てしても女性がしてもよいと思う。2人とも働きながら中途半端にお休みをとろうとするからやり辛いのだと思う。それも男女平等なのではないかと思う。労働力が足りないともいいますが、例えば家庭に親が1人いれば、こども園や学童はそれほど必要ないですし、学校にも色々協力できて、子どもも安心すると思う。

▼ワーク・ライフ・バランスについて

独身者
・仕事と育児の両立が難しく、女性はどうしても出産することで社会的立場を失い、家庭内所得も減ってしまうことで育児をしにくい環境に感じる。低所得者やシングルマザーは優遇措置を取られるが、税金をしっかりと払って所得も並々の中間層、かつ子育てをしている世帯は生活をしているのが厳しいと感じている。若者の間で子供をもつ＝高所得の方程式が成り立っているのも、子育て世帯は税金を多少なりとも免除するなど、対策をしないと今後も少子化は進む一方だと思う。 ・認可保育園に入れたくても仕事していないとなかなか入れない。仕事したくても保育園が決まらなないと仕事を探せない。企業保育があるところは極わずか。まだまだ残業ありきの職場で正規雇用だと定時あがりができない、保育園は早く終わってしまう。自分がリフレッシュしたくても保育園は仕事が休みだと見てくれない、新たにお金を払ってまで預けてるほど金銭的な余裕があるわけではない。ママ同士で気分転換にご飯に行きたくても静かにできない遊び盛りの子どもを歓迎してくれる飲食店はない。
既婚者
・子育て支援と少子化対策とは、異なる項目になると思うが、子育て支援においては就学前の保護者の仕事との両立が大切であると考えている。つまりは、社会的に子育てに対する認識と、制度によって子供を育てることに対しての、安心を得られる施策が必要。また、それらが実際の保護者や、子どもに関わる仕事の現場に生きてくるものにして欲しい。数字上での達成度ももちろん必要であるが、保護者と働く人たちの満足度をあげていくためのサイクルをしていくと、より子育てに対して積極的に関わっていけるのではないかなと思う。
子育て中の保護者
・子育てと仕事を両立したいと思っても子どもの体調不良でまもなく、仕事に専念できない現実がある。出産前のようにやりがいを持って仕事に取り組みたいのに歯がゆい。さらに保育料も高額で、しかも現状の制度では(働けば働くほど年収が増えれば)負担が増え、身も心もすり減らして働くことに疑問を感じてしまう。とは言え子育てにお金はかかるので仕事を諦めることもできない。保育園はとてめえありがたいと思うが、病気時に利用できるサービスがないとやっぱり厳しいと感じる。祖父母に頼れる人ばかりではない。 ・仕事と育児、家事を両立しなくちゃいけないのに結婚すると保護者会や育成会、地域の活動など一気に負担が増す。地域で子どもをサポートしていこうというがそれを負担するのはその保護者。長時間拘束されるくらいなら、お金を払ってでも業者を雇ってほしいと思う。 ・片親での仕事しながらの育児が難しい。実質ひとりでは家事育児しながら充分な給料を受け取ることが出来るだけの仕事をこなす事は無理だと思う。

▼社会制度について

独身者
・現状どのような支援が受けられるか分からないので、チラシや Web で分かりやすく伝えて欲しい。 ・非課税世帯などの限定的な改革ではなく世帯同一の改革、兵庫県明石市モデルのような取り組みで前橋市がより魅力的で住みやすい街になることを望んでいる。 ・少子化対策として、今の世代に子を産ませることを促すのではなく、今現在いる子ども達を守らなければならないと思う。日本は若年層の自殺率が圧倒的に高い。また、虐待に対する取り組みなども不足していると考えたため、踏み込んだ介入が必要だと感じる。子ども及びその家族を守るには、社会全体の理解と協力が必要であるため、1人1人の意識改革的なことも大事だと思う。経済的に支えることも重要だが、安心して妊娠・出産・子育てするには、社会全体の基盤づくりが必要だと思う。

▼社会制度について（続き）

既婚者
・ホームページなどには調べたら支援のことは載っているのかもしれませんが、そもそも知らないと調べるに至らない気がする。なので、広報やラジオ、テレビなどで、こんな取り組みをしています、という情報を流していただけるといざという時に情報が得やすいのかと思う。もうやっていることかと思うが、目にする機会を増やしていただくと違うのかなと思う。
子育て中の保護者
・例えば高学歴な人、所得がある人などの様に少し余裕がある人ほど結婚、出産等をリスクと捉えているように感じる。低所得の人が結婚、出産、子育てをする時にベーシックインカムのような制度があると低所得だからこそ勢いでいけるのではないかな？多様化が進む現代においては人々の普通や当たり前は通用することはないと思う。 ・行政は本当に少子化を改善しようとしているのかわからない。国も地方自治体も真剣に解決しようとするような制度や施策を打ち出していないように感じる。 ・非課税世帯への金銭のばら撒きなど、一定の人しか恩恵が得られないような制度ではなく、子育て中の全世帯が安心して育児ができるような制度と環境整備を進めてほしい。前橋市も明石市や流山市のような子育て支援制度を拡充させてほしい。

▼地域力・治安について

既婚者
・地域力がないと感じる。地域の人さえも不審者扱いされるので、地域で子育てができる昔のような環境に憧れる。 ・もし子供を授かったら、将来的にベビーカー移動や子供と手を繋いで歩くことが容易な、歩行者に優しい街になれば良いなと考えている。中高生の自転車事故率が高いことについても、不安がある。 ・キャッチボールすらできない公園が増えていることに疑問を感じる。教育現場における子どもへの指導も、学校の価値観によって外国人の文化さえも統制されてしまうこともある（ピアスなど）。髪型や制服、鞆などのつまらない校則も教育委員会全体で見直しを図って欲しい。 ・高崎市との比較になってしまうが、育児環境としては魅力が少ないと思う。
子育て中の保護者
・前橋市に住んで思うのは、公園をもう少し増やして欲しいと思う。あとは、公園ではなく子供を連れて行けるショッピングセンターや無料で遊べる室内遊び場を増やして頂きたい。 ・地域の貧困家庭、格差への取り組み、公立の学校教員に対する教育、知識、理解の必要性。貧困家庭と、ハイレベルな教育を競う風潮への負担。転勤族が増え、親族、背景の見えないその場しのぎの付き合いの中、スマホの利用などもあり、コミュニケーションに苦心するうえ、学校役員や、行事参加がハイレベル化されて、家庭生活における、ゆとりが無く感じる。基本的な道徳観念、当たりの食生活や、生活態度や、礼儀、安心して休める休日設ける事への取り組みなどの、重要性を痛感する。地域活動(高齢化による、老人会からの、育成会や、子育て世代の親子に対する、週末のお祭り、敬老の日、市民運動会などへの活動量の労働による負担)。少子高齢化による、介護問題、40代の負担軽減に対する対策(環境全般への取り組み)を願う。自然環境が少ないため、前橋の環境保全も重要だと感じる。

▼その他

独身者

- ・SNS やメディアで、結婚や妊娠・出産、子育て等に対するネガティブで、男女間で分断を煽るような話題を多く目にする事が増えた気がする。結婚、少子化対策等にポジティブな話題を浸透して欲しい。
- ・若い方が妊娠しやすいので、高校生や大学生など、学生の内に子供を産んだ人も退学などにならないようにサポートされるようになってほしい。でも性について無知だったために産むのもよくない。小学生からある程度性教育(プライベートゾーンについてや相手を思いやることなどから)を学校で受けられるよう、環境を整えられたらいいと思う。
- ・自分の産む子供が何らかの障害を持っている可能性を考えると、その子の人生に責任を負うことが出来ない。現代日本社会では、障害者は健常者より何倍も苦勞するから、場合によっては生まれてこない方が幸せなのではないかと感じてしまうだろうと思う。だから産む気にはなれない。
- ・個人的に、学生時代にはテストで良い点数を取ることが求められるのに、社会人になった途端全く別基軸の能力が求められ、違う価値基準にさらされることに社会の矛盾、社会との隔絶感を感じた。これには学生時代に社会の仕組みを知る機会が得られなかったことが要因であると考えますが、今の若者はこの社会への無知ゆえに、自己実現の達成ができず、他人に関心を向ける余裕を失くし、結婚のビジョンが持てないのではないかと思います。そのため、今の学生には、もっと政治、経済、仕事、地域への理解を深める機会を与え、学生のうちから社会との隔絶感を減らすようにして欲しいと思う。

既婚者

- ・問いに対しての視点がずれているかもしれませんが…子どもが居て、こども園や保育園等に預ける側への支援等様々な対策が増えてきて、助かっている家庭も多くあるかと思うが、子どもを受け入れる側（こども園や保育園等）の保育士や保育教諭への支援も充実させて欲しいと感じる。その面での支援もないと、現場は必要最低限の人数での運営で心身共に疲弊し、潜在保育士も増えて、もし少子化が改善されてきたとしても受け入れる側が人手不足とキャパシティオーバーで受け入れたいのに受け入れられない、保護者側は預けたいのに預けられない等お互いに困るかと思う。
- ・そもそも物価高なのに対し、あまりにも税金に取られすぎて、夫婦2人で生活するので精一杯なのが少子化の原因。子どもをもつことのメリットがあまりにもなさすぎる。出産するのでさえ補助金で賄えない場所が多いのに、子どもが生まれてからもさらにお金がかかる。もはや妊娠、出産、子どもに関するもの全てをタダ、もしくはお祝い金をたくさん出すくらいの勢いでいかないと少子化はとめられない。また、子どもに関わるもの、オムツ代、ミルク代などの負担も大きいので、それらの補助金などは出すべき。何度も言うが、今の状態では到底子どもを産みたいと思えないし、産みたくても産めない。
- ・2024年は出生数が70万人を下回る予測がされており、現状、少子化には歯止めがかかっていない。その原因として、子育ての前段階である結婚すらできない経済状況に置かれている若者が多数存在することが挙げられる。彼ら若者世帯への手取りを増やすような、経済支援施策（主に減税）が必要であり、そのような施策が少子化の改善になる。
- ・経済的、状況的に子供を持つことが可能なのに子供を持たない選択をしている世帯への対策が必要ではないか。この世帯が子供を持たない要因はお金の問題だけではなく、子育てにより自分の時間が減ってしまうと考えるため。対策として、子供と一緒に遊べる施設の充実や優遇、子供を一時的に預けることの出来る施設を充実させることが有効ではないか。また、若者を中心に老後に大金が必要になるという不安感があり、今の生活レベルを落としてまで子供を授かりたくないと思っている夫婦が多いはず。子供を育てることにより今の生活レベルが落ちる以上のメリットを感じられないと、子供を持ちたいとは思わない。中には子供は欲しいが相手がおらず結婚出来ないという人もいる。出会いの機会を与えるため公のマッチングアプリがあっても良いのではないかな。民間のマッチングアプリもあるが、詐欺が横行していたり、利用料金も高いため、使用するのに抵抗がある。

▼その他（続き）

子育て中の保護者

- ・少子化が国力の衰退につながるということが自分事として捉えられていない。教育の責任かもしれない。合計特殊出生率2.08は維持しないとどうなるか。移民政策？どうなるかのシミュレーション結果もどんどん行政や教育から発信していくことが、今以上に必要と感じる。
- ・子どもが欲しくないとか結婚したくないという考えの人が一定数いる現状を変える必要があり、そういった人の意識を180° 変える施策が必要と考える。いっそのこと婚姻制度から見直し、結婚に囚われない子育て（多妻・多夫制度）も検討していった方が子どもの数は増えていくのではないか。
- ・教育を充実させる。東京に出ていく人ばかりにしない。地域の経済を底上げする。結婚したいと思える人を増やす。地縁血縁だけで、子育て支援を完結させないなど。
- ・子育てを孤立した状態で行ってしまうと、虐待・ネグレクトをうむ要因になると感じる。子どもに対する支援はもちろんですが、それ以上に保護者に対する支援を充実させ、繋がりを持ちながら子育てをし、心に余裕を持ちながら育てられれば、2人目、3人目と考えられると思う。孤育てから、子育てへ、そして地域で育てる共育てにする必要があるのではないか？

9 子どもの未来について

（1）子どもたちの10年後、20年後の未来

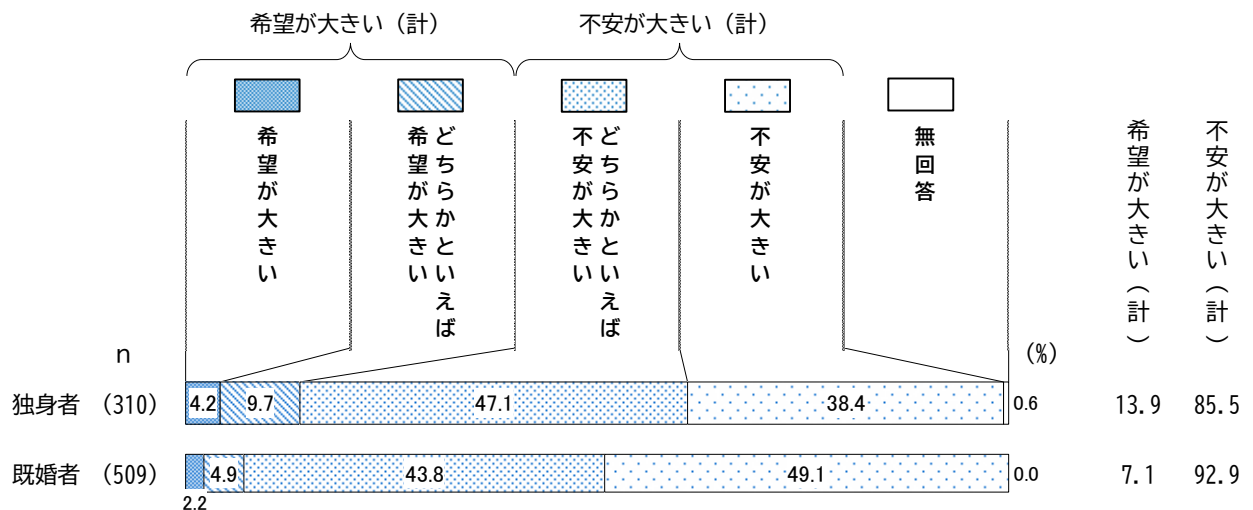
【独身者、既婚者】Q：将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来について、どのように思いますか。（○は1つ）

【保護者】Q：10年後、20年後のあなたのお子さん達の住む未来に希望があると思いますか。（○は1つ）

【独身者、既婚者調査】

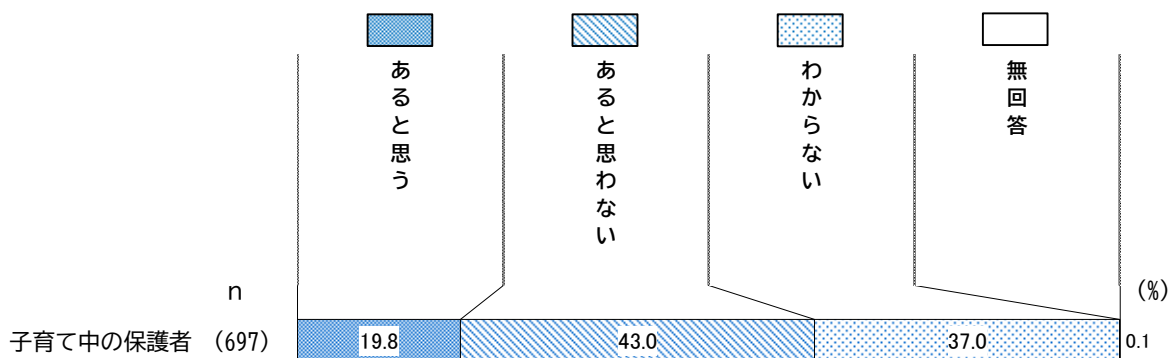
将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後の未来については、独身者調査では、「希望が大きい」と「どちらかといえば希望が大きい」を合わせた《希望が大きい 計》は13.9%、「どちらかといえば不安が大きい」と「不安が大きい」を合わせた《不安が大きい 計》は85.5%となっています。

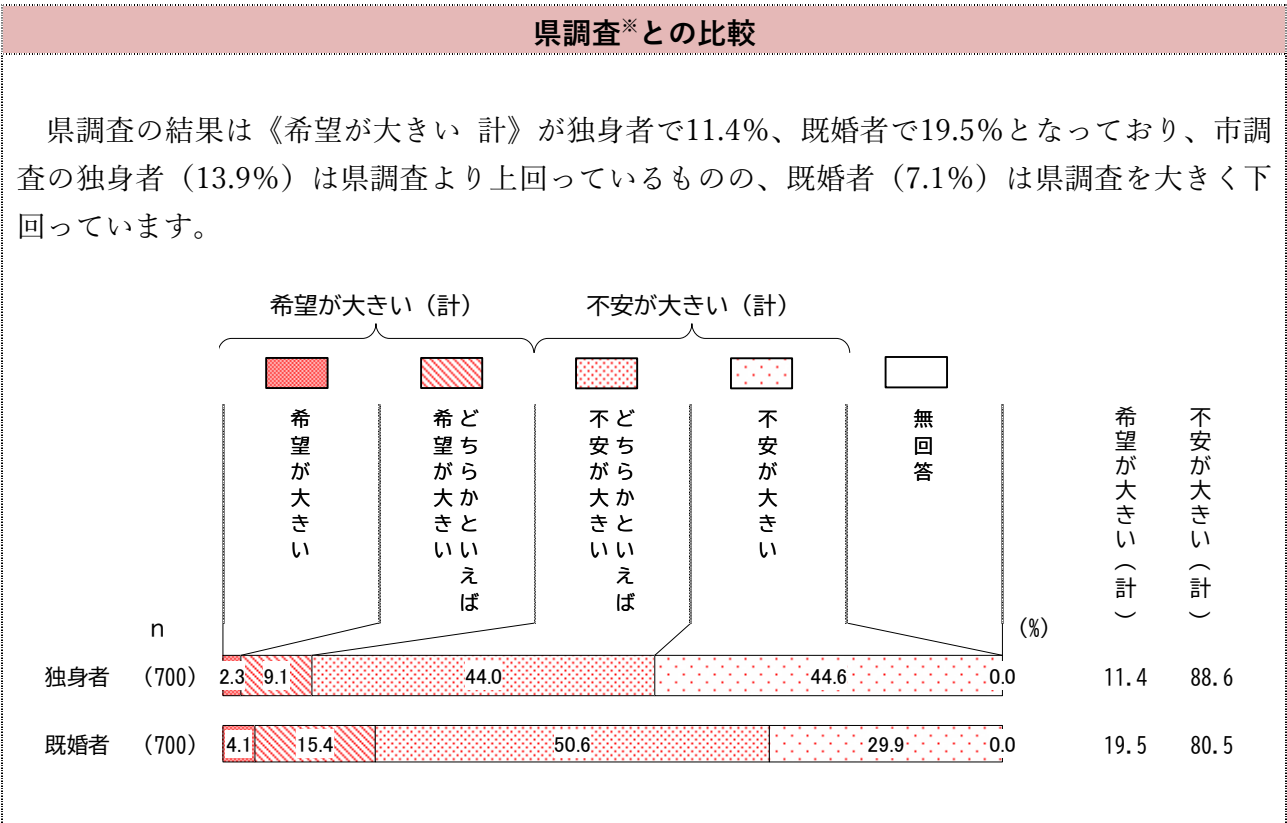
既婚者調査では、《希望が大きい 計》は7.1%、《不安が大きい 計》は92.9%となっています。



【子育て中の保護者調査】

子育て中の保護者調査では「あると思わない」が43.0%で最も高く、次いで「わからない」が37.0%、「あると思う」が19.8%となっています。





※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
夫婦全般に関する調査（既婚者調査）

（2）子どもたちの10年後、20年後の不安

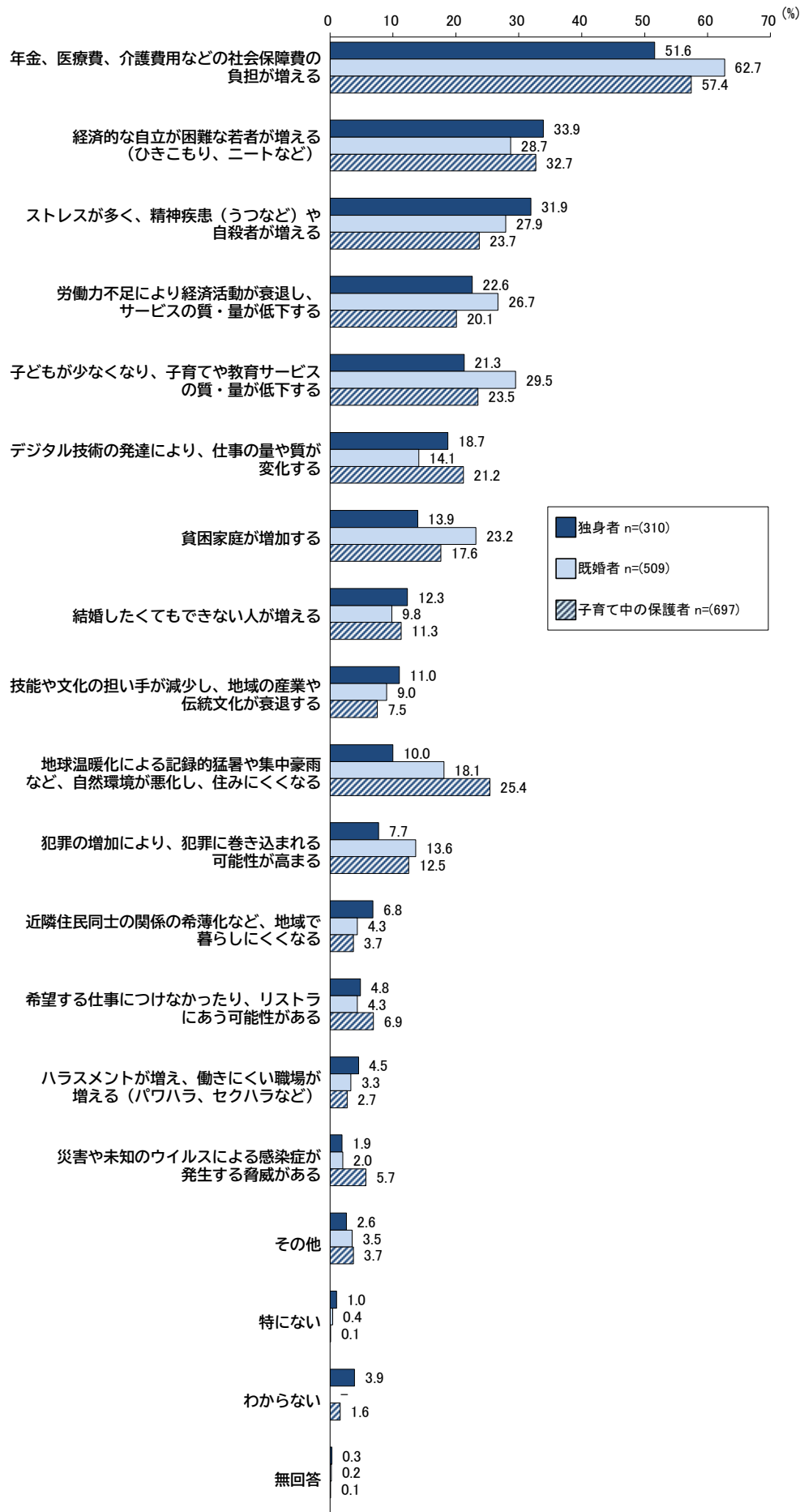
Q：将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後に不安があるとすれば、どんなことだと思いますか。（○は3つ）

将来の社会を支える子ども達の10年後、20年後に対する不安は、独身者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が51.6%で最も高く、次いで「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が33.9%、「ストレスが多く、精神疾患（うつなど）や自殺者が増える」が31.9%となっています。

既婚者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が62.7%で最も高く、次いで「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」が29.5%、「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が28.7%となっています。

子育て中の保護者調査では「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」が57.4%で最も高く、次いで「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」が32.7%、「地球温暖化による記録的猛暑や集中豪雨など、自然環境が悪化し、住みにくくなる」が25.4%となっています。

第4章 こども・若者意識調査（独身者、既婚者、子育て中の保護者）

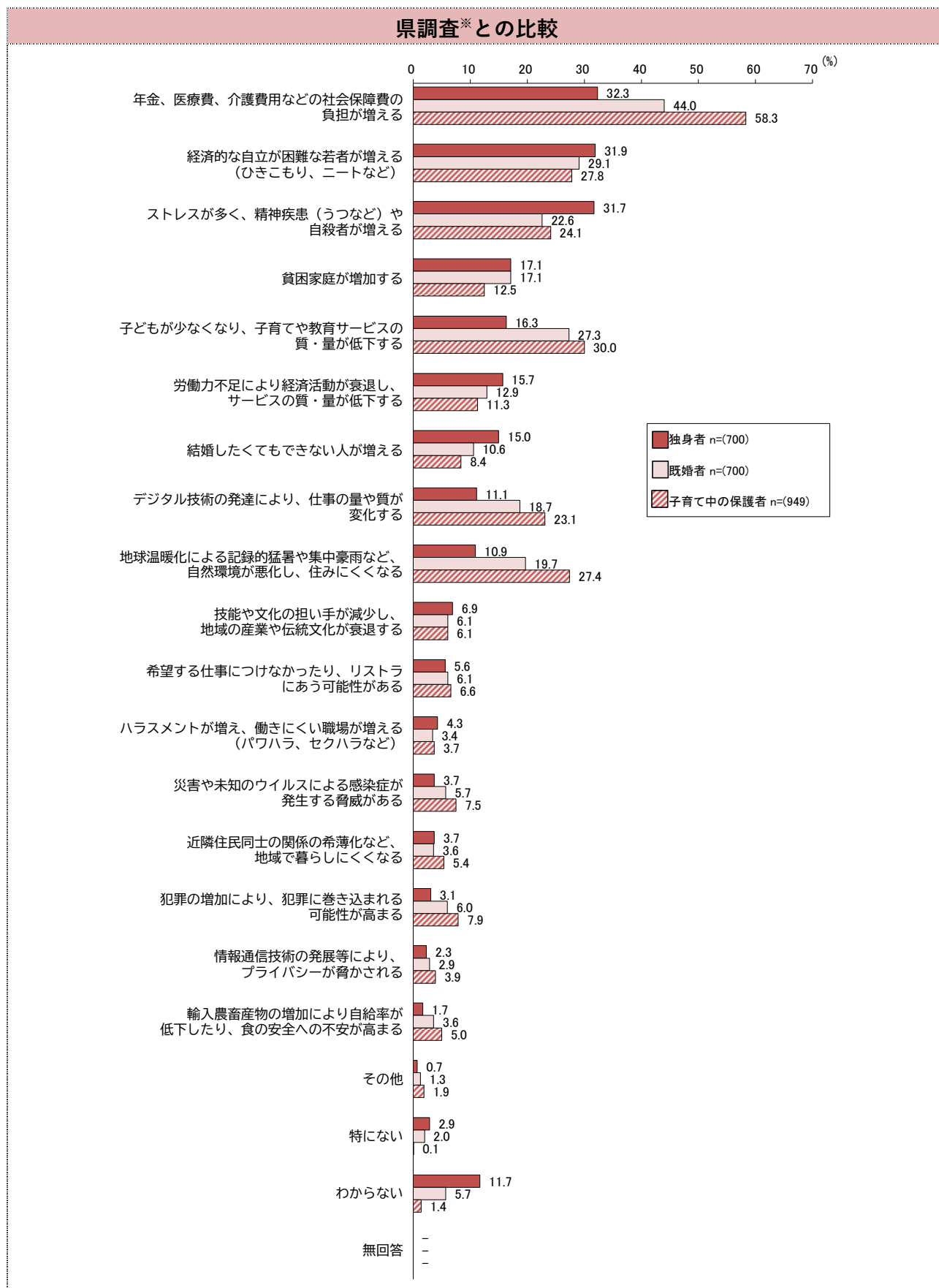


県調査※との比較

県調査の独身者の結果は「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」は32.3%となっており、市調査（51.6%）では県調査より19.3ポイント高くなっています。また、「子どもが少なくなり、子育てや教育サービスの質・量が低下する」は16.3%となっており、市調査（21.3%）では県調査より5.0ポイント高くなっています。

県調査の既婚者の結果は「年金、医療費、介護費用などの社会保障費の負担が増える」は44.0%となっており、市調査（62.7%）では県調査より18.7ポイント高くなっています。また、「貧困家庭が増加する」は17.1%となっており、市調査（23.2%）では県調査より6.1ポイント高くなっています。

県調査の子育て中の保護者の結果は「経済的な自立が困難な若者が増える（ひきこもり、ニートなど）」は27.8%となっており、市調査（32.7%）では県調査より4.9ポイント高くなっています。また、「貧困家庭が増加する」は12.5%となっており、市調査（17.6%）では県調査より5.1ポイント高くなっています。



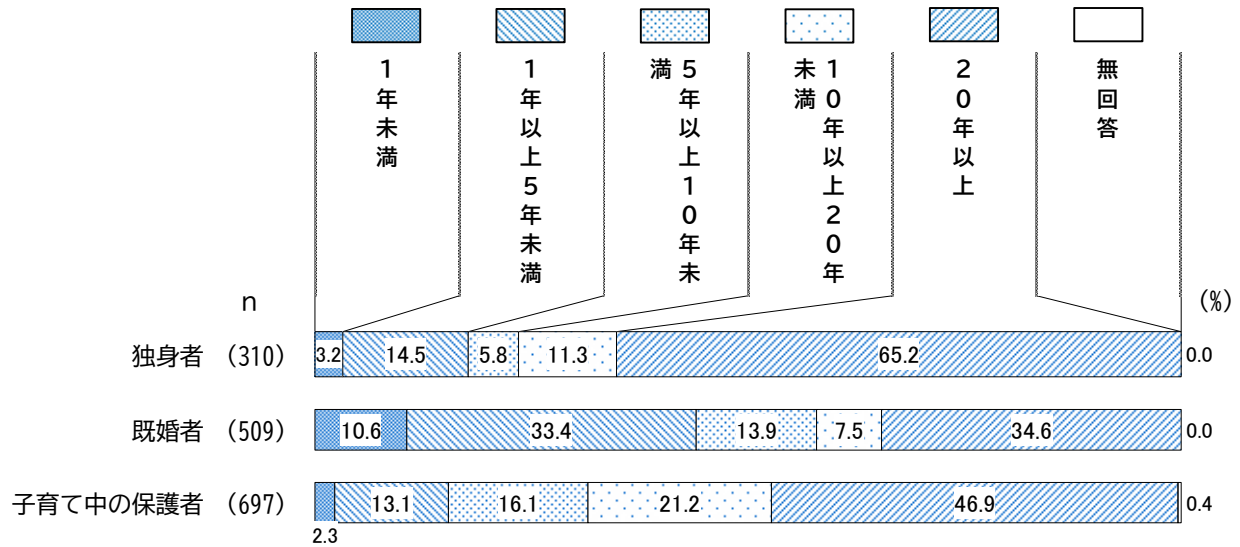
※令和5年度少子化対策に関する県民意識調査／結婚・家族形成に関する調査（独身者調査）
 夫婦全般に関する調査（既婚者調査）
 地域での子育てに関する調査（保護者調査）

10 定住性について

（1）居住年数

Q：あなたは、前橋市に住んで何年になりますか。（○は1つ）

居住年数は、独身者調査では「20年以上」が65.2%で最も高く、次いで「1年以上5年未満」が14.5%となっています。「20年以上」は子育て中の保護者調査で46.9%、既婚者調査で34.6%と最も高く、「1年以上5年未満」も既婚者調査で33.4%と高くなっています。



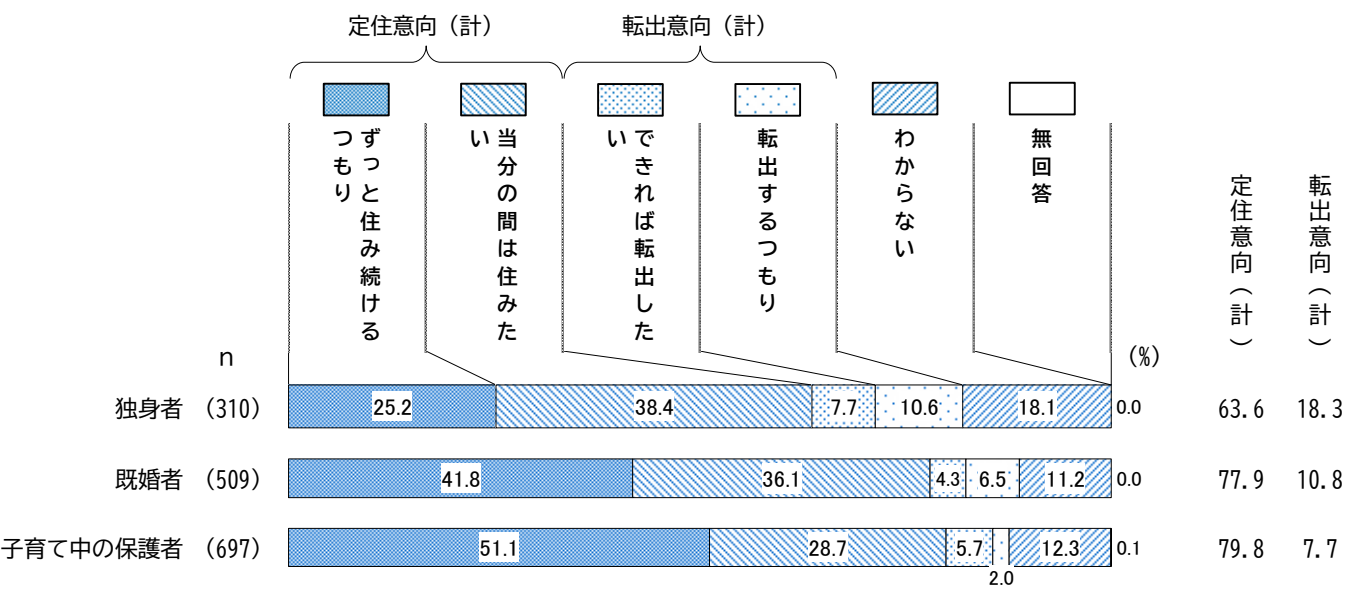
（2）定住意向

Q：あなたは、今後も前橋市に住み続けたいとお考えですか。（○は1つ）

定住意向は、独身者調査では「当分の間は住みたい」が38.4%で最も高く、「ずっと住み続けるつもり」と「当分の間は住みたい」を合わせた《定住意向 計》は63.6%、「転出するつもり」と「できれば転出した」を合わせた《転出意向 計》は18.3%となっています。

既婚者調査では「ずっと住み続けるつもり」が41.8%で最も高く、《定住意向 計》は77.9%、《転出意向 計》は10.8%となっています。

子育て中の保護者では「ずっと住み続けるつもり」が51.1%で最も高く、《定住意向 計》は79.8%、《転出意向 計》は7.7%となっています。

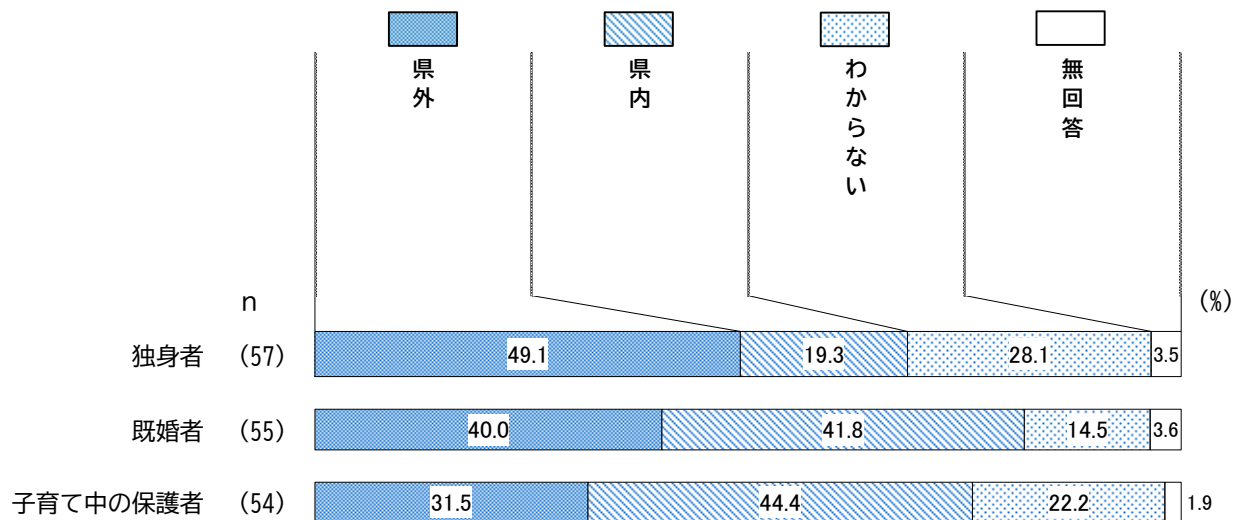


（3）希望する転出先

※今後も前橋市に住み続けたいと思うかで「できれば転出したい」、「転出するつもり」を選んだ方のみ回答

Q：転出先はどこですか。（希望でもかまいません。）（○は1つ）

転出先について、独身者調査では「県外」が49.1%で最も高く、次いで「わからない」が28.1%、「県内」が19.3%となっています。「県内」は子育て中の保護者調査で44.4%、既婚者調査で41.8%と最も高く、「県外」も既婚者調査で40.0%と高くなっています。



<具体的な転出先> ※主な内容を抜粋

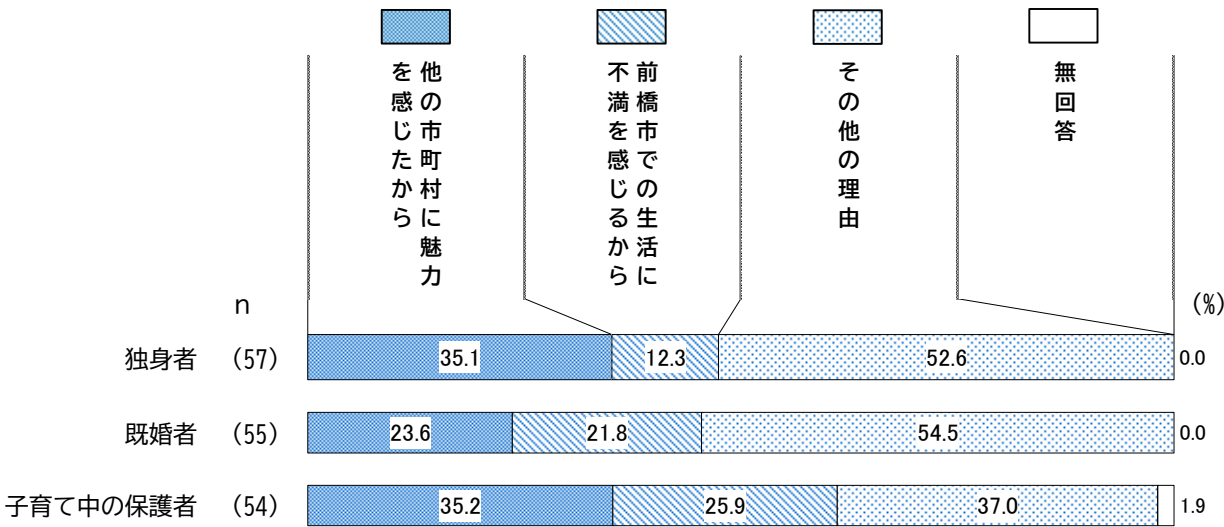
県外	県内
・東京都 ・埼玉県 ・神奈川県 ・北海道 ・海外	・高崎市 ・伊勢崎市 ・吉岡町 ・渋川市

（4）転出を考えた理由

※今後も前橋市に住み続けたいと思うかで「できれば転出したい」、「転出するつもり」を選んだ方のみ回答

Q：転出を考えた理由は何ですか。（○は1つ）

転出を考えた理由は、「他の市町村に魅力を感じたから」は子育て中の保護者が35.2%、独身者が35.1%となっています。「前橋市での生活に不満を感じるから」は、子育て中の保護者が25.9%、既婚者が21.8%となっています。「その他の理由」の主なものは下記のとおりです。



<具体的な理由> ※主要内容を抜粋

独身者
・就職／仕事のため ・結婚／交際のため ・人生経験のため
既婚者
・実家があるため ・家を建てる／土地があるため ・仕事（配偶者の仕事）のため ・家族の都合のため
子育て中の保護者
・実家があるため ・子育て支援が充実しているため ・海外志向のため

（5）他の市町村に魅力を感じた理由

※転出を考えた理由で「他の市町村に魅力を感じたから」を選んだ方のみ回答

Q：他の市町村に魅力を感じた理由は何ですか。（自由記載）

他の市町村に魅力を感じた理由を自由に記述していただきました。寄せられた回答の中からご意見を抜粋し掲載しています。

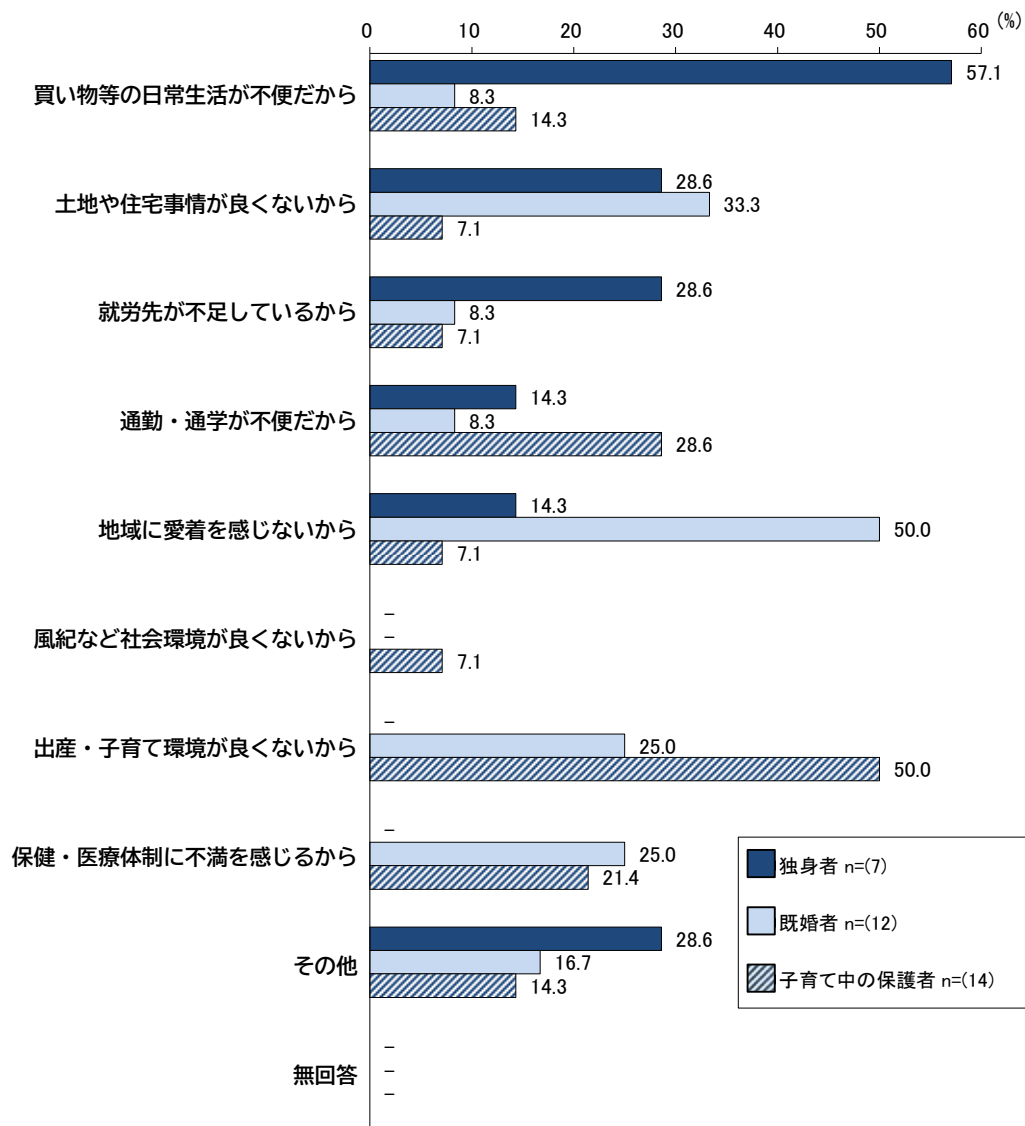
独身者
・交通の便の良さ。（愛知県） ・新幹線が停まる駅がある。（高崎市） ・日常的な生活に必要な施設の充実。（伊勢崎市） ・外国人労働者が少ないから。前橋市は外国人労働者が増える一方で、犯罪が増えたりして物騒である。それに対して支援がないため。（埼玉県） ・東京都心の方が仕事や参加したい活動が充実しているため。（東京都）
既婚者
・様々な支援。（吉岡町） ・保育料無償化。（吉岡町） ・子育て支援の充実、買い物など新たな施設の充実。（吉岡町） ・土地が安かった。（榛東村） ・自然が豊か。（北海道）
子育て中の保護者
・高崎市は子連れで遊びに行けるところが多く、子育て世帯への理解もある。また新しい建物や施設が多いので子供をつれて遊びに行くのに安心。（高崎市） ・前橋市は県庁所在地だが、他の市から比べて住民として受けられるサービスが少ないと感じている。毎年の健診内容や公立小・中学校などの質など他の市に魅力を感じている。（高崎市） ・自然が多く、落ち着く。（吾妻郡） ・チャイルドシートを購入した時などの補助もあったり子育てしやすい環境が整っている。（吉岡町） ・子育て支援が充実している。（0歳から保育料無料）（吉岡町） ・前橋市は、人口の割に子育て対策も頑張っていると思うしいい街だと思うが、元気がない。子供が小さいうちは長閑で公園や公民館が充実しておりどこも空いているのでいいが、小学生以降はあまり魅力を感じない。（埼玉県） ・給食費が無料で、保育料も0歳から無料だから。（渋川市）

（6）前橋市での生活に不満を感じた理由

※転出を考えた理由で「前橋市での生活に不満を感じるから」を選んだ方のみ回答

Q：前橋市での生活に不満を感じた理由はなんですか。（○は2つまで）

前橋市での生活に不満を感じた理由は、いずれも母数が少ないため参考にとどめますが、独身者調査では「買い物等の日常生活が不便だから」が57.1%で最も高く、既婚者調査では「地域に愛着を感じないから」が50.0%、子育て中の保護者では「出産・子育て環境が良くないから」が50.0%と最も高くなっています。



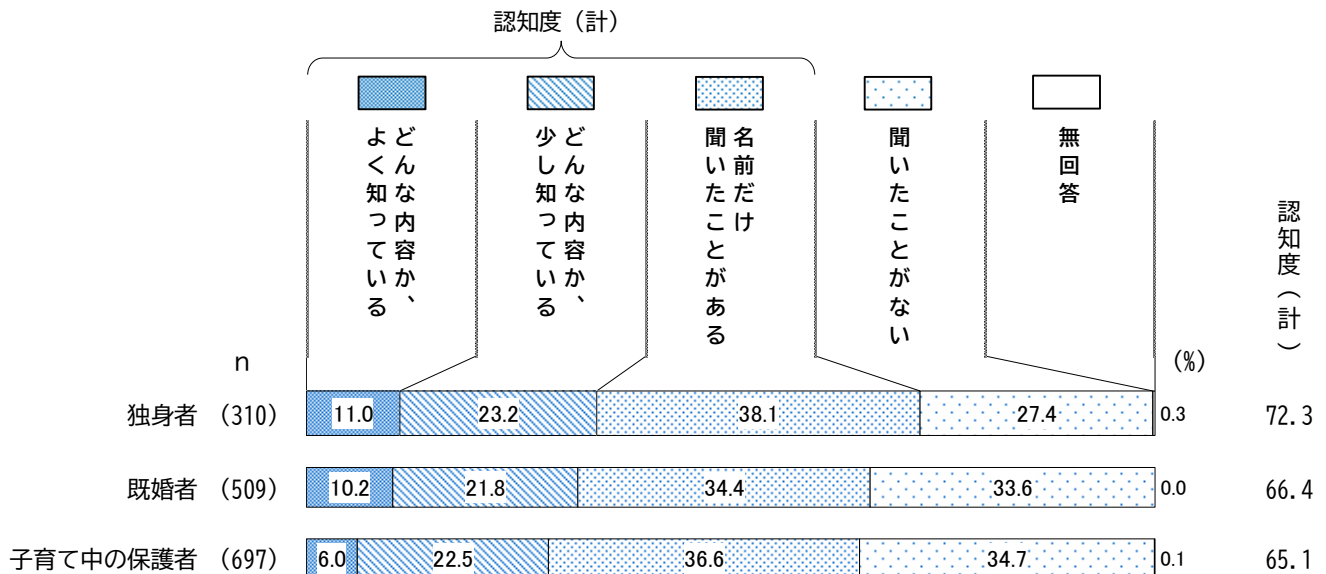
※母数が30未満のため参考値とする。

1.1 子どもの権利について

（1）子どもの権利条約の認知度

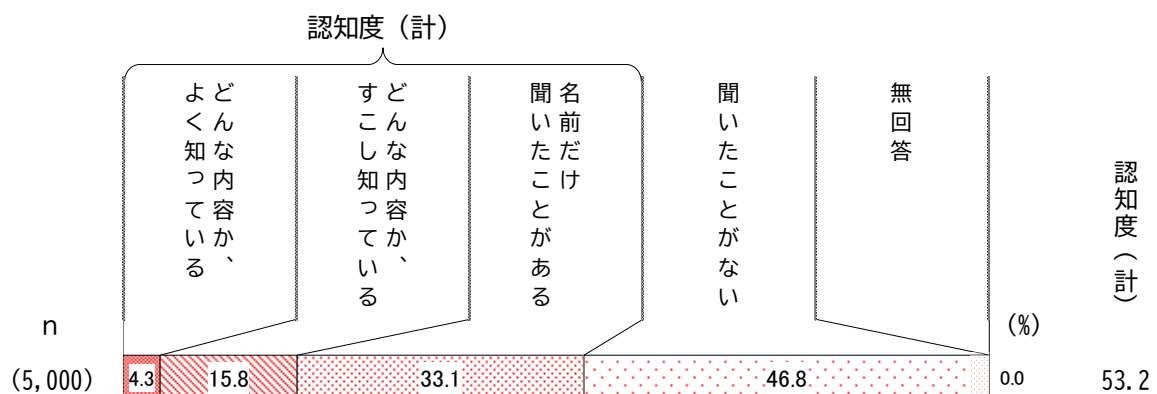
Q：あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。（○は1つ）

子どもの権利条約について、「どんな内容か、よく知っている」、「どんな内容か、すこし知っている」、「名前だけ聞いたことがある」を合わせた《認知度 計》は、独身者、既婚者、子育て中の保護者の順につれて割合は減少しており、子育て中の保護者では65.1%となっています。



全国調査※との比較

全国調査の結果をみると、認知度は53.2%となっており、市調査の独身者（72.3%）、既婚者（66.4%）、子育て中の保護者（65.1%）の結果はいずれも全国調査を上回っています。



※子ども家庭庁 児童の権利に関する条約の認知度等調査（令和5年度）

